

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

仲西 功	薬学部・教授	理論化学に基づく Protein kinase CK2 阻害剤のドラッグデザイン研究	抗腫瘍活性を有し構造的多様性のあるキナーゼ阻害剤を探索する理論的基盤の構築および最適化研究
川崎 直人	薬学部・教授	リード化合物の物理化学的性質の解明と最適化に関する研究	リード化合物の保存期間による安定性と熱安定性の評価、含有微量金属種と活性との関連性の解明
中山 隆志	薬学部・教授	ケモカイン系を標的とした新規がん免疫療法の開発	新規がん免疫療法開発のための基礎情報の提供
益子 高	薬学部・教授	癌メタボリズム、癌幹細胞、薬剤耐性癌を標的とした抗体作製	新規抗体医薬品の開発と標的分子の免疫学的解析
森川 敏生	薬学総合研究所・教授	天然資源からの抗がんシーズ探索およびリード化合物の創製	天然由来シーズの探索、ケミカルライブラリー構築およびリード化合物創製のための構造活性相関研究
森山 博由	薬学総合研究所・准教授	ヒト生体由来の多能性幹細胞を用いたがん細胞発生機序と代謝経路の解明	幹細胞操作技術によるがんプライミング誘導法開発とがん細胞発生と維持に必須な代謝メカニズム解明
多賀 淳	薬学部・准教授	癌メタボローム解析による革新的がん治療標的と診断マーカー探索	癌メタボローム解析の技術基盤確立と臨床への還元
前川 智弘	薬学部・准教授	ケミカルライブラリー構築を支援する新規複素環化合物合成法の開発および新規反応の開発	リード化合物最適化および誘導体合成の迅速化
木下 充弘	薬学部・准教授	癌グライコプロテオミクス手法を用いたがん診断・治療法の開発	がん特異的複合糖質分子の探索、化合物活性評価および疾患モデルのメタボローム解析
伊藤 彰彦	医学部・教授	臨床検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の推進	バイオバンクのための腫瘍組織検体のバンキング、POCのための病理学的解析
岡田 斉	医学部・教授	エピジェネティクスとがん化機構	エピジェネティクス制御機構と幹細胞代謝機構の関わり
高橋 英夫	医学部・教授	臨床検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の推進	腫瘍組織検体におけるマクロファージ、がん幹細胞の分化・増殖機序の解明によるシーズ探索
西尾 和人	医学部・教授	臨床検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の推進	バイオバンクのための臨床検体の遺伝子解析とシーズの POC とバイオマーカー探索
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

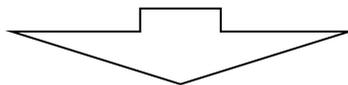
旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
--------------	-------	-------	------------

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

漢方医学に学ぶ抗がん剤 素材探索研究	薬学部・教授	松田秀秋	抗がん剤のシード化合物創 製をめざした天然物由来エ イジング素材の探索
抗がん効果を有する有用 生物の選抜と育成	薬学部・教授	角谷晃司	有用生物の選抜、育成およ び培養技術の開発

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
名古屋市立大学・薬 学部・教授	近畿大学・薬学部・教授	藤原俊伸	増殖シグナルと翻訳調節 機構の関わり、翻訳調節 の破綻が引き起こすがん 化のメカニズムの解明
トロント大学医学部 生 物物理学講座 Associate Professor	近畿大学・医学部・教授	岡田斉	エピジェネティクス制御機 構と幹細胞代謝機構の 関わり

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【背景】 “がん細胞のアキレス腱”と呼ばれる増殖シグナルはがん治療の重要な標的である。本学では増殖シグナルの制御に関するゲノム科学研究、がん化の鍵を握る細胞内シグナル経路を標的とした創薬研究、生命薬学研究、臨床医学研究が精力的に行われ、次世代のがん治療につながる傑出した成果と魅力的な創薬シーズが集積している。さらに近畿大学は、薬学部、医学部、大学病院を有する日本屈指の総合大学であり、“**医薬連携研究**”を展開する上で極めて恵まれた環境にある。

【目的】 本研究の目的は、**増殖シグナルの制御機構**を明らかにし、**革新的ながん治療法開発**に向けた統合的ゲノム研究を推進し、生命科学・創薬研究の成果を臨床応用へとつなぐ橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)を展開することにより、**医薬連携研究基盤**を形成することである。

【意義】 日本有数の総合大学である近畿大学が、ゲノム研究を中核とした**医薬連携**をとおして「**橋渡し研究の基盤**」を形成し、**増殖制御機構の解明**と、**革新的ながん治療法の開発**に貢献する。また、**若手研究者の育成**、特に創薬研究、生命科学・臨床医学研究に携わる**臨床検査技師、臨床薬剤師**など、学際的な領域で活躍できる人材の輩出にも貢献する。

【計画の概要】 がん治療の重要な課題として、「**がん細胞選択的に作用する薬剤の開発**」「**抗がん剤抵抗性の克服**」「**抗がん剤治療に伴う副作用の軽減**」があげられる。加えて、ゲノム科学技術の飛躍的進歩に基づき、「**がん細胞特異的な増殖シグナル制御機構の解明**」、「**臨床検体から得られたがんゲノム情報**」に基づいた革新的ながん治療戦略を立脚することが重要となる。そこで、本研究プロジェクトでは、近畿大学薬学部・医学部・薬学総合研究所の研究者が結集し、**(A) 増殖シグナルを標的とした創薬探索・生命科学研究を推進し、(B) 癌や増殖シグナルの制御機構の解明、および代謝との関わりについて統合的な基盤研究を展開するとともに、(C) 基礎研究の成果を創薬・医療シーズへと育成するための橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)を行うことにより、医薬連携研究拠点基盤形成を行う。**

研究環境の変更等の諸事情により、申請段階で記載されていた二名の研究者に替わり、幹細胞、RNA、がん代謝等の分野を担当する二名の研究者が参画した(添付資料 1)。

(2) 研究組織

1. 研究拠点: 本事業は、ゲノム解析研究拠点である「**ゲノムセンター**」が**医薬連携ゲノム科学研究のインフラ基盤**として設立されるとともに、本プロジェクトで導入・整備された機器、設備が薬学部、薬学総合研究所、医学部に設置されることにより、「**臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析**」、「**創薬シーズの評価**」、「**コンパニオン病理診断**」、「**がん分子標的の POC 解析**」等、最先端のゲノム研究を迅速に推進できる研究体制が構築された。

2. 各研究者の役割分担、責任体制、研究チーム内、チーム間の連携状況: 本研究全体の推進と統括は、プロジェクトリーダーである薬学部教授・杉浦麗子が務めた。杉浦は、以下に述べる組織の研究推進を統括するとともに、「**医薬連携・産学連携研究の活性化**」、「**若手研究者/学生の育成**」を目的として本事業主催/共催の学会、シンポジウム、セミナー、講演会、アウトリーチ活動等を組織した(研究成果公開状況参照)。本プロジェクトに参画した主要な研究者(項目(10)参照)として、薬学部・薬学総合研究所の 15 研究室の代表者と医学部・附属病院の 4 研究室の代表者が連携し、以下の A)B)C)の課題に取り組んだ。目標達成のために、各研究課題にチームリーダーを選び、各研究テーマの取りまとめ、研究進捗の把握とチーム間の連携推進役を務めた。A) **革新的ながん治療法探索・開発**(リーダー杉浦)、B) **増殖シグナル制御機構解明**(リーダー西田)、C) **臨床検体を用いた個別化医療**(リーダー西尾)(各研究室は、複数の研究課題に関わることもある。例:探索&制御機構、探索&臨床)。各研究チームは互いに密接な連携を保ちつつ、大きな研究目標である「**増殖シグナルの制御機構の解明と、革新的ながん治療法開発**」に向けて共同研究を推進した。緊密な情報交換のために研究チーム内で随時研究成果報告会を行うとともに、チーム間の共同研究を推進することにより、参画者が全体状況を把握できるようにした(共同研究による論文数は 503 報中 52 報)。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

3. 研究プロジェクトに参加した若手研究者・大学院生・RA/PD・研究支援体制: 項目(10)に示す各研究室代表者に加え、各研究室の若手研究者(講師、助教、助手、大学院生等)が研究推進に貢献した。さらに、大学院生、学部学生に対する国際学会、国内成果発表会での積極的な発表の機会を設け、各種優秀賞を授与し、顕彰した。(研究に参画した大学院生/学部学生は400名を超えた。特に大学院生博士課程/博士後期課程の学生はRA(のべ19名)として本プロジェクトにおける重要な推進力を担った)。**博士研究員(PD)/研究支援者の参画:** 創薬探索(H26-30)、創薬シーズ各種類縁体有機化学合成(H26/27)、臨床検体ゲノム・病理解析(H27-30)、創薬シーズの機能解析(H27-30)など、プロジェクトの進展に伴い重要な重点整備研究領域に**研究支援者やPD**を配備し、効果的予算配分と研究推進を促した。**若手研究者**(講師、助教、大学院生、学部生)の**育成と医薬連携/産学連携研究推進**を目的として、本事業主催、共催の成果発表会、シンポジウム、講演会、「未来創薬・医療セミナー」、外部研究者を招いた成果評価会兼国際学会をアクティブに開催し、学部生、大学院生、若手教員の成果発表・討論と国際交流、アウトリーチの場を提供した。

4. 共同研究機関と産学連携確立: 化合物の知財出願、実用化や探索研究における化合物ライブラリーの供与、臨床シーズの治験遂行等において学外研究機関(微生物化学研究会、医薬基盤研究所)、製薬企業(第一三共、アステラス、Eli Lilly、ベーリンガー、イーザイ・アール・アンド・ディー、扶桑薬品工業、旭日化成ファーマ)等との活発な共同研究、産学連携研究が推進された結果、**多数の論文発表、特許出願、臨床試験**として結実し、産学連携研究の推進と研究拠点基盤形成に貢献した。

(3) 研究施設・設備等

＜研究施設の面積、使用者数＞

1. 本部キャンパス薬学部・薬学総合研究所: 面積4233.08平方メートル、研究室数15、プロジェクトに係る使用者数500人。医学部: 面積942平方メートル、研究室数等20、プロジェクトに係る使用者数34人。

2. <主な研究設備の名称、および使用時間> 本プロジェクトにおいて、主に使用された装置、設備のうち、私学助成を受けたもので共同利用機器として多くの研究者が使用した装置と総利用時間(平成26~30年度)は以下の通りである。

1. 生体分子精製・相互作用解析システム: 平成26年度に導入、1624.5時間
2. タンパク質多項目同時測定システム: 平成26年度に導入、810時間
3. 多項目自動血球数装置(XT-1800i): 平成26年度に導入、622時間
4. 薬物動態・解析システム(TSQ Endura システム): 平成26年度に導入、10,834時間

全ての設備、機器の稼働率は極めて高く、下記に示す研究成果の輩出に多大なる貢献をした。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

研究拠点形成: 本研究の重要な目的の一つが「ゲノム研究に関する医薬連携研究拠点形成」である。平成26年度に薬学部、医学部の連携により、近畿大学ライフセンター内に、ゲノム科学研究拠点の一つとして「ゲノムセンター」を立ち上げ、次世代シーケンサーを始めとする最新の検査機器が導入され、**医薬連携研究のインフラ基盤が設立**された。さらに、本プロジェクトで導入・整備された機器、装置、設備により臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析、創薬シーズの評価、コンパニオン病理診断、がん分子標的のPOC解析等を行う最先端のゲノム研究が迅速に推進できる研究基盤・研究体制を整備した。これらの基盤整備の成果として、「近大クリニカルシーケンス」と呼ばれる、in houseとしてはわが国初のシステムを確立した。これは「ゲノムセンター」において個々の患者から同意を得て腫瘍検体の遺伝子解析を実施し、結果に基づき治療方針を決定するものであり、「ゲノム医療の実用化」の観点から極めて高く評価されるとともに、**臨床検査技師や臨床薬剤師等、「ゲノム創薬・ゲノム医療」に貢献できる人材育成拠点**としても**重要な地位**を確立した。

研究体制と研究課題別概要: 薬学部・薬学総合研究所の15研究室の代表者と医学部・附属病院の4研究室の代表者が連携し、以下のA)B)C)の課題に取り組んだ(添付資料2: 連携組織図)。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

A) 革新的がん治療法探索・開発(リーダー杉浦)、B) 増殖シグナル制御機構解明(リーダー西田)、C) 臨床検体を用いた個別化医療(リーダー西尾)

研究課題 (A) 「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発」(リーダー杉浦) :

増殖・生存を司る ERK/AKT シグナル経路、NF-κB 経路、mTOR 経路、Casein キナーゼの活性化制御因子、標的転写因子等を標的とした創薬(低分子化合物、天然物、抗体医薬品)探索に挑戦し、構造活性相関研究や、シーズ育成研究・*in silico* 最適化支援基盤等を推進した。特色として、「ケミカルゲノミクスと癌遺伝子中毒」を利用した独自の創薬探索スクリーニングを展開し、天然資源、食品由来成分、抗体医薬品など幅広い医薬品シーズの探索、開発、改良、創製に成功した。

- (1) **がん細胞選択的に細胞死を誘導する低分子化合物の発見と創製:** 「ケミカルゲノミクスと癌遺伝子中毒(Oncogene addiction)」を利用した独自の創薬探索スクリーニングを展開し、**悪性黒色腫(メラノーマ)細胞に対して選択的に細胞死と細胞増殖阻害を誘導する低分子化合物(Sugiura Kagobutsu 1:SK1)**として Acetoxychavicol Acetate(ACA)誘導體 ACA-28 を同定し ERK シグナル調節活性を報告し特許を出願した(*論文 89 *特許 3)。同じく悪性黒色腫 SK-MEL28 に対して増殖阻害活性を示すオリゴスチルベノイドをタイ天然物 *Shorea roxburghii* より発見した(*論文 116)。特に **ACA-28 は、従来の分子標的治療薬の概念を超え、ERK が過剰に活性化したがん細胞に対して ERK をさらに活性化することにより、がん細胞選択的に細胞死を誘導するが、正常細胞には影響が少ないという極めて画期的な抗がん剤シーズ**であり、NHK ニュース、新聞報道、学術界において強い注目を集めた(*報道等 1-10)。さらに、**多発性骨髄腫選択的に細胞死を誘導する化合物 Mangiferin** を同定し、**がん増殖制御に重要な NFκB 経路制御因子である NIK(NF-κB inducing kinase) 阻害化合物として特許を申請した(*論文 128,298 *特許 13)**。また、**ロタキサン誘導體の合成、構造活性相関研究により、グリオブラストーマに対する抗腫瘍効果、細胞死誘導作用の発見、血管新生阻害薬の有効成分の同定も行った(*論文 133,188,443,494)**。
- (2) **増殖シグナルを制御する細胞表面膜たんぱく質を標的とした抗体医薬品シーズ:** **がん細胞で高発現する膜タンパク質としてアミノ酸輸送体 CD98hc/LAT、CD98lc/xCT、CAT1、CD44 ヒアルロン酸受容体、HER ファミリー-HER3/4、肝細胞増殖因子(HGF)受容体(MET)、アデノシン受容体(ADORA2A)に着目し、多くのがんに対する抗がん作用を有するモノクローナル抗体(mAb)医薬品の創製と開発に成功した**。特に LAT1 に対する**抗 LAT1 mAb は、大腸癌、子宮癌、肺癌、卵巣癌など幅広い癌種に対して既存抗体医薬品である Cetuximab を上回る抗がん活性を示し、第一三共株式会社との産学連携研究により、霊長類カニクイザルを用いた副作用試験後に、臨床試験を行う段階にまで進展した**。さらに多くのがん種で高発現し、癌細胞の酸化ストレス耐性の原因となる**シスチントランスポーター-xCT** を阻害する mAb の開発に成功するとともに、**xCT 阻害剤スルファサラジンの抗腫瘍剤としての有効性を示し、国際特許を取得した**。また、**LYVE-1 を標的とした mAb を世界に先駆けて作成し、「リンパ管新生阻害」というユニークな作用機序による抗癌効果を発見した(*論文 111-113,153,154,178,179,189,218 -222 *特許 1,7)**。
- (3) **天然資源および食品からの抗腫瘍効果の発見と抗がんシーズ創製:** **閉経後乳癌治療シーズとして新規化合物 mammeasin C, D (アロマトーゼ阻害剤)、茶花およびデイジーフラワーより得られた Saponin による口腔がん細胞(HSC-2)増殖阻害効果、がん免疫に関わるケモカイン受容体選択的阻害活性シーズ新規 Neolignan、メープルシロップの抗腫瘍効果と大腸癌増殖抑制物質、大腸癌早期**

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

診断マーカー等を発見し、複数の特許を出願した(*論文 12,63,114-117,120-123,133,155-160,166,188,202,284 *特許 8-12)。

- (4) シーズ化合物の育成(構造活性相関・物性検証)/抗がん剤シーズ探索最適化基盤技術構築: より効果に優れ、安全性の高い抗がん剤を開発する目的で、上記(1)(2)で同定した化合物の構造活性相関研究、活性の高いリード化合物の創製と特許取得、阻害化合物と標的分子の結晶化等にも成功した。また、シーズ化合物の溶解性の検証・向上、シーズ類縁体合成/ケミカルライブラリー合成技術基盤、抗がん剤リード化合物の高感度生物学的親和性解析法、マイクロチップ電気泳動による高速・高感度濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発によるシーズ標的分子の翻訳後修飾分析手法、化合物の活性や溶解性を高めるための最適化研究(Activity Cliff, Solubility Cliff の探索)、創薬バーチャルスクリーニング法など、抗がん剤シーズ探索・最適化を支援する技術基盤も多数構築した(*論文 6,29-35,50,53-55,58,61,64,75-78,90,91,93-95,102,134,167,91,100,107-110,131,133,138,139,144-146,161,163-165,168-171,185,186)
- (5) がん免疫を標的とした治療法の開発: ケモカイン系を標的とした新規がん免疫療法の開発に取り組み、高活性型ケモカイン受容体リガンドである mXCL1-V21C/A59C が腫瘍免疫を誘導することにより抗腫瘍効果を発揮する「新規がんワクチンアジュバント」として有効であることを報告した(*論文 35,203)。さらに、制御性 T 細胞(Treg)の細胞遊走制御因子である CCR4 に着目し、CCR4 阻害剤を用いて Treg 遊走阻害活性により樹状細胞を活性化し、ワクチンアジュバントとして機能することも示した。さらに和漢薬ライブラリーを用いた探索を行い、麻黄と大黃が CCR4 介在性細胞遊走阻害能を有することも見出した(*論文 123,205-207)。
- (論文 188 件、図書 10 件、学会発表 654 件、報道 13 件、特許 17 件)(目標達成率 90%)

研究課題 (B) 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析(リーダー西田):

がんの増殖、転移に関わるシグナル制御機構や腫瘍免疫制御機構、抗がん剤抵抗性・副作用に関わる分子機構に焦点をあてた解析を行い、創薬、医療シーズを開発するとともに、癌と代謝に関するプロテオミクス、メタボロミクス研究基盤技術の確立とがん治療への応用研究を推進した。

- (1) 増殖制御に関わる Protein Kinase N3(PKN3)ノックアウト(KO)マウス、PKN1 ノックインマウスの作製: PKN3 KO マウスは正常マウスに比べて悪性黒色腫の肺転移と血管新生が劇的に低下すること、PKN1 ノックインマウスはリンパ球の遊走能が低下することを見出し、がん転移、がん免疫の新たな治療標的としての PKN1/3 の重要性を生体レベルで証明した(*論文 258,59 新聞報道 15-19)。また、医薬連携研究を通して、腫瘍免疫に関わる CCR4 欠損マウス、CCR4 阻害剤を用いて悪性黒色腫に対する腫瘍免疫における CCR4 の役割を解明し、CCR4 が腫瘍免疫活性化の優れた標的であることを生体レベルで示した(*論文 191, 281)。
- (2) 癌化に関わる ERK シグナル制御因子/化合物の同定と増殖シグナルの空間的制御機構発見: ケミカルゲノミクス的手法を用いて MAPK 経路制御因子として SH3 アダプタータンパク質、Rho プレニル転移酵素、RNA 顆粒の構成因子である RNA 結合タンパク質(RBP)を同定し、ERK 活性化因子である MAPKKK、Rho、PKC など ERK シグナル活性化因子の細胞内局在を制御する ERK 経路の空間的制御機構を見出した(*論文 1,15,16,60,90,103-106,136,137,241,257, 291,318,319)。さらに、スタチン系薬物や免疫調節剤 FTY720 による ERK、p38 MAPK シグナル増殖制御機構、細胞接着/浸潤の分子機構を報告した(*論文 246,270,295,320,327,315, 316,344)。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- (3) **抗がん剤抵抗性・副作用に関わる分子機構解析と医療シーズ創製**: 医学部との連携研究を通して慢性骨髄性白血病(CML)治療薬であるイマチニブ耐性遺伝子として MET の遺伝子増幅を発見し、CML 治療薬として特許出願を行った(*論文 243,496 * 特許 25)。さらに、メルファランやビンクリスチンなど抗がん剤耐性出現時に ERK1/2, Akt, NFkB, HIF1 α などの経路が活性化しており、これらのシグナル経路の阻害剤が耐性克服に有効であることを示した(*論文 243-247,270,271,295-298,326-328)。また、H₂S 産生酵素であるシスタチオン γ リアーゼ(CSE)と Cav3.2T 型カルシウムチャンネル阻害剤の「前立腺がんのホルモン療法抵抗性」克服に対する有効性を発見した。化学療法に伴う重篤な副作用である「末梢神経障害(CIPN)」や「出血性膀胱炎」は患者の QOL の低下に加え、がん治療を困難にする重大な副作用であり、これらの副作用を克服する医療シーズとして、Cav3.2T 型 Ca²⁺チャンネル、HMGB1/RAGE、PKC/MEK 等を標的とした薬理的解析と創薬研究を展開した。その結果、RQ-00311651、sophoraflavanone G、6-prenylnaringenin (6-PNG)、6-PNG 新規誘導体 KTt45、アスコルビン酸が CaV3.2 を阻害することにより CIPN 緩和作用を有することを証明した。さらに、壊死細胞から放出される HMGB1 に対する中和抗体、RAGE 拮抗薬、PKC/MEK 阻害薬の CIPN に対する有効性を見出した。特に播種性血管内凝固症候群治療薬として臨床応用されているトロンボモデュリン α が HMGB1 不活性化作用を介して CIPN 予防薬のみならず出血性膀胱炎治療薬としても有効であることを見出した(*論文 192-195,208-217,230-237,243-255,270-279,285, 295-305, 326-331,367)。
- (4) **ケミカルゲノミクスを用いた免疫抑制薬 Rapamycin および FTY720 の感受性増強遺伝子の同定と抗腫瘍薬としてのドラッグリポジショニング**: mTOR シグナル伝達経路はがんにおいて高頻度に高発現している。mTOR 阻害薬である Rapamycin は免疫抑制効果に加えて抗腫瘍効果を発揮するため、これらの薬効を増強する遺伝子群の網羅的同定を行った。さらに、S1P 受容体調節薬である新規免疫抑制薬 FTY720 感受性・副作用関連遺伝子の同定とゲノム解析から、FTY720 が活性酸素種を生体内で産生誘導することにより p38 MAPK を活性化し、細胞死誘導効果と抗腫瘍活性を発現することを提唱した(*論文 17,57,290)。
- (5) **治療戦略としての癌細胞特異的メタボロミクス/プロテオミクス解析基盤構築**: “ヒストン脱メチル化酵素である KDM4B 欠損マウス、および KDM6A 欠損マウスを作成し、個体レベルで発がんとうがん代謝における役割を解析した。その結果、KDM4B の不活性化が白血病、乳がん発症を抑制すること、さらに KDM6A が乳がん、膵臓がんの発症や転移に対して抑制的に働くことを個体レベルで証明した。さらにがん促進因子である KDM4B、がん抑制因子である KDM6A がミトコンドリア機能、さらに**癌細胞脂防代謝制御プログラミングの中心的な役割を果たすことを個体レベルで証明した**(*論文 13,223,380)。一方、臨床検体を用いた解析から、がん細胞浸潤突起のプロテオミクス解析新規手法の開発と特許出願、ヒト乳がんリンパ節転移に関わる新規接着分子 α -Parvin の発見と特許出願(*特許 29 * 論文 238,317,345,346)、メープルシロップ由来大腸癌早期診断マーカーの発見と特許出願(*論文 12,166 * 特許 23)を行った。さらに、がん幹細胞独自の代謝に関わる Oct4の機能解明(*論文 338)、ならびにがんメタボローム解析の結果 Notch シグナルおよびその下流転写因子である NFkB, p53 活性の維持が、がん幹細胞低酸素条件下での嫌氣的代謝ならびに幹細胞性の維持に重要であることを明らかにした(*論文 240)。加えて抗がん剤多剤耐性に関わる排出トランスポーター制御タンパク質 ERM の一つである Radixin が薬物代謝とうがん増殖に与える影響の解析、がん細胞の糖鎖を指標としたがん増殖診断バイオマーカー探索と糖鎖オミクス基盤技術の開発(*論文 62,242,250,259-269,280,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

293,294,321-325,332,333)、発ガンと関わる各種金属のメタロミクス解析基盤(*論文 36-38,40,43,47,61,86)、免疫抑制薬FTY720の鉄メタロミクスに与える影響と抗腫瘍効果の関わり等の成果をあげた。(論文 158 件、図書 8 件、学会発表 509 件、報道 6 件、特許 6 件)(目標達成率 90%)

研究課題 (C) 臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズの POC(リーダー西尾):

- (1) **創薬標的分子の生体レベルでの POC:** 増殖シグナル ERK 経路の活性化制御因子である PKN3 キナーゼを創薬標的とした遺伝子ノックアウトマウスの作製、CCR4 ノックアウトマウスの解析を通して、PKN3 が生体レベルでがん転移、血管新生に重要な役割を果たすこと、さらに CCR4 の腫瘍免疫における役割を証明した(*論文 35,258 *報道 15-19)。DNA 損傷修復に関わるヒストンシャペロン制御分子 APLF 遺伝子ノックアウトマウスを作成し、遺伝子欠損マウスにおいて治療関連白血病の発症が有意に抑制されることを生体レベルで証明した。さらに、がん促進因子、がん抑制因子としての機能が推測されていた KDM4B、および KDM6A 欠損マウスの作製とがん発症・がん抑制における働きを生体レベルで証明した。即ち、PKN3、APLF、CCR4、KDM4B、KDM6A がそれぞれ、がん転移、腫瘍免疫活性化、白血病患者の優れた標的であることを個体レベルで証明し、**POC を取得した**(*論文 244,258,281)。特記すべきこととして、代謝拮抗薬である S1 と微小管作用薬であるエリブリンの併用が、難治性トリプルネガティブ乳癌の間葉上皮移行を阻止することで獲得耐性を防ぎ、効果的な抗腫瘍効果を発揮することを in vitro, in vivo で証明し、近大医学部における臨床第一相試験を実施した(*論文 444,498 *特許 26)。
- (2) **個別化医療・プレジジョンメディシンをめざしたバイオバンキング基盤整備とクリニカルシーケンスによるゲノム医療の実装:** 膨大な臨床腫瘍検体のバンキングシステムを構築し、医薬連携研究として「**近大クリニカルシーケンス**」と呼ばれるアプローチにより、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異情報のデータバンキング、各種がん原因遺伝子の同定、創薬シーズの検証と臨床病理学データの集積、メタデータのデータベース化が構築された。特に医薬連携研究の成果として分子標的薬グリベック耐性細胞の次世代シーケンサーや CGH を用いたゲノム解析を行い、MET 遺伝子増幅がグリベック耐性のメカニズムであることを報告し、特許取得を行った。(*論文 349, 352,353,355,357-362,404-411,413-429,431,449,466, 468,469)
- (3) **基盤整備に基づく臨床研究と産学連携:** これらのゲノム医療と個別化医療に関するゲノム解析研究を軸として、Eli Lilly、ベリンガーインゲルハイム、大塚製薬、アステラス等の製薬企業との産学連携研究と臨床試験などの橋渡し研究への基盤形成が達成された(*論文 412,423,430,431,433,447,464,477)。これらの成果として「**新たながん治療法の開発をめざした創薬・医療シーズ育成**」「**がんの早期診断/薬効評価/薬剤耐性マーカー**」に関する多数の論文/特許、さらには医薬連携基盤整備につながった(*特許 26-28)。特に EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者に対して、第二世代 EGFR 阻害薬を投与し、治療に伴い EGFR 遺伝子変異が検出限界以下となるなど、「治療モニタリングによる耐性の治療戦略」「耐性化予測マーカー、悪液質、予後予測マーカーの発見」等、**がんゲノム医療の実用化**が着実に進化し、抗がん剤耐性の克服に近づいていることを示す症例を多数報告した(*論文 351-353,357-362,367-370, 372-380,395,451,454,455,461,490)(論文 157 件、図書 81 件、学会発表 296 件、報道 16 件、特許 6 件)(目標達成率 95%)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

<優れた成果が上がった点>

(A) <がん細胞特異的抗腫瘍剤シーズ開発>

杉浦らの同定・創製した ACA-28、西田らの同定した Mangiferin は各々悪性黒色腫、多発性骨髄腫細胞特異的に細胞死を誘導するとともに、ERK シグナル制御、NIK 制御という作用機序を有する。また、メープルシロップ由来成分による大腸癌増殖阻害活性と AKT シグナル阻害活性を同定した成果は「大腸癌の治療用組成物」として特許申請につながった(* 特許 13,14)。これらのシーズは、「副作用の少ない効果的な抗がんシーズ化合物」の開発として重要な意義を有する。特に杉浦の開発した ACA-28 は、がん細胞特異的なシグナルをさらに活性化させることによりがん細胞を自滅させるという、これまでの創薬コンセプトを覆す革新的な作用機序を有するものであり、今後のさらなる展開が強く期待される(* 報道 1-10)。益子らの開発、創製したモノクローナル抗体医薬品は、シスチントランスポーターや LAT1 などがん細胞で高発現するアミノ酸輸送体を標的とするユニークなものであり、ほとんど全ての癌に対する有効性が期待されるものであり、抗腫瘍剤として国際特許を取得した。また、リンパ管新生を標的とした抗腫瘍効果を発揮する抗 LYVE1 抗体など、極めて新しい創薬コンセプトの創出にも貢献した。特に抗 LAT1 抗体は、「カニクイザル前臨床試験の計画」などめざましい進展があった(* 特許 1,7)。

(B) <癌増殖シグナル制御機構の解析と抗がん剤標的分子の POC >

・Protein Kinase C ファミリー PKN のがん転移における役割の発見と創薬標的としての提唱:

ERK シグナルの上流活性化因子である PKN3 は現在まで癌化との関わりが示唆されていたものの、生体レベルにおけるがん化との関わりは不明であった。杉浦らは PKN3 ノックアウトマウスの作製に世界で初めて成功し、しかも、PKN3 KO マウスにおいて、悪性黒色腫のがん転移が正常の 6 分の 1 に劇的に低下するとともに、血管新生も阻害されているという画期的な成果を得た。これらは、PKN3 を標的とした癌治療に道を拓く成果であり、メディアに広く報道され、大きな反響を呼んだ(* 論文 258 * 報道 15-19 他多数)。

<抗がん剤抵抗性、副作用に関わる新たな遺伝子、シグナル経路の発見と医療シーズへの発展> 特に分子標的抗がん剤治療抵抗性における MET, Oct4 の関与、腫瘍免疫に関する CCR4 の役割の解明に関しては、「医薬連携研究」の成果としてもその意義は大きい。また、Cav3.2、PKC、抗 HMGB1/RAGE 系をはじめとするカルシウムシグナルを標的とした抗がん剤治療に伴う疼痛治療の分子機構と医療シーズの創製も、がん患者 QOL を向上させ、がん治療の有効性の向上につながる革新的治療法としてインパクトを有する。

・癌代謝と発がん制御機構の関わり、癌診断シーズ候補分子: がん促進遺伝子として機能するヒストン脱メチル化酵素 KDM4B、さらにはがん抑制遺伝子として働く KDM6A の欠損マウスの作製と解析から、がん代謝リプログラミング制御、がん幹細胞機能、とエピジェネティクスが密接に関わることを生体レベルで明らかにするとともに、新規がん治療標的としての可能性を提唱した(* 論文 244)。さらに、臨床腫瘍検体を用いた研究や癌メタボロミクス解析から、「腎尿細管間質病変の重篤度を予測する尿中 CADM1」、「大腸癌マーカー aldolaseA」や「乳癌リンパ節転移予測因子 αParvin」など、癌診断シーズが発見され、論文のみならず多くの特許を取得したことは、本プロジェクトの目標がゲノム医療の実装と、シーズ実用化にむけて具体化されている証しである(* 論文 88,224,225,286,391,394)。

(C) 臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療: リン酸化酵素 PKN3、ヒストンシャペロン APLF、ケモカイン受容体 CCR4 に関しては、ノックアウトマウスを用いて個体レベルで創薬/治療標的としての POC に成功した。臨床腫瘍検体を用いた個別化ゲノム医療に関しては、「基盤整備に基づく産学連携研究の推進」がめざましい成果をあげ、橋渡し研究の基盤が形成された。1) 転移性乳癌患者に対する微小管作用薬と S1 の新規併用療法の発見と臨床第一相試験実施、2) 近大クリニカルシーケンスの成果として

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

の肺癌患者のゲノム解析と分子標的治療薬有効性に関する臨床試験、3)非小細胞肺癌のゲノム解析による、マルチキナーゼ阻害薬の新規標的の同定、アンプリコン次世代シーケンシングの治療法決定のための臨床応用研究など、臨床的にも極めて重要な成果を得た(* 特許 26-28)。とりわけ、原発不明がん患者 110 例の生検サンプルを用いた遺伝子発現解析とアルゴリズムに基づく治療法の臨床試験を実施するとともに(* 論文 351)、原発不明癌特異的遺伝子の絞り込みを遠隔転移に関わる 4 遺伝子の絞り込み、さらにそれらの遺伝子に対する阻害薬の検索、検証を行い、Bortezomib を始めとする化合物が *in vivo*, *in vitro* で転移抑制能を発揮することの証明(POC 取得)にまで至った。このことは、原発不明癌に対する世界初の分子標的薬の創出として、医学的にも極めて高い臨床的意義を有する発見であると考えられる。

(D) 医薬連携研究の成果「プロジェクト間の共同連携研究、成果の共有とフィードバック」

503 報の論文中、チーム間共同研究の成果は 52 報であり、活発な共同・連携研究が推進された。特に医薬連携、産学連携研究の成果が「白血病治療薬」「抗体医薬品：抗腫瘍剤」としての知的財産、「腫瘍免疫分子ケモカインの役割」等重要な成果に結びついている。よって、本研究のめざす「医薬連携基盤研究」拠点形成がほぼ目標どおりに達成されたことを示唆している。

(E) 若手研究者、人材育成の拠点形成：薬学部/医学部の若手研究者、薬学部創薬科学科の学部学生/大学院生が研究推進に極めて積極的な役割を果たした。また、本プロジェクトにより開催された多くのセミナーやシンポジウムにおいて、若手研究者や大学院生が参画した。特に、国際学会(2016 ICPP12)における Young Investigator session、ポスター発表に対しては、若手研究者、学生の高い研究能力、研究成果の質も含めて、国内外から絶賛された。さらに、本基盤研究によるゲノムセンターを中心としたゲノム科学拠点は、薬学部出身の臨床検査技師、臨床薬剤師が、「近大クリニカル・シーケンス」など、ゲノム医療に従事する基盤としても**若手人材育成・雇用創出**にも貢献する成果を生み出した。**アウトリーチ活動**として、高校生を対象とした成果発表会、薬剤師を対象とした生涯教育研修会なども行い、高い評価を得た(添付資料 3)。

<課題となった点>

研究課題(A)：多くの魅力的なシーズが同定され、成果発表、知財につながったが、それらをリード化合物へと最適化するための構造活性相関研究、溶解性の改善、体内動態の改善、標的分子の同定方法が、化合物により全て異なることがハードルとなった。具体的には *In silico* 創薬設計による表面プラズモン共鳴、BIACORE を駆使した候補化合物と標的分子(例：CK2)の結合親和性の検証などの手法により進展が得られた。また、創薬探索チームが同定した化合物群の抗腫瘍活性を *in vivo* で向上させる目的で、溶解性の向上や類縁体合成/標識化合物合成による標的分子の同定が行われた。今後益子らが行ったように、霊長類モデルを用いて抗腫瘍効果を検討することも視野に入れる。

研究課題(B)：多くのシーズやインパクトある研究成果、知財も創出され、増殖制御機構の解析は順調に推移した。癌に特徴的な代謝機構を解析する手段としてのメタボロミクス研究は、がん幹細胞を用いたメタボロミクス研究、ノックアウトマウスを用いたエピジェネティクス制御機構と代謝の関わり、天然物/食品シーズを用いたメタボロミクス等興味深い結果が見出されたが、今後分子基盤となるべきシグナル経路や分子標的を包括的、統合的に理解する必要があり、得られたデータのパスウェイ解析や創薬インフォマティクス解析、さらに確立された基盤技術を臨床検体に応用したメタボロミクス研究等に向けて将来への展望と課題となった。

研究課題(C)：臨床研究、連携研究、基盤整備は順調に進展し、今後本プロジェクトで見出された多くのシーズの実用化にむけて、臨床検体を用いたゲノム解析と POC に関する一層の医薬連携研究を推進する。

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

＜プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価(第三者)の実施結果及び対応状況＞

・**自己評価**:各研究ユニット(創薬探索・制御機構解析・臨床)内で、研究進捗報告会を頻繁に開催し、問題点や克服すべき課題をシェアするとともに、プロジェクトリーダー(杉浦)は全てのユニットごとの進捗報告会に在席する形で連携研究を推進した。また構成員全体が参加する研究成果報告会、各研究室代表者が参加するプロジェクト運営会議を年に一度開催し、進捗状況、運営状況、予算管理・配分、研究計画方針等に関する審議報告・質疑応答・共同研究の点検と推進を行った。本プロジェクトで導入した各種機器設備、PicoNMR、Luminex200、倒立顕微鏡、クリオスタット等は同定された化合物の類縁体合成、最適化、がん関連遺伝子、抗がん剤耐性遺伝子、副作用原因遺伝子の発見と機能解析に著しく貢献していること、さらに博士研究員や研究支援者雇用により、抗がん剤探索、類縁体合成、臨床クリニカルシーケンス、バイオバンキングデータ解析など、膨大な検体やサンプルの処理/解析等プロジェクト推進に多大な貢献があることから、研究資金の配分、運営方針においても適切であると自己評価を行った。自己点検外部評価委員会に進捗状況報告書を提出し、順調な進捗状況と適切な運営状況であることの評価を得るとともに、最終成果報告会を兼ねた国際シンポジウムに学内評価者をアドバイザーボードとして、学外評価者(駐日アイルランド大使含む)の参画を依頼し、自己点検および第三者評価の一環とした。

・**外部評価者**:(以下の2名の教授)より、中間評価段階として十分な成果を上げているとの評価を得た(添付資料4;東北大学がん研究所・島礼教授、奈良女子大学・渡邊利雄教授)。また、Cell のチーフ Editor, Emilie Marcus のサイト visit において本プロジェクトの成果を発表し、exciting な成果とのコメントを得た(2017/05/24;添付資料5)。一方、2016年と2019年には、研究成果進捗発表会ならびに最終研究成果発表会を兼ねた国際シンポジウムを開催した。2016年の国際学会兼成果報告会においては、10名近い国内外の研究者に講評を依頼した(添付資料6)。また、2019年の最終研究成果報告会においては、「学内評価者」として近畿大学大学院部長 松本和也教授、近大理工学部・総合理工学科 早坂春子教授を始めとした教員に評価者として参画を要請し、審査・講評を依頼するとともに、学外評価者として「滋賀大学学長:位田隆一氏」「医薬基盤・栄養・健康研究所 朝長毅博士、鎌田春彦博士」らに審査員・評価等を依頼した(添付資料4)。さらに 5カ年のプロジェクトの成果報告書に対する外部評価者として、神戸大学医学研究科、的崎教授に評価を依頼した。学内、学外いずれの評価者も、量的にも質的にもハイレベルの研究が展開され、近畿大学における産学連携、橋渡し研究の礎が形成されていることに対する高い評価を得た。特に的崎教授は、日本有数の総合私立大学である近畿大学による本プロジェクトが、医薬連携研究拠点として、さらにゲノム医療を具現化する人材育成拠点としても機能していること、極めて革新的な成果が輩出されていること、また産学連携の成果が結実し、次なる展開として大学ガバナンスのもと、「オープンイノベーションをめざした大学横断的産学連携コア」への展開がなされていることを高く評価された(添付資料4)。

※**指摘事項に対する対応**:中間評価に関して文科省よりは指摘事項はなかった。評価者による指摘事項である「**3研究グループ間の機能的連携の強化と創薬シーズのPOC**」に向けてグループ間の連携と共同研究をさらに推進した。その結果、PKN1 遺伝子組み換えマウス(キナーゼドノックインマウス)の作製と機能解析から、創薬(がん転移治療)の標的としてのPKNがリンパ球の遊走など、免疫機能に重要な役割をすることを明らかにした(グループA 杉浦研究室—B 中山研究室間の共同研究)。さらに、がん化において重要な役割を果たす翻訳後修飾の一つである「リン酸化反応」に着目した共同研究として、「リン酸化タンパク質、シーズをマイクロチップ電気泳動で分離する新規手法(論文)」を開発した(鈴木教授—杉浦教授らの共同研究:

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Analyst の表紙を飾る)。さらに、「がん細胞特異的糖鎖解析(研究グループ B)」の結果、ヒト肝臓が細胞特異的な糖鎖が判明しており、薬学部発の研究成果を近畿大学医学部/近大病院との連携(研究グループ C)による臨床研究へと展開した。POC 研究に関しては、PKN3 や CCR4 など複数の遺伝子ノックアウトマウスが作成され、in vivo での効果が確認された。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

多くのシーズが特許を取得しており、臨床段階にまで進んでいるものもある。特に、「世界初の原発不明がんに対する治療法」「メタボロミクスを標的とした診断/治療マーカー」など、画期的な治療法開発創出に貢献した。特に、「エピジェネティクス制御因子」を標的としたがん治療、あるいは「新規抗腫瘍薬 ACA-28:がん化シグナルをさらに活性化することによる細胞死誘導機構」などは、現在までの創薬のコンセプトを覆し、新たなクラスのがん治療薬・診断薬の創製につながる革新的な知見を含んでいる。また、本プロジェクトの推進を通して、国内外の多くの研究室との共同研究や国際交流が進展した。その成果として、「医薬基盤研究所」「カナダマギル大学」「中国廈門大学」「アイルランド University College Cork」などとの大学間協定、学術交流が確立した(添付資料7)

<研究期間終了後の展望・今後期待される研究成果>: 独創的手法で同定された SK 化合物や Mangiferin は癌細胞特異的な細胞死を誘導する、極めて魅力的ながん治療シーズであり、体内動態の検証や標的分子の同定、メタボロミクスを解析することで、新たながん治療の概念を提唱できる可能性がある。また、いくつかの創薬、医療シーズや既存薬との併用療法などは臨床段階に進んでいる。特に「**原発不明がんに対する分子標的治療薬**」として世界初の治療法の創出につながる可能性があり、大いに期待できる。本戦略研究実施過程で見出した創薬シーズを臨床応用するための実用研究を継続する(文部科学省基盤研究および AMED プロジェクト等)。具体的には、本プロジェクトにより確立された医薬連携基盤を発展させ、近畿大学医学部・近大病院との共同研究によって臨床検体を用いた解析を行い、POC 研究を推進する。

また、近畿大学においては、大学ガバナンスのもと、「オープンイノベーションの創成を目指した全学横断型研究プロジェクト」として、産学連携や産学協働の深化によるイノベーション創成を進めており、その取り組みの基盤となるために、学際的研究領域として 5 つ研究分野(クラスター)が設定されている。各研究クラスターでは、学問領域を超えて全学横断型の共同研究を推進する集合体である研究プロジェクト(コア)を形成して、先進的な研究成果をあげている。本研究プロジェクトは、「がんゲノム医療の実装と遺伝性疾患の責任遺伝子探索・創薬から予防までのトータルケア」「健康・長寿に資する機能分子の高性能分析装置を用いた測定および構造解析」二つのコアにおいて、関係協力者とともにプロジェクトを展開していく予定である。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 増殖シグナル制御機構 (2) 癌化制御機構 (3) がん治療法開発
 (4) 抗がん剤副作用回避 (5) 創薬シーズ探索・開発 (6) がん転移
 (7) がん免疫療法 (8) メタボロミクス

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには * を付すこと。

<雑誌論文>

研究課題(A)：増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発 (計188報)

- 1) *Satoh R : The molecular basis of drug discovery targeting the regulatory mechanism of MAPK signaling via the spatial regulation of RNA-binding proteins. *Yakugaku-Zasshi*, 139(1), 7-12 (2019)
- 2) *Shinkai M, Imano M, Chiba Y, Iwama M, Shiraisi O, Yasuda A, Tsubaki M, Nishida S, Kimura Y, Yasuda T : Phase II trial of neoadjuvant chemotherapy with intraperitoneal paclitaxel, S-1, and intravenous cisplatin and paclitaxel for stage IIIA or IIIB gastric cancer : *J Surg Oncol*, 119(1): 56-63 (2019) 査読有り
- 3) *Tsubaki M, Takeda T, Tomonari Y, Koumoto YI, Imano M, Satou T, Nishida S : Overexpression of HIF-1 α contributes to melphalan resistance in multiple myeloma cells by activation of ERK1/2, Akt, and NF- κ B : *Lab Invest*, 99(1): 72-84 (2019) 査読有り
- 4) *Mashimo K, Tsubaki M, Takeda T, Asano R, Jinushi M, Imano M, Satou T, Sakaguchi K, Nishida S : RANKL-induced c-*Src* activation contributes to conventional anti-cancer drug resistance and dasatinib overcomes this resistance in RANK-expressing multiple myeloma cells : *Clin Exp Med*, 19(1): 133-141 (2019) 査読有り
- 5) *Tsubaki M, Takeda T, Obata N, Kawashima K, Tabata M, Imano M, Satou T, Nishida S : Combination therapy with dacarbazine and statins improved the survival rate in mice with metastatic melanoma : *J Cell Physiol*, in press (2019) 査読有り
- 6) *Yamamoto S, Fujiwara H, Maruyama K, Tanaka Y, Kinoshita M, Suzuki S : Simultaneous determination of inorganic anions and cations in water and biological samples by capillary electrophoresis with a capacitive coupled contactless conductivity detector using capillary filling method : *Anal. Sci.* in press (2019) 査読有り
- 7) Otsuka H, Fukao A, Funakami Y, Duncan KE, Fujiwara T : Emerging Evidence of Translational Control by AU-Rich Element-Binding Proteins. *Frontiers in Genetics (in press)* 査読有り
- 8) Ogata F., Nagai N., Kishida M., Nakamura T., Kawasaki N. : Interaction between phosphate ions and Fe-Mg type hydrotalcite for purification of wastewater : *J Environ Chem Eng*, in press (2019) 査読有り
- 9) Nagai N., Ogata F., Otake H., Nakazawa Y., Kawasaki N. : Energy-dependent endocytosis is responsible for drug transcorneal penetration following the instillation of ophthalmic formulations containing indomethacin nanoparticles : *Int J Nanomedicine*, in press (2019) 査読有り
- 10) Ogata F., Nagai N., Toda M., Otani M., Nakamura T., Kawasaki N. : Evaluation of the interaction between borate ions and nickel-aluminum complex hydroxide for purification of wastewater : *Chem Pharm Bull*, in press (2019) 査読有り
- 11) Ogata F., Ami H., Nagahashi E., Nakamura T., Kawasaki N. : Improvement in the quality of deteriorated blended oil by calcium silicate treatment : *BPB Reports*, in press (2019) 査読有り
- 12) *Yamamoto T, Nishita T, Taga A : Dark-colored maple syrup treatment induces S-phase cell cycle arrest via reduced proliferating cell nuclear antigen expression in colorectal cancer cells : *Oncol Lett.*, 17, 2713-2720 (2019) 査読有り
- 13) *Hiraoka E., Mimae T., Ito M., Kadoya T., Miyata Y., Kondo T., Ito A., Okada M : 14-3-3 γ promotes an initiative invasion in breast cancer cells. *Breast Cancer*,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

doi:10.1007/s12282-019-00957-4 (2019). 査読有り

- 14) Kreher J, Takasaki T, Cockrum C, Sidoli S, Garcia BA, Jensen ON, Strome S : Distinct Roles of Two Histone Methyltransferases in Transmitting H3K36me3-Based Epigenetic Memory Across Generations in *Caenorhabditis elegans*. *Genetics*, 210(3): 969-982 (2018) 査読有り
- 15) *佐藤亮介, 杉浦麗子 : RNA とエピジェネティクスからの創薬へ. *生体の科学*, 69(4), 320-323 (2018)
- 16) *Satoh R, Hara N, Kawasaki A, Takasaki T, Sugiura R : Distinct modes of stress granule assembly mediated by the KH-type RNA-binding protein Rnc1. *Genes Cells*, 23(9): 778-785 (2018) 査読有り
- 17) *Takasaki T, Hagihara K, Satoh R, Sugiura R : More than just an immunosuppressant: The emerging role of FTY720 as a novel inducer of ROS and apoptosis. *Oxid Med Cell Longev*, (2018), Article ID 4397159 査読有り
- 18) *Tsubaki M, Takeda T, Matsumoto M, Kato N, Yasuhara S, Koumoto YI, Imano M, Satou T, Nishida S : Tamoxifen suppresses paclitaxel-, vincristine-, and bortezomib-induced neuropathy via inhibition of the protein kinase C/extracellular signal-regulated kinase pathway : *Tumour Biol*, 40(10): 1010428318808670 (2018) 査読有り
- 19) *Shinkai M, Imano M, Chiba Y, Hiraki Y, Kato H, Iwama M, Shiraishi O, Yasuda A, Tsubaki M, Nishida S, Kimura Y, Yasuda T : Intraperitoneal and Systemic Chemotherapy for Patients with Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis: A Phase II Trial : *Anticancer Res*, 38(10): 5975-5981 (2018) 査読有り
- 20) *Shinkai M, Imano M, Chiba Y, Hiraki Y, Kato H, Iwama M, Shiraisi O, Yasuda A, Tsubaki M, Nishida S, Kimura Y, Yasuda T : Intraperitoneal Administration of Paclitaxel Followed by Paclitaxel, Cisplatin, and S-1 Chemotherapy for Cytology-positive Gastric Cancer: A Feasibility Study : *Anticancer Res*, 38(10): 5969-5974 (2018) 査読有り
- 21) *Tsubaki M, Takeda T, Matsumoto M, Kato N, Asano RT, Imano M, Satou T, Nishida S : Trametinib suppresses chemotherapy-induced cold and mechanical allodynia via inhibition of extracellular-regulated protein kinase 1/2 activation : *Am J Cancer Res*, 8(7): 1239-1248 (2018) 査読有り
- 22) *Takeda T, Tsubaki M, Tomonari Y, Kawashima K, Itoh T, Imano M, Satou T, Nishida S : Bavachin induces the apoptosis of multiple myeloma cell lines by inhibiting the activation of nuclear factor kappa B and signal transducer and activator of transcription 3 : *Biomed Pharmacother*, 100: 486-494 (2018) 査読有り
- 23) *Tsubaki M, Takeda T, Tomonari Y, Mashimo K, Koumoto YI, Hoshida S, Itoh T, Imano M, Satou T, Sakaguchi K, Nishida S : The MIP-1 α autocrine loop contributes to decreased sensitivity to anticancer drugs : *J Cell Physiol*, 233(5): 4258-4271 (2018) 査読有り
- 24) *Tsubaki M, Takeda T, Asano RT, Matsuda T, Fujimoto SI, Itoh T, Imano M, Satou T, Nishida S : Rebamipide suppresses 5-fluorouracil-induced cell death via the activation of Akt/mTOR pathway and regulates the expression of Bcl-2 family proteins : *Toxicol In Vitro*, 46: 284-293 (2018) 査読有り
- 25) *Tsubaki M, Takeda T, Tomonari Y, Kawashima K, Itoh T, Imano M, Satou T, Nishida S : Pioglitazone inhibits cancer cell growth through STAT3 inhibition and enhanced AIF expression via a PPAR γ -independent pathway : *J Cell Physiol*, 233(4): 3638-3647 (2018) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 26) Sadahiro A, Fukao A, Kosaka M, Funakami Y, Takizawa N, Takeuchi O, Duncan KE, Fujiwara T. : Translation of Hepatitis A Virus IRES Is Upregulated by a Hepatic Cell-Specific Factor. *Frontiers in Genetics* 9:307, Aug, (2018) 査読有り
- 27) Kohno K, Itoh S, Hanai A, Takii T, Fujiwara T, Onozaki K, Tsuji T, Hida S. : Identification of matrix metalloproteinase 9-interacting sequences in staphylococcal superantigen-like protein 5. *Biochemical and biophysical research communications* 497(2), pp.713-718, Mar, (2018) 査読有り
- 28) Yamaguchi T, Suzuki T, Sato T, Takahashi A, Watanabe H, Kadowaki A, Natsui M, Inagaki H, Arakawa S, Nakaoka S, Koizumi Y, Seki S, Adachi S, Fukao A, Fujiwara T, Natsume T, Kimura A, Komatsu M, Shimizu S, Ito H, Suzuki Y, Penninger JM, Yamamoto T, Imai Y, Kuba K. : The CCR4-NOT deadenylase complex controls Atg7-dependent cell death and heart function. *Science signaling* 11(516), pii: ean3638, Feb, (2018) 査読有り
- 29) Yamamoto S, Okada F, Kinoshita M, Suzuki S : On-line microchip electrophoresis-mediated preconcentration of cationic compounds utilizing cationic polyacrylamide gels fabricated by in situ photopolymerization : *Analyst*, 143 : 4429-4435 (2018) 査読有り
- 30) Yamamoto S, Nishida N, Kinoshita M, Suzuki S : On-line derivatization and concentration of aspartic acid using in situ photopolymerized carboxylic acid type polyacrylamide gels as a permselective preconcentrator : *Chromatography*, 39 : 125-130 (2018) 査読有り
- 31) Yamamoto S, Kinoshita M, Ikegami T, Suzuki S : High-performance liquid chromatographic separation of 8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid labeled N-glycans using a functional tetrazole hydrophilic interaction liquid chromatography column : *J. Chromatogr. A*, 1566 :44-50 (2018) 査読有り
- 32) *Miyagawa T, Inuki S, Honda M, Nakamura S, Nakanishi I, Fujii N, Oishi S, Ohno H : Synthesis of jaspine B regioisomers through palladium-catalyzed stereoselective tetrahydrofuran formation: Insight into the ligand recognition of sphingosine kinases. *Tetrahedron*, 74, 1802–1809 (2018) 査読有り
- 33) *Nishiwaki K, Ohigashi K, Deguchi T, Murata K, Nakamura S, Matsuda H, Nakanishi I : Structure–activity relationships and docking studies of hydroxychavicol and its analogs as xanthine oxidase inhibitors. *Chem. Pharm. Bull.*, 66, 741–747 (2018) 査読有り
- 34) *Matsumoto K, Yanagi R, Yamaguchi K, Hayashi E, Yasuda E, Kuriyama K, Nokami T, Nishiwaki K, Kashimura S : Lewis acid promoted Prins cyclization using non-conjugated diene alcohol: Sequential reactions terminated by fluoride ion. *Heterocycles*, 96, 1363–1372 (2018) 査読有り
- 35) *Matsuo K, Nagakubo D, Komori Y, Fujisato S, Takeda N, Kitamatsu M, Nishiwaki K, Quan Y-S, Kamiyama F, Oiso N, Kawada A, Yoshie O, Nakayama T : CCR4 is critically involved in skin allergic inflammation of BALB/c mice. *J. Invest. Dermatol.*, 138, 1764–1773 (2018) 査読有り
- 36) *Ogata F., Obayashi M., Nagahashi E., Nakamura T., Kawasaki N. : Effects of water addition to prevent deterioration of soybean oil by calcium silicate adsorbent. *J Oleo Sci*, 67(1): 95-103 (2018) 査読有り
- 37) *Ogata F., Ueta E., Kawasaki N. : Characteristics of a novel adsorbent Fe-Mg-type hydrotalcite and its adsorption capability of As(III) and Cr(VI) from aqueous solution : *J Ind Eng Chem*. 59: 56-63 (2018) 査読有り
- 38) *Ogata F., Nagai N., Ueta E., Nakamura T., Kawasaki N. : Biomass potential of virgin and calcined tapioca (cassava starch) for the removal of Sr(II) and Cs(I) from aqueous solutions. *Chem*

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Pharm Bull*, 66: 295-302 (2018) 査読有り
- 39) 緒方文彦、東剛志 : 医薬品による環境汚染問題—実態・生態影響・浄化技術—。(誌上シンポジウム, 序文)薬学雑誌. 138(3): 269-270 (2018) 査読有り
- 40) *Ogata F., Nagai N., Kariya Y., Nagahashi E., Kobayashi Y., Nakamura T., Kawasaki N. : Adsorption of nitrite and nitrate ions from an aqueous solution by Fe-Mg-type hydrotalcites at different molar ratios. *Chem Pharm Bull*, 66(4): 458-465 (2018) 査読有り Highlighted Paper Selected by Editor-in-Chief, Featured Article
- 41) Ogata F., Nakamura T., Kawasaki N. : Improvement of the homogeneous Fenton reaction for degradation of methylene blue and acid orange II. *Chem Pharm Bull*, 66: 585-588 (2018) 査読有り
- 42) Ogata F., Nagahashi E., Kobayashi Y., Nakamura T., Kawasaki N. : Simultaneous removal of dye and chemical oxygen demand from aqueous solution by combination treatment with ozone and carbonaceous material produced from waste biomass. *e-J Surf Sci Nanotechnol*, 16: 229-235 (2018) 査読有り
- 43) *Ogata F., Toda M., Otani M., Nakamura T., Kawasaki N. : Evaluation of phosphate ion adsorption from aqueous solution by nickel-aluminum complex hydroxides. *Water Sci Technol*, 3: 913-921 (2018) 査読有り
- 44) Ogata F., Nakamura T., Kawasaki N. : Adsorption capability of virgin and calcined wheat bran for molybdenum present in aqueous solution and elucidating the adsorption mechanism by adsorption isotherms, kinetics, and regeneration. *J Environ Chem Eng*, 6: 4459-4466 (2018) 査読有り
- 45) Nagai N., Ogata F., Ishii M., Fukuoka Y., Otake H., Nakazawa Y., Kawasaki N. : Involvement of endocytosis in the transdermal penetration mechanism of ketoprofen nanoparticles. *Int J Mol Sci*, 19: 2138 (2018) 査読有り
- 46) Nagai N., Ogata F., Otake H., Nakazawa Y., Kawasaki N. : Design of a transdermal formulation containing raloxifene nanoparticles for osteoporosis treatment. *Int J Nanomedicine*, 13: 5215-5229 (2018) 査読有り
- 47) *Nagahashi Eri, Ogata F., Nakamura T., Kawasaki N. : Removal of zinc ions from aqueous solutions by adsorption on virgin and calcined lignin. *BPB Reports*, 1: 25-31 (2018) 査読有り
- 48) Nakamura A., Takane R., Tanaka J., Morimoto J., Maegawa T.: Construction of azaisoflavone derivatives by hypervalent iodine reagent-mediated oxidative rearrangement of 2'-nitrochalcone. *Heterocycles*, in press (2018) 査読有り
- 49) Shibata A., Kitamoto S., Fujimura K., Hirose Y., Hamamoto H., Nakamura A., Miki Y., Maegawa T.: Dehydroxymethyl bromination of alkoxybenzyl alcohols using a hypervalent iodine reagent and lithium bromide. *Synlett*, 29, 2275-2278 (2018) 査読有り
- 50) *Maegawa T., Mizui R., Urasaki M., Fujimura K., Nakamura A., Miki Y.: Direct synthesis of chalcones from anilides with phenyl vinyl ketones by oxidative coupling through C-H bond activation. *ACS Omega*, 3, 5375-5381 (2018) 査読有り
- 51) Oishi R., Segi K., Hamamoto H., Nakamura A., Maegawa T., Miki Y.: Hypervalent iodine-mediated Beckmann rearrangement of ketoximes. *Synlett*, 29, 1465-1468 (2018) 査読有り
- 52) Nakamura A., Kanou H., Tanaka J., Imamiya A., Maegawa T. Miki Y.: A mild method for synthesizing carboxylic acids by oxidation of aldoximes using hypervalent iodine reagents. *Org. Biomol. Chem.*, 16, 541-544 (2018) 査読有り
- 53) 木下 充弘, 木下 英樹, 鈴木 茂生: バイオ医薬品研究開発における電気泳動手法. *J.Mass*

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Spectrometry Soc. Jpn 2018 年 66 巻 4 号 p. 154-160 (2018)
- 54) 木下 英樹、小杉 正幸、矢部 公彦、松永 貴輝、木下 充弘: 全自動 2 次元電気泳動による抗体医薬品の分離評価. 電気泳動 第 62 巻(2018)
- 55) 木下 充弘、山本佐知雄、鈴木 茂生: 全自動マイクロチップ電気泳動装置を用いる糖鎖のハイスループット解析. 電気泳動 (2018)
- 56) *Komuro A, Iwata C, Soda M, Isogaya K, Ino Y, Todo T, Aburatani H, Suzuki H, Ranjit M, Natsume A, Saito N, Okada H, Mano H, Miyazono K, Daizo K : Identification of a novel fusion gene HMG2-EGFR in glioblastoma: *Int J Cancer*, 142(8) 1627-1639 (2018) 査読有り
- 57) *Hagihara K, Kinoshita K, Ishida K, Hojo S, Kameoka Y, Satoh R, Takasaki T, Sugiura R.: A genome-wide screen for FTY720-sensitive mutants reveals genes required for ROS homeostasis. *Microb Cell*, 4(12): 390-401 (2017) 査読有り
- 58) *Yamamoto S, Himeno M, Kobayashi M, Akamatsu M, Satoh R, Kinoshita M, Sugiura R, Suzuki S. : Microchip electrophoresis utilizing an in situ photopolymerized Phos-tag binding polyacrylamide gel for specific entrapment and analysis of phosphorylated compounds. *Analyst*, 142(18): 3416-3423 (2017) 査読有り
- 59) *Mashud R, Nomachi A, Hayakawa A, Kubouchi K, Danno S, Hirata T, Matsuo K, Nakayama T, Satoh R, Sugiura R, Abe M, Sakimura K, Wakana S, Ohsaki H, Kamoshida S, Mukai H. : Impaired lymphocyte trafficking in mice deficient in the kinase activity of PKN1. *Sci Rep*, 7(1): 7663 (2017) 査読有り
- 60) *Satoh R, Hagihara K, Sugiura R. : Rae1-mediated nuclear export of Rnc1 is an important determinant in controlling MAPK signaling. *Curr Genet* (2017) 査読有り
- 61) *Ogata E, Satoh R, Kita A, Sugiura R, Kawasaki N. : Evaluation of a novel method for measurement of intracellular calcium ion concentration in fission yeast. *J Toxicol Sci*, 42: 159-166(2017) 査読有り
- 62) *Iwaki M., Shimada H., Irino Y., Take M., Egashira S.: Inhibition of methotrexate uptake via organic anion transporters OAT1 and OAT3 by glucuronides of nonsteroidal anti-inflammatory drugs. *Biol Pharm Bull*, 40, 926-931 (2017) 査読有り
- 63) *Yamamoto T, Sato K, Kubota Y, Mitamura K, Taga A : Effect of dark-colored maple syrup on cell proliferation of human gastrointestinal cancer cell : *Biomed Rep*. 7, 6-10 (2017) 査読有り
- 64) *Nakamura A., Tanaka S., Imamiya A., Takane R., Ohta, C., Fujimura K., Maegawa T., Miki Y.: Synthesis of 3-acylindoles by oxidative rearrangement of 2-aminochalcones using a hypervalent iodine reagent and cyclization sequence. *Org. Biomol. Chem.*, 15, 6702–6705 (2017) 査読有り
- 65) Maegawa T., Nogata M., Hirose Y., Ohgami S., Nakamura A., Miki Y., Fujioka H.: Transformation of methylene acetals to bromoformates with a combination of trimethyl(phenylthio)silane and *N*-bromosuccinimide. *J. Org. Chem.* 82, 7608–7613 (2017) 査読有り
- 66) Miki Y., Hirata Y., Makino N., Hirose Y., Nogata M., Nakamura A., Hamamoto H., Maegawa T.: Halogenation of dimethyl indole-2,3-dicarboxylates using $\text{PhI}(\text{OAc})_2$ and alkali metal halide. *Heterocycles*, 94, 1269-1279 (2017) 査読有り
- 67) *Fujiwara D, Tsubaki M, Takeda T, Tomonari Y, Koumoto YI, Sakaguchi K, Nishida S : Statins induce apoptosis through inhibition of Ras signaling pathways and enhancement of Bim and p27 expression in human hematopoietic tumor cells. *Tumour Biol*, 39(10):1010428317734947 (2017) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 68) *Yanae M, Fujimoto S, Tane K, Tanioka M, Fujiwara K, Tsubaki M, Yamazoe Y, Morishima Y, Chiba Y, Takao S, Komoike Y, Tsurutani J, Nakagawa K, Nishida S : Increased risk of SSEs in bone-only metastatic breast cancer patients treated with zoledronic acid : *J Bone Oncol*, 8: 18-22 (2017). 査読有り
- 69) *Tsubaki M, Takeda T, Kino T, Sakai K, Itoh T, Imano M, Nakayama T, Nishio K, Satou T, Nishida S : Contributions of MET activation to BCR-ABL1 tyrosine kinase inhibitor resistance in chronic myeloid leukemia cells : *Oncotarget*, 8(24): 38717-38730 (2017) 査読有り
- 70) *Fujiwara D, Mashimo K, Kimura K, Noda A, Taki K, Yoshibayashi H, Takeda T, Tsubaki M, Nishida S, Sakaguchi K : Influence of Next-Day Administration of Pegfilgrastim after FEC100 Chemotherapy in Japanese with Breast Cancer on Neutrophil Count : *Gan To Kagaku Ryoho*. 44(2): 149-152 (2017) 査読有り
- 71) *Nishida S, Tsubaki M : Exploration of Molecular Targets in the Development of New Therapeutics Aimed at Overcoming Multidrug Resistance : *Yakugaku Zasshi*, 137(2): 145-149 (2017) 査読有り
- 72) *Tsubaki M, Fujiwara D, Takeda T, Kino T, Tomonari Y, Itoh T, Imano M, Satou T, Sakaguchi K, Nishida S : The sensitivity of head and neck carcinoma cells to statins is related to the expression of their Ras expression status, and statin-induced apoptosis is mediated via suppression of the Ras/ERK and Ras/mTOR pathways : *Clin Exp Pharmacol Physiol*, 44(2): 222-234 (2017) 査読有り
- 73) Igarashi M, Sawa R, Yamasaki M, Hayashi C, Umekita M, Hatano M, Fujiwara T, Mizumoto K, Nomoto A. : Kribbelosides, novel RNA 5'-triphosphatase inhibitors from the rare actinomycete *Kribbella* sp. MI481-42F6. *The Journal of antibiotics* 70(5), pp.582-589, May, (2017) 査読有り
- 74) 西田憲晃, 小鍛冶靖子, 山本佐知雄, 木下 充弘, 鈴木 茂生 : アルカリ α 脱離法により遊離させた N-及び O-結合型糖タンパク質由来糖鎖の HPLC 分析 : 分析化学, 66, 909-917 (2017) 査読有り
- 75) *Ohno H, Honda M, Hamada N, Miyagaki J, Iwata A, Otsuki K, Maruyama T, Nakamura S, Nakanishi I, Inuki S, Fujii N, Oishi S : Identification of selective inhibitors of sphingosine kinases 1 and 2 through a structure-activity relationship study of 4-epi-jaspine B. *Bioorg. Med. Chem.*, 25, 3046-3052 (2017) 査読有り
- 76) *Nakamura S, Shimada K, Tanabe G, Muraoka O, Nakanishi I : Computational study on the comparative differences in the activity of inhibitors of human versus rat alpha-glucosidase. *Open J. Med. Chem.*, 7, 19-28 (2017) 査読有り
- 77) *Nakamura S, Ohmura R, Nakanishi I : An interaction-based approach for affinity prediction between antigen peptide and human leukocyte antigen using COMBINE analysis. *Chem-Bio Informatics Journal*, 217, 93-102 (2017) 査読有り
- 78) *Nakamura S, Kitayoshi H, Nakanishi I : Improvement of pseudo- molecule generation on solvent dipole ordering virtual screening (SDO-VS). *J. Comp. Aided Chem.*, 18, 149-158 (2017) 査読有り
- 79) Ogata F., Nagai N., Kawasaki N. : Adsorption capability of cationic dyes (methylene blue and crystal violet) onto poly- γ -glutamic acid. *Chem Pharm Bull*, 65(3): 268-275 (2017) 査読有り Cover picture, Highlighted Paper Selected by Editor-in-Chief, Featured Article
- 80) Ogata F., Toda M., Otani M., Kawasaki N. : Granulation of cobalt-containing nickel hydroxide with polyethylene terephthalate and its phosphate ion adsorption capability. *J Water Environ*

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Technol*, 15(1): 22-34 (2017) 査読有り
- 81) 緒方文彦、林友典、平田敦士、能登啓介、松岡寛、川崎直人 : 簡易懸濁法適応時における NaCl の影響およびチューブ通過性に関する基礎的検討. *臨床環境医学*, 26(1): 45-54 (2017) 査読有り
- 82) 長井紀章、真野裕、船上仁範、緒方文彦、伊藤吉将、川崎直人 : 納豆菌酵素発酵代謝 (NFE) エキスが SHR および SHR-SP ラットの血圧へ与える影響. *医療薬学*, 43(2): 72-79 (2017) 査読有り
- 83) Ogata F., Ueta E., Toda M., Otani M., Kawasaki N. : Adsorption of phosphate ions from an aqueous solution by calcined nickel-cobalt binary hydroxide. *Water Sci Technol*, 75(1): 94-105 (2017) 査読有り
- 84) 山城海渡、緒方文彦、川崎直人 : 花粉症の発症と毛髪中ミネラル濃度:生活習慣および加齢との関連性. *薬学雑誌*, 137(8): 1035-1040 (2017) 査読有り
- 85) Ogata F., Nakamura T., Ueta E., Nagahashi E., Kobayashi Y., Kawasaki N. : Adsorption of tungsten ion with a novel Fe-Mg type hydrotalcite prepared at different Mg²⁺/Fe³⁺ ratios. *J Environ Chem Eng*, 5: 3083-3090 (2017) 査読有り
- 86) *Nakamura T., Yoshida E., Fujie T., Ogata F., Yamamoto C., Kawasaki N., Kaji T. : Synergistic cytotoxicity caused by forming a complex of copper and 2,9-dimethyl-1,10-phenanthroline in cultured vascular endothelial cells. *J Toxicol Sci*, 42(6): 683-687 (2017) 査読有り
- 87) Nagai N., Ogata F., Otake H., Kawasaki N., Nakazawa Y., Kanai K., Okamoto N., Shimomura Y. : Co-instillation of nano-solid magnesium hydroxide enhances corneal permeability of dissolved timolol. *Exp Eye Res*, 165: 118-124 (2017) 査読有り 日本眼科学会雑誌 連載「外国誌要覧」にて紹介
- 88) *Hagiyama M., Yabuta N., Okuzaki D., Inoue T., Takashima Y., Kimura R., Ri A., Ito A.: Modest static pressure suppresses columnar epithelial cell growth in association with cell shape and cytoskeletal modifications. *Front Physiol*, 8:997, doi: 10.3389/fphys.2017.00997 (2017). 査読有り
- 89) *Satoh R., Hagihara K., Matsuura K., Manse Y., Kita A., Kunoh T., Masuko T., Moriyama M., Moriyama H., Tanabe G., Muraoka O., Sugiura R. : Identification of ACA-28, a l'-Acetoxychavicol Acetate analog compound, as a novel modulator of ERK MAPK signaling, which preferentially kills human melanoma cells. *Genes Cells*, 22:608-618 (2017) 査読有り
- 90) *Kobayashi A., Kanaba T., Satoh R., Ito Y., Sugiura R., Mishima M. : Chemical shift assignments of the first and second RRM of Nrd1, a fission yeast MAPK-target RNA binding protein. *Biomol NMR Assign.* (2017) 査読有り
- 91) *Chantaravong C., Ueki A., Ohyama R., Unga J., Nakamura S., Nakanishi I., Higuchi Y., Kawakami S., Ando H., Imamura A., Ishida H., Yamashita F., Kiso M., Hashida M. : Synthesis and functional characterization of novel sialyl LewisX mimic-decorated liposomes for E-selectin-mediated targeting to inflamed endothelial cells. *Mol. Pharmaceutics*, 14, 1528-1537 (2017) 査読有り
- 92) Nagai N., Ogata F., Deguchi S., Ueno A., Kawasaki N., Ito Y. : Combination ointment containing solid tranilast nanoparticles and dissolved sericin is efficacious for treating skin wound-healing deficits and redness in diabetic rats, *Biol. Pharm. Bull.* 40(4): 444-150 (2017) 査読有り
- 93) *Yamada H., Matsumura C., Yamada K., Teshima K., Hiroshima K., Kinoshita M., Suzuki S., Takehi K. : Combination of SDS-PAGE and intact mass analysis for rapid determination of

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- heterogeneities in monoclonal antibody therapeutics. *Electrophoresis*, 2017 May;38(9-10):1344-1352. d 査読有り
- 94) *Yamagami M., Matsui Y., Hayakawa T., Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S.: Plug-plug kinetic capillary electrophoresis for in-capillary exoglycosidase digestion as a profiling tool for the analysis of glycoprotein glycans. *J. Chromatogr. A*, 1496 : 157-162 (2017) 査読有り
- 95) *Maegawa T., Nogata M., Honda T., Nakamura A., Miki Y.: 2-Arylquinoline synthesis from Cbz-protected 2-aminochalcone mediated by BF₃·Et₂O. *Heterocycles*. 95, 608-614 (2017) 査読有り
- 96) Ogata F., Nagai N., Kawasaki N.: Adsorption capability of cationic dyes (methylene blue and crystal violet) onto poly-γ-glutamic acid, *Chem. Pharm. Bull.* 65(3), 268-275 (2017) 査読有り
- 97) Ogata F., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Granulation of cobalt-containing nickel hydroxide with polyethylene terephthalate and its phosphate ion adsorption capability, *J. Water. Environ. Technol.* 15(1), 22-34 (2017) 査読有り
- 98) Ogata F., Ueta E., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Adsorption of phosphate ions from an aqueous solution by calcined nickel-cobalt binary hydroxide, *Water Sci. Technol.* 75(1), 94-105 (2017) 査読有り
- 99) Ninomiya K., Chaipech S., Kunikata Y., Yagi R., Pongpiriyadacha Y., Muraoka O., Morikawa T.: Quantitative determination of stilbenoids and dihydroisocoumarins in *Shorea roxburghii* and evaluation of their hepatoprotective activity. *Int. J. Mol. Sci.*, 18, 451 (2017) 査読有り
- 100) *Nagatomo Y., Hashimoto S., Kishimoto Y., Hayakawa T., Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S.: Online cleanup liquid chromatography for the analysis of glycoprotein-derived oligosaccharides labeled with 7-amino-4-methylcoumarin. *Chromatography*, 38, 23-30 (2017) 査読有り
- 101) Okada M., Yamamoto A., Aizawa SI., Taga A., Terashima H., Kodama S.: HPLC Separation of Sulforaphane Enantiomers in Broccoli and Its Sprouts by Transformation into Diastereoisomers Using Derivatization with (S)-Leucine. *J Agric Food Chem.* 65, 244-250 (2017) 査読有り
- 102) *Tsutsui N., Tanabe G., Ikeda N., Okamura S., Ogawa M., Miyazaki K., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 4: Role of acyl side chains on d-mannose. *Eur J Med Chem*, 121: 250-271(2016) 査読有り
- 103) *杉浦麗子: RNA とエピジェネティクス研究の最前線と疾患治療・創薬の可能性 序文. *日本薬理学雑誌*, 147(6): 339 (2016) 査読なし
- 104) *佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子: シグナル伝達拠点としての RNA 顆粒の役割～RNA 顆粒によるシグナル伝達分子の空間的制御～. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 340-345 (2016) 査読なし
- 105) *佐藤亮介: シグナル伝達が制御する翻訳開始機構. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 368-369 (2016) 査読なし
- 106) *萩原加奈子: RNA たちの井戸端会議は何をもたらすのか. *日本薬理学雑誌*. 147(6): 370 (2016) 査読なし
- 107) *Ohno H., Minamiguchi D., Nakamura S., Shu K., Okazaki S., Honda M., Misu R., Moriwaki H., Nakanishi S., Oishi S., Kinoshita T., Nakanishi I., Fujii N.: Structure-activity relationship study of 4-(thiazol-5-yl)benzoic acid derivatives as potent protein kinase CK2 inhibitors. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 1136-1141.(2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 108) *Tanabe G., Xie W., Balakishan G., F. A. Amer M., Tsutsui N., Takemura H., Nakamura S., Akaki J., Ninomiya K., Morikawa T., Nakanishi I., Muraoka O.: Hydrophobic substituents increase the potency of salacinol, a potent α -glucosidase inhibitor from Ayurvedic traditional medicine 'Salacia'. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 3705–3715.(2016) 査読有り
- 109) *Kaneko H., Nakamura S., Kawashita N.: Practical use of compound-target interaction in chemistry and drug discovery ~A chemoinformatics approach~. *Yakugaku Zasshi.* 136, 95–96.(2016) 査読有り
- 110) *中村真也: 相同性の高いタンパク質に結合する同一化合物の結合様式差の要因検討、日本化学会情報化学部会誌, 34, 17–20.(2016) 査読有り
- 111)*Thanee M., Loilome W., Techasen A., Sugihara E., Okazaki S., Abe S., Ueda S., Masuko T., Namwat N., Khuntikeo N., Titapum A., Pairojkul C., Saya H., Yongvanit P. : CD44variant-dependent redox status regulation in liver fluke-associated cholangiocarcinoma: a target for CCA treatment. *Cancer Science* 107, 991-1000 (2016) 査読有り
- 112)*Tsuchihashi K., Okazaki S., Ohmura M., Sampetean O., Onishi N., Wakimoto H., Yoshikawa M., Seishima R., Iwasaki Y., Morikawa T., Abe S., Takao A., Shimizu M., Masuko T., Nagane M., Furnari F., Akiyama T., Suematsu M., Baba E., Akashi K., Saya H., Nagano O. : The EGF receptors promotes the malignant potential of glioma by regulating amino acid transporter system xc (-). *Cancer Res.* 76, 2954-63.(2016) 査読有り
- 113) *Okazaki S., Nakatani F., Masuko K., Tsuchihashi K., Ueda S., Masuko T., Saya H., Nagano O. : Development of an ErbB4 monoclonal antibody that blocks neuregulin-1-induced ErbB4 activation in cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 470(1), 239-44. (2016) 査読有り
- 114) *Kitagawa N., Morikawa T., Motai C., Ninomiya K., Okugawa S., Nishida A., Yoshikawa M., Muraoka O. : The antiproliferative effect of chakasaponins I and II, floratheasaponin A, and epigallocatechin 3-O-gallate isolated from *Camella sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. *Int. J. Mol. Sci.*, 17, 1979 (2016) 査読有り
- 115) *Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Kamei I., Katsuyama Y., Imagawa T., Chipech S., Muraoka O., Morikawa T. : Melanogenesis inhibitory activity of a 7-O-9'-linked neolignan from *Alpinia galanga* fruit. *Bioorg. Med. Chem.* 24, 6215-6224 (2016) 査読有り
- 116) *Moriyama H., Moriyama M., Ninomiya K., Morikawa T., Hayakawa T. : Inhibitory effects of oligostilbenoids from the bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for novel topical anticancer candidates. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1675-1682 (2016) 査読有り
- 117) *Morikawa T., Hachiman I., Matsuo K., Nishida E., Ninomiya K., Hayakawa T., Yoshie O., Muraoka O., Nakayama T. : Neolignans from the arils of *Myristica fragrans* as potent antagonists of CC chemokine receptor 3. *J. Nat. Prod.* 79, 2005-2013 (2016) 査読有り
- 118) Kitagawa N., Ninomiya K., Okugawa S., Motai C., Nakanishi Y., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T. : Quantitative determination of principal alkaloid and flavonoid constituents in wintersweet, the flower buds of *Chimonanthus praecox*. *Nat. Prod. Commun.* 11, 953-856 (2016) 査読有り
- 119) Morikawa T., Kitagawa N., Tanabe G., Ninomiya K., Okugawa S., Motai C., Kamei I., Yoshikawa M., Lee I-J., Muraoka O. : Quantitative determination of alkaloids in lotus flower (flower buds of *Nelumbo nucifera*) and their melanogenesis inhibitory activity. *Molecules* 21, 930

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

(2016) 査読有り

- 120) *Matsuda H., Nakamura S., Morikawa T., Muraoka O., Yoshikawa M.: New biofunctional effects of the flower buds of *Camellia sinensis* and its bioactive acylated oleanane-type triterpene oligoglycosides. *J. Nat. Med.* 70, 689-701 (2016) Review
- 121) *Ninomiya K., Motai C., Nishida E., Kitagawa N., Yoshihara K., Hayakawa T., Muraoka O., Li X., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.: Acylated oleanane-type triterpene saponins from the flowers of *Bellis perennis* show anti-proliferative activities against human digestive tract carcinoma cell lines. *J. Nat. Med.* 70, 435-451 (2016) 査読有り
- 122) *Ninomiya K., Shibatani K., Sueyoshi M., Chaipech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Aromatase inhibitory activity of geranylated coumarins, mameasins C and D, isolated from the flowers of *Mammea siamensis*. *Chem. Pharm. Bull.* 64, 880-885 (2016) 査読有り
- 123) *Matsuo K., Koizumi K., Fujita M., Morikawa T., Jo M., Shibahara N., Saiki I., Yoshie O., Nakayama T.: Efficient use of a crude drug/herb library reveals Ephedra Herb as a specific antagonist for TH2-specific chemokine receptors CCR3, CCR4, and CCR8. *Front. Cell Dev. Biol.* 4, 54 (2016) 査読有り
- 124) Ninomiya K., Miyazawa S., Ozeki K., Matsuo N., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T.: Hepatoprotective limonoids from andiroba (*Carapa guianensis*). *Int. J. Mol. Sci.* 17, 591 (2016) 査読有り
- 125) 小林正和、赤木淳二、山口康代、山崎寛生、森川敏生、二宮清文、吉川雅之、村岡 修: サラシアエキス未配合食品の長期摂取時および過剰摂取時の安全生の検討 - プラセボ対照二重盲検比較試験-. *Jpn. Pharmacol. Ther.* 44, 399-408 (2016) 査読有り
- 126) Ninomiya K., Matsumoto T., Chaipech S., Miyake S., Katsuyama Y., Tsuboyama A., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Simultaneous quantitative analysis of 12 methoxyflavones with melanogenesis inhibitory activity from the rhizomes of *Kaempferia parviflora*. *J. Nat. Med.* 70, 179-189 (2016) 査読有り
- 127) Morikawa T., Ninomiya K., Kuramoto H., Kamei I., Yoshikawa M., Muraoka O.: Phenylethanoid and phenylpropanoid glycosides with melanogenesis inhibitory activity from the flowers of *Narcissus tazetta* var. *chinensis*. *J. Nat. Med.* 70, 89-101 (2016) 査読有り
- 128) *Takeda T., Tsubaki M., Sakamoto K., Ichimura E., Enomoto A., Suzuki Y., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Matsuda H., Satou T., Nishida S.: Mangiferin, a novel nuclear factor kappa B-inducing kinase inhibitor, suppresses metastasis and tumor growth in a mouse metastatic melanoma model. *Toxicol Appl Pharmacol.*, 306, 105-112 (2016) 査読有り
- 129) *Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Kawamura A., Isoyama S., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Matsuda H., Satou T., Nishida S.: Mangiferin enhances the sensitivity of human multiple myeloma cells to anticancer drugs through suppression of the nuclear factor kappa B pathway. *Int J Oncol.*, 48, 2704-2712 (2016) 査読有り
- 130) *Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Yamagishi M., Iida M., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Satou T., Nishida S.: Mangiferin induces apoptosis in multiple myeloma cell lines by suppressing the activation of nuclear factor kappa B-inducing kinase. *Chem Biol Interact.*, 251, 26-33 (2016) 査読有り
- 131) *Takeda Y., Hayashi Y., Utamura N., Takamoto C., Kinoshita M., Yamamoto S., Hayakawa T.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Suzuki S.: Capillary electrochromatography using monoamine- and triamine-bonded silica nanoparticles as pseudostationary phases. *J. Chromatogr. A*, 1427, 170–176 (2016) 査読有り
- 132) *T Tong KI., Ota K., Komuro A., Ueda T., Ito A., Koch AC., Okada H.: Attenuated DNA damage repair delays therapy-related myeloid neoplasms in a mouse model. *Cell Death and Disease*. 7(10):e240 (2016) 査読有り
- 133) *Fujita Y., Kimura M., Sato H., Takata T., Ono N., Nishio K.: Characterization of the cytotoxic activity of [2]rotaxane (TRO-A0001), a novel supramolecular compound, in cancer cells. *Arch Pharm Res*, 39(6), 825-32 (2016) 査読有り
- 134) *Tsutsui N., Tanabe G., Morita N., Okayama Y., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 3: Role of the length of alditol side chain. *Bioorg Med Chem*, 23(13): 3761-3773 (2015) 査読有り
- 135) Kita A., Higa M., Doi A., Satoh R., Sugiura R.: Imp2, the PSTPIP homolog in fission yeast, affects sensitivity to the immunosuppressant FK506 and membrane trafficking in fission yeast. *Biochem Biophys Res Commun*, 457(3): 273-279 (2015) 査読有り
- 136) *Higa M., Kita A., Hagihara K., Kitai Y., Doi A., Nagasoko R., Satoh R., Sugiura R.: Spatial control of calcineurin in response to heat shock in fission yeast. *Genes Cells*, 20(2): 95-107 (2015) 査読有り
- 137) *佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子: カルシニューリンの新たな制御機構と医療・創薬への応用－RNA 顆粒によるカルシニューリンの空間的制御－. *生化学* 87(5): 517-524 (2015) 査読なし
- 138) Nakanishi I., Murata K., Nagata N., Kurono M., Kinoshita T., Yasue M., Miyazaki T., Takei Y., Nakamura S., Sakurai A., Iwamoto N., Nishiwaki K., Nakaniwa T., Sekiguchi Y., Hirasawa A., Tsujimoto G., Kitaura K.: Identification of Protein Kinase CK2 Inhibitors using Solvent Dipole Ordering Virtual Screening. *Eur. J. Med. Chem.* 96, 396–404.(2015) 査読有り
- 139) *Kawashita N., Yamasaki H., Miyao T., Kawai K., Sakae Y., Ishikawa T., Mori K., Nakamura S., Kaneko H.: A Mini-review on Chemoinformatics Approaches for Drug Discovery. *J. Comput. Aided Chem.* 16, 15–29.(2015) 査読有り
- 140) Ogata F., Ueta E., Kawasaki N.: Adsorption capability of ionic dyes onto pristine and calcined activated clay, *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 14, 209-215 (2016) 査読有り
- 141) Ogata F., Kawasaki N.: Regeneration of waste edible oil by the use of virgin and calcined magnesium hydroxide as adsorbents, *J. Oleo Sci.* 65(11), 941-948 (2016) 査読有り
- 142) Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption capability of calcined gibbsite for V, Sr, and Mo from a complex solution system, *J. Water Environ. Technol.* 14(5), 362-371 (2016) 査読有り
- 143) Ogata F., Ueda A., Tanei S., Imai D., Kawasaki N.: Simultaneous removal of phosphate and nitrite ions from aqueous solutions using modified soybean waste, *J. Ind. Eng. Chem.* 35, 287-294 (2016) 査読有り
- 144) *Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y.: Increased expression of interleukin 18 in lenses of ovariectomized rat, *Biol. Pharm. Bull.* 39(1), 138-142 (2016) 査読有り
- 145) *Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Properties of a novel adsorbent produced by calcination of nickel hydroxide and its capability for phosphate ion adsorption, *J. Ind. Eng. Chem.* 34, 172-179 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 146) *Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption of As(III) from aqueous solutions by novel Fe-Mg type hydrotalcite, *Chem. Pharm. Bull.* 63(12), 1040-1046 (2015) 査読有り
- 147) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Kinetic and equilibrium investigation of cobalt(II), nickel(II), and tungsten(VI) adsorption on fly ash processed by hydrothermal treatment in an alkaline solution, *J. Water Environ. Technol.* 13(5), 359-370 (2015) 査読有り
- 148) Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y., Funakami Y., Okamoto N., Shimomura Y. *Pharm. Bull.* 38(7), 1063-1069 (2015) 査読有り
- 149) Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Adsorption of phosphate ion in aqueous solutions by calcined cobalt hydroxide at different temperatures, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 1570-1577 (2015) 査読有り
- 150) Ogata F., Imai D., Kawasaki N.: Cationic dye removal from aqueous solution by waste biomass produced from calcination treatment of rice bran, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 1476-1485 (2015) 査読有り
- 151) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Properties of novel adsorbent produced by hydrothermal treatment of waste fly ash in alkaline solution and its capability for adsorption of tungsten from aqueous solution, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 333-338 (2015) 査読有り
- 152) Ogata F., Imai D., Kawasaki N.: Adsorption of nitrate and nitrite ions onto carbonaceous material produced from soybean in a binary solution system, *J. Environ. Chem. Eng.* 3, 155-161(2015) 査読有り
- 153) *Yuan Q., Furukawa T., Okita K., Jin ZH., Aung W., Sugyo A., Nagatsu K., Endo H., Tsuji AB., Zhang MR., Masuko T., Inoue M., Fujibayashi Y., Saga T.: Immuno-PET imaging of HER3 in a model in which HER3 signaling plays a critical role. *PLoS ONE* 10(11), e0143076. (2015) 査読有り
- 154) Takechi M., Wada T., Yagi H., Masuko T., Kawabata A.: Oubain exert cytoprotection by diminishing the intracellular K (+) concentration increase caused by distinct stimuli in human leukemic cells. *J Pharm Pharmacol* 67(1), 126-32. (2015) 査読有り
- 155) *Morikawa T., Ninomiya K., Akaki J., Kakihara N., Kuramoto H., Matsumoto Y., Hayakawa T., Muraoka O., Wang L.-B., Wu L.-J., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H.: Dipeptidyl peptidase-IV inhibitory activity of dimeric dihydrochalcone glycosides from flowers of *Helichrysum arenarium*. *J. Nat. Med.* 69, 494-506 (2015) 査読有り 平成 28 年度 日本生薬学会論文賞 受賞、“Change the World, One Article at a Time: Must-Read Articles from 2015 (Springer 社)” に選出
- 156) *Tanabe G., Sugano Y., Shirato M., Sonoda N., Tsutsui N., Morikawa T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Muraoka O.: Total Synthesis of 4,5-Didehydroguadiscine: A Potent Melanogenesis Inhibitor from the Brazilian Medicinal Herb, *Hornschurchia oblique*. *J. Nat. Prod.* 78, 1536-1542 (2015) 査読有り
- 157) *Morikawa T., Ninomiya K., Takamori Y., Nishida E., Yasue M., Hayakawa T., Muraoka O., Li X., Nakamura S., Yoshikawa M., Matsuda H.: Oleanane-type triterpene saponins with collagen synthesis-promoting activity from the flowers of *Bellis perennis*. *Phytochemistry*, 116, 203-212 (2015) 査読有り
- 158) *Inoue T., Matsui Y., Kikuchi T., Yamada T., In Y., Muraoka O., Sakai C., Ninomiya K., Morikawa T., Tanaka R.: Carapanolides M-S from seeds of andiroba (*Carapa guianensis*.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Meliaceae) and triglyceride metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. *Tetrahedron*, 71, 2753-2760 (2015) 査読有り
- 159) *Morikawa T., Akaki J., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and Related Analogs: New Leads for Type 2 Diabetes Therapeutic Candidates from the Thai Traditional Natural Medicine *Salacia chinensis*. *Nutrients*, 7, 1480-1493 (2015) 査読有り
- 160) *Sakamoto A., Tanaka Y., Yamada T., Kikuchi T., Muraoka O., Ninomiya K., Morikawa T., Tanaka R.: Andirolides W-Y from the flower oil of andiroba (*Carapa guianensis*, Meliaceae). *Fitoterapia* 100, 81-87 (2015) 査読有り
- 161) *Hamamoto H., Umemoto H., Umemoto M., Ohta C., Fujita E., Nakamura A., Maegawa T., Miki Y.: Decarboxylative Halogenation of Indolecarboxylic Acids Using Hypervalent Iodine(III) Reagent and Its Application to the Synthesis of Polybromoindoles. *Heterocycle*. 91, 561-572 (2015)
- 162) *Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Itoh T., Imano M., Tanabe G., Muraoka O., Satou T., Nishida S.: Mangiferin suppresses CIA by suppressing the expression of TNF- α , IL-6, IL-1 β , and RANKL through inhibiting the activation of NF- κ B and ERK1/2. *Am J Transl Res.*, 7, 1371-1381 (2015) 査読有り
- 163) *Yamamoto S., Iwata T., Nishiwaki K., Kinoshita M., Suzuki S.: Synthesis of quaternary ammonium derivatives of cellulose as the coating reagents for capillary electrophoresis. *Chromatography*, 2015, 36, 93-98(2015) 査読有り
- 164) *Yamamoto S., Tamata Y., Sejima K., Kinoshita M., Suzuki S.: Chiral separation of D/L-aldoses by micellar electrokinetic chromatography using a chiral derivatization reagent and a phenylboronic acid complex. *Anal. Bioanal. Chem.* 407, 6201-6206 (2015) 査読有り
- 165) *Yamamoto S., Nagai E., Asada Y., Kinoshita M., Suzuki S.: A rapid and highly sensitive microchip electrophoresis of mono- and mucin-type oligosaccharides labeled with 7-amino-4-methylcoumarin. *Anal. Bioanal. Chem.*, 407, 1409-1503 (2015) 査読有り
- 166) *Yamamoto T., Uemura K., Moriyama K., Mitamura K., Taga A.: Inhibitory effect of maple syrup on cell growth and invasion of human colorectal cancer cells. *Oncol Rep.* 33,1579-1584 (2015) 査読有り
- 167) *Tsutsui N., Tanabe G., Gotoh G., Morita N., Nomura N., Kita A., Sugiura R., Muraoka O.: Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 2: Role of the alditol side chain stereochemistry. *Bioorg Med Chem*, 22(3): 945-959 (2014) 査読有り
- 168) *Takeuchi T., Oishi S., Kaneda M., Ohno H., Nakamura S., Nakanishi I., Yamane M., Sawada J., Asai A., Fujii N.: Kinesin spindle protein inhibitors with diaryl amine scaffolds: Crystal packing analysis for improved aqueous solubility. *ACS Med. Chem. Lett.* 5, 566-571.(2014) 査読有り
- 169) *Miyamoto K., Ishikawa F., Nakamura S., Hayashi Y., Nakanishi I., Takeya H.: A 7-dimethylallyl tryptophan synthase from a fungal *Neosartorya* sp.: Biochemical characterization and structural insight into the regioselective prenylation. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 2517-2528.(2014) 査読有り
- 170) *Takeuchi T., Oishi S., Kaneda M., Misu R., Ohno H., Sawada J., Asai A., Nakamura S., Nakanishi I., Fujii N.: Optimization of diaryl amine derivatives as kinesin spindle protein inhibitors. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 3171-3179.(2014) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 171) *Dmitri G. Fedorov, Asada N., Nakanishi I., Kitaura K.: The use of many-body expansions and geometry optimizations in fragment-based methods. *Acc. Chem. Res.* 47, 2846-2856.(2014) 査読有り
- 172) Ogata F., Imai D., Toda M., Otani M., Kawasaki N.: Adsorption of phosphate ions from aqueous solution of nickel hydroxides calcined at different temperatures, *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 12, 404-409 (2014) 査読有り
- 173) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Adsorption of tungsten onto zeolite fly ash produced by hydrothermally treating fly ash in alkaline solution, *Chem. Pharm. Bull.* 62(9), 892-897 (2014) 査読有り
- 174) Ogata F., Ueda A., Kawasaki N.: Removal of phosphate ions by PGAF (Poly- γ -glutamic acid and flocculants), *J. Water Environ. Technol.* 12(5), 447-458 (2014) 査読有り
- 175) Ogata F., Ueda A., Kawasaki N.: Adsorption of orthophosphoric, pyrophosphoric, and tripolyphosphoric acids from aqueous solutions by calcined gibbsite, *Chem. Pharm. Bull.* 62(8), 799-805 (2014) 査読有り
- 176) Ogata F., Iwata Y., Kawasaki N.: Zeolite X produced by hydrothermal treatment of fly ash in an alkaline solution, *e-J. Surf. Sci. Nanotech.* 12, 23-25 (2014) 査読有り
- 177) Ogata F., Kawasaki N.: Adsorption of Au(III) from aqueous solution by calcined gibbsite, *J. Chem. Eng. Data* 59, 412-418 (2014) 査読有り
- 178) *Saito M., Kondo M., Oshima M., Degichi K., Hayashi H., Inoue K., Masuko T., Itoh K.: Identification of anti-CD98 antibody mimotopes for inducing antibodies with antitumor activity by mimotope immunization. *Cancer Sci*, 105(4), 396-401.(2014) 査読有り
- 179) *Niwa S., Hayasi H., Yagi H., Masuko T. :Development of anti-CD44v antibodies towards analytical and practical study of cancer stem cell. *Medical Science Digest* 4, 417-421. (2014) 査読有り
- 180) Akaki J., Morikawa T., Miyake S., Ninomiya K., Okada M., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Evaluation of *Salacia* species as anti-diabetic natural resources based on quantitative analysis of eight sulphonium constituents: a new class of α -glucosidase inhibitors. *Phytochem. Anal.* 25, 544-550 (2014) 査読有り
- 181) Nakamura S., Xu F., Ninomiya K., Nakashima S., Oda Y., Morikawa T., Muraoka O., Yoshikawa M., Matsuda H.: Chemical structures and hepatoprotective effects of constituents from *Cassia auriculata* leaves. *Chem. Pharm. Bull.* 62, 1026-1031 (2014) 査読有り
- 182) Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Fujikura S., Pan Y., Yuan D., Yoshikawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.: Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from *Cistanche tubulosa*, improve glucose tolerance in mice. *J. Nat. Med.* 68, 561-566 (2014) 査読有り
- 183) Morikawa T., Nakanishi Y., Ninomiya K., Matsuda H., Nakashima S., Miki H., Miyashita Y., Yoshikawa M., Hayakawa T., Muraoka O.: Dimeric pyrrolidinoindoline-type alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in flower buds of *Chimonanthus praecox*. *J. Nat. Med.* 68, 539-549 (2014) 査読有り
- 184) Morikawa T., Ninomiya K., Imura K., Yamaguchi T., Akagi Y., Yoshikawa M., Hayakawa T., Muraoka O.: Hepatoprotective triterpenes from traditional Tibetan medicine *Potentilla anserina*. *Phytochemistry* 102, 169-181 (2014) 査読有り
- 185) *Yagi Y., Kakehi K., Hayakawa T., Suzuki S.: Application of microchip electrophoresis; sodium

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

dodecyl sulfate for the evaluation of change of degradation species of therapeutic antibodies in stability testing. *Anal. Sci.*, 30, 483-488 (2014) 査読有り

- 186) *Suzuki S.: Highly sensitive methods using liquid chromatography and capillary electrophoresis for quantitative analysis of glycoprotein glycans. *Chromatography*, 35, 1-22 (2014) 査読有り
- 187) Michiyama T., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T., Ninomiya K., Muraoka O., Chaipech S., Morikawa T.: Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014), *Polyphenol Communications*, 533-534 (2014) 査読なし
- 188) *Nagasawa I., Kaneko A., Suzuki T., Nishio K., Kinoshita K., Shiro M., Koyama K.: Potential anti-angiogenesis effects of p-terphenyl compounds from Polyozellus multiplex. *J Nat Prod*, 77(4), 963-8 (2014) 査読有り

研究課題(B): 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析 (計158報)

- 189) *Ueda S, Hayashi H, Miyamoto T, Abe S, Hirai K, Matsukura K, Yagi H, Hara Y, Yoshida K, Okazaki S, Tamura M, Agatsuma T, Niwa S, Masuko K, Masuko T. : Anti-tumor effects of mAb against L-type amino-acid transporter 1 (LAT1) bound to human and monkey LAT1 with dual avidity modes. *Cancer Sci*, 110: 674-85 (2019) 査読有り
- 190) Ito M, Komai K, Omata-Mise S, Izuka-Koga M, Noguchi Y, Kondo T, Sakai R, Matsuo K, Nakayama T, Yoshie O, Nakatsukasa H, Chikuma S, Shichita T, Yoshimura A. Brain regulatory T cells suppress astrogliosis and potentiate neurological recovery. *Nature*. 565(7738), 246-250 (2019) 査読有り
- 191) *Matsuo K, Hatanaka S, Kimura Y, Hara Y, Nishiwaki K, Quan YS, Kamiyama F, Oiso N, Kawada A, Kabashima K, Nakayama T. : A CCR4 antagonist ameliorated atopic dermatitis-like skin lesions induced by dibutyl phthalate and a hydrogel patch containing ovalbumin. *Biomed. Pharmacother.* 109, 1437-1444 (2019) 査読有り
- 192) *Tsubota M, Uebo K, Miki K, Sekiguchi F, Ishigami A, Kawabata A. : Dietary ascorbic acid restriction in GNL/SMP30-knockout mice unveils the role of ascorbic acid in regulation of somatic and visceral pain sensitivity : *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 511, 705-710 (2019) 査読有り
- 193) *Matsuda S, Nishikawa H, Fukatsu A, Kurokawa Y, Tsubota M, Sekiguchi F, Tokuyama S, Kawabata A. : NNC 55-0396, a T-type calcium channel blocker, protects against the brain injury induced by middle cerebral artery occlusion and reperfusion in mice. : *J. Pharmacol. Sci.*, in press 査読有り
- 194) *Miyamoto T, Fujitani M, Fukuyama H, Hatanaka S, Koizumi Y, Kawabata A. : The C-Reactive Protein/Albumin Ratio is Useful for Predicting Short-Term Survival in Cancer and Noncancer Patients : *J. Palliat. Med.*, 22(5):532-537.(2019) 査読有り
- 195) *Tomita S, Sekiguchi F, Deguchi T, Miyazaki T, Ikeda Y, Tsubota M, Yoshida S, Nguyen HD, Okada T, Toyooka N, Kawabata A. : Critical role of Ca_v3.2 T-type calcium channels in the peripheral neuropathy induced by bortezomib, a proteasome-inhibiting chemotherapeutic agent, in mice : *Toxicology*, 413, 33-39 (2019) 査読有り
- 196) Tanaka S, Sekiguchi M, Yamamoto A, Aizawa SI, Sato K, Taga A, Terashima H, Ishihara Y, Kodama S : Separation of Synephrine enantiomers in Citrus Fruits by a Reversed Phase HPLC

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- After Chiral Precolumn Derivatization : *Anal Sci.*, in press (2018) 査読有り
- 197)Moriya H, Tanaka S, Iida Y, Kitagawa S, Aizawa SI, Taga A, Terashima H, Yamamoto A, Kodama S : Chiral separation of isoxanthohumol and 8-prenylnaringenin in beer, hop pellets and hops by HPLC with chiral columns : *Biomed Chromatogr.*, 32, e4289 (2018) 査読有り
- 198)Yamamoto T, Otake H, Hiramatsu N, Yamamoto N, Taga A, Nagai N : A Proteomic Approach for Understanding the Mechanisms of Delayed Corneal Wound Healing in Diabetic Keratopathy Using Diabetic Model Rat. *Int J Mol Sci.*, 19, 3635 (2018) 査読有り
- 199)Matsumoto T, Yamazaki W, Jo A, Ogawa S, Mitamura K, Ikegawa S, Higashi T : A Method for Quantification of Tetrahydroglucocorticoid Glucuronides in Human Urine by LC/MS/MS with Isotope-coded Derivatization : *Anal Sci.*, 34, 1003-1009 (2018) 査読有り
- 200)Yamamoto T, Nakanishi S, Mitamura K, Taga A : Shotgun label-free proteomic analysis for identification of proteins in HaCaT human skin keratinocytes regulated by the administration of collagen from soft-shelled turtle : *J Biomed Mater Res PartB Appl Biomater.*, 106(6), 2403-2413 (2018) 査読有り
- 201)Yamamoto T, Nakanishi S, Mitamura K, Taga A : Collagen peptides from soft-shelled turtle induce calpain-1 expression and regulate inflammatory cytokine expression in HaCaT human skin keratinocytes : *Int J Mol Med.*, 42, 1168-1180 (2018) 査読有り
- 202)*Ishino K, Kudo M, Peng WX, Kure S, Kawahara K, Teduka K, Kawamoto Y, Kitamura T, Fujii T, Yamamoto T, Wada R, Naito Z : 2-Deoxy-D-glucose increases GFAT1 phosphorylation resulting in endoplasmic reticulum-related apoptosis via disruption of protein N-glycosylation in pancreatic cancer cells : *Biochem Biophys Res Commun.*, 501, 668-673 (2018) 査読有り
- 203)*Matsuo K, Kitahata K, Kawabata F, Kamei M, Hara Y, Takamura S, Oiso N, Kawada A, Yoshie O, Nakayama T : A highly active form of lymphotactin/XCL1 functions as an effective adjuvant to recruit cross-presenting dendritic cells and induce effector and memory CD8+ T cell responses. *Front. Immunol.* 9, 2775 (2018) 査読有り
- 204)*Kitahata K, Matsuo K, Hara Y, Naganuma T Oiso N, Kawada A, Nakayama T : Ascorbic acid derivative DDH-1 ameliorates psoriasis-like skin lesions in mice by suppressing inflammatory cytokine expression. *J. Pharmacol. Sci.* 138(4), 284-288 (2018) 査読有り
- 205)*Matsuo K, Nagakubo D, Komori Y, Fujisato S, Takeda N, Kitamatsu M, Nishiwaki K, Quan YS, Kamiyama F, Oiso N, Kawada A, Yoshie O, Nakayama T : CCR4 is critically involved in allergic skin inflammation of BALB/c mice. *J Invest Dermatol.* 138(8), 1764-1773 (2018) 査読有り
- 206)*Yamamoto S, Matsuo K, Nagakubo D, Higashiyama S, Nishiwaki K, Oiso N, Kawada A, Yoshie O, Nakayama T : A CCR4 antagonist enhances DC activation and homing to the regional lymph node and shows potent vaccine adjuvant activity through the inhibition of regulatory T-cell recruitment. *J Pharmacol Sci.* 136(3), 165-171 (2018) 査読有り
- 207)*Matsuo K, Nagakubo D, Yamamoto S, Shigeta A, Tomida S, Fujita M, Hirata T, Tsunoda I, Nakayama T, Yoshie O. : CCL28-deficient mice have reduced IgA antibody-secreting cells and an altered microbiota in the colon. *J Immunol.* 200(2), 800-809 (2018) 査読有り
- 208)*Sekiguchi F, Domoto R, Nakashima K, Yamasoba D, Yamanishi H, Tsubota M, Wake H, Nishibori M, Kawabata A : Paclitaxel-induced HMGB1 release from macrophages and its implication for peripheral neuropathy in mice: Evidence for a neuroimmune crosstalk : *Neuropharmacology*, 141, 201-213 (2018) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 209)*Du Nguyen H, Okada T, Kitamura S, Yamaoka S, Horaguchi Y, Kasanami Y, Sekiguchi F, Tsubota M, Yoshida S, Nishikawa H, Kawabata A, Toyooka N. : Design and synthesis of novel anti-hyperalgesic agents based on 6-prenylnaringenin as the T-type calcium channel blockers : *Bioorg. Med. Chem.*, 26(15), 4410-4427 (2018) 査読有り
- 210)*Sekiguchi F, Fujita T, Deguchi T, Yamaoka S, Tomochika K, Tsubota M, Ono S, Horaguchi Y, Ichii M, Ichikawa M, Ueno Y, Koike N, Tanino T, Nguyen HD, Okada T, Nishikawa H, Yoshida S, Ohkubo T, Toyooka N, Murata K, Matsuda H, Kawabata A : Blockade of T-type calcium channels by 6-prenylnaringenin, a hop component, alleviates neuropathic and visceral pain in mice : *Neuropharmacology*, 138, 232-244 (2018)査読有り
- 211)*Tsubota M, Okawa Y, Irie Y, Maeda M, Ozaki T, Sekiguchi F, Ishikura H, Kawabata A : Involvement of the cystathionine- γ -lyase/Ca_v3.2 pathway in substance P-induced bladder pain in the mouse, a model for nonulcerative bladder pain syndrome : *Neuropharmacology*, 133, 254-263 (2018) 査読有り
- 212)*Sekiguchi F, Tsubota M, Kawabata A : Involvement of voltage-gated calcium channels in inflammation and inflammatory pain. *Biol. Pharm. Bull.*, 41, 1127-1134 (2018) 査読有り、総説
- 213)*Ozaki T, Tsubota M, Sekiguchi F, Kawabata A : Involvement of NF- κ B in the upregulation of cystathionine- γ -lyase, a hydrogen sulfide-forming enzyme, and bladder pain accompanying cystitis in mice : *Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.*, 45(4), 355-361 (2018) 査読有り
- 214)*Tsubota M, Ozaki T, Hayashi Y, Okawa Y, Fujimura A, Sekiguchi F, Nishikawa H, Kawabata A. : Prostanoid-dependent bladder pain caused by proteinase-activated receptor-2 activation in mice: Involvement of TRPV1 and T-type Ca²⁺ channels : *J. Pharmacol. Sci.*, 136, 46-49. (2018) 査読有り
- 215)*Tsujita R, Tsubota M, Hayashi Y, Saeki H, Sekiguchi F, Kawabata A. : Role of Thrombin in Soluble Thrombomodulin-Induced Suppression of Peripheral HMGB1-Mediated Allodynia in Mice : *J. Neuroimmune Pharmacol.*, 13, 179-188 (2018) 査読有り
- 216)*Hayashi Y, Tsujita R, Tsubota M, Saeki H, Sekiguchi F, Honda G, Kawabata A. : Human soluble thrombomodulin-induced blockade of peripheral HMGB1-dependent allodynia in mice requires both the lectin-like and EGF-like domains : *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 495, 634-638. (2018) 査読有り
- 217)*Ozaki T, Matsuo Ka J, Tsubota M, Tomita S, Sekiguchi F, Minami T, Kawabata A. : Zinc deficiency promotes cystitis-related bladder pain by enhancing function and expression of Ca_v3.2 in mice. : *Toxicology*, 393, 102-112. (2018) 査読有り
- 218)*Kagawa N, Nishimura K, Abe S, Masuko T, Toyota M. Concise approach to mono- and disubstituted luotonin analogs and their cytotoxicity test. *Heterocycles*, 97: 514-522 (2018) 査読あり
- 219)*Hara Y, Torii R, Ueda S, Kurimoto E, Ueda R, Okura H, Tatano Y, Yagi H, Ohno Y, Tanaka T, Masuko K, Masuko T. : Inhibition of tumor formation and metastasis by a monoclonal antibody against lymphatic vessel endothelial hyaluronan receptor 1. *Cancer Sci*, 109: 3171-82 (2018) 査読有り
- 220)*Kamiya T, Masuko T, Borroto-Escuela DO, Okado H, Nakata H. : A transmembrane single-polypeptide-chain (sc) linker to connect the two G-protein-coupled receptors in tandem and the design for an in vivo analysis of their allosteric receptor-receptor interactions. In: Polypeptide -

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- The New Insight into Drug Discovery and Development (ISBN: 978-953-51-5694-9; Usman Sumo Friend Tambunan, editor). *InTech - open science*, (2018) 査読有り
- 221)*Piulats JM, Kondo J, Endo H1, Ono H, Hagihara T, Okuyama H, Nishizawa Y, Tomita Y, Ohue M, Okita K, Oyama H, Bono H, Masuko T, Inoue M. : Promotion of malignant phenotype after disruption of the three-dimensional structure of cultured spheroids from colorectal cancer. *Oncotarget*, 9: 15968-83 (2018) 査読有り
- 222)*Weng L, Han Y-P, Enomoto A, Kitaura Y, Nagamori S, Kanai Y, Asai N, An J, Takagishi M, Asai M, Mii S, Masuko T, Shimomura Y, Takahashi M. : Negative regulation of amino acid signaling by MAPK-regulated 4F2hc/Girdin complex. *PLoS Biol*, 16:e2005090(2018) 査読有り
- 223)*Kang C, Saso K, Ota K, Kawazu M, Ueda T, Okada H : JMJD2B/KDM4B inactivation in adipose tissues accelerates obesity and systemic metabolic abnormalities. *Genes Cells* 23(9):767-777 (2018) 査読有り
- 224)*Kato T, Hagiyama M., Ito A: Renal ADAM10 and 17: their physiological and medical meanings. *Front Cell Dev Biol*, doi:10.3389/fcell.2018.00153 (2018). 査読有り
- 225)*Kimura R., Yoneshige A., Hagiyama M., Otani T., Inoue T., Shiraishi N., Yanagihara K., Wakayama T., Ito A: Expression of cell adhesion molecule 1 in gastric neck and base glandular cells: possible involvement in peritoneal dissemination of signet ring cells. *Life Sci*, 213:206-213 (2018). 査読有り
- 226)*Ri A., Hagiyama M., Inoue T., Takashima Y., Yoneshige A., Kimura R., Murakami Y., Ito A: Progression of pulmonary emphysema and continued increase in ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1 after cessation of cigarette smoke exposure in mice. *Front Cell Dev Biol*, 28; 6:52, doi:10.3389/fcell.2018.00052 (2018). 査読有り
- 227)*Ueno S., Yoneshige A., Koriyama Y., Hagiyama M., Shimomura Y., Ito A: Early gene expression profile in retinal ganglion cell layer after optic nerve crush in mice. *Invest Ophthalmol Vis Sci*, 59:370-380 (2018). 査読有り
- 228)Tanaka S, Dohi T, Aizawa SI, Kemmei T, Terashima H, Taga A, Yamamoto A, Kodama S. : Simultaneous determination of alcohols including diols and triols by HPLC with ultraviolet detection based on the formation of a copper(II) complex : J Sep Sci. 40, 4168-4175 (2017) 査読有り
- 229)Nagai N, Yamamoto T, Mitamura K, Taga A : Proteomic profile of the lens in a streptozotocin-induced diabetic rat model using shotgun proteomics : Biomed Rep. 7, 445-450 (2017) 査読有り
- 230)*Tsubota M, Miyamoto T, Hiruma S, Saeki H, Miyazaki T, Sekiguchi F, Funakami Y, Kawabata A. : Repeated Cold Stress Reduces Cyclophosphamide-Induced Cystitis/Bladder Pain and Macrophage Activity in Mice : Pharmacology, 99, 286-290.(2017) 査読有り
- 231)*Terada Y, Tsubota M, Sugo H, Wakitani K, Sekiguchi F, Wada K, Takada M, Oita A, Kawabata A. : Tacrolimus Triggers Transient Receptor Potential Vanilloid-1-Dependent Relapse of Pancreatitis-Related Pain in Mice : Pharmacology, 99, 281-285 (2017) 査読有り
- 232)*Miyamoto T, Funakami Y, Kawashita E, Tomita S, Nomura A, Sugimoto N, Saeki H, Miyazaki T, Tsubota M, Ichida S, Kawabata A. : Enhanced Hyperthermic Responses to Lipopolysaccharide in Mice Exposed to Repeated Cold Stress : Pharmacology, 99, 172-178. (2017) 査読有り
- 233)*Miyamoto T, Funakami Y, Kawashita E, Nomura A, Sugimoto N, Saeki H, Tsubota M, Ichida S,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Kawabata A. : Repeated Cold Stress Enhances the Acute Restraint Stress-Induced Hyperthermia in Mice : *Biol. Pharm. Bull.*, 40, 11-16 (2017) 査読有り
- 234)*Irie Y, Tsubota M, Ishikura H, Sekiguchi F, Terada Y, Tsujiuchi T, Liu K, Nishibori M, Kawabata A. : Macrophage-derived HMGB1 as a Pain Mediator in the Early Stage of Acute Pancreatitis in Mice: Targeting RAGE and CXCL12/CXCR4 Axis. *J. Neuroimmune Pharmacol.*, 12, 693-707. (2017) 査読有り
- 235)*関口富美子、川畑篤史 : 硫化水素(H₂S)分子によるイオンチャネル機能制御と病態への関与 : *硫酸と工業*, 80 (5), 61-70 (2017) 査読なし、総説
- 236)*Fukami K, Asano E, Ueda M, Sekiguchi F, Yoshida S, Kawabata A : High glucose induces N-linked glycosylation-mediated functional upregulation and overexpression of Ca_v3.2 T-type calcium channels in neuroendocrine-like differentiated human prostate cancer cells : *J. Pharmacol. Sci.*, 133, 57-60 (2017) 査読有り
- 237)*Inoue T., Takemori K., Mizuguchi N., Kimura M., Chikugo T., Hagiwara M., Yoneshige A., Mori T., MaeNishio Kometani T., Itoh T., Satou T., Ito A: Heart-bound adiponectin, not serum adiponectin, inversely correlates with cardiac hypertrophy in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *Exp Physiol*, 102(11):1435-1447 (2017). 査読有り
- 238)*Takashima Y., Murakami T., Inoue T., Hagiwara M., Yoneshige A., Nishimura S., Akagi M., Ito A: Manifestation of osteoblastic phenotypes in the sarcomatous component of epithelial carcinoma and sarcomatoid carcinoma. *Tumor Biol*, 39:1010428317704365 (2017). 査読有り
- 239) Fukao A. and Fujiwara T. : The coupled- and uncoupled mechanisms by which trans-acting factors regulate mRNA stability and translation. *The Journal of Biochemistry*. 161(4), pp.309-314, Apr, (2017) 査読有り
- 240)*Moriyama H, Moriyama M, Ozawa T, Tsuruta D, Iguchi T, Tamada S, Nakatani T, Nakagawa K, Hayakawa T. : Notch Signaling Enhances Stemness by Regulating Metabolic Pathways Through Modifying p53, NF-kB, and HIF-1 α . *Stem Cells Dev*. 2018 Jul 1;27(13):935-947. 査読有り
- 241)*Satoh R., Matsumura Y., Tanaka A., Takada M., Ito Y., Hagihara K., Inari M., Kita A., Fukao A., Fujiwara T., Hirai S., Tani T., Sugiura R. : Spatial regulation of the KH domain RNA-binding protein Rnc1 mediated by a Crm1-independent nuclear export system in *Schizosaccharomyces pombe*. *Mol Microbiol*, 104(3):428-448 (2017) 査読有り
- 242) *Kawase A., Hashimoto R., Shibata M., Shimada H., Iwaki M. : Involvement of reactive metabolites of diclofenac in diclofenac-induced cytotoxicity in sandwich-cultured rat hepatocytes. *Int J Toxicol*, 36(3):260-267 (2017) 査読有り
- 243) *Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Sakai K., Itoh T., Imano M., Nakayama T., Nishio K., Satoh T., Nishida S. : Contributions of MET activation to BCR-ABL1 tyrosine kinase inhibitor resistance in chronic myeloid leukemia cells. *Oncotarget.*, 8(24):38717-38730 (2017). 査読有り
- 244)*Ota K., T Tong KI., Goto K., Tomida S., Komuro A., Wang Z., Nishio K., Okada H. : The H3K27 demethylase, Utx, regulates adipogenesis in a differentiateon stage-dependent manner. *PLOS ONE*, 12(4): e0176424 (2017) 査読有り
- 245) *Nishida S., Tsubaki M. : Exploration of Molecular Targets in the Development of New Therapeutics Aimed at Overcoming Multidrug Resistance. *Yakugaku Zasshi.*, 137, 145-149 (2017). 査読有り
- 246) *Tsubaki M., Fujiwara D., Takeda T., Kino T., Tomonari Y., Itoh T., Imano M., Satou T.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Sakaguchi K., Nishida S.: The sensitivity of head and neck carcinoma cells to statins is related to the expression of their Ras expression status, and statin-induced apoptosis is mediated via suppression of the Ras/ERK and Ras/mTOR pathways. *Clin Exp Pharmacol Physiol.*, 44, 222-234 (2017). 査読有り
- 247) *Fujiwara D., Mashimo K., Kimura K., Noda A., Taki K., Yoshibayashi H., Takeda T., Tsubaki M., Nishida S., Sakaguchi K.: Influence of Next-Day Administration of Pegfilgrastim after FEC100 Chemotherapy in Japanese with Breast Cancer on Neutrophil Count. *Gan To Kagaku Ryoho.*, 44, 149-152 (2017) 査読有り
- 248)*Tsubota M., Miyamoto T., Hiruma S., Saeki H., Miyazaki T., Sekiguchi F., Funakami Y., Kawabata A.: Repeated cold stress reduces cyclophosphamide-induced cystitis/bladder pain and macrophage activity in mice. *Pharmacology*, 99, 286-290 (2017) 査読有り
- 249)*坪田真帆、川畑篤史: トロンボモジュリンアルファの内臓痛治療への応用. *潰瘍*, 44,48-53 (2017). 査読無し
- 250) *Ikuta H., Kawase A., Iwaki M.: Stereoselective pharmacokinetics and chiral inversion of ibuprofen in adjuvant-induced arthritic rats. *Drug Metab Dispos*, 45, 316-324 (2017)査読有り
- 251)*Fukami K., Asano E., Ueda M., Sekiguchi F., Yoshida S., Kawabata A.: High glucose induces N-linked glycosylation-mediated functional upregulation and overexpression of Cav3.2 T-type calcium channels in neuroendocrine-like differentiated human prostate cancer cells. *J. Pharmacol. Sci.*, 133, 57-60 (2017). 査読有り
- 252)*Miyamoto T., Funakami Y., Kawashita E., Tomita S., Nomura A., Sugimoto N., Saeki H., Tsubota M., Ichida S., Kawabata A.: Enhanced hyperthermic responses to lipopolysaccharide in mice exposed to repeated cold stress. *Pharmacology*, 99, 172-178 (2017). 査読有り
- 253)*Miyamoto T., Funakami Y., Kawashita E., Nomura A., Sugimoto N., Saeki H., Tsubota M., Ichida S., Kawabata A.: Repeated cold stress enhances the acute restraint stress-induced hyperthermia in mice. *Biol. Pharm. Bull.*, 40, 1-6 (2017). 査読有り
- 254)*Terada Y., Tsubota M., Sugo H., Wakitani K., Sekiguchi F., Wada K., Takada M., Oita A., Kawabata A.: Tacrolimus triggers TRPV1-dependent relapse of pancreatitis-related pain in mice. *Pharmacology*, 99, 281-285 (2017). 査読有り
- 255)*Terada Y., Wada K., Matsuda S., Kuwahara T., Kawabata A., Takada M., Watanabe T., Nakajima S., Sato T., Seguchi O., Yanase M., Fukushima N., Nakatani T.: Circadian pharmacokinetics and limited sampling strategy of everolimus in heat transplant patients. *Int. J. Clin. Pharmacol. Ther.*, 55, 1-8 (2017). 査読有り
- 256) Aoyama T, Fukao A, Fujiwara T. : Translational regulation is mediated by the cross-talk between the miRNA pathway and RNA binding proteins. *Nihon Yakurigaku Zasshi.* 147(6), 346-350 (2016) 査読有り
- 257)*Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Ikeda C., Inutsuka N., Hagihara K., Matzno S., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R. : Skb5, an SH3 adaptor protein, regulates Pmk1 MAPK signaling by controlling the intracellular localization of the MAPKKK Mkh1. *J Cell Sci*, 129(16): 3189-3202 (2016) 査読有り
- 258)*Mukai H., Muramatsu A, Mashud R., Kubouchi K., Tsujimoto S., Hongu T., Kanaho Y., Tsubaki M., Nishida S., Shioi G., Danno S., Mehruba M., Satoh R., Sugiura R. : PKN3 is the major regulator of angiogenesis and tumor metastasis in mice. *Sci Rep*, 6:18979 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 259) *Kawase A., Yamamoto T., Egashira S., Iwaki M.: Stereoselective inhibition of methotrexate excretion by glucuronides of nonsteroidal anti-inflammatory drugs via multidrug resistance protein 2 and 4. *J Pharmacol Exp Ther*, 356, 366-374 (2016) 査読有り
- 260) * Kawase A., Tanaka H., Otori T., Matsuyama K., Iwaki M.: Effects of duration of phenytoin administration on mRNA expression of cytochrome P450 and P-glycoprotein in the liver and small intestine of rats. *Asian J Pharm Sci*, 11, 662-667 (2016)査読有り
- 261) *Kawase A., Handa A., Iwaki M.: Effects of high-cholesterol diet on pravastatin disposition in the perfused rat liver. *Eur J Drug Metab Pharmacokine*, (2016) 査読有り
- 262) *Otori T, Matzno S, Kawase A, Iwaki M, Kimachi T, Nishiwaki K, Figoni W, Tominaga R, Asahide M, Nishikata M, Ishii Y, Matsuyama K.: Development of hemiacetal esterified levofloxacin to prevent chelation with metal containing drugs. *J Pharm Pharmacol*, 68, 1527-1534 (2016) 査読有り
- 263) *Iwaki M, Niwa T, Bandoh S, Itoh M, Hirose H, Kawase A, Komura H.: Application of substrate depletion assay to evaluation of CYP isoforms responsible for stereoselective metabolism of carvedilol. *Drug Metab Pharmacokinet*, 31, 425-432 (2016). 査読有り
- 264) *Kawase A, Handa A, Iwaki M.: Effects of fasting on pravastatin disposition in perfused rat liver. *Int J Pharm Sci*, 8, 130-134 (2016). 査読有り
- 265) *Kawase A, Araki Y, Ueda Y, Nakazaki S, Iwaki M.: Impact of high-cholesterol diet on expression levels of niemann-pick C1-like 1 and other intestinal transporters in rats and mice. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet*, 41, 457-463 (2016). 査読有り
- 266) *Uraki M, Kawase A, Matsushima Y, Iwaki M.: Effects of dose, flow rate and bile acid on diclofenac disposition in the perfused rat liver. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet*, 41, 301-307 (2016). 査読有り
- 267) *Uraki M, Kawase A, Iwaki M.: Stereoselective hepatic disposition of ibuprofen in the perfused liver of rat with adjuvant-induced arthritis. *Xenobiotica*, 47(11):943-950 (2016). 査読有り
- 268) *Matsumura S, Murata K, Zaima N, Yoshioka Y, Morimoto M, Matsuda H, Iwaki M.: Inhibitory activities of sesame seed extract and its constituents against β -secretase. *Nat Prod Commun*, 11, 1671-1674 (2016). 査読有り
- 269) *Uraki M, Kawase A, Sayama H, Matsushima Y, Iwaki M.: Effects of adjuvant-induced inflammation on disposition of diclofenac and its metabolites in perfused rat liver. *J Pharm Sci*, 106(4):1175-1182 (2016). 査読有り
- 270) *Tsubaki M., Mashimo K., Takeda T., Kino T., Fujita A., Itoh T., Imano M., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S.: Statins inhibited the MIP-1 α expression via inhibition of Ras/ERK and Ras/Akt pathways in myeloma cells. *Biomed Pharmacother.*, 78, 23-29 (2016) 査読有り
- 271) *Tsubaki M., Takeda T., Yoshizumi M., Ueda E., Itoh T., Imano M., Satou T., Nishida S.: RANK-RANKL interactions are involved in cell adhesion-mediated drug resistance in multiple myeloma cell lines. *Tumour Biol.*, 37, 9099-9110 (2016) 査読有り
- 272)*Fukami K., Sekiguchi F., Kawabata A.: Hydrogen sulfide and T-type Ca²⁺ channels in pain processing, neuronal differentiation and neuroendocrine secretion. *Pharmacology*, 99, 107-114 (2016). 査読有り
- 273)*坪田真帆, 川畑篤史: 膝臓の疼痛における侵害受容体の関与と治療への展望。(特集:膝疾患の疼痛治療の up-to-date —疼痛の発生メカニズムから疾患別治療まで). *胆と膝*, 37, 1535-1539

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- (2016). 査読無し
- 274)*Nishida T., Tsubota M., Kawaishi Y., Yamanishi H., Kamitani N., Sekiguchi F., Ishikura H., Liu K., Nishibori M., Kawabata A.: Involvement of high mobility group box 1 in the development and maintenance of chemotherapy-induced peripheral neuropathy in rats. *Toxicology*, 365, 48-58 (2016). 査読有り
- 275)*Sekiguchi F., Kawara Y., Tsubota M., Kawakami E., Ozaki T., Kawaishi Y., Tomita S., Kanaoka D., Yoshida S., Ohkubo T., Kawabata A.: Therapeutic potential of RQ-00311651, a novel T-type Ca²⁺ channel blocker, in distinct rodent models for neuropathic and visceral pain. *Pain*, 157, 1655-1665 (2016). 査読有り
- 276)*Mitani K., Sekiguchi F., Maeda T., Tanaka Y., Kawabata A.:The prostaglandin E2/EP4 receptor/cyclic AMP/T-type Ca²⁺ channel pathway mediates neuritogenesis in sensory neuron-like ND7/23 cells. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 177-180 (2016). 査読有り
- 277)*Sekiguchi F., Sekimoto T., Ogura A., Kawabata A.: Endogenous hydrogen sulfide enhances cell proliferation of human gastric cancer AGS cells. *Biol. Pharm. Bull.*, 39, 887-890 (2016). 査読有り
- 278)*Yamasoba D., Tsubota M., Domoto R., Sekiguchi F., Nishikawa H., Liu K., Nishibori M., Ishikura H., Yamamoto T., Taga A., Kawabata A.: Peripheral HMGB1-induced hyperalgesia in mice: redox state-dependent distinct roles of RAGE and TLR4. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 139-142 (2016). 査読有り
- 279)*Aoki Y., Tsubota M., Nishimoto Y., Maeda Y., Sekiguchi F., Kawabata A.: Selective sensitization of C-fiber nociceptors by hydrogen sulfide. *J. Pharmacol. Sci.*, 130, 38-41 (2016). 査読有り
- 280) *Yamamoto S., Kinoshita M., Suzuki S.: Current landscape of protein glycosylation analysis and recent progress toward a novel paradigm of glycoscience research. *J. Pharm. Biomed. Anal.*, 130, 273-300 (2016) 査読有り
- 281) *Matsuo K., Itoh T., Koyama A., Imamura R., Kawai S., Nishiwaki K., Oiso N., Kawada A., Yoshie O., Nakayama T.: CCR4 is critically involved in effective antitumor immunity in mice bearing intradermal B16 melanoma. *Cancer Lett.* 378, 16-22 (2016) 査読有り
- 282) Matsuo K., Hirobe S., Okada N., Nakagawa S.: Analysis of skin permeability and toxicological properties of silica particles. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1201-1205 (2016) 査読有り
- 283) Matsuo K., Nishiuma S., Hasegawa S., Kawabata F., Kitahata K., Nakayama T.: Vaccination with antigen combined with ab-ATP as a vaccine adjuvant enhances antigen-specific antibody production via dendritic cell activation. *Biol. Pharm. Bull.* 39, 1073-1076 (2016) 査読有り
- 284) *Moriguchi K., Miyamoto K., Tanaka N., Ueno R., Nakayama T., Yoshie O., Kusunoki S.: C-C chemokine receptor type 4 antagonist Compound 22 ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis. *J. Neuroimmunol.* 291, 54-58 (2016) 査読有り
- 285) *Kobayashi I., Takahashi F., Nurwidya F., Murakami A., Hashimoto M., Nara T., Tajima K., Shimada N., Yoshioka Y., Sasaki S., Moriyama M., Moriyama H., Takahashi K.: Oct4 plays a crucial role in the persistence of gefitinib-resistant lung cancer stem cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 473(1), 125-32(2016)査読有り
- 286) *Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Takakura H., Teduka K., Fujii T., Mitamura K., Taga A., Uchida E., Naito Z.: Identification of aldolase A as a potential diagnostic biomarker for colorectal cancer based on proteomic analysis using formalin-fixed paraffin-embedded tissue. *Tumor Biol.* 37, 13595-13606 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 287) Satoh R., Ogata H., Saito T., Zhou B., Omura K., Kurabuchi S., Mitamura K., Ikegawa S., Hagey LR., Hofmann AF., Iida T. : Two Major Bile Acids in the Hornbills, (24R,25S)-3 α ,7 α ,24-Trihydroxy-5 β -cholestan-27-oyl Taurine and Its 12 α -Hydroxy Derivative. *Lipids*. 51, 757-68 (2016) 査読有り
- 288) Sato Née Okihara R., Saito T., Ogata H., Nakane N., Namegawa K., Sekiguchi S., Omura K., Kurabuchi S., Mitamura K., Ikegawa S., Raines J., Hagey LR., Hofmann AF., Iida T. : Novel, major 2 α - and 2 β -hydroxy bile alcohols and bile acids in the bile of *Arapaima gigas*, a large South American river fish. *Steroids*. 107, 112-120 (2016) 査読有り
- 289) Kanzaki A., Kudo M., Ansai SI., Peng WX., Ishino K., Yamamoto T., Wada R., Fujii T., Teduka K., Kawahara K., Kawamoto Y., Kitamura T., Kawana S., Saeki H., Naito Z. : Insulin-like growth factor 2 mRNA-binding protein-3 as a marker for distinguishing between cutaneous squamous cell carcinoma and keratoacanthoma. *Int J Oncol*. 48, 1007-1015 (2016) 査読有り
- 290)*Doi A., Fujimoto A., Sato S., Uno T., Kanda Y., Asami K., Tanaka Y., Kita A., Satoh R., Sugiura R. : A chemical genomics approach to identify genes associated with sensitivity to rapamycin in the fission yeast *Scizosaccharomyces pombe*. *Genes Cells*, 20(4): 292-309 (2015) 査読有り
- 291)*Doi A., Kita A., Kanda Y., Uno T., Asami K., Satoh R., Nakano K., Sugiura R. : The geranylgeranyltransferase Cwg2-Rho4/Rho5 module is implicated in the Pmk1 MAPK Kinase-mediated cell wall integrity pathway in fission yeast. *Genes Cells*, 20(4): 310-323 (2015) 査読有り
- 292) Yamamoto T., Uemura K., Sawashi Y., Mitamura K., Taga A. : Optimization of method to extract collagen from “Emperor” tissue of soft-shelled turtles. *J Oleo Sci*. 65, 169-175 (2016) 査読有り
- 293) *Kawase A., Hata S, Takagi M, Iwaki M. : Pravastatin modulate niemann-pick C1-like 1 and ATP-binding cassette G5 and G8 to influence intestinal cholesterol absorption. *J Pharm Sci*, 18, 765-772 (2015). 査読有り
- 294) *Kawase A., Ito A, Yamada A, Iwaki M. : Age-related changes in mRNA levels of hepatic transporters, cytochrome P450 and UDP-glucuronosyltransferase in female rats. *Eur J Drug Metabol Pharmacokinet*, 40, 239-244 (2015). 査読有り
- 295) *Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Obata N., Itoh T., Imano M., Mashimo K., Fujiwara D., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S. : Statins improve survival by inhibiting spontaneous metastasis and tumor growth in a mouse melanoma model. *Am J Cancer Res.*, 5, 3186-3197 (2015) 査読有り
- 296) *Peng YF., Imano M., Itoh T., Satoh T., Chiba Y., Imamoto H., Tsubaki M., Nishida S., Yasuda T., Furukawa H. : A phase II trial of perioperative chemotherapy involving a single intraperitoneal administration of paclitaxel followed by sequential S-1 plus intravenous paclitaxel for serosa-positive gastric cancer. *J Surg Oncol.*, 111, 1041-1046 (2015) 査読有り
- 297) *Tsubaki M., Takeda T., Tani T., Shimaoka H., Suzuyama N., Sakamoto K., Fujita A., Ogawa N., Itoh T., Imano M., Funakami Y., Ichida S., Satou T., Nishida S. : PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects. *Int J Cancer.*, 137, 243-250 (2015) 査読有り
- 298) *Tsubaki M., Takeda T., Ogawa N., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Ishizaka T., Satou T., Nishida S. : Overexpression of survivin via activation of ERK1/2, Akt, and NF- κ B plays a central role in vincristine resistance in multiple myeloma cells. *Leuk Res.*, 39, 445-452 (2015) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 299)*Nagai N., Yoshioka C., Ito Y., Funakami Y., Nishikawa F., Kawabata A.: Intravenous administration of cilostazol nanoparticles ameliorates acute ischemic stroke in a cerebral ischemia/reperfusion-induced injury model. *Int. J. Mol. Sci.*, 16, 29329-29344 (2015). 査読有り
- 300)*Fukami K., Sekiguchi F., Yasukawa M., Asano E., Kasamatsu R., Ueda M., Yoshida S., Kawabata A.: Functional upregulation of the H₂S/Cav3.2 channel pathway accelerates secretory function in neuroendocrine-differentiated human prostate cancer cells. *Biochem. Pharmacol.* 97, 300-309 (2015). 査読有り
- 301)*Fukami K., Kawabata A.: Hydrogen sulfide and neuronal differentiation: focus on Ca²⁺ channels. *Nitric Oxide*, 46, 50-54 (2015). 査読有り
- 302)*Murakami-Nakayama M., Tsubota M., Hiruma S., Sekiguchi F., Matsuyama K., Kimura T., Moriyama M., Kawabata A.: Polaprezinc attenuates cyclophosphamide-induced cystitis and related bladder pain in mice. *J. Pharmacol. Sci.*, 127, 223-28 (2015). 査読有り
- 303)*Terada Y., Kawabata A.: H₂S and pain: a novel aspect for processing of somatic, visceral and neuropathic pain signals. *Handb. Exp. Pharmacol.* 230: 217-230 (2015). 査読有り
- 304)*Terada Y., Fujimura M., Nishimura S., Tsubota M., Sekiguchi F., Kawabata A.: Roles of Cav3.2 and TRPA1 channels targeted by hydrogen sulfide in pancreatic nociceptive processing in mice with or without acute pancreatitis. *J. Neurosci. Res.*, 93, 361-369 (2015). 査読有り
- 305)*Maeda Y., Sekiguchi F., Yamanaka R., Sugimoto R., Yamasoba D., Tomita S., Nishikawa H., Kawabata A.: Mechanisms for proteinase-activated receptor 1-triggered prostaglandin E₂ generation in mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells. *Biol. Chem.*, 396, 153-162 (2015). 査読有り
- 306) Hirobe S., Azukizawa H., Hanafusa T., Matsuo K., Quan YS., Kamiyama F., Katayama I., Okada N., Nakagawa S.: Clinical study and stability assessment of a novel transcutaneous influenza vaccination using a dissolving microneedle patch. *Biomaterials*, 57, 50-58 (2015) 査読有り
- 307) Wada A., Ito A., Iitsuka H., Tsuneyama K., Miyazono T., Murakami J., Shibahara N., Sakurai H., Saiki I., Nakayama T., Yoshie O., Koizumi K., Sugiyama T.: Role of chemokine CX3CL1 in progression of multiple myeloma via CX3CR1 in bone microenvironments. *Oncol. Rep.* 33, 2935-2939 (2015) 査読有り
- 308) Fox JC., Nakayama T., Tyler RC., Sander TL., Yoshie O., Volkman BF.: Structural and agonist properties of XCL2, the other member of the C-chemokine subfamily. *Cytokine*, 71, 302-11 (2015) 査読有り
- 309) Murata Y., Hori H., Taga A., Tada H.: Surface charge-transfer complex formation of catechol on titanium(IV) oxide and the application to bio-sensing. *J Colloid Interface Sci.* 458, 305-309 (2015) 査読有り
- 310) Arai K., Terashima H., Aizawa S., Taga A., Yamamoto A., Tsutsumiuchi K., Kodama S.: Simultaneous Determination of Trigonelline, Caffeine and Chlorogenic Acid in Instant Coffee by HPLC Using an Acidic Mobile Phase Containing Octanesulfonate. *Anal. Sci.* 31, 831-835 (2015) 査読有り
- 311) Mabuchi M., Shimizu T., Ueda M., Mitamura K., Ikegawa S., Tanaka A.: Improvement of solid material for affinity resins by application of long PEG spacers to capture the whole target complex of FK506. *Bioorg Med Chem Lett.* 25, 2788-2792 (2015) 査読有り
- 312) Shou M., Terashima H., Aizawa S., Taga A., Yamamoto A., Kodama S.: Simultaneous Enantioseparation of Aldohexoses and Aldopentoses Derivatized with L-Tryptophanamide by

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Reversed Phase HPLC Using Butylboronic Acid as a Complexation Reagent of Monosaccharides. *Chirality*. 27, 417-21 (2015) 査読有り
- 313) Takaya A., Peng WX., Ishino K., Kudo M., Yamamoto T., Wada R., Takeshita T., Naito Z.: Cystatin B as a potential diagnostic biomarker in ovarian clear cell carcinoma. *Int J Oncol*. 46,1573-1581 (2015) 査読有り
- 314) Nagai N., Yamamoto T., Tanabe W., Ito Y., Kurabuchi S., Mitamura K., Taga A.: Changes in plasma glucose in otuka long-evans tokushima fatty rats after oral administration of maple syrup. *J Oleo Sci*. 64, 331-335 (2015) 査読有り
- 315)*Yoneshige A., Hagiyama M., Inoue T., Mimae T., Kato T., Okada M., Enoki E., Ito A.: Increased ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1 as a cause of type II alveolar epithelial cell apoptosis in patients with idiopathic interstitial pneumonia. *Respir Res*. 16, 19 (2015). 査読有り
- 316)*Hagiyama M., Yoneshige A., Inoue T., Sato Y., Mimae T., Okada M., Ito A.: The intracellular domain of cell adhesion molecule 1 is present in emphysematous lungs and induces lung epithelial cell apoptosis. *J Biomed Sci*. 22, 67. (2015). 査読有り
- 317)*Mimae T., Ito A.: New challenges in pseudopodial proteomics by a laser-assisted cell etching technique. *Biochim Biophys Acta-Proteins Proteomics*. 1854, 538-546 (2015). 査読有り
- 318)*Cisneros-Barroso E., Yance-Chavez T., Kito A., Sugiura R., Gomez-Hierro A., Gimenez-Zaragoza D., Aligue R.: Negative feedback regulation of calcineurin-dependent Prz1 transcription factor by the CaMKK-CaMK1 axis in fission yeast. *Nucleic Acids Res*, 42(15): 9573-9587 (2014) 査読有り
- 319)*Maesaki R., Satoh R., Taoka M., Kanaba T., Asano T., Fujita C., Fujiwara T., Ito Y., Isobe T., Hakoshima T., Maenaka K., Mishima M.: Efficient and cost effective production of active-form human PKB using silkworm larvae. *Sci Rep*, 4:6016 (2014) 査読有り
- 320)*Hagihara K., Mizukura A., Kitai Y., Yao M., Ishida K., Kunoh T., Kita A., Masuko T., Matzno S., Chiba K., Sugiura R.: FTY720 stimulated ROS generation and the Sty1/Atf1 signaling pathway in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. *Genes Cells*, 19(4): 325-337 (2014) 査読有り
- 321) *Kawase A., Sakata M, Yada N, Nakasaka M, Shimizu T, Kato Y, Iwaki M.: Decreased radixin function for ATP-binding cassette transporters in liver in adjuvant-induced arthritis rats. *J Pharm Sci*, 103, 4058-4065 (2014). 査読有り
- 322) *Kawase A., Norikane S, Okada A, Adachi M, Kato Y, Iwaki M.: Distinct alterations in ATP-binding cassette transporter expression in liver, kidney, small intestine, and brain in adjuvant-induced arthritic rats. *J Pharm Sci*, 103, 2556-2564 (2014). 査読有り
- 323) *Sayama H, Takubo H, Komura H, Kogayu M, Iwaki M.: Application of a physiologically based pharmacokinetic model informed by a top-down approach for the prediction of pharmacokinetics in chronic kidney disease patients. *AAPS J*, 16, 1018-1028 (2014). 査読有り
- 324) *Kawase A., Yamada A, Gamou Y, Tahara C, Takeshita F, Murata K, Matsuda H, Samukawa K, Iwaki M.: Effects of ginsenosides on the expression of cytochrome P450s and transporters involved in cholesterol metabolism. *J Nat Med*, 68, 395-401 (2014). 査読有り
- 325) *Kawase A.: Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation. *Yakugaku Zasshi*, 134, 925-929 (2014). 査読有り
- 326) *Kidera Y., Kawakami H., Sakiyama T., Okamoto K., Tanaka K., Takeda M., Kaneda H., Nishina S., Tsurutani J., Fujiwara K., Nomura M., Yamazoe Y., Chiba Y., Nishida S., Tamura T., Nakagawa K.: Risk factors for cisplatin-induced nephrotoxicity and potential of magnesium

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- supplementation for renal protection. *PLoS One.*, 9, e101902 (2014) 査読有り
- 327) *Tsubaki M., Takeda T., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Mashimo K., Fujiwara D., Sakaguchi K., Satou T., Nishida S.: Bisphosphonates and statins inhibit expression and secretion of MIP-1 α via suppression of Ras/MEK/ERK/AML-1A and Ras/PI3K/Akt/AML-1A pathways. *Am J Cancer Res.*, 5, 168-179 (2014) 査読有り
- 328) *Tsubaki M., Ogawa N., Takeda T., Sakamoto K., Shimaoka H., Fujita A., Itoh T., Imano M., Satou T., Nishida S.: Dimethyl fumarate induces apoptosis of hematopoietic tumor cells via inhibition of NF- κ B nuclear translocation and down-regulation of Bcl-xL and XIAP. *Biomed Pharmacother.*, 68, 999-1005 (2014) 査読有り
- 329) *坪田真帆、川畑篤史: 結腸の疼痛および炎症におけるガス状情報伝達物質硫化水素の役割. *Yakugaku Zasshi*, 134, 1245-1252 (2014). 査読有り
- 330) *Sekiguchi F., Miyamoto Y., Kanaoka D., Ide H., Yoshida S., Ohkubo T., Kawabata A.: Endogenous and exogenous hydrogen sulfide facilitates T-type calcium channel currents in Cav3.2-expressing HEK293 cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 445, 225-229 (2014). 査読有り
- 331) *Tanaka J., Yamaguchi K., Ishikura H., Tsubota M., Sekiguchi F., Seki Y., Tsujiuchi T., Murai A., Umemura T., Kawabata A.: Bladder pain relief by HMGB1 neutralization and soluble thrombomodulin in mice with cyclophosphamide-induced cystitis. *Neuropharmacology*, 79, 112-118 (2014). 査読有り
- 332) *Higashi K., Asano K., Yagi M., Yamada K., Arakawa T., Ehashi T., Mori T., Sumida K., Kushida M., Ando S., Kinoshita M., Kakehi K., Tachibana T., Saito K.: Expression of the clustered NeuAc α 2-3Gal β O-glycan determines the cell differentiation state of the cells. *J Biol Chem.* 289, 25833-25843 (2014) 査読有り
- 333) *Yamada K., Kinoshita M., Jo Y., Inoue T., Aoshima M., Hasegawa K., Sei K., Kita S., Kakehi K.: Structural analysis of carboxymethyl cellulose used as an antiadhesive material for surgical wound healing. *Yakugaku Zasshi*. 2014, 134, 1209-1217 (2014) 査読有り
- 334) Kee JY., Ito A., Hojo S., Hashimoto I., Igarashi Y., Tsuneyama K., Tsukada K., Irimura T., Shibahara N., Takasaki I., Inujima A., Nakayama T., Yoshie O., Sakurai H., Saiki I., Koizumi K.: CXCL16 suppresses liver metastasis of colorectal cancer by promoting TNF- α -induced apoptosis by tumor-associated macrophages. *BMC Cancer*, 14, 949 (2014) 査読有り
- 335) Matsumoto M., Nakayama T., Inoue D., Takamatsu K., Itotani R., Ishitoko M., Suzuki S., Sakuramoto M., Yuba Y., Yoshie O., Takemura M., Fukui M.: A pleomorphic carcinoma of the lung producing multiple cytokines and forming a rapidly progressive mass-like opacity. *BMC Cancer*, 14, 588 (2014) 査読有り
- 336) Kato M., Oiso N., Itoh T., Sato M., Matsuo K., Nakayama T., Satou T., Kawada A.: Necrobiosis lipoidica with infiltration of Th17 cells into vascular lesions. *J. Dermatol.* 41, 459-461 (2014) 査読有り
- 337) Matsuo K., Okamoto H., Kawai Y., Quan YS., Kamiyama F., Hirobe S., Okada N., Nakagawa S.: Vaccine efficacy of transcutaneous immunization with amyloid β using a dissolving microneedle array in a mouse model of Alzheimer's disease. *J. Neuroimmunol.* 266, 1-11 (2014) 査読有り
- 338) *Moriyama H., Moriyama M., Isshi H., Ishihara S., Okura H., Ichinose A., Ozawa T., Matsuyama A., Hayakawa T.: Role of notch signaling in the maintenance of human mesenchymal

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- stem cells under hypoxic conditions. *Stem Cells Dev.* 23(18), 2211-24. (2014)査読有り
- 339) Murakami A., Takahashi F., Nurwidya F., Kobayashi I., Minakata K., Hashimoto M., Nara T., Kato M., Tajima K., Shimada N., Iwakami S., Moriyama M., Moriyama H., Koizumi F., Takahashi K. : Hypoxia increases gefitinib-resistant lung cancer stem cells through the activation of insulin-like growth factor 1 receptor. *PLoS One.* 9(1), e86459.(2014) 査読有り
- 340) Higashi T., Goto A., Morohashi M., Ogawa S., Komatsu K., Sugiura T., Fukuoka T., Mitamura K.: Development and validation of a method for determination of plasma 25-hydroxyvitamin D3 3-sulfate using liquid chromatography/tandem mass spectrometry. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 969, 230-234 (2014) 査読有り
- 341) Mitamura K., Satoh Okihara R., Kamibayashi M., Sato K, Iida T., Ikegawa S.: Simultaneous determination of 18 tetrahydrocorticosteroid sulfates in human urine by liquid chromatography/electrospray ionization-tandem mass spectrometry. *Steroids.* 85, 18-29 (2014) 査読有り
- 342) Takayama R., Ansai S., Ishiwata T., Yamamoto T., Matsuda Y., Naito Z., Kawana S. : Expression of lumican in hidroacanthoma simplex and clonal type seborrheic keratosis as a potent differential diagnostic marker. *Am J Dermatopathol.* 36, 655-660 (2014) 査読有り
- 343) Akabane M., Yamamoto A., Aizawa S., Taga A., Kodama S. : Simultaneous enantioseparation of monosaccharides derivatized with L-tryptophan by reversed phase HPLC. *Analytical Sci.* 30, 739-743 (2014) 査読有り
- 344)*Mimae T., Hagiwara M., Inoue T., Yoneshige A., Kato T., Okada M., Murakami Y., Ito A.: Increased ectodomain shedding of lung-epithelial cell adhesion molecule 1 as a cause of increased alveolar cell apoptosis in emphysema. *Thorax.* 69, 223-231. (2014). 査読有り
- 345)*Ito M., Hagiwara M., Mimae T., Inoue T., Kato T., Yoneshige A., Nakanishi J., Kondo T., Okada M., Ito A.: α -Parvin, a pseudopodial constituent, promotes cell motility and is associated with lymph node metastasis of lobular breast carcinoma. *Breast Cancer Res Treat.* 144, 59-69. (2014). 査読有り
- 346)*Mimae T., Ito A., Hagiwara M., Nakanishi J., Ito M., Hosokawa Y., Okada M., Murakami Y., Kondo T.: A novel approach to pseudopodia proteomics: excimer laser etching, two-dimensional difference gel electrophoresis, and confocal imaging. *Protocol Exchange.* doi:10.1038/protex.2014.007. (2014) 査読無し

研究課題(C): 臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズのPOC (計157報)

- 347) Sakai H, Takeda M, Sakai K, Nakamura Y, Ito A, Hayashi H, Tanaka K, Nishio K, Nakagawa K: Impact of cytotoxic chemotherapy on PD-L1 expression in patients with non-small cell lung cancer negative for EGFR mutation and ALK fusion. *Lung Cancer* 2019, 127:59-65. 査読有り
- 348) Watanabe S, Hayashi H, Haratani K, Shimizu S, Tanizaki J, Sakai K, Kawakami H, Yonesaka K, Tsurutani J, Togashi Y *et al*: Mutational activation of the epidermal growth factor receptor down-regulates major histocompatibility complex class I expression via the extracellular signal-regulated kinase in non-small cell lung cancer. *Cancer Sci* 2019, 110(1):52-60. 査読有り
- 349)*Yonesaka K, Takegawa N, Watanabe S, Haratani K, Kawakami H, Sakai K, Chiba Y, Maeda N, Kagari T, Hirotsu K *et al*: An HER3-targeting antibody-drug conjugate incorporating a DNA topoisomerase I inhibitor U3-1402 conquers EGFR tyrosine kinase inhibitor-resistant NSCLC.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Oncogene* 2019, 38(9):1398-1409. 査読有り
- 350) Fujita Y, Taguri M, Yamazaki K, Tsurutani J, Sakai K, Tsushima T, Nagase M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T *et al*: aCGH Analysis of Predictive Biomarkers for Response to Bevacizumab plus Oxaliplatin- or Irinotecan-Based Chemotherapy in Patients with Metastatic Colorectal Cancer. *Oncologist* 2019, 24(3):327-337. 査読有り
- 351)*Hayashi H, Kurata T, Takiguchi Y, Arai M, Takeda K, Akiyoshi K, Matsumoto K, Onoe T, Mukai H, Matsubara N *et al*: Randomized Phase II Trial Comparing Site-Specific Treatment Based on Gene Expression Profiling With Carboplatin and Paclitaxel for Patients With Cancer of Unknown Primary Site. *J Clin Oncol* 2019, 37(7):570-579. 査読有り
- 352)*Hatanaka Y, De Velasco MA, Oki T, Shimizu N, Nozawa M, Yoshimura K, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H: HOXA10 expression profiling in prostate cancer. *Prostate* 2019, 79(5):554-563. 査読有り
- 353)*Makuuchi Y, Hayashi H, Haratani K, Tanizaki J, Tanaka K, Takeda M, Sakai K, Shimizu S, Ito A, Nishio K et al: A case of ALK-rearranged non-small cell lung cancer that responded to ceritinib after development of resistance to alectinib. *Oncotarget* 2018, 9(33):23315-23319. 査読有り
- 354)Matsuda S, Suzuki S, Morimoto K, Aono A, Nishio K, Asakura T, Sasaki Y, Namkoong H, Nishimura T, Ogata H *et al*: Mycobacterium triplex pulmonary disease with acquired macrolide resistance in immunocompetent patients. *Clin Microbiol Infect* 2018, 24(6):671-672. 査読有り
- 355)*Vaughn CP, Costa JL, Feilotter HE, Petraroli R, Bagai V, Rachiglio AM, Marino FZ, Tops B, Kurth HM, Sakai K et al: Simultaneous detection of lung fusions using a multiplex RT-PCR next generation sequencing-based approach: a multi-institutional research study. *BMC Cancer* 2018, 18(1):828. 査読有り
- 356)Yonesaka K, Haratani K, Takamura S, Sakai H, Kato R, Takegawa N, Takahama T, Tanaka K, Hayashi H, Takeda M *et al*: B7-H3 Negatively Modulates CTL-Mediated Cancer Immunity. *Clin Cancer Res* 2018, 24(11):2653-2664. 査読有り
- 357)*Sakai H, Tsurutani J, Iwasa T, Komoike Y, Sakai K, Nishio K, Nakagawa K: HER2 genomic amplification in circulating tumor DNA and estrogen receptor positivity predict primary resistance to trastuzumab emtansine (T-DM1) in patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Breast Cancer* 2018, 25(5):605-613. 査読有り
- 358)*Sunami K, Takahashi H, Tsuchihara K, Takeda M, Suzuki T, Naito Y, Sakai K, Dosaka-Akita H, Ishioka C, Kodera Y *et al*: Clinical practice guidance for next-generation sequencing in cancer diagnosis and treatment (Edition 1.0). *Cancer Sci* 2018, 109(9):2980-2985. 査読有り
- 359)*Takano T, Tsurutani J, Takahashi M, Yamanaka T, Sakai K, Ito Y, Fukuoka J, Kimura H, Kawabata H, Tamura K *et al*: A randomized phase II trial of trastuzumab plus capecitabine versus lapatinib plus capecitabine in patients with HER2-positive metastatic breast cancer previously treated with trastuzumab and taxanes: WJOG6110B/ELTOP. *Breast* 2018, 40:67-75. 査読有り
- 360)*Iwahashi N, Sakai K, Noguchi T, Yahata T, Toujima S, Nishio K, Ino K: A comprehensive gene mutation analysis of liquid biopsy samples from patients with metastatic colorectal cancer to the ovary: A case report. *Oncol Lett* 2018, 16(5):6431-6436. 査読有り
- 361)*Oiso N, Sakai K, Yanagihara S, Nishio K, Kawada A: Genital mucosal melanoma with somatic SF3B1 R625C mutation. *Eur J Dermatol* 2018, 28(3):414-415. 査読有り
- 362)*Oiso N, Sakai K, Narita T, Yanagihara S, Nishio K, Kawada A: Lymph node metastatic melanoma

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- from ungual melanoma: Identification of somatic mutations in KIT and LZTR1. *J Dermatol* 2018, 45(1):e5-e6. 査読有り
- 363)Moriyama S, Nishio K, Mizushima T: Structure of glyoxysomal malate dehydrogenase (MDH3) from *Saccharomyces cerevisiae*. *Acta Crystallogr F Struct Biol Commun* 2018, 74(Pt 10):617-624. 査読有り
- 364)Watanabe M, Toyomura T, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S: The C-terminal region of tumor necrosis factor like weak inducer of apoptosis is required for interaction with advanced glycation end products. *Biotechnol Appl Biochem*, 66(2):254-260 (2018) 査読有り
- 365)Okuma Y, Wake H, Teshigawara K, Takahashi Y, Hishikawa T, Yasuhara T, Mori S, Takahashi HK, Date I, Nishibori M:Anti-High Mobility Group Box 1 Antibody Therapy May Prevent Cognitive Dysfunction After Traumatic Brain Injury. *World neurosurgery*, 122: e864-e871 (2018) 査読有り
- 366)Terao K, Wake H, Adachi N, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Mori S, Nishibori M: Histidine-Rich Glycoprotein Suppresses Hyperinflammatory Responses of Lung in a Severe Acute Pancreatitis Mouse Model. *Pancreas*, 47(9):1156-1164 (2018) 査読有り
- 367)*Hamasaki S, Kobori T, Yamazaki Y, Kitaura A, Niwa A, Nishinaka T, Nishibori M, Mori S, Nakao S, Takahashi H: Effects of scavenger receptors-1 class A stimulation on macrophage morphology and highly modified advanced glycation end product-protein phagocytosis. *Scientific reports*, 8(1):5901 (2018) 査読有り
- 368)Uezono N, Zhu Y, Fujimoto Y, Yasui T, Matsuda T, Nakajo M, Abematsu M, Setoguchi T, Mori S, Takahashi HK, Komiya S, Nishibori M, Nakashima K : Prior Treatment with Anti-High Mobility Group Box-1 Antibody Boosts Human Neural Stem Cell Transplantation-Mediated Functional Recovery After Spinal Cord Injury. *Stem cells* (Dayton, Ohio),36(5):737-750 (2018) 査読有り
- 369)*Kobori T, Hamasaki S, Kitaura A, Yamazaki Y, Nishinaka T, Niwa A, Nakao S, Wake H, Mori S, Yoshino T, Nishibori M, Takahashi H : Interleukin-18 Amplifies Macrophage Polarization and Morphological Alteration, Leading to Excessive Angiogenesis, *Frontiers in immunology*, 9:334 (2018) 査読有り
- 370)*Makuuchi Y., Hayashi H., Haratani K., Tanizaki J., Tanaka K., Takeda M., Sakai K., Shimizu S., Ito A., Nishio K., Nakagawa K: A case of ALK-rearranged non-small cell lung cancer that responded to ceritinib after development of resistance to alectinib. *Oncotarget*, 9:23315-23319 (2018). 査読有り
- 371)Nakatani Y., Kawakami H., Ichikawa M., Yamamoto S., Otsuka Y., Mashiko A., Takashima Y., Ito A., Nakagawa K., Arima S: Nivolumab induced Acute Granulomatous Tubulointestinal Nephritis in Patient with Gastric Cancer. *Invest New Drugs*, 36(4):726-731 (2018). 査読有り
- 372)*Kobayashi Y, Azuma K, Nagai H, Kim YH, Togashi Y, Sesumi Y, Chiba M, Shimoji M, Sato K, Tomizawa K *et al*: Characterization of EGFR T790M, L792F, and C797S Mutations as Mechanisms of Acquired Resistance to Afatinib in Lung Cancer. *Mol Cancer Ther* 2017, 16(2):357-364.
- 373)*Matsuo N, Azuma K, Sakai K, Hattori S, Kawahara A, Ishii H, Tokito T, Kinoshita T, Yamada K, Nishio K *et al*: Association of EGFR Exon 19 Deletion and EGFR-TKI Treatment Duration with Frequency of T790M Mutation in EGFR-Mutant Lung Cancer Patients. *Sci Rep* 2016, 6:36458.
- 374)*Mizukami T, Sakai K, Naruki S, Taniyama T, Horie Y, Izawa N, Tsuda T, Fujino T, Boku N, Yasuda H *et al*: Identification of a FGFR3-TACC3 fusion in esophageal cancer. *Ann Oncol* 2017,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 28(2):437-438.
- 375)*Iwama E, Sakai K, Azuma K, Harada T, Harada D, Nosaki K, Hotta K, Ohyanagi F, Kurata T, Fukuhara T *et al*: Monitoring of somatic mutations in circulating cell-free DNA by digital PCR and next-generation sequencing during afatinib treatment in patients with lung adenocarcinoma positive for EGFR activating mutations. *Ann Oncol* 2017, 28(1):136-141.
- 376)*Haratani K, Hayashi H, Tanaka T, Kaneda H, Togashi Y, Sakai K, Hayashi K, Tomida S, Chiba Y, Yonesaka K *et al*: Tumor immune microenvironment and nivolumab efficacy in EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer based on T790M status after disease progression during EGFR-TKI treatment. *Ann Oncol* 2017, 28(7):1532-1539.
- 377)*Hayashi H, Chiba Y, Sakai K, Fujita T, Yoshioka H, Sakai D, Kitagawa C, Naito T, Takeda K, Okamoto I *et al*: A Randomized Phase II Study Comparing Nivolumab With Carboplatin-Pemetrexed for Patients With EGFR Mutation-Positive Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer Who Acquire Resistance to Tyrosine Kinase Inhibitors Not Due to a Secondary T790M Mutation: Rationale and Protocol Design for the WJOG8515L Study. *Clin Lung Cancer* 2017, 18(6):719-723.
- 378)*Murakami Y, Sonoda K, Abe H, Watari K, Kusakabe D, Azuma K, Kawahara A, Akiba J, Oneyama C, Pachter JA *et al*: The activation of SRC family kinases and focal adhesion kinase with the loss of the amplified, mutated EGFR gene contributes to the resistance to afatinib, erlotinib and osimertinib in human lung cancer cells. *Oncotarget* 2017, 8(41):70736-70751.
- 379)*Udo E, Furusato B, Sakai K, Prentice LM, Tanaka T, Kitamura Y, Tsuchiya T, Yamasaki N, Nagayasu T, Nishio K *et al*: Ciliated muconodular papillary tumors of the lung with KRAS/BRAF/AKT1 mutation. *Diagn Pathol* 2017, 12(1):62.
- 380)*Ota K, Tong KI, Goto K, Tomida S, Komuro A, Wang Z, Nishio K, Okada H: The H3K27 demethylase, Utx, regulates adipogenesis in a differentiation stage-dependent manner. *PLoS One* 2017, 12(3):e0173713.
- 381)Takegawa N, Nonagase Y, Yonesaka K, Sakai K, Maenishi O, Ogitani Y, Tamura T, Nishio K, Nakagawa K, Tsurutani J: DS-8201a, a new HER2-targeting antibody-drug conjugate incorporating a novel DNA topoisomerase I inhibitor, overcomes HER2-positive gastric cancer T-DM1 resistance. *Int J Cancer* 2017, 141(8):1682-1689.
- 382)Mizukami T, Togashi Y, Naruki S, Banno E, Terashima M, De Velasco MA, Sakai K, Yoneshige A, Hayashi H, Fujita Y *et al*: Significance of FGF9 gene in resistance to anti-EGFR therapies targeting colorectal cancer: A subset of colorectal cancer patients with FGF9 upregulation may be resistant to anti-EGFR therapies. *Mol Carcinog* 2017, 56(1):106-117.
- 383)Banno E, Togashi Y, De Velasco MA, Mizukami T, Nakamura Y, Terashima M, Sakai K, Fujita Y, Kamata K, Kitano M *et al*: Clinical significance of Akt2 in advanced pancreatic cancer treated with erlotinib. *Int J Oncol* 2017, 50(6):2049-2058.
- 384)Oiso N, Sakai K, Nishio K, Kawada A: Phylloid hypomelanosis associated with a mosaic trisomy 13 in the 13q31.3-qter region: atypical phylloid distribution and typical hypomelanosis. *Pigment Cell Melanoma Res* 2017, 30(2):269-272.
- 385)Matsuo Ka H, Yoshiuchi K, Koyama A, Makimura C, Fujita Y, Tsurutani J, Sakai K, Sakamoto R, Nishio K, Nakagawa K: Expectation of a Decrease in Pain Affects the Prognosis of Pain in Cancer Patients: a Prospective Cohort Study of Response to Morphine. *Int J Behav Med* 2017,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 24(4):535-541.
- 386) Sakai K, Ukita M, Schmidt J, Wu L, De Velasco MA, Roter A, Jevons L, Nishio K, Mandai M: Clonal composition of human ovarian cancer based on copy number analysis reveals a reciprocal relation with oncogenic mutation status. *Cancer Lett* 2017, 405:22-28.
- 387) Morioka Y, Teshigawara K, Tomono Y, Wang D, Izushi Y, Wake H, Liu K, Takahashi HK, Mori S, Nishibori M: The specific localization of advanced glycation end-products (AGEs) in rat pancreatic islets. *Journal of pharmacological sciences*, 134(4):218-224 (2017)
- 388) Fu L, Liu K, Wake H, Teshigawara K, Yoshino T, Takahashi H, Mori S, Nishibori M: Therapeutic effects of anti-HMGB1 monoclonal antibody on pilocarpine-induced status epilepticus in mice. *Scientific reports*, 7(1):1179 (2017) 査読有り
- 389) Watanabe M, Toyomura T, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S: Advanced glycation end products attenuate the function of tumor necrosis factor-like weak inducer of apoptosis to regulate the inflammatory response. *Molecular and cellular biochemistry*, 434(1-2):153-162 (2017) 査読有り
- 390) Gao Y, Wake H, Morioka Y, Liu K, Teshigawara K, Shibuya M, Zhou J, Mori S, Takahashi H, Nishibori M: Phagocytosis of Advanced Glycation End Products (AGEs) in Macrophages Induces Cell Apoptosis. *Oxidative medicine and cellular longevity*, 2017:8419035 (2017) 査読有り
- 391) *Kato T, Hagiyaama M., Takashima Y., Yoneshige A., Ito A: Cell adhesion molecule-1 (CADM1) shedding induces apoptosis of renal epithelial cells and exacerbates human nephropathies. *Am J Physiol-Renal Physiol*, 314:F388-F398 (2018). 査読有り
- 392) Kawakami H., Tanizaki J., Tanaka K., Haratani K., Hayashi H., Takeda M., Kamata K., Takenaka M., Kimura M., Chikugo T., Sato T., Kudo M., Ito A., Nakagawa K: Imaging and clinicopathological features of nivolumab-related cholangitis in patients with non-small cell lung cancer. *Invest New Drugs*, 35(4):529-536, doi: 10.1007/s10637-017-0453-0 (2017). 査読有り
- 393) Kato T., Mizuguchi N., Ito A: Candesartan suppresses proteinuria and decrease of nephrin expression but hydralazine does not in hypertensive nephropathy. *J Biomed*, 2:57-63 (2017). 査読有り
- 394) *Yoneshige A., Hagiyaama M., Inoue T., Tanaka T., Ri A., Ito A: Modest static pressure can cause enteric nerve degeneration through ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1. *Mol Neurobiol*, 54:6378-6390 (2017). 査読有り
- 395) *Mizukami T., Togashi Y., Naruki S., Banno E., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Yoneshige A., Hayashi H., Fujita Y., Tomida S., Nakajima TE., Fujino T., Boku N., Ito A., Nakagawa K., Nishio K.: Significance of FGF9 gene in resistance to anti-EGFR therapies targeting colorectal cancer: A subset of colorectal cancer patients with FGF9 upregulation may be resistant to anti-EGFR therapies. *Mol Carcinog*, 56:106-117 (2017). 査読有り
- 396) Nakagawa K., Asamura H., Tsuta K., Nagai K., Yamada E., Ishi G., Mitsudomi T., Ito A., Higashiyama M., Tomita Y., Inoue M., Morii E., Matsuura N., Okumura M.: Novel method (OSNA) for the diagnosis of lymph node metastasis in patients with non-small cell lung cancer (NSCLC): Results of a multicenter prospective study. *Lung Cancer*. in press. 査読有り
- 397) Okada H., Tong K., Ota K., Komuro A., Ueda T., Ito A., Koch CA.: Attenuated DNA damage repair delays therapy-related myeloid neoplasms in a mouse model. *Cell Death Dis.* 7(10):e2401(2016)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

査読有り

- 398) Iino T., Hagiyama M., Furuno T., Ito A., Hosokawa Y.: Time-course statistical evaluation of intercellular adhesion maturation by femtosecond laser impulse. *Biophys J.* 111(10):2255-2262.(2016) 査読有り
- 399) Yoneshige A., Hagiyama M., Inoue T., Tanaka T., Ri A., Ito A.: Modest static pressure can cause enteric nerve degeneration through ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1. *Mol Neurobiol.* 54(8):6378-6390(2017) 査読有り
- 400) Tanizaki J., Hayashi H., Kimura M., Tanaka K., Takeda M., Shimizu S., Ito A., Nakagawa K.: Report of two cases of pseudoprogression in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab – including histological analysis of one case after tumor regression. *Lung Cancer.* 102:44-48(2016) 査読有り
- 401) Ohta M., Hosokawa Y., Hatano N., Sugano A., Ito A., Takaoka Y.: Efficacy of femtosecond lasers for application of acupuncture therapy. *Lasers in Med Sci,* 32(9):2167-2171 (2017). 査読有り
- 402) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Candesartan suppresses proteinuria and decrease of nephrin expression but hydralazine does not in hypertensive nephropathy. *J Biomed.* 2:57-63(2017) 査読有り
- 403) MatsuoKa H., Yoshiuchi K., Koyama A., Makimura C., Fujita Y., Tsurutani J., Sakai K., Sakamoto R., Nishio K., Nakagawa K.: Expectation of a Decrease in Pain Affects the Prognosis of Pain in Cancer Patients: a Prospective Cohort Study of Response to Morphine. *Int J Behav Med,* 24(4):535-541 (2017) 査読有り
- 404) *Oiso N., Sakai K., Nishio K., Kawada A.: Phylloid hypomelanosis associated with a mosaic trisomy 13 in the 13q31.3-qter region: atypical phylloid distribution and typical hypomelanosis. *Pigment Cell Melanoma Res,* 30(2):269-272 (2016) 査読有り
- 405) *Kobayashi Y., Azuma K., Nagai H., Kim YH., Togashi Y., Sesumi Y., Chiba M., Shimoji M., Sato K., Tomizawa K., Takemoto T., Nishio K., Mitsudomi T.: Characterization of EGFR T790M, L792F, and C797S mutations as mechanisms of acquired resistance to afatinib in lung cancer. *Mol Cancer Ther,* 16(2), 357-64 (2017) 査読有り
- 406) *Iwama E., Sakai K., Azuma K., Harada T., Harada D., Nosaki K., Hotta K., Ohyanagi F., Kurata T., Fukuhara T., Akamatsu H., Goto K., Shimose T., Kishimoto J., Nakanishi Y., Nishio K., Okamoto I.: Monitoring of somatic mutations in circulating cell-free DNA by digital PCR and next-generation sequencing during afatinib treatment in patients with lung adenocarcinoma positive for EGFR activating mutations. *Ann Oncol,* 28(1), 136-41 (2017) 査読有り
- 407) *Tanizaki J., Banno E., Togashi Y., Hayashi H., Sakai K., Takeda M., Kaneda H., Nishio K., Nakagawa K.: Case report: Durable response to afatinib in a patient with lung cancer harboring two uncommon mutations of EGFR and a KRAS mutation. *Lung Cancer,* 101:11-15 (2016) 査読有り
- 408) *Mizukami T., Sakai K., Naruki S., Taniyama T., Horie Y., Izawa N., Tsuda T., Fujino T., Boku N., Yasuda H., Fukunaga T., Nakajima TE., Nishio K.: Identification of a FGFR3-TACC3 fusion in esophageal cancer. *Ann Oncol,* ;28(2):437-438 (2016) 査読有り
- 409) *Matsuo N., Azuma K., Sakai K., Hattori S., Kawahara A., Ishii H., Tokito T., Kinoshita T., Yamada K., Nishio K., Hoshino T.: Association of EGFR Exon 19 Deletion and EGFR-TKI Treatment Duration with Frequency of T790M Mutation in EGFR-Mutant Lung Cancer Patients. *Sci Rep,* 6:36458 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 410)*Hibi M., Kaneda H., Tanizaki J., Sakai K., Togashi Y., Terashima M., De Velasco MA., Fujita Y., Banno E., Nakamura Y., Takeda M., Ito A., Mitsudomi T., Nakagawa K., Okamoto I., Nishio K.: FGFR gene alterations in lung squamous cell carcinoma are potential targets for the multikinase inhibitor nintedanib. *Cancer Sci*, 107(11), 1667-76 (2016) 査読有り
- 411)*Chiba M., Togashi Y., Tomida S., Mizuuchi H., Nakamura Y., Banno E., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Mitsudomi T., Nishio K.: MEK inhibitors against MET-amplified non-small cell lung cancer. *Int J Oncol*, 49(6), 2236-44 (2016) 査読有り
- 412)*Shitara K., Yonesaka K., Denda T., Yamazaki K., Moriwaki T., Tsuda M., Takano T., Okuda H., Nishina T., Sakai K., Nishio K., Tokunaga S., Yamanaka T., Boku N., Hyodo I., Muro K.: A Randomized Study of FOLFIRI plus either Panitumumab or Bevacizumab for Wild-Type KRAS Colorectal Cancer-WJOG 6210G. *Cancer Sci*, 107(12), 1843-50 (2016) 査読有り
- 413)*De Velasco MA., Kura Y., Yoshikawa K., Nishio K., Davies BR., Uemura H.: Efficacy of targeted AKT inhibition in genetically engineered mouse models of PTEN-deficient prostate cancer. *Oncotarget*, 7(13), 15959-76 (2016) 査読有り
- 414)*Nagai H., Oiso N., Tomida S., Sakai K., Fujiwara S., Nakamachi Y., Kawano S., Kawada A., Nishio K., Nishigori C.: Epidermolysis bullosa simplex with mottled pigmentation with noncicatricial alopecia: identification of a recurrent p.P25L mutation in KRT5 in four affected family members. *Br J Dermatol*, 174(3), 633-5 (2016) 査読有り
- 415)*Kaibori M., Sakai K., Ishizaki M., Matsushima H., De Velasco MA., Matsui K., Iida H., Kitade H., Kwon AH., Nagano H., Wada H., Haji S., Tsukamoto T., Kanazawa A., Takeda Y., Takemura S., Kubo S., Nishio K.: Increased FGF19 copy number is frequently detected in hepatocellular carcinoma with a complete response after sorafenib treatment. *Oncotarget*, 7(31), 49091-8 (2016) 査読有り
- 416)*Watanabe S., Takeda M., Takahama T., Iwasa T., Tsurutani J., Tanizaki J., Shimizu T., Sakai K., Wada Y., Isogai N., Nishio K., Nakagawa K.: Successful human epidermal growth receptor 2-targeted therapy beyond disease progression for extramammary Paget's disease. *Invest New Drugs*, 34(3), 394-6 (2016) 査読有り
- 417)*Terashima M., Togashi Y., Sato K., Mizuuchi H., Sakai K., Suda K., Nakamura Y., Banno E., Hayashi H., De Velasco MA., Fujita Y., Tomida S., Mitsudomi T., Nishio K.: Functional Analyses of Mutations in Receptor Tyrosine Kinase Genes in Non-Small Cell Lung Cancer: Double-Edged Sword of DDR2. *Clin Cancer Res*, 22(14), 3663-71 (2016) 査読有り
- 418)*Takegawa N., Yonesaka K., Sakai K., Ueda H., Watanabe S., Nonagase Y., Okuno T., Takeda M., Maenishi O., Tsurutani J., Satoh T., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K.: HER2 genomic amplification in circulating tumor DNA from patients with cetuximab-resistant colorectal cancer. *Oncotarget*, 7(3), 3453-60 (2016) 査読有り
- 419)*Murao T., Shiotani A., Fujita Y., Yamanaka Y., Kamada T., Manabe N., Hata J., Nishio K., Haruma K.: Overexpression of CD55 from Barrett's esophagus is associated with esophageal adenocarcinoma risk. *J Gastroenterol Hepatol*, 31(1), 99-106 (2016) 査読有り
- 420)*Suda K., Murakami I., Sakai K., Tomizawa K., Mizuuchi H., Sato K., Nishio K., Mitsudomi T.: Heterogeneity in resistance mechanisms causes shorter duration of epidermal growth factor receptor kinase inhibitor treatment in lung cancer. *Lung Cancer*, 91, 36-40 (2016) 査読有り
- 421)*Yonesaka K., Hirotsu K., Kawakami H., Takeda M., Kaneda H., Sakai K., Okamoto I., Nishio K.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Janne PA., Nakagawa K. : Anti-HER3 monoclonal antibody patritumab sensitizes refractory non-small cell lung cancer to the epidermal growth factor receptor inhibitor erlotinib. *Oncogene*, 35(7), 878-86 (2016) 査読有り
- 422)*Ohira T., Sakai K., Matsubayashi J., Kajiwaru N., Kakihana M., Hagiwara M., Hibi M., Yoshida K., Maeda J., Ohtani K., Nagao T., Nishio K., Ikeda N. : Tumor volume determines the feasibility of cell-free DNA sequencing for mutation detection in non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 107(11), 1660-6 (2016) 査読有り
- 423)*Takahama T., Sakai K., Takeda M., Azuma K., Hida T., Hirabayashi M., Oguri T., Tanaka H., Ebi N., Sawa T., Bessho A., Tachihara M., Akamatsu H., Bandoh S., Himeji D., Ohira T., Shimokawa M., Nakanishi Y., Nakagawa K., Nishio K. : Detection of the T790M mutation of EGFR in plasma of advanced non-small cell lung cancer patients with acquired resistance to tyrosine kinase inhibitors (West Japan oncology group 8014LTR study). *Oncotarget*, 7(36), 58492-9 (2016) 査読有り
- 424)*Nakamura Y., Togashi Y., Nakahara H., Tomida S., Banno E., Terashima M., Hayashi H., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Okegawa T., Nutahara K., Hamada S., Nishio K. : Afatinib against Esophageal or Head-and-Neck Squamous Cell Carcinoma: Significance of Activating Oncogenic HER4 Mutations in HNSCC. *Mol Cancer Ther*, 15(8), 1988-97 (2016) 査読有り
- 425)*Banno E., Togashi Y., Nakamura Y., Chiba M., Kobayashi Y., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Mitsudomi T., Nishio K. : Sensitivities to various epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors of uncommon epidermal growth factor receptor mutations L861Q and S768I: What is the optimal epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor? *Cancer Sci*, 107(8), 1134-40 (2016) 査読有り
- 426)*Mizuuchi H., Suda K., Murakami I., Sakai K., Sato K., Kobayashi Y., Shimoji M., Chiba M., Sesumi Y., Tomizawa K., Takemoto T., Sekido Y., Nishio K., Mitsudomi T. : Oncogene swap as a novel mechanism of acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor in lung cancer. *Cancer Sci*, 107(4), 461-8 (2016) 査読有り
- 427)*Takeda M., Sakai K., Okamoto K., Hayashi H., Tanaka K., Shimizu T., Nishio K., Nakagawa K. : Genome sequencing for nonsmall-cell lung cancer identifies a basis for nintedanib sensitivity. *Ann Oncol*, 27(4), 748-50 (2016) 査読有り
- 428)*Nagai T., Arao T., Nishio K., Matsumoto K., Hagiwara S., Sakurai T., Minami Y., Ida H., Ueshima K., Nishida N., Sakai K., Saijo N., Kudo K., Kaneda H., Tamura D., Aomatsu K., Kimura H., Fujita Y., Haji S., Kudo M. : Impact of Tight Junction Protein ZO-1 and TWIST Expression on Postoperative Survival of Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Dig Dis*, 34(6), 702-07 (2016) 査読有り
- 429)*Sato K., Suda K., Shimizu S., Sakai K., Mizuuchi H., Tomizawa K., Takemoto T., Nishio K., Mitsudomi T. : Clinical, Pathological, and Molecular Features of Lung Adenocarcinomas with AXL Expression. *PLoS One*, 11(4), e0154186 (2016) 査読有り
- 430)*Azuma K., Hirashima T., Yamamoto N., Okamoto I., Takahashi T., Nishio M., Hirata T., Kubota K., Kasahara K., Hida T., Yoshioka H., Nakanishi K., Akinaga S., Nishio K., Mitsudomi T., Nakagawa K. : Phase II study of erlotinib plus tivantinib (ARQ 197) in patients with locally advanced or metastatic EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer just after progression on EGFR-TKI, gefitinib or erlotinib. *ESMO Open*, 1(4), e000063 (2016) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 431)*Kato T., Oka K., Nakamura T., Ito A.: Decreased expression of Met during differentiation in rat lung. *Eur J Histochem.* 60, 2575 (2016) 査読有り
- 432)YT Fujiwara K., Fujita Y., Kasai A., Onaka Y., Hashimoto H., Okada H., Yamashita T. : Deletion of JMJD2B in neurons leads to defective spine maturation, hyperactive behavior and memory deficits in mouse. *Transl Psychiatry.* 6 (e766) (2016) 査読有り
- 433)*Martini E., Wittkopf N., Günther C., Leppkes M., Okada H., Watson AJ., Podstawa E., Backert I., Kerstin Amann K., Markus F Neurath NF., Christoph Becker C.:Loss of surviving in intestinal epithelial progenitor cells leads to mitotic catastrophe and breakdown of gut immune homeostasis. *Cell reports.* 14 (5), 1062-1073(2016) 査読有り
- 434)Sugihara M., Sadamori H., Nishibori M., Sato Y., Tazawa H., Shinoura S., Umeda Y., Yoshida R., Nobuoka D., Utsumi M., Ohno K., Nagasaka T., Yoshino T., Takahashi HK., Yagi T., Fujiwara T.: Anti-high mobility group box 1 monoclonal antibody improves ischemia/reperfusion injury and mode of liver regeneration after partial hepatectomy. *Am J Surg.* 211, 179-188 (2016) 査読有り
- 435)Izushi Y., Teshigawara K., Liu K., Wang D., Wake H., Takata K., Yoshino T., Takahashi HK., Mori S., Nishibori M.: Soluble form of the receptor for advanced glycation end-products attenuates inflammatory pathogenesis in a rat model of lipopolysaccharide-induced lung injury. *J Pharmacol Sci.* 130(4), 226-34 (2016) 査読有り
- 436)Wake H., Mori S., Liu K., Morioka Y., Teshigawara K., Sakaguchi M., Kuroda K., Gao Y., Takahashi H., Ohtsuka A., Yoshino T., Morimatsu H., Nishibori M.: Histidine-Rich Glycoprotein Prevents Septic Lethality through Regulation of Immunothrombosis and Inflammation. *EBioMedicine.* 9, 180-94 (2016) 査読有り
- 437)Haruma J., Teshigawara K., Hishikawa T., Wang D., Liu K., Wake H., Mori S., Takahashi HK., Sugi K., Date I., Nishibori M.: Anti-high mobility group box-1 (HMGB1) antibody attenuates delayed cerebral vasospasm and brain injury after subarachnoid hemorrhage in rats. *Sci Rep.* 6, 37755 (2016) 査読有り
- 438) Fujiwara K., Fujita Y., Kasai A., Onaka Y., Hashimoto H., Okada H., Yamashita T.:Deletion of JMJD2B in neurons leads to defective spine maturation, hyperactive behavior and memory deficits in mouse. *Transl Psychiatry.* 6, e766 (2016) 査読有り
- 439)Niwa A., Nishibori M., Hamasaki S., Kobori T., Liu K., Wake H., Mori S., Yoshino T., Takahashi H.: Voluntary exercise induces neurogenesis in the hypothalamus and ependymal lining of the third ventricle. *Brain Struct Funct.* 221(3), 1653-66 (2016) 査読有り
- 440)Yonesaka K., Kudo K., Nishida S., Takahama T., Iwasa T., Yoshida T., Tanaka K., Takeda M., Kaneda H., Okamoto I., Nishio K., Nakagawa K.:The pan-HER family tyrosine kinase inhibitor afatinib overcomes HER3 ligand heregulin-mediated resistance to EGFR inhibitors in non-small cell lung cancer. *Oncotarget,* 6(32), 33602-11 (2015) 査読有り
- 441)Ishii H., Azuma K., Sakai K., Kawahara A., Yamada K., Tokito T., Okamoto I., Nishio K., Hoshino T.:Digital PCR analysis of plasma cell-free DNA for non-invasive detection of drug resistance mechanisms in EGFR mutant NSCLC: Correlation with paired tumor samples. *Oncotarget,* 6(31), 30850-8 (2015) 査読有り
- 442)Satoh T., Lee KH., Rha SY., Sasaki Y., Park SH., Komatsu Y., Yasui H., Kim TY., Yamaguchi K., Fuse N., Yamada Y., Ura T., Kim SY., Munakata M., Saitoh S., Nishio K., Morita S., Yamamoto E., Zhang Q., Kim JM., Kim YH., Sakata Y.:Randomized phase II trial of nimotuzumab plus

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- irinotecan versus irinotecan alone as second-line therapy for patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 18(4), 824-32 (2015) 査読有り
- 443)*Kimura M., Makio K., Hara K., Hiruma W., Fujita Y., Takata T., Nishio K., Ono N.: A Supramolecular Substance, [2] Rotaxane, Induces Apoptosis in Human Molt-3 Acute Lymphoblastic Leukemia Cells. *Drug Res (Stuttg)*, 65(11), 614-6 (2015) 査読有り
- 444)*Sakiyama T., Tsurutani J., Iwasa T., Kawakami H., Nonagase Y., Yoshida T., Tanaka K., Fujisaka Y., Kurata T., Komoike Y., Nishio K., Nakagawa K.: A phase I dose-escalation study of eribulin and S-1 for metastatic breast cancer. *Br J Cancer*, 112(5), 819-24 (2015) 査読有り
- 445)Kogita A., Togashi Y., Hayashi H., Banno E., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Takeyama Y., Okuno K., Nakagawa K., Nishio K.: Activated MET acts as a salvage signal after treatment with alectinib, a selective ALK inhibitor, in ALK-positive non-small cell lung cancer. *Int J Oncol*, 46(3), 1025-30 (2015) 査読有り
- 446)Yonesaka K., Satoh T., Ueda S., Yoshida T., Takeda M., Shimizu T., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K.: Circulating hepatocyte growth factor is correlated with resistance to cetuximab in metastatic colorectal cancer. *Anticancer Res*, 35(3), 1683-9 (2015) 査読有り
- 447)*Yamaue H., Tsunoda T., Tani M., Miyazawa M., Yamao K., Mizuno N., Okusaka T., Ueno H., Boku N., Fukutomi A., Ishii H., Ohkawa S., Furukawa M., Maguchi H., Ikeda M., Togashi Y., Nishio K., Ohashi Y.: Randomized phase II/III clinical trial of elpamotide for patients with advanced pancreatic cancer: PEGASUS-PC Study. *Cancer Sci*, 106(7), 883-90 (2015) 査読有り
- 448)Togashi Y., Kogita A., Sakamoto H., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Kitano M., Okuno K., Kudo M., Nishio K.: Activin signal promotes cancer progression and is involved in cachexia in a subset of pancreatic cancer. *Cancer Lett*, 356(2 Pt B), 819-27 (2015) 査読有り
- 449)*Hayashi H., Arao T., Togashi Y., Kato H., Fujita Y., De Velasco MA., Kimura H., Matsumoto K., Tanaka K., Okamoto I., Ito A., Yamada Y., Nakagawa K., Nishio K.: The OCT4 pseudogene POU5F1B is amplified and promotes an aggressive phenotype in gastric cancer. *Oncogene*, 34(2), 199-208 (2015) 査読有り
- 450)Sakai K., Takeda M., Okamoto I., Nakagawa K., Nishio K.: Multiple regulatory mechanisms of hepatocyte growth factor expression in malignant cells with a short poly(dA) sequence in the HGF gene promoter. *Oncol Lett*, 9(1), 405-10 (2015) 査読有り
- 451)*Togashi Y., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakagawa K., Nishio K.: Inhibition of beta-Catenin enhances the anticancer effect of irreversible EGFR-TKI in EGFR-mutated non-small-cell lung cancer with a T790M mutation. *J Thorac Oncol*, 10(1), 93-101 (2015) 査読有り
- 452)Kogita A., Yoshioka Y., Sakai K., Togashi Y., Sogabe S., Nakai T., Okuno K., Nishio K.: Inter- and intra-tumor profiling of multi-regional colon cancer and metastasis. *Biochem Biophys Res Commun*, 458(1), 52-6 (2015) 査読有り
- 453)Yoshioka Y., Togashi Y., Chikugo T., Kogita A., Taguri M., Terashima M., Mizukami T., Hayashi H., Sakai K., De Velasco MA., Tomida S., Fujita Y., Tokoro T., Ito A., Okuno K., Nishio K.: Clinicopathological and genetic differences between low-grade and high-grade colorectal mucinous adenocarcinomas. *Cancer*, 121(24), 4359-68 (2015) 査読有り
- 454)*Kobayashi Y., Togashi Y., Yatabe Y., Mizuuchi H., Jangchul P., Kondo C., Shimoji M., Sato K.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Suda K., Tomizawa K., Takemoto T., Hida T., Nishio K., Mitsudomi T.: EGFR Exon 18 Mutations in Lung Cancer: Molecular Predictors of Augmented Sensitivity to Afatinib or Neratinib as Compared with First- or Third-Generation TKIs. *Clin Cancer Res*, 21(23), 5305-13 (2015) 査読有り

455)*Iwamoto Y., Mitsudomi T., Sakai K., Yamanaka T., Yoshioka H., Takahama M., Yoshimura M., Yoshino I., Takeda M., Sugawara S., Kawaguchi T., Takahashi T., Ohta M., Ichinose Y., Atagi S., Okada M., Saka H., Nakagawa K., Nakanishi Y., Nishio K.: Randomized Phase II Study of Adjuvant Chemotherapy with Long-term S-1 versus Cisplatin+S-1 in Completely Resected Stage II-III Non-Small Cell Lung Cancer. *Clin Cancer Res*, 21(23), 5245-52 (2015) 査読有り

456)Togashi Y., Mizuuchi H., Tomida S., Terashima M., Hayashi H., Nishio K., Mitsudomi T.: MET gene exon 14 deletion created using the CRISPR/Cas9 system enhances cellular growth and sensitivity to a MET inhibitor. *Lung Cancer*, 90(3), 590-7 (2015) 査読有り

457)Sakai K., Takeda H., Nishijima N., Orito E., Joko K., Uchida Y., Izumi N., Nishio K., Osaki Y.: Targeted DNA and RNA sequencing of fine-needle biopsy FFPE specimens in patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with sorafenib. *Oncotarget*, 6(25), 21636-44 (2015) 査読有り

458)Togashi Y., Mizuuchi H., Kobayashi Y., Hayashi H., Terashima M., Sakai K., Banno E., Mizukami T., Nakamura Y., De Velasco MA., Fujita Y., Tomida S., Mitsudomi T., Nishio K.: An activating ALK gene mutation in ALK IHC-positive/FISH-negative nonsmall-cell lung cancer. *Ann Oncol*, 26(8), 1800-1 (2015) 査読有り

459)Mizukami T., Togashi Y., Sogabe S., Banno E., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakajima TE., Boku N., Nishio K.: EGFR and HER2 signals play a salvage role in MEK1-mutated gastric cancer after MEK inhibition. *Int J Oncol*, 47(2), 499-505 (2015) 査読有り

460)Suzuki T., Ishibashi K., Yumoto A., Nishio K., Ogasawara Y.: Utilization of arsenic trioxide as a treatment of cisplatin-resistant non-small cell lung cancer PC-9/CDDP and PC-14/CDDP cells. *Oncol Lett*, 10(2), 805-09 (2015) 査読有り

461)*Banno E., Togashi Y., Kobayashi Y., Hayashi H., Mitsudomi T., Nishio K.: Afatinib is especially effective against non-small cell lung cancer carrying an EGFR exon 19 deletion. *Anticancer Res*, 35(4), 2005-8 (2015) 査読有り

462)Yamaguchi T., Kurita T., Nishio K., Tsukada J., Hachisuga T., Morimoto Y., Iwai Y., Izumi H.: Expression of BAF57 in ovarian cancer cells and drug sensitivity. *Cancer Sci*, 106(4), 359-66 (2015) 査読有り

463)Togashi Y., Hayashi H., Okamoto K., Fumita S., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Nakagawa K., Nishio K.: Chronic nicotine exposure mediates resistance to EGFR-TKI in EGFR-mutated lung cancer via an EGFR signal. *Lung Cancer*, 88(1), 16-23 (2015) 査読有り

464)*Sakai K., Yoneshige A., Ito A., Ueda Y., Kondo S., Nobumasa H., Fujita Y., Togashi Y., Terashima M., De Velasco MA., Tomida S., Nishio K.: Performance of a novel KRAS mutation assay for formalin-fixed paraffin embedded tissues of colorectal cancer. *Springerplus*, 4, 7 (2015) 査読有り

465)Koike H., Nozawa M., De Velasco MA., Kura Y., Ando N., Fukushima E., Yamamoto Y., Hatanaka Y., Yoshikawa K., Nishio K., Uemura H.: Conditional PTEN-deficient mice as a prostate cancer chemoprevention model. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16(5), 1827-31 (2015) 査読有り

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 466)*Nishio K., Mitsudomi T.: Collateral chemoresistance to anti-microtubule agents in a lung cancer cell line with acquired resistance to erlotinib. *PLoS One*, 10(4), e0123901 (2015) 査読有り
- 467) Yamamoto Y., De Velasco MA., Kura Y., Nozawa M., Hatanaka Y., Oki T., Ozeki T., Shimizu N., Minami T., Yoshimura K., Yoshikawa K., Nishio K., Uemura H.: Evaluation of in vivo responses of sorafenib therapy in a preclinical mouse model of PTEN-deficient of prostate cancer. *J Transl Med*, 13, 150 (2015) 査読有り
- 468)*Sakai K., Tsurutani J., Yamanaka T., Yoneshige A., Ito A., Togashi Y., De Velasco MA., Terashima M., Fujita Y., Tomida S., Tamura T., Nakagawa K., Nishio K.: Extended RAS and BRAF Mutation Analysis Using Next-Generation Sequencing. *PLoS One*, 10(5), e0121891 (2015) 査読有り
- 469)*Suda K., Murakami I., Sakai K., Mizuuchi H., Shimizu S., Sato K., Tomizawa K., Tomida S., Yatabe Y., Nishio K., Mitsudomi T.: Small cell lung cancer transformation and T790M mutation: complimentary roles in acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancer. *Sci Rep*, 5, 14447 (2015) 査読有り
- 470) Yonesaka K., Takegawa N., Satoh T., Ueda H., Yoshida T., Takeda M., Shimizu T., Chiba Y., Okamoto I., Nishio K., Tamura T., Nakagawa K.: Combined Analysis of Plasma Amphiregulin and Heregulin Predicts Response to Cetuximab in Metastatic Colorectal Cancer. *PLoS One*, 10(11), e0143132 (2015) 査読有り
- 471) Tanaka Y., Aoyagi K., Minashi K., Komatsuzaki R., Komatsu M., Chiwaki F., Tamaoki M., Nishimura T., Takahashi N., Oda I., Tachimori Y., Arao T., Nishio K., Kitano S., Narumi K., Aoki K., Fujii S., Ochiai A., Yoshida T., Muto M., Yamada Y., Sasaki H.: Discovery of a Good Responder Subtype of Esophageal Squamous Cell Carcinoma with Cytotoxic T-Lymphocyte Signatures Activated by Chemoradiotherapy. *PLoS One*, 10(12), e0143804 (2015) 査読有り
- 472) Kano H., Okada K., Morimoto K., Bao W., Fukase K., Ito A., Okita Y.: Prediction of reversibility of intestinal mucosal damage after ischemia-reperfusion injury by plasma intestinal fatty acid-binding protein levels in pigs. *Perfusion*. 30, 617-625 (2015) 査読有り
- 473) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Blood pressure, renal biochemical parameters and histopathology in an original rat model of essential hypertension (SHRSP/Kpo strain). *Biomed Res*. 36, 169-177 (2015) 査読有り
- 474) Kato T., Mizuguchi N., Ito A.: Characteristics of podocyte injury in malignant hypertensive nephropathy of rats (SHRSP/Kpo strain). *Biomed Res*. 36, 313-321 (2015) 査読有り
- 475) Kato T., Oka K., Nakamura T., Ito A.: Bronchioalveolar morphogenesis of human bronchial epithelial cells depending upon hepatocyte growth factor. *J Cell Mol Med.* 19, 2818-2826. (2015) 査読有り
- 476) Fujita M., Matsui T., Ito A.: Biomedical insights into cell adhesion and migration from a viewpoint of central nervous system tumor immunology. *Front Cell Dev Biol*. 10.3389/fcell.2015.00055. (2015) 査読有り
- 477)*Takeda M., Sakai K., Terashima M., Kaneda H., Hayashi H., Tanaka K., Takahama T., Yoshida T., Iwasa T., Shimizu T., Nonagase Y., Kudo K., Tomida S., Mitsudomi T., Saigo K., Ito A., Nakagawa K., Nishio K.: Clinical application of amplicon-based next-generation sequencing to therapeutic decision-making in lung cancer. *Ann Oncol*. 26, 2477-2482. (2015) 査読有り
- 478) Yoneshige A., Hagiyama M., Fujita M., Ito A.: Pathogenic actions of cell adhesion molecule 1 in pulmonary emphysema and atopic dermatitis. *Front Cell Dev Biol*. 10.3389/fcell.2015.00075.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

(2015) 査読有り

- 479) De Velasco MA., Tanaka M., Yamamoto Y., Hatanaka Y., Koike H., Nishio K., Yoshikawa K., Uemura H.: Androgen deprivation induces phenotypic plasticity and promotes resistance to molecular targeted therapy in a PTEN-deficient mouse model of prostate cancer. *Carcinogenesis*, 35(9), 2142-53 (2014) 査読有り
- 480) Sakai K., Kazama S., Nagai Y., Murono K., Tanaka T., Ishihara S., Sunami E., Tomida S., Nishio K., Watanabe T.: Chemoradiation provides a physiological selective pressure that increases the expansion of aberrant TP53 tumor variants in residual rectal cancerous regions. *Oncotarget*, 5(20), 9641-9 (2014) 査読有り
- 481) Kogita A., Togashi Y., Hayashi H., Sogabe S., Terashima M., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Takeyama Y., Okuno K., Nakagawa K., Nishio K.: Hypoxia induces resistance to ALK inhibitors in the H3122 non-small cell lung cancer cell line with an ALK rearrangement via epithelial-mesenchymal transition. *Int J Oncol*, 45(4), 1430-6 (2014) 査読有り
- 482) Tanioka M., Sakai K., Sudo T., Sakuma T., Kajimoto K., Hirokaga K., Takao S., Negoro S., Minami H., Nakagawa K., Nishio K.: Transcriptional CCND1 expression as a predictor of poor response to neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab in HER2-positive/ER-positive breast cancer. *Breast Cancer Res Treat*, 147(3), 513-25 (2014) 査読有り
- 483) *Togashi Y., Arao T., Kato H., Matsumoto K., Terashima M., Hayashi H., De Velasco MA., Fujita Y., Kimura H., Yasuda T., Shiozaki H., Nishio K.: Frequent amplification of ORAOV1 gene in esophageal squamous cell cancer promotes an aggressive phenotype via proline metabolism and ROS production. *Oncotarget*, 5(10), 2962-73 (2014) 査読有り
- 484) Kimura H., Ohira T., Uchida O., Matsubayashi J., Shimizu S, Nagao T., Ikeda N., Nishio K.: Analytical performance of the cobas EGFR mutation assay for Japanese non-small-cell lung cancer. *Lung Cancer*, 83(3), 329-33 (2014) 査読有り
- 485) Yamaguchi Y., Yamaue H., Okusaka T., Okuno K., Suzuki H., Fujioka T., Otsu A., Ohashi Y., Shimazawa R., Nishio K., Furuse J., Minami H., Tsunoda T., Hayashi Y., Nakamura Y.: Guidance for peptide vaccines for the treatment of cancer. *Cancer Sci*, 105(7), 924-31 (2014) 査読有り
- 486) Kawakami H., Okamoto I., Yonesaka K., Okamoto K., Shibata K., Shinkai Y., Sakamoto H., Kitano M., Tamura T., Nishio K., Nakagawa K.: The anti-HER3 antibody patritumab abrogates cetuximab resistance mediated by heregulin in colorectal cancer cells. *Oncotarget*, 5(23), 11847-56 (2014) 査読有り
- 487) Sogabe S., Togashi Y., Kato H., Kogita A., Mizukami T., Sakamoto Y., Banno E., Terashima M., Hayashi H., De Velasco MA., Sakai K., Fujita Y., Tomida S., Yasuda T., Takeyama Y., Okuno K., Nishio K.: MEK inhibitor for gastric cancer with MEK1 gene mutations. *Mol Cancer Ther*, 13(12), 3098-106 (2014) 査読有り
- 488) Shiotani A., Murao T., Fujita Y., Fujimura Y., Sakakibara T., Nishio K., Haruma K. : Single nucleotide polymorphism markers for low-dose aspirin-associated peptic ulcer and ulcer bleeding. *J Gastroenterol Hepatol*, 29 Suppl 4, 47-52 (2014) 査読有り
- 489) Terashima M., Fujita Y., Togashi Y., Sakai K., De Velasco MA., Tomida S., Nishio K.: KIAA1199 interacts with glycogen phosphorylase kinase beta-subunit (PHKB) to promote glycogen breakdown and cancer cell survival. *Oncotarget*, 5(16), 7040-50 (2014) 査読有り
- 490) *Okamoto I., Sakai K., Morita S., Yoshioka H., Kaneda H., Takeda K., Hirashima T., Kogure Y.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Kimura T., Takahashi T., Atagi S., Seto T., Sawa T., Yamamoto M., Satouchi M., Okuno M., Nagase S., Takayama K., Tomii K., Maeda T., Oizumi S., Fujii S., Akashi Y., Nishino K., Ebi N., Nakagawa K., Nakanishi Y., Nishio K.: Multiplex genomic profiling of non-small cell lung cancers from the LETS phase III trial of first-line S-1/carboplatin versus paclitaxel/carboplatin: results of a West Japan Oncology Group study. *Oncotarget*, 5(8), 2293-304 (2014) 査読有り
- 491) Fujita Y., Koinuma S., De Velasco MA., Bolz J., Togashi Y., Terashima M., Hayashi H., Matsuo T., Nishio K.: Melanoma transition is frequently accompanied by a loss of cytoglobin expression in melanocytes: a novel expression site of cytoglobin. *PLoS One*, 9(4), e94772 (2014) 査読有り
- 492) Togashi Y., Sakamoto H., Hayashi H., Terashima M., De Velasco MA., Fujita Y., Kodera Y., Sakai K., Tomida S., Kitano M., Ito A., Kudo M., Nishio K.: Homozygous deletion of the activin A receptor, type IB gene is associated with an aggressive cancer phenotype in pancreatic cancer. *Mol Cancer*, 13, 126 (2014) 査読有り
- 493) Ando K., Takahashi F., Kato M., Kaneko N., Doi T., Ohe Y., Koizumi F., Nishio K., Takahashi K.: Tocilizumab, a proposed therapy for the cachexia of Interleukin6-expressing lung cancer. *PLoS One*, 9(7), e102436 (2014) 査読有り
- 494) *Koyama N., Saito K., Nishio Ka Y., Yusa W., Yamamoto N., Yamada Y., Nokihara H., Koizumi F., Nishio K., Tamura T.: Pharmacodynamic change in plasma angiogenic proteins: a dose-escalation phase 1 study of the multi-kinase inhibitor lenvatinib. *BMC Cancer*, 14, 530 (2014) 査読有り
- 495) Togashi Y., Hayashi H., Nakagawa K., Nishio K.: Clinical utility of erlotinib for the treatment of non-small-cell lung cancer in Japanese patients: current evidence. *Drug Des Devel Ther*, 8, 1037-46 (2014) 査読有り
- 496) Kawakami H., Okamoto I., Okamoto W., Tanizaki J., Nakagawa K., Nishio K.: Targeting MET Amplification as a New Oncogenic Driver. *Cancers (Basel)*, 6(3), 1540-52 (2014) 査読有り
- 497) Kim H., Terazono H., Nakamura Y., Sakai K., Hattori A., Odaka M., Girault M., Arao T., Nishio K., Miyagi Y., Yasuda K.: Development of on-chip multi-imaging flow cytometry for identification of imaging biomarkers of clustered circulating tumor cells. *PLoS One*, 9(8), e104372 (2014) 査読有り
- 498) *Terashima M., Sakai K., Togashi Y., Hayashi H., De Velasco MA., Tsurutani J, Nishio K.: Synergistic antitumor effects of S-1 with eribulin in vitro and in vivo for triple-negative breast cancer cell lines. *Springerplus*, 3, 417 (2014) 査読有り
- 499) Sakurai MA., Ozaki Y., Okuzaki D., Naito Y., Sasakura T., Okamoto A., Tabara H., Inoue T., Hagiyama M., Ito A., Yabuta N., Nojima H.: Gefitinib and luteolin cause growth arrest of human prostate cancer PC-3 cells via inhibition of cyclin G-associated kinase and induction of miR-630. *Plos One*. 9, e100124. (2014) 査読有り
- 500) Inoue T., Hagiyama M., Yoneshige A., Kato T., Enoki E., Maenishi O., Chikugo T., Kimura M., Satou T., Ito A.: Increased ectodomain shedding of cell adhesion molecule 1 from pancreatic islets in type 2 diabetic pancreata: correlation with hemoglobin A1c levels. *Plos One*. 9, e100988. (2014) 査読有り
- 501) Kato T., Mizuno S., Ito A.: A decrease in glomerular endothelial cells and endothelial-mesenchymal transition during glomerulosclerosis in the Tensin2-deficient mice (ICGN strain). *Acta Histochem Cytochem*. 47, 265-271. (2014) 査読有り
- 502) Okuma Y., Liu K., Wake H., Liu R., Nishimura Y., Hui Z., Teshigawara K., Haruma J., Yamamoto Y., Yamamoto H., Date I., Takahashi H.K., Mori S., Nishibori M.: Glycyrrhizin inhibits traumatic

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

brain injury by reducing HMGB1-RAGE interaction. *Neuropharmacology*, 85, 18-25 (2014) 査読有り

503) Kobori T., Fujiwara S., Miyagi K., Harada S., Nakamoto K., Nakagawa T., Takahashi H., Narita M., Tokuyama S.: Involvement of Moesin in the Development of Morphine Analgesic Tolerance through P-glycoprotein at the Blood-Brain Barrier. *Drug Metab Pharmacokinet.* 29, 482-489 (2014) 査読有り

<図書>

研究課題(A): 増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発 (計 10 件)

- 1) 仲西功、中村真也 : Salacinol をシードとする新規 α -グルコシダーゼ阻害化合物の *in silico* ドラッグデザイン研究. サラシア属植物普及協会監修、大地からの贈り物サラシア、メディカルレビュー社、2018、pp176-185.
- 2) Morikawa T. ed. Biological Activity of Natural Secondary Metabolite Products. Printed Edition of the Special Issue Published by *Int. J. Mol. Sci.*, MDPI (Basel, Switzerland), 2018
- 3) Morikawa T. ed. The Molecular Aspect of Natural Secondary Metabolite Products in Health and Disease. Printed Edition of the Special Issue Published by *Int. J. Mol. Sci.*, MDPI (Basel, Switzerland), 2018.
- 4) 森川敏生: 薬用食品の開発II—薬用・有用植物の機能性食品素材への応用—<<普及版>>, 監修: 吉川雅之, 村岡 修, 第 11 章 デイジーフラワーの血中中性脂質上昇抑制サポニン成分. シーエムシー出版(東京), pp. 132—140. 2018
- 5) 森川敏生: 薬用食品の開発II—薬用・有用植物の機能性食品素材への応用—<<普及版>>, 監修: 吉川雅之, 村岡 修, 第 18 章 ジャワナガコショウの肝保護作用成分. シーエムシー出版(東京), pp. 205—217. 2018
- 6) 仲西功 : 薬をいかにデザインするか—設計図づくりと分子の探し方. 京都大学大学院薬学研究科編、くすりをつくる研究者の仕事、化学同人、pp109-134. 2017
- 7) 森川敏生: カンカニクジュヨウ (*Cistanche tubulosa*) の耐糖能改善作用成分. 高松 智 監修, 生薬・薬用植物研究の最新動向, 株式会社シーエムシー出版(東京), pp. 41—49. 2017
- 8) 森川敏生: エバーラスティングフラワーの血糖上昇抑制作用. 波多野力, 下田博司 監修, ポリフェノール: 機能性成分研究開発の最新動向, 株式会社シーエムシー出版(東京), 2016, pp. 174—183.
- 9) 森川敏生: コンプリヘンシブ基礎化学 有機・物化・分析・薬剤を学ぶために. 大内秀一 編著, 第 2, 11, 12章分筆, 京都廣川書店(東京), 2016, pp. 5—20, 167—208.
- 10) 森川敏生, 二宮清文: 茶花の生体機能フラボノイドおよびサポニン成分を指標とした品質評価. 川原信夫 監修, 薬用植物・生薬の最前線～国内栽培技術から品質評価, 製品開発まで～. 株式会社シーエムシー出版(東京), 2014, pp. 87—101.

研究課題(B): 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析 (計 8 件)

- 11) Matsui T, Fujita M, Ito A, eds: Cell Adhesion and Migration in the Development of Multicellular Organisms, Lausanne, Frontiers, 2019. doi: 10.3389/978-2-88945-694-9
- 12) 岩城正宏: コンパス生物薬剤学(改訂第2版), 伊藤智夫編, 南江堂, 264 ページ, 2016.
- 13) 岩城正宏, 金尾義治ら: New パワーブック生物薬剤学(第3版), 廣川書店, 533 ページ, 2016
- 14) 岩城正宏ら: 医療薬学 VI 薬の生体内運命, 日本薬学会編, 東京化学同人, 195 ページ, 2015

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 15) 岩城正宏, 荻原琢男ら: わかりやすい生物薬剤学(第5版), 廣川書店, 330 ページ, 2014.
- 16) 藤原俊伸: 生化学「みにれびゅう」, 翻訳開始過程を標的とした蛋白質合成のファインチューニング, 公益社団法人日本生化学会, 88(1), pp. 135-138, 2016
- 17) 深尾亜喜良, 藤原俊伸: 臨床免疫・アレルギー科, ヒトにおける microRNA が蛋白質合成を制御する機序の解明, 科学評論社, 64(3), pp. 307-312, 2015
- 18) 深尾亜喜良, 藤原俊伸: 細胞工学「パラダイムシフトする翻訳制御研究」, microRNA 機構と RNA 結合タンパク質による翻訳制御, 学研メディカル秀潤社, 34(8), pp. 767-771, 2015

研究課題(C):臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズのPOC (計 81 件)

- 19) 西尾和人, 予後因子、治療効果予測因子としてのバイオマーカー, 入門腫瘍内科学, 南江堂, 改訂第 3 版,
- 20) 西尾和人, がんゲノム医療の現状と今後、免疫療法への応用, 癌と化学療法, 癌と化学療法社, 2019.09, 46(9),
西尾和人, がんゲノム医療の提供体制, 臨床病理レビュー, (株)宇宙堂, 2019 夏,,
- 21) 西尾和人, NGS 多遺伝子パネル検査による germline 変異の検出: がんの臨床シークエンスと secondary findings への対応, がん分子標的治療, メディカルレビュー社, 2019.03, Vol.17 No.1,
- 22) 西尾和人, リキッドバイオプシーの原理, 泌尿器外科, 医学図書出版(株), 2019.01, 32(1), 19-23
- 23) 西尾和人, 日本外科学会 生涯教育セミナー「講演の記録」, 日本外科学会雑誌, 日本外科学会, 2019.03 以降, 120(2)以降掲載予定,
- 24) 西尾和人, 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会のお知らせ, JAMTTC ニュースレター, 日本がん分子標的治療学会,, No.22-1,
- 25) 西尾和人, シンポジウム「がんゲノム医療」での発表内容について, MMJ(毎日メディカルジャーナル), 毎日新聞出版株式会社, 2018.10.15, Vol.14 No.5, 138
- 26) 西尾和人, 10. がんゲノムに精通した人材育成のための教育プログラム, Progress in Medicine, (株)ライフサイエンス, 2018.09.10, 2018.9(vol.38, No9), 55-58
- 27) 西尾和人, 【ほかの分子標的薬の動向】 分子標的薬のバイオマーカー探索, 肝胆臓, (株)アークメディア, 2018.8, 77(2)特大号, 409-412
- 28) 西尾和人, がん遺伝子パネル検査とコンパニオン診断薬の関係性, 日本医師会雑誌, 日本医師会, 2018.10, 第147巻第7号, 1412
- 29) 西尾和人, 10 年間の歩みと現在の私, 展望, 公益財団法人 小林がん学術振興会, 2018.11, No.12, 3-4
- 30) 西尾和人, 2018.05.19 講演内容の記録, 日本外科学会雑誌, 日本外科学会, 2019.03, 第120巻第2号,
- 31) 西尾和人, 固形癌を対象としたリキッドバイオプシーの臨床応用, 臨床検査, 医学書院, 2018.11, 62(11), 1451-1458
- 32) 西尾和人, リキッドバイオプシーによる臨床シークエンス, 遺伝子医学 MOOK, (株)メディカルトゥ, 2018.9, 34号, 160-163
- 33) 西尾和人, actionable パスウェイ「上皮間葉移行とがん幹細胞のシグナルパスウェイ」, 実験医学, (株)羊土社, 2018.09, 2018.9 増刊号, 131-134
- 34) 西尾和人, がんゲノム医療における人材育成, 遺伝子医学, (株)メディカルトゥ, 2018.09, 復刊(1)通巻(26),
- 35) 西尾和人, バイオマーカーの探索, 消化器・肝臓内科, 科学評論社, 2018.07.28, 4(1), 80-85
- 36) 西尾和人, シリーズ「最新のがん」がんゲノム医療の進展, 近畿大学医学雑誌, 近畿大学医学部, 2018.06, 43(1-2), 11-16
- 37) 西尾和人, Precision Medicine 最前線 がん臨床シークエンスの実装, 日本抗加齢医学会総会プログラム・抄録集 18 回, 日本抗加齢医学会, 2018.05., 131-131
- 38) 西尾和人, 呼吸器内視鏡における新技術 内視鏡サンプルを用いたがんゲノム医療, 気管支学,, 2018.05, 40(Suppl.), S164-S164
- 39) 西尾和人, Liquid biopsy への期待と限界, 医学のあゆみ, 医歯薬出版(株), 2018.05, 265(6), 491-494

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 40) 西尾和人,6.膵癌・胆嚢癌におけるリキッドバイオプシーを用いたがんゲノム解析,胆と膵,医学図書出版(株),2018.04,39(4),319-322
- 41) 西尾和人,前立腺癌のバイオマーカー「リキッドバイオプシーの現況」,Prostate Journal,医学図書出版(株),2018.04,5(1),3-6
- 42) 西尾和人,次世代シーケンサーを用いたがんゲノム医療の実装に向けたアプローチ,ファインケミカル誌,CMC出版,2018,2018.4月号,26-32
- 43) 西尾和人,躍動するがんの臨床シークェンス,臨床病理,,2017.12,65(12),1317-1317
- 44) 西尾和人,坂井和子,がん転移学(上)-がん転移のメカニズムと治療戦略:その基礎と臨床-【がん転移の臨床(研究) 転移がんの診断 転移の分子診断,日本臨牀,日本臨牀社,2017.11,75(増刊 8 がん転移学(上)),276-281
- 45) 西尾和人,リキッドバイオプシーに関する現状と展望,肺癌,榊杏林社,2017.11,57(6),733-738
- 46) 西尾和人,【がん分子標的薬の効果と副作用-期待される効果と評価-】がん分子標的治療に必要なバイオマーカー,日本臨牀,日本臨牀社,2017.09,75(9),1448-1452
- 47) 西尾和人,坂井和子,扁平上皮肺癌に対する薬物療法 新たな展開 扁平上皮肺癌のアクションナブルな遺伝子異常,肺癌,榊杏林社,2017.09,57(5),371-371
- 48) 西尾和人,坂井和子,ペムトレキセドが長期著効したRET融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の1例,肺癌,榊杏林社,2017.09,57(5),545-545
- 49) 坂井 和子,西尾和人,【肝細胞癌の化学療法が変わる】ソラフェニブ治療の有効性 ソラフェニブの治療効果予測バイオマーカー,肝胆膵,アークメディア,2017.08,75(2),264-270
- 50) 西尾和人,坂井和子,【肝細胞癌の化学療法が変わる】分子標的薬の開発のこれまでを振り返る TKIのキナーゼマッピングから肝癌治療の臨床を考える 分子標的治療のバイオマーカー,肝胆膵,アークメディア,2017.08,75(2),419-424
- 51) 坂井 和子,西尾和人,Alectinib(Alec)に耐性化したALK陽性肺癌にCeritinib(Ceri)が奏効した1例,肺癌,榊杏林社,2017.06,57(3),237
- 52) 坂井 和子,西尾和人,EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるニボルマブの有効性と効果予測因子の解析,肺癌,榊杏林社,2017.06,57(3),239-239
- 53) 坂井 和子,西尾和人,比較的早期の肺癌患者由来 cell free DNA の体細胞遺伝子変異検出率の臨床病理学的規定因子の検討,肺癌,榊杏林社,2017.06,57(3),252-253
- 54) 西尾和人,坂井 和子,富樫 庸介,寺嶋 雅人,テヘラスコ・マルコ,藤田 至彦,坂野 恵里,FGFR 遺伝子異常を有する肺扁平上皮癌の術後再発生存期間に対する影響とマルチキナーゼ阻害薬に対する感受性,肺癌,榊杏林社,2017.06,57(3),253-253
- 55) 西尾和人,がん Precision Medicine 実装のための取り組み,腫瘍内科,科学評論社,2017.10.,20(4),267-271
- 56) 西尾和人,がん創薬フロンティア,DOJIN BIOSCIENCE シリーズ,化学同人,2018.10.,,
- 57) 西尾和人,特集「臨床シークェンスと病理診断」臨床シークェンスの概要,病理と臨床,(株)文光堂,2018.07,36(7),630-634
- 58) 西尾和人,トピックス欄,検査と技術,医学書院,2017,46(8),830-833
- 59) 西尾和人,坂井和子,次世代シーケンサーを用いた臨床シークェンスの臨床応用,癌と化学療法,癌と化学療法社,2017.1,44(10),813-816
- 60) 西尾和人,ターニングポイントを迎えた肝癌診療,クリニシャン,エーサーイ社,2017.9,659,14/-152
- 61) 坂井和子,西尾和人,全ゲノム解析で発見される偶発的/二次的所見の報告に関する米国遺伝医学会の勧告の概要を知る,近畿大学医学会雑誌,近畿大学医学部,2017,42(1-2),25-31
- 62) 西尾和人,教育講演「がんゲノム医療の実装と遺伝性疾患の責任遺伝子探索・創薬から予防までのトータルケア」,日本遺伝カウンセリング学会誌,日本遺伝カウンセリング学会誌,2017.5,38(2),35-
- 63) 西尾和人,肺癌のゲノム異常と遺伝子診断,日本臨牀,日本臨牀社,2017.7,75(7),1022-1026
- 64) 西尾和人,肝細胞癌に対する分子標的治療とバイオマーカー,消化器外科,へるす出版,2017.5,40(6),919-923
- 65) 西尾和人,坂井和子,実地医療としてのがん臨床シークェンス,がん分子標的治療,メディカルレビュー社,2017.3,15(1),35-7

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 66) 高橋英夫, 西堀正洋 HMGB1とその受容体型研究の現状と展望 日本臨床 2016 74(4):703-711
- 67) 富樫庸介, 西尾和人 世代別(第 1、2、3)EGFR-TKI の耐性化機構 がん分子標的治療 14(2): 237-43, 2016.
- 68) 坂井和子, 西尾和人 【いま、がんのクリニカルシーケンスがおもしろい!】 cfDNA による遺伝子変異検出の臨床応用へ向けたデジタル PCR 技術 実験医学 34(18): 3074-3080, 2016.
- 69) 西尾和人 【肺癌診断・治療の最前線】 肺癌におけるクリニカルシーケンシング 呼吸器内科 29(3): 185-90, 2016.
- 70) 西尾和人 マルチ診断薬による肺癌最適化医療に向けての取り組み 肺癌 56(1): 48-54, 2016.
- 71) 西尾和人 【婦人科がん治療の新機軸】 次世代シーケンサーを用いたコンパニオン診断、クリニカルシーケンシング 産科と婦人科 83(1): 55-61, 2016.
- 72) 西尾和人, 坂井和子 Liquid biopsy による分子標的薬の治療感受性の予測 血液内科 72(1): 155-60, 2016.
- 73) 西尾和人 リキッド・バイオプシー 腫瘍内科 16(6): 608-12, 2015.
- 74) 水上拓郎, 西尾和人 FGFR 阻害薬のバイオマーカー がん分子標的治療 13(3): 371-76, 2015.
- 75) 西尾和人, 坂井和子, 富樫庸介 【固形がんの分子標的薬-基礎研究から創薬・開発・臨床まで-】 がん分子標的治療の臨床 PI3K/mTOR シグナル系と分子標的治療 日本臨床 73(8): 1315-22, 2015.
- 76) 富樫庸介, 西尾和人 【固形がんの分子標的薬-基礎研究から創薬・開発・臨床まで-】 がん分子標的治療の臨床 キナーゼ阻害剤とその耐性化機構 日本臨床 73(8): 1323-29, 2015.
- 77) 西尾和人 【消化器癌の分子標的治療】 消化器がんのバイオマーカー 細胞 47(9): 442-45, 2015.
- 78) 富田秀太, 坂井和子, 西尾和人 バイオマーカー探索における bioinformatics の役割 がん分子標的治療 13(1): 113-18, 2015.
- 79) 西尾和人 用語解説 circulating DNA Cancer Board of the Breast 1(1): 67, 2015.
- 80) 富田秀太, 坂井和子, 西尾和人 ゲノム解析に基づく新しい分子標的治療】次世代型コンパニオン診断薬の創出を目指したゲノム解析 がん分子標的治療 12(4): 382-87, 2015.
- 81) 富樫庸介, 西尾和人 診断の進歩 シークエンス技術の発展と肺癌の driver oncogene Annual Review 呼吸器 2015: 133-40, 2015.
- 82) 高橋 英夫 Annual Review 呼吸器 2014, 66-71, 中外医学社
- 83) 西尾和人 【個別化医療の新たな展開】 肺がんにおけるマルチプレックス診断薬開発 細胞 46(14): 683-86, 2014.
- 84) 富樫庸介, 西尾和人 【新技術の呼吸器への応用を考える】 ゲノム解析技術と呼吸器 THE LUNG-perspectives 22(4): 401-07, 2014.
- 85) 西尾和人 【肺癌の分子標的治療 個別化薬物治療の新たな展開】 個別化薬物治療のための遺伝子診断を徹底理解! マルチプレックス遺伝子診断による肺癌薬物治療の新展開 薬局 65(12): 2895-99, 2014.
- 86) 西尾和人, 坂井和子, 富樫庸介 【コンパニオン診断の進展 2014-2015-個別化医療を進めるために-】 個別化医療の実現に向けて 分子標的治療の実用化とコンパニオン診断 臨床病理レビュー(153): 23-27, 2014.
- 87) 西尾和人, 坂井和子 【次世代シーケンス(NGS)を含むゲノム解析技術の導入による新しい個別化治療の展開】 肺がんにおけるマルチプレックス診断薬開発 腫瘍内科 14(4): 343-47, 2014.
- 88) 西尾和人, 坂井和子 【個別化医療を拓く がんゲノム研究-解き明かされるがんの本質と分子診

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

断・治療応用への展開】(第2章)がん分子標的・個別化治療の最前線 個別化医療の実現に向けた臨床研究基盤 がんの個性に応じた診断を可能にするクリニカルシーケンシング 実験医学 32(12): 1993-96, 2014.

- 89) 富樫庸介, 西尾和人 次世代シーケンサーによるがんゲノム解析 呼吸器内科 26(2): 141-46, 2014.
- 90) 西尾和人 検査 UPDATE リキッド・バイオプシー 血中遊離 DNA を中心に SRL 宝函 35(2): 4-11, 2014.
- 91) 朴成和, 清水俊雄, 西尾和人, 設楽紘平 胃がんに対する分子標的薬開発の成否からの教訓 がん分子標的治療 12(2): 166-74, 2014.
- 92) 洪泰浩, 西尾和人, 中川和彦 新規モータープロテイン阻害剤のドセタキセル耐性非小細胞肺癌細胞株における増殖抑制効果の検討 近畿大学医学雑誌 39(1-2): 27-37, 2014.
- 93) 富樫庸介, 西尾和人 免疫チェックポイント阻害療法のバイオマーカー がん分子標的治療 12(1): 76-79, 2014.
- 94) 小寺康夫, 西尾和人【肝胆腫瘍のバイオインフォマティクス】診断・治療におけるバイオマーカーと治療標的分子 難治性腫瘍の早期診断マーカー 肝腫瘍の分子標的治療とバイオマーカー 肝・胆・膵 68(3): 415-19, 2014.
- 95) 塩谷昭子, 村尾高久, 藤田穰, 藤村宜憲, 榊原敬, 藤田至彦, 西尾和人, 春間賢【消化器疾患の病態生理】低用量アスピリン内服患者における小腸出血と遺伝子多型の検討 Progress in Medicine 34(3): 416-19, 2014.
- 96) 富田秀太, 西尾和人, Huiying L【常在細菌叢が操るヒトの健康と疾患】(第2章)健康を制御する常在細菌叢の新たなバイオロジー 皮膚細菌叢のバイオロジー 実験医学 32(5): 739-43, 2014.
- 97) 谷岡真樹, 坂井和子, 須藤保, 佐久間淑子, 根来俊一, 広利浩一, 高尾信太郎, 南博信, 中川和彦, 西尾和人 エストロゲン受容体関連遺伝子発現に基づいて HER2 陽性乳癌に対して化学療法個別化治療を目指す基盤構築 大和証券ヘルス財団研究業績集(37): 119-26, 2014.
- 98) 富樫庸介, 西尾和人【最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見-】個別化治療のためのバイオマーカー 日本臨床 72(増刊2 最新がん薬物療法学): 697-700, 2014.
- 99) 坂井和子, 西尾和人 診断の進歩 次世代シーケンスと肺癌治療 Annual Review呼吸器 2014: 134-37, 2014.

<学会発表>

研究課題(A): 増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発 (654件)

- 1) 川瀬篤史, 井上裕太, 廣底美保, 杉原由華, 島田紘明, 岩城正宏: トランスポーター裏打ちタンパク質を利用した抗がん薬デリバリー効率の改善. 日本薬学会第139年会(千葉)2019.3.
- 2) 島田紘明, 橋本凌汰, 青木 彩, 川瀬篤史, 岩城正宏: 四塩化炭素誘発性肝障害における OATP2A1 の役割. 日本薬学会第139年会(千葉)2019.3.
- 3) 大場憲一, 島田紘明, 橋本凌汰, 川瀬篤史, 岩城正宏: カルバマゼピン誘発性肝障害における肝プロスタグランジン E₂ 動態調節機構. 日本薬学会第139年会(千葉)2019.3.
- 4) 廣底美保, 川瀬篤史, 井上裕太, 杉原由華, 小山勇之介, 島田紘明, 岩城正宏: 抗がん薬デリバリー効率の改善を目指して ~トランスポーター裏打ちタンパク質の調節を利用したトランスポーター発現低下への試み~. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム(大阪) 2019.3.
- 5) 清水佑里子, 島田紘明, 濱口健斗, 川瀬篤史, 岩城正宏: ジクロフェナクのグルクロン酸抱合

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- に与える Ca^{2+} および Mg^{2+} の影響. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム(大阪)2019.3.
- 6) 大場憲一, 島田紘明, 橋本凌汰, 川瀬篤史, 岩城正宏: 肝臓でのシトクロム P450 誘導過程における Prostaglandin E₂ 動態調節. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム(大阪)2019.3.
 - 7) 河津 有貴, 吉岡 賢司, 中川 愛理, 露口 正人, 中村 真也, 西脇 敬二, 木下 誉富, 仲西 功: プリン骨格を有する CK2 阻害剤の構造活性相関研究—プリン骨格の互変異性の検討—, 未来創薬医療イノベーションシンポジウム (大阪) 2019.3.
 - 8) 吉岡 賢司, 中川 愛理, 谷口 誠哉, 露口 正人, 中村 真也, 西脇 敬二, 木下 誉富, 仲西 功: プリン骨格を有する新規 CK2 阻害剤の設計、合成と構造活性相関研究、未来創薬医療イノベーションシンポジウム (大阪) 2019.3.
 - 9) 西尾 政輝, 中西 伸介, 中村 真也, 西脇 敬二, 仲西 功: Pyrazole 骨格を有する CK2 阻害剤の窒素スキャンによる構造活性・物性相関研究、未来創薬医療イノベーションシンポジウム (大阪) 2019.3.
 - 10) 中村武浩: 新規錯体医薬品の開発に向けた基礎研究-血管細胞増殖を活性化する亜鉛錯体. 第 5 回医療と介護の総合展大阪(メディカルジャパン大阪)2019. 2.
 - 11) 山本 哲志, 森山 由瑛, 三田村 邦子, 多賀 淳: メープルシロップに含まれるタンパク質成分による大腸癌細胞に対する抗腫瘍効果の検討. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3.
 - 12) 佐藤亮介: MAPK シグナルが制御する RNA 結合タンパク質. 第 34 回 HiHA Seminar (広島) (招待セミナー)2018 年 12 月 7 日
 - 13) 佐藤亮介, 原伸樹, 川崎有記, 高崎輝恒, 杉浦麗子: RNA 結合タンパク質 Rcn1 の RNA 結合能依存的/非依存的なストレス顆粒制御機構:第 41 回日本分子生物学会年会(横浜) 2018 年 11 月 28~30 日
 - 14) 高崎輝恒, 佐藤亮介, 杉浦麗子: カルシニューリン制御因子 Rcn1 の新たな役割 ~酸化ストレス応答経路におけるネガティブフィードバック作用~. 第 41 回日本分子生物学会年会(横浜)2018 年 11 月 28~30 日
 - 15) 杉浦麗子: 免疫調節薬を超えて:フィンゴリモド (FTY720) の細胞死誘導機構における酸化ストレスと鉄ホメオスタシスの関わり. 第 41 回日本分子生物学会年会(横浜) (ワークショップ) 2018 年 11 月 28~30 日
 - 16) 神田勇輝, 永井善紀, 田中妙美, 土屋葵子, 水野綾美, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 杉浦麗子: MAPK シグナルは RNA 顆粒形成を介して Protein Kinase C の活性を空間的に制御する. 第 41 回日本分子生物学会年会(横浜)2018 年 11 月 28~30 日
 - 17) 池畑拓実, 大谷夏実, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 杉浦麗子: Hsp90 による MAPK シグナル制御機構の解析. 第 41 回日本分子生物学会年会(横浜)2018 年 11 月 28~30 日
 - 18) 池畑拓実, 大谷夏実, 高崎輝恒, 佐藤亮介, 杉浦麗子: Hsp90 シャペロンは MAPK シグナル経路構成因子の正常な細胞内局在に関与する. 第 134 回日本薬理学会近畿部会(大阪) 2018 年 11 月 23 日
 - 19) Tahara A, Touchi K, Torii R, Hagihara K, Satoh R, Takasaki T, Wolf D, Sugiura R: A role of α -Endosulfine homolog Igo1 in oxidative stress responses. Workshop on Frontiers in Phosphatase Research and Drug Discovery (ICPP13)(Tokyo) 2018 年 10 月 23~25 日
 - 20) Takasaki T, Satoh R, Sugiura R: A novel role for the regulator of calcineurin Rcn1 in negative feedback regulation of the stress-activated MAPK signaling. Workshop on Frontiers in Phosphatase Research and Drug Discovery (ICPP13)(Tokyo) 2018 年 10 月 23~25 日
 - 21) Kanda Y, Mizuno A, Satoh R, Takasaki T, Sugiura R: ACA-28, an ERK MAPK signaling

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- modulator, influences DUSP6 expression. Workshop on Frontiers in Phosphatase Research and Drug Discovery (ICPP13)(Tokyo) 2018 年 10 月 23~25 日
- 22) 佐藤亮介 : RNA 結合タンパク質の局在制御と MAPK シグナル調節機構—RNA 結合タンパク質の局在制御を標的とした医薬品開発に向けて. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)(受賞講演)2018 年 10 月 13 日
- 23) 濱田直弥, 川崎有記, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 田邊元三, 石川文洋, 杉浦麗子 : ERK 依存的細胞死誘導剤 ACA-28 のトリプルネガティブ乳癌に対する効果. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018 年 10 月 13 日
- 24) 當内健太, 廣井 遥, 田原彩花, 鳥居礼奈, 萩原加奈子, 佐藤亮介, 高崎輝恒, Dieter Wolf, 杉浦麗子 : ストレス応答 MAPK シグナルの調節における α -Endosulfine ホモログ Igo1 の役割. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018 年 10 月 13 日
- 25) 水野綾美, 神田勇輝, 高崎輝恒, 佐藤亮介, 杉浦麗子 : DUSP ホモログ Pmp1 のストレス依存的細胞内局在変化とストレス顆粒の関わり. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018 年 10 月 13 日
- 26) 杉浦麗子 : 新規化合物 ACA-28 はがん細胞特異的に ERK シグナルを活性化することにより ERK 依存的細胞死を誘導する. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018 年 9 月 27~29 日
- 27) 杉浦麗子 : 新規 ERK MAPK シグナル経路標的薬の発見とがん治療への応用. 第 91 回日本生化学会大会(京都)(シンポジウム)2018 年 9 月 24~26 日
- 28) 水野綾美, 神田勇輝, 高崎輝恒, 佐藤亮介, 杉浦麗子 : DUSP ホモログ Pmp1 のストレス依存的細胞内局在変化と MAPK シグナル制御との関わり. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 29) 佐藤亮介, 原伸樹, 川崎有記, 高崎輝恒, 杉浦麗子 : RNA 結合タンパク質 Rnc1 の空間制御を介した MAPK シグナル調節機構とストレス顆粒形成制御. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 30) 土屋葵子, 神田勇輝, 永井善紀, 田中妙美, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 杉浦麗子 : DEAD box 型 RNA ヘリケース Ded1 による PKC/MAPK シグナル制御機構. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 31) 濱田直弥, 川崎有記, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 田邊元三, 石川文洋, 杉浦麗子 : ERK 依存的細胞死誘導剤 ACA-28 の高活性アナログによるがん細胞増殖抑制. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 32) 嶋田絵理香, 神田勇輝, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 杉浦麗子 : オートファジー関連因子 Atg1 と MAPK および Ca^{2+} /カルシニューリンシグナルの機能的関わり. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 33) 當内健太, 廣井遥, 田原彩花, 鳥居礼奈, 萩原加奈子, 佐藤亮介, 高崎輝恒, Dieter Wolf, 杉浦麗子 : α -Endosulfine ホモログ Igo1 はストレス応答 MAPK シグナルの調節に関わる. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 34) 田原彩花, 廣井遥, 當内健太, 萩原加奈子, 佐藤亮介, 高崎輝恒, Dieter Wolf, 杉浦麗子 : α -Endosulfine ホモログ Igo1 の酸化ストレス応答におけるリン酸化依存的な役割. 第 91 回日本生化学会大会(京都)2018 年 9 月 24~26 日
- 35) 佐藤亮介, 原伸樹, 川崎有記, 高崎輝恒, 杉浦麗子 : RNA 結合タンパク質 Rnc1 の RNA 結合能依存的/非依存的な局在制御. 第 51 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会(福岡)2018 年 9 月 10~12 日

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 36) 高崎輝恒、吉本佐紀、杉本恵崇、佐藤亮介、杉浦麗子 : α -シヌクレイン凝集体が引き起こす細胞毒性とメンブレントラフィック機構との関わり. 第 51 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会(福岡)2018年9月10~12日
- 37) 田原彩花、當内健太、鳥居礼奈、萩原加奈子、佐藤亮介、高崎輝恒、Dieter Wolf、杉浦麗子 : α -Endosulfine ホモログ Igo1 が酸化ストレス応答にどのように関わるのか. 第 51 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会(福岡)2018年9月10~12日
- 38) 嶋田絵理香、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子 : オートファジーと MAPK シグナルおよびカルシニューリン、三者の機能的関わり. 第 51 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会(福岡)2018年9月10~12日
- 39) 池畑拓実、大谷夏実、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子 : 分子シャペロン Hsp90/Swo1 による PKC-MAPK シグナル制御機構の解析. 第 51 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会(福岡)2018年9月10~12日
- 40) 佐藤亮介、原伸樹、川崎有記、高崎輝恒、杉浦麗子 : RNA 結合タンパク質 Rnc1 の RNA 結合能依存的/非依存的なストレス顆粒局在機構. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪)2018年7月9~11日
- 41) 神田勇輝、永井善紀、田中妙美、土屋葵子、池田智里、水野綾美、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子 : RNA granule を介した DEAD box 型 RNA helicase Ded1 による PKC/MAPK シグナルの新規制御機構の提唱. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪)2018年7月9~11日
- 42) 田原彩花、當内健太、鳥居礼奈、萩原加奈子、高崎輝恒、佐藤亮介、Dieter Wolf、杉浦麗子 : 酸化ストレス耐性における α -Endosulfine ホモログ Igo1 の働き. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪)2018年7月9~11日
- 43) 稲荷正大、田中千晶、甲斐千夏、佐藤亮介、高崎輝恒、Dieter A Wolf、杉浦麗子 : 酸化ストレス応答における Pumilio ファミリータンパク質 Puf4 のリン酸化修飾とその生理的役割. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪)2018年7月9~11日
- 44) Sugiura R : Selective killing of cancer cells by ACA-28, a small molecule inducing ERK-dependent apoptosis: ~ A novel cancer therapy to stimulate oncogenic ERK signaling~. 第 91 回日本薬理学会年会 WCP2018 KYOTO (京都)2018年7月3日
- 45) 嶋田絵理香、神田勇輝、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子 : オートファジー関連因子と MAPK 経路および Ca^{2+} ホメオスタシスの関わり. 第 133 回日本薬理学会近畿部会(広島)2018年6月1日
- 46) 田原彩花、廣井遙、當内健太、鳥居礼奈、神田勇輝、萩原加奈子、佐藤亮介、高崎輝恒、Wolf Dieter、杉浦麗子 : 酸化ストレス時における α -Endosulfine ホモログ Igo1 の役割. 第 133 回日本薬理学会近畿部会(広島)2018年6月1日
- 47) 永井善紀、神田勇輝、松本紗希、犬塚夏実、池田智里、土屋葵子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: DEAD box 型 RNA helicase Ded1 は PKC/MAPK シグナルを制御する ~RNA granule を介する PKC/MAPK シグナルの空間的制御メカニズム~. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018年3月25~28日
- 48) 佐藤亮介、萩原加奈子、高崎輝恒、杉浦麗子: RNA 結合タンパク質の時間・空間的制御を介した MAPK シグナル調節機構~RNA 結合タンパク質の局在制御を標的とした MAPK シグナル調節薬の創薬基盤~. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018年3月25~28日
- 49) 杉浦麗子: 酵母遺伝学を用いた癌化シグナルの解析と創薬への応用: ERK 依存的細胞死誘導剤 ACA-28 の発見と新たながん治療戦略. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018年3月25

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- ～28 日
- 50) Sugiura R: Identification of new modulators of ERK MAPK signaling with a new mode of action. 6th International SPS Symposium of the School of Pharmaceutical Sciences, Xiamen University (Xiamen) 2018 年 1 月 20 日
- 51) Kawase A., Inoue Y., Hirosoko M., Shimada H., Iwaki M.: Modulation of transporter activities in cancer cells by transporter-associated proteins. 2018MDO/JSSX (金沢) 2018.10.
- 52) Shimada H., Hamaguchi K., Shimizu Y., Kawase A., Iwaki M.: Impact of Ca²⁺ and Mg²⁺ depletion on glucuronidation of diclofenac. 2018MDO/JSSX (金沢) 2018.10.
- 53) Kazaoka A., Kawase A., Shimada H., Iwaki M.: Brain distribution of diphenhydramine via transporters decrease in adjuvant-induced arthritic rats. 2018MDO/JSSX (金沢) 2018.10.
- 54) 島田紘明, 濱口健斗, 清水佑里子, 藤本和佳, 川瀬篤史, 岩城正宏: 非ステロイド性抗炎症薬のアシルグルクロン酸抱合体に対する Ca²⁺ および Mg²⁺ の影響. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) 2018.10
- 55) Shimada H., Hashimoto R., Yoshikawa S., Nakahama M., Kawase A., Iwaki M.: Alteration of hepatic prostaglandin E₂-related gene expression under liver injury condition. 59th International Conference on the Bioscience of Lipids (Helsinki) 2018.9.
- 56) Kawase A.: Modulation of transporter activities in hepatocytes and cancer cells by knockdown of transporter-associated proteins. The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics. (Seoul) 2018.7.
- 57) 椿正寛: 慢性骨髄性白血病での BCR-ABL 阻害薬耐性に MET/ERK 及び MET/JNK 経路活性化が関与する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路) 2018.10. (日本薬学会近畿支部奨励賞受賞講演)
- 58) 藤原俊伸: 細胞・組織特異性を規定するリボソーム結合因子を介した転写後制御機構. 第 41 回日本分子生物学会年会 (横浜) 2018.11.
- 59) 坂村由梨佳, 友廣拓生, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 鈴木亨, 山本雅, 藤原俊伸: 哺乳類における miRISC による翻訳抑制機構の解明. 第 41 回日本分子生物学会年会 (横浜) 2018.11.
- 60) 石田一希, 貞廣暁利, 安達俊吾, 深尾亜喜良, 船上仁範, 夏目徹, 藤原俊伸: ポリオウイルス組織特異性を生み出す IRES 依存的翻訳制御機構の解析. 第 41 回日本分子生物学会年会 (横浜) 2018.11.
- 61) Yurika Sakamura, Takumi Tomohiro, Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Kent E Duncan, Toshinobu Fujiwara: New insights into CCR4-Not deadenylase complex function in microRNA-mediated gene silencing. The complex life of RNA (ドイツ) 2018.10.
- 62) Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Kent E Duncan, Toshinobu Fujiwara: ARE binding protein ZFP36L1 represses translation via CCR4-NOT complex independently of RNA degradation machinery. Translational Control (アメリカ) 2018.9.
- 63) Akira Fukao, Takumi Tomohiro, Yurika Sakamura, Hiroshi Otsuka, Kent E Duncan, Yukihide Tomari, Toshinobu Fujiwara: New insights into CCR4-Not deadenylase complex function in microRNA-mediated gene silencing. Translational Control (アメリカ) 2018.9.
- 64) 深尾亜喜良, 西阪皓理, 松木香菜子, 大塚衆志, 船上仁範, 藤原俊伸: ARE 結合タンパク質 AUF1 による遺伝子発現制御機構の解析. 第 20 回日本 RNA 学会年会 (大阪) 2018.7.
- 65) 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 藤原俊伸: ZFP36L1 による脱アデニル化非依存的な翻

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 訳抑制の解析. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪) 2018.7.
- 66) 友廣拓生, 坂村由梨佳, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 鈴木亨, 山本雅, 泊幸秀, 藤原俊伸: MicroRNA を介した遺伝子サイレンシングにおける CCR4-NOT 脱アデニル化酵素複合体の機能解析. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪) 2018.7.
- 67) 坂村由梨佳, 友廣拓生, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 鈴木亨, 山本雅, 足立俊吾, 夏目徹, 藤原俊伸: 哺乳類における miRISC による翻訳抑制機構の新たな知見. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪) 2018.7.
- 68) 石田一希, 貞廣暁利, 安達俊吾, 深尾亜喜良, 船上仁範, 夏目徹, 藤原俊伸: ポリオウイルス組織特異性を生み出す, IRES 依存的翻訳制御機構の解析. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪) 2018.7.
- 69) 貞廣暁利, 深尾亜喜良, 小坂実央, 滝沢直己, 船上仁範, 竹内理, Kent E Duncan, 藤原俊伸: A 型肝炎ウイルス IRES 依存的翻訳は肝臓特異的因子により活性化される. 第 20 回日本 RNA 学会年会(大阪) 2018.7.
- 70) Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Kent E Duncan, Toshinobu Fujiwara: ZFP36L1 represses translation initiation independently of deadenylation mediated by AU-Rich elements. Post-transcriptional Control of Gene Expression: Mechanisms of RNA Decay(アメリカ) 2018.6.
- 71) Takumi Tomohiro, Yurika Sakamura, Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Kent E Duncan, Toshinobu Fujiwara: New insights into CCR4-Not deadenylase complex function in microRNA-mediated gene silencing. Post-transcriptional Control of Gene Expression: Mechanisms of RNA Decay(アメリカ) 2018.6.
- 72) 藤原俊伸: 非典型的な翻訳開始機構から見えてきた巧妙なタンパク質合成制御機構. 第 6 回 CCR4-NOT 研究会(和歌山) 2018.5.
- 73) 山本佐知雄: ピンポイント重合アクリルアミドゲルによる特異的高感度検出マイクロチップ電気泳動法の開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3 (依頼講演)
- 74) 山本佐知雄: 機能性光重合型ポリアクリルアミドゲルを用いるオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動の開発. SCE2018(大阪)2018.12(依頼講演)
- 75) 矢野祥子, 増田誠子, 山本佐知雄, 木下充弘, 鈴木茂生: PDMS-ガラス製ハイブリッドマイクロチップと光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮・標識マイクロチップ電気泳動法の開発. SCE2018(大阪)2018.12
- 76) 中住智典, 山本佐知雄, 木下充弘, 鈴木茂生: 8-Aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid 標識化ガン細胞由来糖鎖の新規構造解析法の開発. SCE2018(大阪)2018.12
- 77) 前谷一仁, 上田裕介, 福山実里, 山本佐知雄, 木下充弘, 鈴木茂生: サイズ排除型マイクロチップの作製とタンパク質の特異的オンライン濃縮への応用. SCE2018(大阪)2018.12
- 78) 山本佐知雄, 中住智典, 宮脇直久, 須田暁, 木下充弘, 鈴木茂生: 部分導入アフィニティーキャピラリー電気泳動, HPLC, MS を組み合わせた 8-Aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid 標識化ガン細胞由来糖鎖の網羅的解析. 第 29 回クロマトグラフィー科学会議(豊橋)2018.11
- 79) 山本佐知雄, 前谷一仁, 上田裕介, 福山実里, 木下充弘, 鈴木茂生: サイズ排除型マイクロチップを用いるタンパク質の特異的検出法の開発. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 80) 岡田風花, 山本佐知雄, 木下充弘, 鈴木茂生: 4 級アンモニウム化光重合性アクリルアミドゲルを用いる陽イオン性試料のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 81) 中住智典、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 8-Aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid 標識化ガン細胞由来糖鎖の構造解析. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 82) 矢野祥子、増田誠子、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : PDMS-ガラス製ハイブリッドマイクロチップと光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮・標識マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 83) 鈴木茂生、岸本有加、岡田風花、山本佐知雄、木下充弘 : HILIC系および逆相クロマトグラフィーに共通して利用できるオンライン精製糖鎖分析システムの開発. 日本分析化学会第 67 年会(仙台)2018.9
- 84) 山本佐知雄、矢野祥子、増田誠子、姫野美幸、木下充弘、鈴木茂生 : Phos-tag 結合型光硬化性アクリルアミドによるリン酸化化合物のオンライン特異的濃縮とマイクロチップ電気泳動分離. 日本分析化学会第 67 年会(仙台)2018.9
- 85) 山本佐知雄、矢野祥子、岡田風花、木下充弘、鈴木茂生 : 光重合性高機能化ポリアクリルアミドゲル層を用いるオンライン特異的濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(福岡)2018.8
- 86) 鈴木茂生、神村和希、安井瑞紀、井上裕也、藤井孝泰、山本佐知雄、木下充弘、藤巻真 : 二官能性蛍光試薬による糖タンパク質糖鎖の標識化ならびに糖鎖-レクチン相互作用解析への応用. 第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(福岡)2018.8
- 87) 矢野祥子、増田誠子、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : PDMS-ガラス製ハイブリッドマイクロチップと光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(福岡)2018.8
- 88) 山本佐知雄 : Phos-tag 結合型光硬化性アクリルアミドによるリン酸化化合物のオンライン特異的濃縮とマイクロチップ電気泳動分離 第 69 回日本電気泳動学会総会 (神奈川)2018.8(依頼講演)
- 89) 鈴木茂生 : 糖タンパク質糖鎖解析を指向した選択的・高感度分離分析技術の開発. 第 25 回クロマトグラフィーシンポジウム(弘前)2018.6(依頼講演)
- 90) 山本佐知雄、中住智典、宮脇直久、須田暁、木下充弘、鈴木茂生 : CE、HPLC、MS を用いる 8-Aminopyrene-1, 3,6-trisulfonic acid 標識化ガン細胞由来糖鎖の網羅的解析. 第 25 回クロマトグラフィーシンポジウム(弘前)2018.6
- 91) 鈴木茂生、神村和希、安井瑞紀、井上裕也、藤井孝泰、山本佐知雄、木下充弘 : 糖タンパク質糖鎖の二官能性蛍光色素標識法の開発と糖鎖-レクチン相互作用解析への応用 第 78 回分析化学討論会(山口)2018.5
- 92) 矢野祥子、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : PDMS/ガラス-ハイブリッドマイクロチップと強酸性アクリルアミドゲルを用いるオンライン試料濃縮法の開発 第 78 回分析化学討論会(山口)2018.5
- 93) 山本佐知雄、岡田風花、木下充弘、鈴木茂生 : 4 級アンモニウム化光重合性アクリルアミドゲルを用いる陽イオン性試料のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 78 回分析化学討論会(山口)2018.5
- 94) 仲西 功 : HPC を活用した医薬品設計研究、第 1 回近畿大学生物理工学部 HPC シンポジウム (和歌山) 2018.3.
- 95) 宮川 貴吏、本田 真歩、中村 真也、仲西 功、井貫 晋輔、大石 真也、大野 浩章 : Pd 触媒を用いた THF 環構築による Jaspine B 位置異性体の合成研究、日本薬学会第 138 年会(金沢) 2018.3.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 96) 谷口 誠哉、津田 真佑、露口 正人、木下 誉富、中村 真也、仲西 功 : リガンド間の類似性を考慮した CK2 阻害剤の結合様式予測、日本薬学会第 138 年会 (金沢)2018.3.
- 97) 中川 愛理、吉岡 賢司、露口 正人、木下 誉富、中村 真也、西脇 敬二、仲西 功 : プリン骨格を有する新規 CK2 阻害剤の構造活性相関研究、日本薬学会第 138 年会 (金沢) 2018.3.
- 98) 中村 真也、北吉 駿、仲西 功 : SDO-VS 法の精度向上研究:擬似分子の構成要素の検討、日本薬学会第 138 年会 (金沢) 2018.3.
- 99) 脇谷 航平、関口富美子、坪田真帆、中村 真也、仲西 功、川畑 篤史 : Azelastin は RAGE が関与する化学療法誘起末梢神経障害の発症を抑制する - ドラッグ・リプロファイリング/リポジショニング研究からの知見、日本薬理学会第 133 回近畿部会 (広島) 2018.6.
- 100) 脇谷 航平、関口富美子、坪田真帆、中村 真也、仲西 功、川畑 篤史 : RAGE を標的とした化学療法誘起末梢神経障害治療薬の探索: In silico ドラッグ・リプロファイリング/リポジショニングからのアプローチ、第 40 回日本疼痛学会 (長崎) 2018.6.
- 101) 露口 正人、仲西 功、木下 誉富 : 阻害剤誘導により現れた CK2a1 の新規創薬標的ポケット、第 18 回タンパク質科学学会年会 (新潟) 2018.6.
- 102) 佐々木 郁人、仲西 功、松野 純男、大星 直樹 : 3D プリンタを用いた医薬品分子模型の作成、第 3 回日本薬学教育学会大会 (東京) 2018.9.
- 103) 津田 真佑 : リガンド間の類似性を考慮した CK2 阻害剤の結合構造予測、近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2018 第 8 回院生サミット (大阪) 2018.9.
- 104) 西尾 政輝、中西 伸介、西脇 敬二、中村 真也、露口 正人、木下 誉富、大石 真也、大野 浩章、仲西 功 : ピラゾール骨格を有する新規 CK2 阻害剤の窒素スキャンによる構造活性相関研究、第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路) 2018.10.
- 105) 河津 有貴、中川 愛理、吉岡 賢司、西脇 敬二、中村 真也、露口 正人、木下 誉富、仲西 功 : プリン骨格を有するCK2 阻害剤における置換基位置の変換による結合様式の大きな変化、第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路) 2018.10.
- 106) 宮川 貴吏、井貫 晋輔、本田 真歩、中村 真也、仲西 功、藤井 信孝、大石 真也、大野 浩章 : スフィンゴシンキナーゼ阻害剤開発を目指した Jaspine B 誘導体の合成と構造活性相関研究、第 36 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都) 2018.11.
- 107) 吉岡 賢司、中川 愛理、谷口 誠哉、露口 正人、木下 誉富、西脇 敬二、中村 真也、仲西 功 : プリン骨格を有する新規 CK2 阻害剤の設計、合成と活性測定、第 36 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都) 2018.11.
- 108) 露口 正人、仲庭 哲津子、仲西 功、木下 誉富 : 高選択性 CK2a1 阻害薬の創出を目指した hematein の作用機序の解明、第 46 回構造活性相関シンポジウム (大阪)2018.12.
- 109) Nakamura S, Kitayoshi H, Nakanishi I : Improvement of pseudo-molecule generation on solvent dipole ordering virtual screening (SDO-VS). The 11th China-Japan Joint Symposium on Drug Design and Development (China) 2018.6.
- 110) Wakitani K, Sekiguchi F, Tsubota M, Nakamura S, Nakanishi I, Kawabata A. Azelastine attenuates RAGE-dependent allodynia in mice: a discovery by a drug reprofiling/repositioning approach. The 17th World congress on Pain (USA) 2018.9.
- 111) Kawasaki N., Ogata F., Nakamura T.: Removal of heavy metal Ions in drinking water using biomass. 3rd Regional IWA Diffuse Pollution Conference (Chiang Mai, Thailand)2018.12.
- 112) Ogata E., Toda M., Otani M., Nakamura T., Kawasaki N. : Adsorption of phosphate ion onto

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- nickel-aluminum complex hydroxide at different molar ratio from aqueous solution. 3rd Regional IWA Diffuse Pollution Conference (Chiang Mai, Thailand) 2018.12. Poster Presentation Award
- 113) 松谷定、竹下千尋、五十嵐健祐、山口浩、阿部真也、吉町昌子、後藤輝明、山城海渡、川崎直人 : 薬局薬剤師における調剤業務によるストレス変化. 第 12 回日本薬局学会学術総会 (名古屋)2018.11.
- 114) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 粘土鉱物による網羅的イオンの吸着による伝導率の低減. 第 32 回日本吸着学会研究発表会 (大阪)2018.11.
- 115) 小林悠平、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : フライアッシュ由来新規 K 型ゼオライトの創製と Pb²⁺吸着能. 第 32 回日本吸着学会研究発表会 (大阪)2018.11.
- 116) 山城海渡、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 毛髪中の金属濃度測定による骨粗しょう症の予測に関する研究. 日本毒性学会 生体金属部会 メタルバイオサイエンス研究会 (仙台) 2018.11.
- 117) 高橋 茜、藤江智也、原 崇人、中村武浩、吉田映子、川崎直人、山本千夏、鍛冶利幸 : 血管内皮細胞において活性イオウ産生酵素群の発現を制御する有機 - 無機ハイブリッド分子の探索. 日本毒性学会 生体金属部会 メタルバイオサイエンス研究会 (仙台)2018.11.
- 118) 川崎直人、山城海渡、緒方文彦、中村武浩 : 男性における毛髪中の金属濃度と生活習慣及び数種の疾病との関連性. 日本毒性学会 生体金属部会 メタルバイオサイエンス研究会 (仙台)2018.11.
- 119) 緒方文彦、山城海渡、川崎直人 : 新規ニッケル-アルミニウム系ハイブリッド型吸着剤によるホウ酸イオンの吸着挙動. 第 77 回日本公衆衛生学会総会 (福島)2018.10.
- 120) 山城海渡、緒方文彦、川崎直人 : 日本およびタイの大学生における理想体型と疲労・ストレスに関する調査研究. 第 77 回日本公衆衛生学会総会 (福島)2018.10
- 121) 川崎直人、山城海渡、緒方文彦 : 日本およびタイの薬学生における食習慣と運動習慣に関する調査研究. 第 77 回日本公衆衛生学会総会 (福島)2018.10.
- 122) 緒方文彦、伊藤千晴、戸田徳、大谷昌司、中村武浩、川崎直人 : ニッケルおよびアルミニウムを基材とした金属複合水酸化物によるリン酸イオンとの相互作用に関する研究. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.
- 123) 長藤陸、中村武浩、小林悠平、緒方文彦、川崎直人 : 新規 Mg-Al-Fe 複水酸化物の物理化学的性質とリン酸吸着能との関連性. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路) 2018.10.
- 124) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 高純度な水質確保を指向した有機系および無機系材料の探索. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.
- 125) 坂本 茜、岩井淑恵、石井美有、大竹裕子、緒方文彦、川崎直人、長井紀章 : 毛乳頭をターゲットとした薬物送達法の開発:ミノキシジルナノ粒子化は育毛促進効果を高める. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.
- 126) 小林悠平、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : フライアッシュ由来 Na 型と K 型ゼオライト創製および鉛 (II) イオン吸着能. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.
- 127) 柑子木知香、緒方文彦、原田陽磁、中村武浩、川崎直人 : 医療機器基材である sus304 に対する各種消毒薬の影響評価. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.
- 128) 中村武浩、小西加恵、緒方文彦、川崎直人 : 水質汚濁の原因元素が与える上皮系細胞への毒性評価. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)2018.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 129) 植松勇伍、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : バジルシードのハイドロコロイドはストロンチウムおよびセシウムイオン吸着に関与する. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 130) 緒方文彦、笹野文、中村武浩、川崎直人 : 植物バイオマスである小麦ふすまを用いた希少金属モリブデンの回収能に関する基礎研究. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 131) 小林悠平、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : フライアッシュ由来新規ゼオライトの創製と鉛(II)イオンの吸着機構の解明. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 132) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 有機系および無機系材料を用いた環境水質の改善に関する研究. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 133) 長藤陸、中村武浩、小林悠平、緒方文彦、川崎直人 : 新規 Mg-Fe-Al 金属複合体の創製およびそのリン吸着能. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 134) 山城海渡、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 非侵襲的毛髪中ミネラル濃度の測定による生活習慣病の早期診断. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 135) 川崎直人、山城海渡、緒方文彦、中村武浩 : 毛髪中ミネラル濃度と花粉症, 皮膚および脱毛との関連性. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 136) 森光弘、藤江智也、原崇人、中村武浩、川崎直人、鍛冶利幸、山本千夏 : 内皮細胞および血管平滑筋細胞の増殖におけるフェナントロリン亜鉛錯体の構造活性相関. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 137) 小寺裕樹、山本太郎、藤江智也、中村武浩、川崎直人、鍛冶利幸、山本千夏 : 血管内皮細胞を傷害する亜鉛錯体 Zn(hmphenpye-thione)₂ の構造活性相関. フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)2018.9.
- 138) Ogata F., Toda M., Otani M., Nakamura T., Kawasaki N. : Characteristics of a novel nickel-aluminum complex hydroxide and its adsorption capability of phosphate ion. IWA Water Congress & Exhibition 2018 (Tokyo, Japan)2018.9.
- 139) Kawasaki N., Ogata F., Nakamura T. : Recovery of Phosphate ion by pH swing method using aluminum compounds. Sustainable Development Conference 2018 (Bangkok, Thailand)2018.7.
- 140) Kobayashi Y., Ogata F., Nakamura T., Kawasaki N. : Removal of Pb²⁺ and Hg²⁺ by novelty zeolite produced from fly ash to prevent water pollution. The Water and Environment Technology Conference 2018 (Ehime, Japan)2018.7.
- 141) Nagahashi E., Ogata F., Nakamura T., Kawasaki N. : Characterization of zinc ion adsorption onto virgin and calcined lignin. The Water and Environment Technology Conference 2018 (Ehime, Japan)2018.7.
- 142) 川崎直人、渡邊尚子、岡村勝正、緒方文彦、山田秀和 : 男性型脱毛症(AGA)とヘモグロビン量またはストレスとの関連性に関する基礎研究. 第 18 回日本抗加齢医学会総会(大阪)2018.5. 優秀演題賞
- 143) 出口粧央里、梁宇紀、大竹裕子、緒方文彦、川崎直人、長井紀章 : ラロキシフェンを用いたナノ経皮吸収剤の開発と骨粗鬆治療への有用性評価. 日本薬剤学会第 33 年会(静岡)2018.5.
- 144) 小林悠平、緒方文彦、中村武浩、川崎直人 : 創製したフライアッシュ由来ゼオライトを用いた

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Pb²⁺および Hg²⁺の除去技術に関する研究. 第 52 回日本水環境学会年会(北海道)2018.3.
- 145) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : 水環境保全のためのリグニンによる亜鉛イオンの除去機構の解明. 第 52 回日本水環境学会年会(北海道)2018.3
- 146) 川崎直人、緒方文彦、中村武造 : 環境水中における窒素およびリンの回収・除去技術の開発. 第 52 回日本水環境学会年会(北海道)2018.3.
- 147) 緒方文彦、金原真子、中村武造、川崎直人 : オゾンおよび植物バイオマス由来炭素材料の併用処理による染料の分解能. 第 52 回日本水環境学会年会(北海道)2018.3.
- 148) 中村武造、吉田映子、滝田良、緒方文彦、川崎直人、内山真伸、鍛冶利幸 : 血管内皮細胞の増殖を強力に促進する亜鉛錯体. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.
- 149) 緒方文彦、中村武造、川崎直人 : フェントン反応を利用した難分解性有機化合物の分解・除去. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.
- 150) 小林悠平、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : フライアッシュ由来新規ゼオライトの諸物性評価および有害重金属との相互作用. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.
- 151) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : 新規炭化処理リグニンの創製およびその亜鉛イオン吸着能. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.
- 152) 原崇人、酒巻沙弥香、中村武造、鍛冶利幸、山本千夏 : 亜鉛錯体による血管内皮細胞特異的なグリコサミノグリカン合成の調節. 日本薬学会 第 138 年会 2018.3.
- 153) 長井紀章、岩井淑恵、川瀬七愛、坂本茜、大竹裕子、緒方文彦、川崎直人 : 毛根を標的とした新規薬物送達技術の開発: ナノ結晶技術はミノキシジルの発毛効果を高める. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3. 年会講演ハイライトへ選出
- 154) 緒方文彦、長井紀章、中村武造、川崎直人 : 骨粗鬆症の予防を指向した大学生の食習慣調査および飲料水中ミネラルが骨形成に与える影響. 第 25 回日本健康体力栄養学会大会(徳島)2018.3.
- 155) 川崎直人、山城海渡、緒方文彦、多根井重晴、Siriporn B. : 日本およびタイの大学生における体型の理想と誤認に関する調査研究. 第 25 回日本健康体力栄養学会大会(徳島)2018.3
- 156) 桑原明日香、中尾元紀、松尾世為子、畝佳子、覺野律、吉岡千晶、植松勇伍、緒方文彦、川崎直人、長井紀章 : 新規院内製剤セレン含有口腔内崩壊錠の作製と実用化に向けて. 第 14 回近畿国立病院薬剤師会学術集会(大阪)2018.3.最優秀賞
- 157) 長友暁史、二宮清文、丸本真輔、酒井千恵、村岡 修、菊池 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生. ブラジル生薬アンディローバ(*Carapa guianensis*)由来リモノイド成分の脂肪代謝促進作用およびその作用機序の解明. 日本農芸化学会2019年度大会(東京), 2018.3.24-27. (国内・口頭)
- 158) 井上尚樹、二宮清文、吉川雅之、村岡 修、森川敏生. マツリカ(*Jasminum sambac*, 花部)の成分探索. 日本農芸化学会2019年度大会(東京), 2018.3.24-27. (国内・口頭)
- 159) 羅 鳳琳、二宮清文、柴谷華苗、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修、森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部に含まれるプレニルクマリンのアロマトマーゼ阻害活性. 日本農芸化学会2019年度大会(東京), 2018.3.24-27. (国内・口頭)
- 160) 山本紗也、二宮清文、塩谷美幸、森川敏生. センキュウ(*Cnidium officinale*, 根茎)の新規フラリド配糖体および芳香族化合物. 日本農芸化学会2019年度大会(東京), 2018.3.24-27. (国内・口頭)
- 161) 井上尚樹、二宮清文、吉川雅之、村岡 修、森川敏生. マツリカ(*Jasminum sambac*, 花部)より単離した新規セコイリド配糖体成分の化学構造. 日本薬学会第139年会(千葉),

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 2019.3.20-23.(国内・口頭)
- 162) 二宮清文, 宮坂賢知, 八幡郁子, 村岡 修, 森川敏生. 肉豆蔻衣のインスリン様糖消費亢進活性成分の探索. 日本薬学会第139年会(千葉), 2019.3.20-23.(国内・ポスター)
- 163) 二宮清文, 坂本裕介, 杉田秀美, 佐伯竣介, 宮澤聖也, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部含有プレニルクマリンの抗炎症作用. 日本薬学会第139年会(千葉), 2019.3.20-23.(国内・ポスター)
- 164) 二宮清文, Shrestha Sarita, 長友暁史, 下田博司, 森川敏生. チャボトケイソウ (*Passiflora incarnata*) のフラボノイド成分. 第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路), 2018.10.13.(国内・ポスター)
- 165) 二宮清文, 坂本裕介, 佐伯竣介, 宮澤聖也, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 由来プレニルクマリンの抗炎症作用. 第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路), 2018.10.13.(国内・ポスター)
- 166) 二宮清文, 北村周平, 保呂奈津子, 外村奈央, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 長友暁史, 森川敏生. タイ天然薬物 king dok diao および kamlang wua thaloeng の肝細胞内中性脂肪低減作用成分の探索. 第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路), 2018.10.13.(国内・ポスター)
- 167) 二宮清文, 宮坂賢知, 八幡郁子, 村岡 修, 森川敏生. メース由来ネオリグナン成分の糖消費亢進活性. 第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路), 2018.10.13.(国内・ポスター)
- 168) 森川敏生, 杉田秀美, 村木謙一, 佐伯竣介, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修, 二宮清文. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニルクマリンのがん細胞増殖抑制活性. 第62回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(長崎), 2018.10.13-15.(国内・口頭)
- 169) 萬瀬貴昭, 加藤和寛, 岡崎 茜, 岡田(西田)枝里子, 今川貴仁, 二宮清文, 柳田満廣, 中村翔, 森川敏生. 延命草(*Isodon trichocarpus*, 地上部)由来テルペノイド成分のメラニン産生抑制活性. 第62回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(長崎), 2018.10.13-15.(国内・口頭)
- 170) 長友暁史, 二宮清文, 丸本真輔, 酒井千恵, 村岡 修, 菊池 崇, 山田剛司, 田中麗子, 森川敏生. ブラジル生薬アンディローバ(*Carapa guianensis*)由来リモノイド成分の糖および脂質代謝改善作用. 第62回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(長崎), 2018.10.13-15.(国内・口頭)
- 171) 二宮清文, 北村周平, 外村奈央, 保呂奈津子, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 長友暁史, 森川敏生. タイ天然薬物 *Goniothalamus macrophyllus* および *Anaxagorea luzonensis* からの肝細胞内中性脂肪低減作用成分の探索. 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム(熊本), 2018.10.7-8.(国内・ポスター)
- 172) 二宮清文, 羅 鳳琳, 柴谷華苗, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修, 石川文洋, 田邊元三, 森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部クマリン成分のCYP19阻害活性. 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム(熊本), 2018.10.7-8.(国内・ポスター)
- 173) 二宮清文, 井上尚樹, 中西勇介, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. 茉莉花および胡黄連の新規イリトイド成分の構造解析. 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム(熊本), 2018.10.7-8.(国内・ポスター)
- 174) 二宮清文, 宮坂賢知, 酒井千恵, 塩谷美幸, 森川敏生. 川芎に含まれるフタリド成分の糖消費亢進作用. 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム(熊本), 2018.10.7-8.(国内・ポスター)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 175) 森川敏生. 伝統薬物資源からの新規機能性天然物の探索. 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム(熊本), 2018.10.7-8.(国内・口頭)シンポジスト
- 176) 田邊元三, 萬瀬貴昭, 福田友紀, 福田梨沙, 丸本真輔, 石川文洋, 二宮清文, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修, 森川敏生. *Melodorum fruticosum*から単離したButenolide類の全合成とメラニン産生抑制活性. 第60回天然有機化合物討論会(久留米), 2018.9.26-28.(国内・ポスター)
- 177) 長友暁史, 二宮清文, 松本亜衣, 児玉高幸, 川上宏智, 村岡 修, 森川敏生. ローズヒップ由来 *trans*-tiliroside の脂肪代謝促進作用の解析. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・口頭)
- 178) 二宮清文, 坂本裕介, 田邊元三, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 花部含有 butenolide の一酸化窒素産生抑制活性. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・ポスター)
- 179) 二宮清文, 羅 鳳琳, 柴谷華苗, 杉田秀美, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部含有プレニルクマリンのアロマトーゼ阻害活性. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・ポスター)
- 180) 二宮清文, 宮坂賢知, 八幡郁子, 村岡 修, 森川敏生. メース(*Myristica fragrans* Houtt., 仮種皮)含有ネオリグナン成分の糖消費促進活性. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・口頭)
- 181) 二宮清文, 赤木駿, 今野拓哉, 森川敏生. ミシマサイコ(*Bupleurum falcatum* L.)含有サポニンの抗炎症作用. 日本生薬学会 65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・ポスター)
- 182) 二宮清文, 井上尚樹, 柴谷華苗, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. マツリカ(*Jasminum sambac*)花部の新規イリドイド配糖体成分. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・ポスター)
- 183) 二宮清文, 山本紗也, 塩谷美幸, 森川敏生. 川芎(*Cnidium officinale*, 根茎)の新規フラリド配糖体およびフェニルプロパノイド. 日本生薬学会第65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・ポスター)
- 184) 森川敏生. 生活習慣病の予防・改善に資する機能性関与成分に関する研究. 日本生薬学会 65回年会(広島), 2018.9.16-17.(国内・口頭)平成30年度日本生薬学会学術貢献賞受賞講演
- 185) 二宮清文, 矢田佳凜, 今野拓哉, 森川敏生. 柴胡含有サポニンの肝細胞内中性脂肪低減活性. 第35回和漢医薬学会大会(岐阜), 2018.9.1-2.(国内・ポスター)
- 186) 宮坂賢知, 二宮清文, 八幡郁子, 村岡 修, 森川敏生. 肉豆蔻衣の糖消費促進活性成分. 第35回和漢医薬学会大会(岐阜), 2018.9.1-2.(国内・ポスター)
- 187) 赤木淳二, 井上 誠, 荒井哲也, 山崎寛生, 二宮清文, 森川敏生. 加齢に伴う肥満症の進展に対する防風通聖散の効果. 第35回和漢医薬学会大会(岐阜), 2018.9.1-2.(国内・ポスター)優秀発表賞受賞
- 188) 井上尚樹, 二宮清文, 中西勇介, 松浦豪之, 植松一貴, 村岡 修, 森川敏生. 胡黄連のコラゲナーゼおよびヒアルロニダーゼ阻害活性成分. 第35回和漢医薬学会大会(岐阜), 2018.9.1-2.(国内・ポスター)
- 189) 山本紗也, 二宮清文, 塩谷美幸, 森川敏生. 川芎に含まれる新規フラリド配糖体の化学構造. 第35回和漢医薬学会大会(岐阜), 2018.9.1-2.(国内・ポスター)
- 190) Morikawa T., Kobayashi M., Akaki J., Ninomiya K., Muraoka O., Tanabe G. Antidiabetic effects of naturally occurring thiosugar sulfoniums, neokotalanol and salacinol, from *Salacia*

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- genus plants. 28th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur (ISOCS-28, Tokyo, Japan), 2018.8.26-31. (国際・ポスター)
- 191) Ishikawa F., Jinno K., Sonoda N., Kinouchi E., Akaki J., Ninomiya K., Marumoto S., Muraoka O., Morikawa T., Tanabe G.. Highly diastereoselective synthesis of salacinol-type α -glucosidase inhibitors and evaluation of their *in vivo* α -glucosidase inhibitory activity. 28th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur (ISOCS-28, Tokyo, Japan), 2018.8.26-31. (国際・ポスター)
- 192) Ninomiya K., Kitahara M., Hori Y., Sakai C., Nagatomo A., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T. Anti-obese effect of *trans*-tiliroside. 29th International Conference on Polyphenols / 9 th Tannin Conference (ICP+TC 2018, Madison, USA), 2018.7.16-20. (国際・ポスター)
- 193) Ninomiya K., Miyasaka K., Hachiman I., Nishida E., Muraoka O., Morikawa T. Neolignans from aril of *Myristica fragrans* on glucose consumption-promoting activity in L6 cells. 29th International Conference on Polyphenols / 9 th Tannin Conference (ICP+TC 2018, Madison, USA), 2018.7.16-20. (国際・ポスター)
- 194) Morikawa T., Manse Y., Mori Y., Imagawa T., Chaipetch S., Muraoka O., Ninomiya K. Synthesis of rare 7-O-9'-linked neolignan isolated from *Alpinia galanga* with melanogenesis inhibitory activity. 19th Tetrahedron Symposium (Riva del Garda, Italy), 2018.6.26-29. (国際・ポスター)
- 195) Akaki J., Arai T., Yamasaki H., Ninomiya K., Morikawa T. Effect of Kampo medicine "Bofutsushosan" on fat accumulation in aged mice treated with a high-fat diet. 第41回日本基礎老化学会大会(東京), 2018.5.31-6.2. (国内・口頭)
- 196) 長友暁史, 二宮清文, 松本亜衣, 児玉高幸, 川上宏智, 村岡 修, 森川敏生. ローズヒップ由来アシル化フラボノール配糖体の糖・脂質代謝改善作用. 日本食品化学学会第 24 回総会・学術大会(東京), 2018.5.17-18. (国内・ポスター)
- 197) 赤木淳二, 荒井哲也, 和田篤敬, 山崎寛生, 二宮清文, 森川敏生. 加齢に伴う内臓脂肪蓄積に対する防風通聖散の効果. 日本薬学会第138年会(金沢), 2018.3.25-28. (国内・ポスター)
- 198) 二宮清文, 赤木 駿, 今野拓哉, 森川敏生. サイコ(*Bupleurum falcatum* L.)含有サポニン成分の抗 TNF- α 作用. 日本薬学会第138年会(金沢), 2018.3.25-28. (国内・ポスター)
- 199) 二宮清文, 宮坂賢知, 八幡郁子, 村岡 修, 森川敏生. メース(*Myristica fragrans* Houtt., 仮種皮)含有ネオリグナン成分の糖消費促進活性. 日本薬学会第138年会(金沢), 2018.3.25-28. (国内・ポスター)
- 200) 二宮清文, 柴谷華苗, 末吉真弓, Chaipetch Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部含有クマリン成分のアロマターゼ阻害活性. 日本薬学会第138年会(金沢), 2018.3.25-28. (国内・ポスター)
- 201) 森川敏生, 村岡 修. 生活習慣病の予防・改善に資する機能性食品成分の探索. 日本薬学会第138年会(金沢)一般シンポジウム 機能性成分のマルチインテイクによる疾病予防と健康増進への貢献, 2018.3.25-28. (国内・口頭)シンポジスト
- 202) 宮坂賢知, 二宮清文, 二宮 与, 酒井千恵, 塩谷美幸, 森川敏生. 川芎(*Cnidium officinale*, 根茎)の糖代謝改善作用成分. 日本農芸化学会2018年度大会(名古屋), 2018.3.15-18. (国内・口頭)
- 203) 菅原 碧, 二宮清文, 河端千尋, 今野拓哉, 南野 亨, 森川敏生. 釣藤鈎(*Uncaria rhynchophylla*, 鈎部)由来トリテルペン成分の神経様突起伸長作用. 日本農芸化学会2018年度大会(名古屋), 2018.3.15-18. (国内・口頭)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 204) 長友暁史, 二宮清文, 松本亜衣, 児玉高幸, 川上宏智, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. ローズヒップエキスおよび*trans*-tilirosideが肝細胞内脂質代謝におよぼす影響. 日本農芸化学会2018年度大会(名古屋), 2018.3.15-18. (国内・口頭)
- 205) 杉田秀美, 二宮清文, 村木謙一, 佐伯竣介, Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物*Mammea siamensis*花部の新規プレニルクマリン成分とがん細胞増殖抑制活性. 日本農芸化学会2018年度大会(名古屋), 2018.3.15-18. (国内・口頭)
- 206) 井上尚樹, 二宮清文, 柴谷華苗, 佐々木佑人, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. マツリカ (*Jasminum sambac*, 花部) のアロマターゼ阻害活性成分. 日本農芸化学会2018年度大会(名古屋), 2018.3.15-18. (国内・口頭)
- 207) Yamamoto T, Kuragaki M, Inoue R, Mitamura K, Taga A : Ethyl acetate extract of maple syrup inhibited cell proliferation, migration and invasion in pancreatic cancer cells. The 49th Annual Meeting of the American Pancreatic Association (Miami Beach, USA) 2018.11.
- 208) 葭矢 彩加, 山本 哲志, 三田村 邦子, 多賀 淳 : シアル酸オリゴマーによる胃癌細胞に対する抗腫瘍効果の検討. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 209) 鳥取 峻, 山本 哲志, 三田村 邦子, 多賀 淳 : トマト含有アルカロイド配糖体である tomatine による膵臓癌細胞への抗腫瘍効果の検討. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 210) 立花 真子, 山本 哲志, 三田村 邦子, 松川 泰治, 鹿島 康浩, 多賀 淳 : アカモク由来フコイダンによる食道癌細胞への抗腫瘍効果の検討. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 211) 車田 奈津樹, 山本 哲志, 谷田 和香奈, 三田村 邦子, 多賀 淳 : 細胞外基質タンパク lumican による膵臓癌細胞増殖抑制機構の検討. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 212) Yamamoto T, Moriyama Y, Mitamura K, Taga A : Protein components of maple syrup as a potential source to develop novel anti-cancer drugs for colorectal cancer. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 213) 杉浦麗子: 新規 ERK シグナル調節薬の発見とがん治療戦略のパラダイムシフト. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸)2017 年 12 月 6~9 日
- 214) 佐藤亮介, 萩原加奈子, 深尾亜喜良, 藤原俊伸, 平井晋哉, 谷時雄, 高崎輝恒, 杉浦麗子: RNA 結合タンパク質の MAPK 依存的なリン酸化の役割 ~RNA 結合能と細胞内局在の二重制御~. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸)2017 年 12 月 6~9 日
- 215) 萩原加奈子, 石田紘基, 木下佳那子, 亀岡佳則, 北條志穂美, 佐藤亮介, 高崎輝恒, 杉浦麗子: ケミカルゲノミクスを用いた FTY720 感受性遺伝子の網羅的探索と ROS/カルシウムシグナルの関わり. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸)2017 年 12 月 6~9 日
- 216) 高崎輝恒, 吉本佐紀, 萩原加奈子, 佐藤亮介, 杉浦麗子: α シヌクレイン凝集体が引き起こす細胞障害メカニズムの解析: 分裂酵母モデル生物を用いた細胞内輸送システムとの関わり. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸)2017 年 12 月 6~9 日
- 217) 稲荷正大, 萩原加奈子, 原伸樹, 田中千晶, 佐藤亮介, 高崎輝恒, Wolf Dieter A, 杉浦麗子: 分裂酵母 *Pumilio* の酸化ストレス応答における役割. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸)2017 年 12 月 6~9 日

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 218) 田原彩花、萩原加奈子、石田紘基、廣井遥、佐藤亮介、高崎輝恒、Dieter Wolf、杉浦麗子: Endosulfine ホモログ Igo1 の酸化ストレス応答における役割. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017 年 12 月 6~9 日
- 219) 池畑拓実、大谷夏実、萩原加奈子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: Hsp90 と MAPK シグナル伝達経路構成因子のクロストーク機構. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017 年 12 月 6~9 日
- 220) 神田勇輝、犬塚夏実、松本紗希、池田智里、永井善紀、土屋葵子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: RNA granule を介した DEAD box 型 RNA helicase Ded1 による PKC/MAPK シグナル制御機構の提唱. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017 年 12 月 6~9 日
- 221) 嶋田絵理香、萩原加奈子、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子: Ca^{2+} ホメオスタシスを介するオートファジー制御因子 Atg1 と MAPK 経路との関わり. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017 年 12 月 6~9 日
- 222) 窪内康二、團野紗莉、野町昭、平田多佳子、松尾一彦、中山隆志、佐藤亮介、杉浦麗子、阿部学、崎村建司、若菜茂晴、大崎博之、鴨志田伸吾、向井秀幸: PKN1 はリンパ球の細胞運動・トラフィッキングを制御する. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017 年 12 月 6~9 日
- 223) Sugiura R.: Chemical genetics identifies ACA-28, a 1'-acetoxychavicol acetate analogue compound, as a novel modulator of ERK MAPK signaling, which preferentially kills human melanoma cells by inducing ERK-dependent apoptosis. The 3rd Japan-Taiwan Bilateral Conference on Protein Phosphatase & The 8th Japanese Conference on Protein Phosphatase (仙台) 2017 年 11 月 18~21 日
- 224) Kanda Y, Nagai Y, Tsuchiya K, Satoh R, Takasaki T, Sugiura R.: The DEAD box RNA helicase Ded1 negatively regulates PKC/MAPK signaling via RNA granule. The 3rd Japan-Taiwan Bilateral Conference on Protein Phosphatase & The 8th Japanese Conference on Protein Phosphatase (仙台) 2017 年 11 月 18~21 日
- 225) Kanda Y, Matsumoto S, Inutsuka N, Ikeda C, Nagai Y, Tsuchiya K, Takasaki T, Satoh R, Sugiura R.: THE DEAD BOX RNA HELICASE DEAD1 NEGATIVELY REGULATES PKC/MAPK SIGNALING VIA RNA GRANULES. RNA Biology 2017 ~Cutting Edge Developments in RNA Biology for the Control of Gene Expression~ (沖縄) 2017 年 11 月 13~17 日
- 226) 杉浦麗子、佐藤亮介、松浦一貴、萩原加奈子、神田勇輝、石川文洋、田邊元三、村岡修、高崎輝恒: “キャビコール誘導体 ACA-28” は、がん細胞特異的に ERK 依存的細胞死を誘導する革新的抗がん剤シーズである. 第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム (名古屋) 2017 年 10 月 25~27 日
- 227) 嶋田絵理香、萩原加奈子、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子: Ca^{2+} ホメオスタシスを介するオートファジー遺伝子と MAPK シグナル経路の関わり. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017 年 10 月 14 日
- 228) 永井善紀、神田勇輝、松本紗希、犬塚夏実、池田智里、土屋葵子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子: MAPK シグナル制御における DEAD box 型 RNA helicase Ded1 の役割-RNA granule を介する PKC/MAPK シグナルの空間的制御メカニズム- 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017 年 10 月 14 日

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 229) 佐藤亮介、萩原加奈子、高崎輝恒、杉浦麗子:RNA 結合タンパク質の時間・空間的制御を介した MAPK シグナル調節機構-RNA 結合タンパク質の局在制御機構と創薬への応用-. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017 年 10 月 14 日
- 230) 田原彩花、萩原加奈子、石田紘基、廣井遥、佐藤亮介、高崎輝恒、Dieter Wolf、杉浦麗子: Endosulfine ホモログ Igo1 が酸化ストレスにどのように応答するのか-ROS シグナル応答に関わる分子のリン酸化による調節メカニズム-. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017 年 10 月 14 日
- 231) 萩原加奈子、亀岡佳則、北條志穂美、近重裕次、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介するシグナル伝達機構の解明-FTY720 添加のもたらず Ca²⁺/ROS/Fe シグナルの変化と新たな生理活性-. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017 年 10 月 14 日
- 232) 佐藤亮介、原伸樹、萩原加奈子、高崎輝恒、杉浦麗子:RNA 結合タンパク質 Rnc1 の空間制御機構と MAPK シグナルの関わり. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 233) 杉浦麗子、佐藤亮介、松浦一貴、萩原加奈子、神田勇輝、高崎輝恒:酵母遺伝学の創薬への応用:ERK MAPK シグナル経路(パスウェイ) 標的薬 ACA-28 の発見と新たながん治療戦略. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 234) 原伸樹、佐藤亮介、萩原加奈子、高崎輝恒、杉浦麗子:MAPK シグナル抑制因子である RNA 結合タンパク質 Rnc1 とストレス顆粒との関係. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 235) 嶋田絵理香、萩原加奈子、高崎輝恒、佐藤亮介、杉浦麗子:Ca²⁺ホメオスタシスを介するオートファジー遺伝子と MAPK シグナル経路の関わり. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 236) 永井善紀、神田勇輝、松本紗希、犬塚夏実、池田智里、土屋葵子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子:DEAD box 型 RNA ヘリケース Ded1 による MAPK シグナル抑制機構. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 237) 田原彩花、萩原加奈子、石田紘基、廣井遥、佐藤亮介、Dieter Wolf、杉浦麗子:酸化ストレスに応答した Endosulfine ホモログ Igo1 の役割. 酵母遺伝学フォーラム第 50 回研究報告会(東京)2017 年 9 月 11~13 日
- 238) 松浦一貴、佐藤亮介、萩原加奈子、神田勇輝、高崎輝恒、杉浦麗子:ACA-28 による ERK MAPK シグナルを介したメラノーマ特異的細胞増殖抑制機構. 近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2017「第 7 回院生サミット」(奈良)2017 年 9 月 2 日
- 239) 神田勇輝、犬塚夏実、松本紗希、池田智里、永井善紀、土屋葵子、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子:DEAD box 型 RNA helicase Ded1 による PKC/MAPK シグナル制御機構の提唱. 近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2017「第 7 回院生サミット」(奈良)2017 年 9 月 2 日
- 240) 池畑拓実、大谷夏実、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子:Hsp90 と MAPK シグナル伝達経路構成因子のクロストーク機構. 近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2017「第 7 回院生サミット」(奈良)2017 年 9 月 2 日
- 241) 稲荷正大、萩原加奈子、原伸樹、田中千晶、佐藤亮介、高崎輝恒、杉浦麗子:RNA 結合タンパク質 Pumilio とイノシトールリン脂質代謝との機能的関係. 近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2017「第 7 回院生サミット」(奈良)2017 年 9 月 2 日
- 242) 杉浦麗子:カルシニューリン阻害薬 FK506 を利用した MAPK シグナル制御メカニズムと創薬研

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 究:シグナル制御拠点としての RNA 顆粒の役割から新規 ERK 調整剤 ACA-28 の抗がん作用まで. 第 24 回マクロライド新作用研究会講演(東京)2017 年 7 月 21~22 日
- 243) 佐藤亮介, 萩原加奈子, 深尾亜喜良, 藤原俊伸, 平井晋哉, 谷時雄, 杉浦麗子: KH 型 RNA 結合タンパク質 Rnc1 の Rae1 依存的な核外輸送を介した MAPK シグナル制御機構. 第 19 回日本 RNA 学会年会(富山)2017 年 7 月 19~21 日
- 244) 緒方文彦, 佐藤亮介, 萩原加奈子, 杉浦麗子, 川崎直人: メタロミクス研究をめざした細胞内金属イオン濃度の新規定量法開発. 第 44 回日本毒性学会学術年会(横浜)2017 年 7 月 10~12 日
- 245) 杉浦麗子: 酵母モデル生物とケミカルゲノミクスを用いた MAP キナーゼシグナル制御機構の解明と創薬への展開. 医薬基盤研セミナー講演(大阪)2017 年 6 月 6 日
- 246) Satoh R, Hagihara K, Inari M, Fukao A, Fujiwara T, Hirai S, Tani T, Sugiura R: Spatial Regulation of the KH Domain RNA-Binding Protein Rnc1 Mediated by a Crm1-Independent Nuclear Export System. 9TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2017) (Banff), 2017 年 5 月 14~19 日
- 247) Kanda Y, Satoh R, Matsumoto S, Ikeda C, Inutsuka N, Hagihara K, Tsujimoto S, Kita A, Sugiura R: Skb5, an SH3 Aaptor Protein, Regulates PKC/MAPK Signaling by Controlling the Intracellular Localization of MAPKKK. 9TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2017) (Banff), 2017 年 5 月 14~19 日
- 248) Satoh R, Matsuura K, Hagihara K, Kita A, Tanabe G, Muraoka O, Takasaki T, Sugiura R: Selective Killing of Human Melanoma Cancer Cells by a Novel Small Molecule Compound Identified by a Phenotypic Screen Targeting MAPK Signalling in Fission Yeast. 9TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2017) (Banff), 2017 年 5 月 14~19 日
- 249) Sugiura R: Combating Cancer with a Powerful Chemical Genetics Approach and Model Systems. McGill University seminar (Montreal), 2017 年 5 月 15 日
- 250) 島田紘明, 橋本凌汰, 青木 彩, 東田千代, 川瀬篤史, 岩城正宏: 15-PGDH および OATP2A1 の発現変動は肝障害時の肝組織中 PGE₂ 量を調節する. 日本薬物動態学会第 32 回年会(東京)2017.11.
- 251) 14) 橋本凌汰, 島田紘明, 東田千代, 青木 彩, 川瀬篤史, 岩城正宏: 薬物誘発性肝障害に伴う肝プロスタグランジン E₂ 動態変動. 第 59 回日本脂質生化学会(京都)2017.6.
- 252) 15) Iwaki M., Ogiso T., Shimada H., Kawase A.: Effect of hepatic and renal functions of pharmacokinetics of naproxen in guinea pigs: acyl glucuronide concentration and irreversible binding to plasma protein. PSWC2017 (Stockholm) 2017.5.
- 253) 16) Shimada H., Kawase A., Ogiso T., Iwaki M.: Correlation between formation of glucuronide metabolite and covalent protein adducts of nonsteroidal anti-inflammatory drugs. PSWC2017 (Stockholm) 2017.5.
- 254) 貞廣暁利, 深尾亜喜良, 竹内理, 藤原俊伸: Poliovirus の組織特異的増殖を生み出す IRES 依存的翻訳機構の解明. 生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017(神戸)2017.12.
- 255) 貞廣暁利, 小坂実央, 深尾亜喜良, 竹内理, 藤原俊伸: A 型肝炎ウイルスの細胞種特異性を生み出す IRES 依存的翻訳制御機構の解析. 生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017(神戸) 2017.12.
- 256) 坂村由梨佳, 友廣拓生, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 鈴木亨, 山本雅, 藤原俊伸: 哺

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

乳類における miRNA による翻訳抑制機構の解明. 生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017(神戸) 2017.12.

257) 武知美和, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 藤原俊伸: BRF1 による mRNA 分解と共役した翻訳抑制機構の解析. 生命科学系学会合同年次大会 ConBio2017(神戸) 2017.12.

258) Toshinobu Fujiwara: ZFP36L1 represses translation initiation independently of deadenylation mediated by AU-Rich elements. Cutting Edge Developments in RNA Biology for the Control of Gene Expression(OIST) 2017.11.

259) Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Elucidation of elementary processes in which RNA-binding protein HuD stimulates the cap-poly(A) dependent translation. Cutting Edge Developments in RNA Biology for the Control of Gene Expression (OIST) 2017.11.

260) Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Mysterious eukaryotic translation initiation factor eIF4H. Cutting Edge Developments in RNA Biology for the Control of Gene Expression(OIST) 2017.11.

261) Toshinobu Fujiwara: ZFP36L1 represses translation initiation independently of deadenylation mediated by AU-Rich elements. Protein Synthesis and Translational Control(ドイツ) 2017.9.

262) Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: Elucidation of elementary processes in which RNA-binding protein HuD stimulates the cap-poly(A) dependent translation. Protein Synthesis and Translational Control(ドイツ) 2017.9.

263) 坂村由梨佳, 友廣拓生, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 鈴木亨, 山本雅, 藤原俊伸: 哺乳類における miRNA による翻訳抑制機構の解明. 第 19 回日本 RNA 学会年会(富山) 2017.7.

264) 大塚衆志, 武知美和, 深尾亜喜良, 船上仁範, 藤原俊伸: BRF1 による mRNA 分解と共役した翻訳抑制機構の解析. 第 19 回日本 RNA 学会年会(富山) 2017.7.

265) 西阪皓理, 松木香菜子, 大塚衆志, 深尾亜喜良, 船上仁範, 藤原俊伸: ARE 結合タンパク質 AUF1 による遺伝子発現制御機構の解析. 第 19 回日本 RNA 学会年会(富山) 2017.7.

266) 深尾亜喜良, 友廣拓生, 大塚衆志, 青山智彦, 船上仁範, 足達俊吾, 夏目徹, 藤原俊伸: *in vitro* 翻訳システムを用いた miRNA による翻訳制御分子機構の解析. 第 19 回日本 RNA 学会年会(富山) 2017.7.

267) 山本佐知雄, 岡田風花, 木下充弘, 鈴木茂生: 4 級アンモニウム化光重合性アクリルアミドゲルを用いる陽イオン性試料のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 37 回キャピラリー電気泳動シンポジウム(宮城)2017.11

268) Yamamoto S, Kinoshita M, Suzuki S : HPLC separation of 8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid labeled N-glycans released from glycoproteins using tetrazole functional HILIC column. 46th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques(Korea, Jeju) 2017.11

269) Suzuki S, Yamamoto S, Kinoshita M : In-capillary lectin-binding and exoglycosidase digestion capillary electrophoresis for profiling glycoprotein glycans. 46th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques(Korea, Jeju) 2017.11

270) 姫野美幸, 山本佐知雄, 木下充弘, 鈴木茂生 : 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化ペプチドのオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 271) 中住智典、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 8-Aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid 標識化ガン細胞由来糖鎖の構造解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10
- 272) 矢野祥子、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : PDMS 製マイクロチップと強酸性アクリルアミドゲルを用いるオンライン試料濃縮法の開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)ポスター発表 2017.10
- 273) 岡田風花、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 4 級アンモニウム化光重合性アクリルアミドゲルを用いる陽イオン性試料のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10
- 274) 山本佐知雄、中住智典、木下充弘、鈴木茂生 : 部分導入キャピラリー電気泳動法を用いるガン細胞由来糖鎖の解析. 分析化学会第 66 年会(東京)2017.9
- 275) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生 : 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第 30 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(東京)2017.8
- 276) 姫野美幸、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化ペプチドのオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第 30 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(東京)2017.8
- 277) 鈴木茂生、山上眞、松井友理恵、木下充弘、山本佐知雄 : 部分導入キャピラリー電気泳動による糖タンパク質糖鎖の in-capillary エキシグリコシダーゼ消化. 第 30 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(東京)2017.8
- 278) 姫野美幸、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化ペプチドのオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 日本分析化学会近畿支部 第 11 回夏季セミナー(兵庫)2017.8
- 279) 矢野祥子、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : PDMS 製マイクロチップと強酸性アクリルアミドゲルを用いるオンライン試料濃縮法の開発. 日本分析化学会近畿支部 第 11 回夏季セミナー(兵庫)2017.8
- 280) 山本佐知雄 : 糖タンパク質糖鎖の高感度かつ網羅的な解析技術の開発. 第 77 回分析化学討論会講演(京都)2017.5
- 281) 露口 正人、平澤 明、仲庭 哲津子、櫻井 淳史、仲西 功、木下 誉富 : CK 2 α 1-hematein の結合を変化させる間接的要因、2017 年度 日本蛋白質科学会年会 (仙台)2017.5.
- 282) 中川 愛理、吉岡 賢司、露口 正人、木下 誉富、中村 真也、西脇 敬二、仲西 功 : プリン骨格を有する化合物をシードとする新規 CK2 阻害剤の構造活性相関研究、日本薬学会近畿支部大会 (神戸) 2017.10.
- 283) 露口 正人、仲西 功、木下 誉富 : ATP 部位及びアロステリック部位に結合するCK2 α 1 阻害剤、平成 29 年度日本結晶学会年会 (広島) 2017.11.
- 284) Muraoka O, Tanabe G, Morikawa T, Nakamura S, Nakanishi I, Yoshikawa M : Salacinol, a potent α -glucosidase inhibitor from Ayurvedic traditional medicine “Salacia” as a lead for anti-diabetic agents. The 15th International Symposium on Traditional Medicine in Toyama (Japan) 2017.11.
- 285) 中尾元紀、土江亜季、松尾世為子、畝佳子、覺野律、吉岡千晶、植松勇伍、緒方文彦、川崎直人、長井紀章 : 新規院内製剤セレン含有口腔内崩壊錠の作製とその評価. 第 27 回日本医療薬学会年会(千葉)2017.11. 優秀演題候補
- 286) 緒方文彦、假屋幸音、中村武造、川崎直人 : Fe-Mg 系層複水酸化物に対する無機態窒素の

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 吸着機構に関する研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10.
- 287) 小林悠平、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : アルカリ水熱処理により創製したフライアッシュ由来ゼオライトへの鉛イオンおよび水銀イオンの吸着能. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10. 優秀ポスター賞受賞
- 288) 植田絵里美、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : 粘土鉱物の物理化学的性質と染料除去との関連性. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10.
- 289) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : 炭化処理したリグニンへの亜鉛の吸着挙動. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10.
- 290) 岩井淑恵、川瀬七愛、大竹裕子、緒方文彦、川崎直人 : 頭皮に優しい発毛剤の開発:ミノキシジルとナノ結晶化技術の融合. 第 76 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2017.10.
- 291) 川崎直人、緒方文彦、中村武造 : 毛髪中のミネラル濃度の測定による健康指標への適用. 第 76 回日本公衆衛生学会総会(兵庫)2017.10.
- 292) 植松勇伍、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : バジルシードによるストロンチウム及びセシウムイオンの吸着能. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9. 新人賞候補者プレゼンテーション
- 293) 小林悠平、緒方文彦、中村武造、永橋瑛梨、川崎直人 : アルカリ水熱処理により創製したフライアッシュ由来ゼオライトへの鉛イオン吸着能. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9.
- 294) 永橋瑛梨、緒方文彦、中村武造、小林悠平、川崎直人 : フェノール性の天然高分子化合物による亜鉛の吸着能. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9.
- 295) 山城海渡、緒方文彦、中村武造、川崎直人 : 見た目のアンチエイジングのための毛髪中ミネラル濃度の適用に関する研究. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9.
- 296) 中村武造、吉田映子、滝田 良、緒方文彦、川崎直人、内山真伸、鍛冶利幸 : 血管内皮細胞の増殖を強力に促進する亜鉛錯体. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9.
- 297) 緒方文彦、川上真理奈、中村武造、川崎直人 : 新規 Fe-Mg 型ハイドロタルサイトによるタンゲステンの吸着能. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー(仙台)2017.9.
- 298) 川崎直人、緒方文彦、山城海渡 : 毛髪中ミネラル濃度と疾病ならびに生活習慣との関連性. 第 44 回日本毒性学会学術年会(横浜)2017.7.
- 299) 中村武造、吉田映子、滝田 良、内山真伸、鍛冶利幸 : 血管内皮細胞の増殖を強力に促進する有機-無機ハイブリッド分子. 第 44 回日本毒性学会学術年会 2017.7.
- 300) 山西弘城、荒川剛、奥村博司、緒方文彦、稲垣昌代、伊藤哲夫 : 放射性セシウム吸着ブロックの開発とその適用に関する検討. 日本保健物理学会第 50 回研究発表会(大分)2017.6.
- 301) 原 崇人、中村武造、松崎紘佳、吉田映子、山本千夏、鍛冶利幸 : 亜鉛錯体を用いた内皮細胞シンドカン-4 の新規発現調節機構の解析. 第 44 回日本毒性学会学術年会 2017.7.
- 302) 川崎直人、山城海渡、緒方文彦 : 毛髪中の金属濃度測定による花粉症発症の予測に関する研究. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3. 講演ハイライトに掲載
- 303) 緒方文彦、東剛志(オーガナイザー) : 医薬品による環境汚染問題—実態・生態影響・浄化技術—(一般シンポジウム) 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 304) 緒方文彦、林 友典、平田敦士、能登啓介、松岡 寛、川崎直人 : 簡易懸濁法適用時における NaCl の影響およびチューブ通過性に関する基礎研究. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 305) 長井紀章、真野裕、船上仁範、緒方文彦、伊藤吉将、後藤和子、川崎直人 : 納豆による高血圧予防効果の解明: 納豆菌酵素発酵代謝物は本態性高血圧の発症を抑制する. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 306) 西村哲治、鈴木俊也、川元達彦、小林 浩、高木総吉、森田久男、石橋融子、川崎直人、北村壽朗 : 環境試験法 水質試験法 アルデヒド類. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 307) 安田明日香、松谷定、五十嵐健祐、阿部真也、吉町昌子、川崎直人、後藤輝明 : 尿糖試験紙実施による生活習慣の意識変化. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 308) 緒方文彦、戸田徳、大谷昌司、川崎直人 : ポリエチレンテレフタラートを用いたニッケル-コバルト複合水酸化物の造粒およびそのリン酸イオン吸着能. 第 51 回日本水環境学会年会(熊本)2017.3.
- 309) 二宮清文、酒井千恵、丸本真輔、長友暁史、村岡 修、菊池 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生. アンディローバ(*Carapa guianensis*)含有リモノイド成分の脂肪性肝炎抑制作用. 第7回食品薬学シンポジウム(京都), 2017.10.28-29.(国内・ポスター)
- 310) 森川敏生、八幡郁子、松尾一彦、西田枝里子、二宮清文、義江 修、村岡 修、中山隆志. メース(*Myristica fragrans*, 仮種皮)のケモカイン受容体 CCR3 アンタゴニスト様作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索. 第7回食品薬学シンポジウム(京都), 2017.10.28-29.(国内・ポスター)
- 311) 二宮清文、森川敏生. 西洋ハーブからの肝脂肪低減を介した生活習慣病予防改善物質の探索. 第7回食品薬学シンポジウム(京都), 2017.10.28-29.(国内・口頭)シンポジスト
- 312) 石川文洋、神農佳澄、菌田直樹、木内恵理、赤木淳二、二宮清文、村岡 修、吉川雅之、森川敏生、田邊元三. 天然薬物 “サラシア” 由来サラシノール類縁体のジアステレオ選択的合成及び *in vivo* □-グルコシダーゼ阻害活性評価. 第35回メディシナルケミストリーシンポジウム(名古屋), 2017.10.25-27.(国内・ポスター)
- 313) 二宮清文、山本紗也、塩谷美幸、森川敏生. センキュウ(*Cnidium officinale*, 根茎)の新規芳香族化合物. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・ポスター)
- 314) 二宮清文、西田文香、甕 千明、奥川修平、吉川雅之、村岡 修、森川敏生. 茶花に含まれるアシル化トリテルペンサポニンのヒト消化管由来がん細胞に対する細胞増殖抑制活性. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・ポスター)
- 315) 二宮清文、井上尚樹、佐々木佑人、森川敏生. マツリカ(*Jasminum sambac*, 花部)の新規イリドイド配糖体成分. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・ポスター)
- 316) 二宮清文、森 裕樹、萬瀬貴昭、今川貴仁、村岡 修、森川敏生. *Alpinia galanga* 由来フェニルプロパノイドメラニン産生抑制活性とその構造活性相関. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・ポスター)
- 317) 平 徳久、勝山雄志、吉岡正人、村岡 修、森川敏生. アスכולビン酸誘導体のメラニン産生抑制活性. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・口頭)
- 318) 二宮清文、長友暁史、岳 誉泰、三木芳信、平 徳久、堀佑一郎、北原潤美、村岡 修、森川敏生. アシル化フラボノール配糖体の肝細胞における糖・脂質代謝改善作用および構造活性相関. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・口頭)
- 319) 二宮清文、宮坂賢知、塩谷美幸、山本紗也、森川敏生. センキュウ(*Cnidium officinale*, 根茎)の糖消費促進活性成分の探索. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.14.(国内・ポスター)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 320) 二宮清文, 二宮 与, 酒井千恵, 萬瀬貴昭, 村岡 修, 森川敏生. 漢薬コウズクの肝細胞内中性脂肪低減活性成分. 第38回日本肥満学会(大阪), 2017.10.7-8.(国内・ポスター)
- 321) 萬瀬貴昭, 二宮清文, 西 亮介, 今川貴仁, Saowanee Chaiech, 村岡 修, 森川敏生. *Alpinia galanga* から単離した新規 7-O-9' 結合型ネオリグナンの構造とメラニン産生抑制活性. 第59回天然有機化合物討論会(札幌), 2017.9.20-22.(国内・ポスター)
- 322) 石川文洋, 神農佳澄, 藺田直樹, 木内恵里, 赤木淳二, 二宮清文, 村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 田邊元三. アーユルベータ天然薬物 “サラシア” 由来スルホニウム塩類のジアステレオ選択的合成及び *in vivo* α -グルコシダーゼ阻害活性評価. 第59回天然有機化合物討論会(札幌), 2017.9.20-22.(国内・ポスター)
- 323) 平 徳久, 勝山雄志, 吉岡正人, 村岡 修, 森川敏生. アルキルグリセリルアスコルビン酸のチロシナーゼ関連タンパク発現阻害によるメラニン産生抑制活性. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・ポスター)
- 324) 長友暁史, 西田典永, 吉川雅之, 村岡 修, 二宮清文, 森川敏生. ローズヒップエキスおよび *trans*-tilirosideの脂肪蓄積抑制作用. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・ポスター)
- 325) 萬瀬貴昭, 田邊元三, 二宮清文, 今川貴仁, 安藤恵里, 福田梨沙, 福田友紀, 石川文洋, 村岡 修, 森川敏生. タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 含有 butenolide 類のメラニン産生抑制活性. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・口頭)
- 326) 奥川修平, 二宮清文, 西田文香, 甕 千明, 北川仁一朗, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. 茶花含有サポニンのヒト消化管由来がん細胞増殖抑制活性とその構造活性相関. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・口頭)
- 327) 二宮清文, 宮坂賢知, 塩谷美幸, 二宮 与, 酒井千恵, 森川敏生. 川芎の耐糖能改善作用成分. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・口頭)
- 328) 島田紘明, 卜部裕一, 岡本雄平, 川瀬篤史, 李 征, 森川敏生, 村岡 修, 岩城正宏. カンカニクジュヨウ中主成分エキナコシド, アクテオシドのグルコース/ Na^+ 共輸送トランスポーター阻害作用. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・口頭)
- 329) 二宮清文, 奥川修平, 川口泰生, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. 国産蓮花 (*Nelumbo nucifera*, 花部)の開花度による含有アルカロイド成分の変動. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・ポスター)
- 330) 森川敏生, 福井裕介, 長友暁史, 阪本千夏, 芝坂 彩, 村岡修, 二宮清文. マテ (*Ilex paraguariensis*) 葉部の血中中性脂肪上昇抑制活性成分. 日本生薬学会第64回年会(千葉), 2017.9.9-10.(国内・ポスター)
- 331) 川口泰生, 奥川修平, 二宮清文, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生. 佐賀県産蓮 (*Nelumbo nucifera*) 花部の開花状況による含有アルカロイドの成分変動. 第34回和漢医薬学会大会(福岡), 2017.8.26-27.(国内・ポスター)
- 332) 宮坂賢知, 二宮清文, 塩谷美幸, 森川敏生. センキュウ (*Cnidium officinale*, 根茎)の糖消費促進活性成分の探索. 第34回和漢医薬学会大会(福岡), 2017.8.26-27.(国内・ポスター)
- 333) 二宮清文, 二宮 与, 酒井千恵, 塩谷美幸, 森川敏生. センキュウ (*Cnidium officinale*, 根茎)の耐糖能改善作用成分の探索. 第34回和漢医薬学会大会(福岡), 2017.8.26-27.(国内・口頭)
- 334) 萬瀬貴昭, 二宮清文, 加藤和寛, 檜崎紘生, 岡田枝里子, 山野友希, 柳田満廣, 要 欣志, 中村 翔, 森川敏生. 延命草 (*Isodon trichocarpus*, 地上部) 含有成分enmeinのヒト毛乳頭細

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 胞増殖促進作用. 第34回和漢医薬学会大会(福岡), 2017.8.26-27.(国内・ポスター)
- 335) 長友暁史, 西田典永, 田中(東)幸雅, 吉川雅之, 村岡 修, 二宮清文, 森川敏生. ローズヒップエキスおよび*trans*-tilirosideの肝内脂肪低減作用. 第17回日本抗加齢医学会総会(東京), 2017.6.2-4.(国内・口頭)
- 336) 長友暁史, 西田典永, 吉川雅之, 村岡 修, 二宮清文, 森川敏生. 機能性食品素材ローズヒップエキスの有効性および安全性評価. 日本食品化学学会第23回総会・学術大会(三重), 2017.6.1-2.(国内・口頭)
- 337) 小林正和, 赤木淳二, 山口康代, 山崎寛生, 森川敏生, 吉川雅之, 村岡 修, 絵本正憲. 耐糖能異常者におけるサラシアエキス配合食品による食後血糖低下作用 ～持続血糖モニターを用いたクロスオーバー試験～. 第71回日本栄養・食糧学会大会(沖縄), 2017.5.19-20.(国内・ポスター)
- 338) 長友暁史, 西田典永, 田中(東)幸雅, 吉川雅之, 村岡 修, 二宮清文, 森川敏生. ローズヒップエキスおよび*trans*-tilirosideの肝細胞内中性脂肪代謝促進作用. 第71回日本栄養・食糧学会大会(沖縄), 2017.5.19-20.(国内・ポスター)
- 339) Yamamoto T, Mitamura K, Taga A : The effect of cyclophilin A on cell invasion of colorectal cancer cells. 22nd World Congress on Advances in Oncology and 20th International Symposium on Molecular Medicine (Athene, Greece) 2017.10.
- 340) Kubota C, Yamamoto T, Taga A : The effect of maple syrup extract on cell proliferation of malignant melanoma cells. 22nd World Congress on Advances in Oncology and 20th International Symposium on Molecular Medicine (Athene, Greece) 2017.10.
- 341) 山本 哲志, 谷田 和香奈, 橋本 知樹, 三田村 邦子, 多賀 淳 : 細胞外基質 Lumican の発現抑制による新規膵臓癌細胞増殖抑制法の開発. 日本薬学会第 137 年会(仙台) 2017.3.
- 342) 難波佑輔, 中村 真也, 木下誉富, 仲西 功: バーチャルスクリーニング法により得られた化合物の結合様式の妥当性の評価. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 343) 西脇 敬二, 出口貴浩, 大東可苗, 畑悠佑, 中村 真也, 村田和也, 松田秀秋, 仲西 功: Hydroxychavicol をシードとした XO 阻害化合物の探索研究. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 344) 二宮清文, 宮澤聖也, 尾関快天, 松尾菜都子, 村岡 修, 菊池 崇, 山田剛司, 田中麗子, 森川敏生: ブラジル生薬 *Carapa guianensis* 含有リモノイド成分の肝保護作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 345) 二宮清文, 甕 千明, 西田文香, 奥川修平, 北川仁一朗, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生: Chakasaponin 類のヒト消化管由来がん細胞に対する細胞増殖抑制活性の構造活性相関. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 346) 長友暁史, 西田典永, 田中(東)幸雅, 吉川雅之, 村岡 修, 二宮清文, 森川敏生: ローズヒップエキス含有成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台) 2017.3.
- 347) 田邊元三, 森川敏生, 福田梨沙, 福田友紀, 萬瀬貴昭, 二宮清文, 松本朋子, 眞野みのり, 松田久司, 村岡 修: タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 NO 産生抑制活性 Butenolide 類の合成およびその活性評価. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 348) 平 徳久, 勝山雄志, 吉岡正人, 村岡 修, 森川敏生: アルキルグリセリルアスコルビン酸誘導体の分子構造とメラニン産生抑制作用. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 349) 二宮清文, 加藤和寛, 萬瀬貴昭, 今川貴仁, 松本 拓, 岡崎 茜, 岡田枝里子, 要 欣志, 中

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 村 翔、森川敏生:延命草 (*Isodon trichocarpus*, 地上部) 含有ジテルペノイド成分のメラニン産生抑制活性. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 350) 萬瀬貴昭、安藤恵里、田邊元三、福田梨沙、福田友紀、筒井 望、三宅史織、中屋友紀子、山添晶子、松本朋子、松田久司、二宮清文、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来成分の NO 産生抑制活性および全合成. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 351) 奥川修平、北川仁一朗、甕 千明、田邊元三、亀井惟頼、二宮清文、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:蓮花 (*Nelumbo nucifera*, 花部) 含有メラニン産生抑制アルカロイド成分を指標とした品質評価. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 352) 二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部のアロマトーゼ阻害活性. 日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)2017.3.
- 353) 中村光、柳綾沙美、森下かんな、前川智弘:トリメチルシリルアジドを用いた転位による1,5-二置換テトラゾールの合成. 日本薬学会第137年会(仙台) 2017.3.
- 354) 中村光、今宮彰良、坂井田楓、三木康義、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬による転位を利用した3-アシルベンゾフランの合成. 日本薬学会第137年会(仙台) 2017.3.
- 355) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 日本薬学会第137年会(宮城)2017.3.
- 356) Satoh R., Kita A., Hagihara K., Sugiura R.:RNA granules: Signaling hubs and therapeutic targets for cancer therapy. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11. (シンポジウム)
- 357) 佐藤亮介、別府梨沙、喜多綾子、石原慶一、杉浦麗子:ダウン症関連遺伝子 RCAN1 は酸化ストレス応答シグナル伝達経路を制御する. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11. (シンポジウム)
- 358) 永井敢、小林彩保、佐藤亮介、杉浦麗子、伊藤隆、三島正規:溶液 NMR 法を用いた長距離情報の取得による RNA 結合性タンパク質 Nrd1 のドメイン間配向の決定. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11.
- 359) 萩原加奈子、石田紘基、木下佳那子、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介する遺伝子発現プロファイリングの網羅的解析と鉄代謝機構の関わり. 第 39 回日本分子生物学会年会(横浜)2016.11.
- 360) Sugiura R.:Applying Kinase-Phosphatase Interplay in Ca²⁺ Signaling for Cancer Therapeutics: A pas de deux. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics (Osaka)2016.10. (シンポジウム)
- 361) Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Ikeda C., Inutsuka N., Hagihara K., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R.: Skb5, an SH3 adaptor protein, regulates PKC/MAPK signaling via spatial regulation of MAPKKK. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics (Osaka)2016.10.
- 362) Satoh R., Matsuura K., Hagihara K., Tsuchimoto N., Hyodo Y., Kita A., Muraoka O., Tanabe G., Sugiura R.: Anticancer-drug screening utilizing fission yeast genetics identified Acemomannolipin A, a Calcium signalling modulator with anti-tumor activity. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 363) Kawase A., Nimura N., Yamashita M., Ono Y., Kubouchi K., Sawada N., Shimada H., Satoh R., Kita A., Mukai H., Iwaki M., Sugiura R.: Preoin kinase N (PKN) family-dependent regulation of hepatic cytochrome P450 2C and metabolic profile analysis in PKN mutant mice through targeted metabolomics by LC-MS/MS. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 364) Ikehata T., Satoh R., Kita A., Sugiura R.: Mutation and Inhibition of Hsp90 affects stress granule assembly and MAPK signaling. ~Implications of anti-cancer mechanisms of Geldanamycin~ the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 365) Ikeda C., Kanda Y., Satoh R., Matsumoto S., Inutsuka N., Hagihara K., Tsujimoto S., Kita A., Sugiura R.: Skb5, an SH3 domain adaptor protein, plays a regulatory role in the PKC/MAPK signaling pathway by controlling the intracellular localization of the MAPKKK Mkh1. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10. 「革新がんゲノム」優秀ポスター発表賞受賞
- 366) Hagihara K., Ishida K., Kinoshita K., Satoh R., Kita A., Sugiura R.: Global gene expression profiling reveals unexpected spectrum of effects of a novel immune modulator FTY720. ~Possible involvement of iron homeostasis as an antitumor property of FTY720~the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 367) Matsuura K., Satoh R., Hagihara K., Tsuchimoto N., Hyodo Y., Kita A., Tanabe., Muraoka O., Sugiura R.: Anti-cancer drug discovery using fission yeast genetics identified a novel analog of 1'-Acetoxychavicol Acetate (ACA) with a potent anti-tumor activity against human melanoma cells. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 368) Inari M., Satoh R., Kimura Y., Hagihara K., Kitai Y., Ishida K., Hiroi H., Kita A., Wolf D., Sugiura R.: Functional Analysis of the Puf family RNA-binding protein Pumilio in stress responses and the inositol phospholipid signaling pathway. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10. 「革新がんゲノム」優秀ポスター発表賞受賞
- 369) Ogata F., Satoh R., Kita A., Sugiura R., Kawasaki N.: Evaluation of the measurement method of intracellular calcium ion concentration in fission yeast. the 12th International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.
- 370) Kita A., Minamibayashi A., Yamazaki M., Hagihara K., Satoh R., Sugiura R.: A Genome-wide Screen Reveals Genes Involved in Calcium Signaling and Glycosylation for Tolerance to SKB (Sugiura Kagoubutsu B), a Novel Glycolipid with Potent Anti-tumor Activity. the 12th

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

International Conference on Protein Phosphatase & International Symposium on Innovative Research for Genome-Based Drug Discovery and Cancer Therapeutics(Osaka)2016.10.

371) 佐藤亮介、萩原加奈子、稲荷正大、池畑拓実、喜多綾子、杉浦麗子:RNA 結合蛋白質 Rnc1 の局在解析から見えてきた MAPK シグナルの制御機構. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.

372) 萩原加奈子、石田紘基、木下佳那子、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介するシグナル伝達機構の解明. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.

373) 池畑拓実、岡山杏奈、佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子:分裂酵母を用いた Calcineurin と Calcipressin の局在制御機構の解析. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.

374) 池田智里、神田勇輝、佐藤亮介、松本紗希、犬塚夏実、萩原加奈子、松野純男、喜多綾子、杉浦麗子:SH3 アダプター Skb5 は MAPKKK の細胞内局在を制御することで Pmk1 MAPK シグナルを抑制する. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.

375) 稲荷正大、佐藤亮介、萩原加奈子、廣井遥、北井佑樹、石田紘基、Dieter Wolf、喜多綾子、杉浦麗子:RNA 結合タンパク質 Pumilio と PI4,5P2 シグナルの遺伝学的関わり. 酵母遺伝学フォーラム第 49 回研究報告会(神戸)2016.9.

376) Satoh R., Kita A., Sugiura R.:Spatial Regulation of RNA-binding Proteins via Stress Granule Formation by Signaling Pathways. The RNA Society of Japan 18th Annual Meeting & the 21th Annual Meeting of the RNA Society (RNA 2016 Kyoto) (Kyoto)2016.6.

377) Sugiura R.:RNA granules: Signaling hubs and therapeutic targets for cancer therapy. The RNA Society of Japan 18th Annual Meeting & the 21th Annual Meeting of the RNA Society (RNA 2016 Kyoto) (Kyoto)2016.6.

378) 杉浦麗子、喜多綾子、萩原加奈子、池畑拓実、稲荷正大、佐藤亮介:シグナル伝達拠点としての RNA granule の機能解析と創薬への応用. 第 1 回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.

379) 池畑拓実、岡山杏奈、佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子:Calcineurin 抑制因子 Calcipressin の stress granule 移行に関わる領域と Calcineurin シグナルに与える役割の解析. 第 1 回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.

380) 稲荷正大、佐藤亮介、萩原加奈子、廣井遥、北井佑樹、石田紘基、Dieter Wolf、喜多綾子、杉浦麗子:RNA 結合タンパク質 Pumilio とイノシトールリン脂質経路のストレス応答における役割の解析. 第 1 回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.

381) 喜多綾子、神田勇輝、松本紗希、犬塚夏実、池田智里、佐藤亮介、土井章、杉浦麗子:RNA granule の構成因子を介した PKC シグナル制御メカニズムの解析. 第 1 回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.

382) 佐藤亮介、萩原加奈子、池畑拓実、稲荷正大、喜多綾子、杉浦麗子:RNA 結合蛋白質のリン酸化は Stress granule の形成を調節する. 第 1 回 RNA 顆粒/RNA タンパク質複合体研究会(岡崎)2016.7.

383) Nakamura S., Sakurai A., Kinoshita T., Nakanishi I.:Different binding modes of apigenin in homologous proteins, human CK2 α and maize CK2 α . 21st EuroQSAR (Verona, Italy)2016.9.

384) Nakanishi I., Namba Y., Nakamura S., Kinoshita T.:Evaluation of predicted binding structures of virtual screening hit compounds. 21st EuroQSAR (Verona, Italy)2016.9.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 385) Tsuyuguchi M., Nakaniwa T., Nakanishi I., Kinoshita T.: Crystal structure of CK2 α 2 in the new crystal form. 8th International Conference on Protein Kinase CK2(Homburg, Germany)2016.9.
- 386) 中村 真也、木村翔拓、北吉 駿、仲西 功: Solvent Dipole Ordering の創薬への応用研究. 第 10 回分子科学討論会(神戸)2016.9.
- 387) 露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: His160 のコンホメーション変化と hematein による ATP 非拮抗型 CK2 α 1 阻害の関係. 第 16 回日本蛋白質科学会年会(福岡)2016.6.
- 388) 露口正人、平澤 明、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: 高選択性阻害剤の創出を目指した CK2 α 1 および CK2 α 2 の構造解析. 第 5 回バイオメディカルフォーラム(大阪)2016.2.
- 389) Kawasaki N., Ogata F.: Decreasing carbon dioxide emission by conversion of biomass to water treatments adsorbents, International Conference on Chemistry and Environmental Science Research 2016 (Penang, Malaysia) 2016. 11.
- 390) Kawasaki N., Ogata F.: Idea build and figure of university student in Japan and Thailand. 6th Asia-Pacific Conference on Public Health/1st ASEAN Health Promotion Conference (Bangkok, Thailand) 2016. 8.
- 391) Ueda S., Imai K., Imaida T., Ohta A., Masuko T.: GFP 融合 ADORA2A 発現細胞とエクソソームの解析と免疫. Analysis and immunization of cells and exosomes expressing GFP-fused ADORA2A. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 392) Imaida T., Ueda S., Okita K., Ogura D., Masuko T.: 癌多様性の克服に向けた癌関連細胞表面分子の網羅的解析. Comprehensive analysis of surface expression of cancer-associated molecules towards overcoming cancer heterogeneity. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 393) Imai K., Imaida T., Ueda S., Masuko T.: 癌細胞及び GFP 融合標的分子発現トランスフェクタント由来エクソソームのフローサイトメトリー解析. Flow cytometric analysis of exosomes secreted from cancers and transfectants expressing target molecules fused to GFP. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 394) Okita K., Higaki M., Matsukura K., Ueda S., Masuko T.: 抗 HER1 抗体医薬品による抗 HER3 抗体の結合親和性と抗癌効果の増強. Enhanced binding affinity and anti-tumor activity of anti-HER3 mAb in combination with anti-HER1 therapeutic antibodies. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 395) Higaki M., Okita K., Imaida T., Ueda S., Masuko T.: 抗 HER2 抗体医薬品による抗 HER3 抗体の結合親和性と抗癌効果の増強. Enhanced binding affinity and anti-tumor activity of anti-HER3 mAb in combination with anti-HER2 therapeutic antibodies. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 396) Torii R., Shintani S., Ueda S., Ohno Y., Masuko T.: 抗 LYVE-1 抗体による原発腫瘍増殖の阻害. Inhibition of primary tumor growth by anti-LYVE-1 monoclonal antibody. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 397) Terashima K., Imaida T., Ueda S., Yagita H., Masuko T.: 複数標的分子に対する抗体と免疫チェックポイント分子阻害による治療効果の増強. Augmented anti-cancer therapeutic effect using antibodies to multiple target molecules with immune checkpoint blockade. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 398) Shintani S., Terashima K., Ueda S., Yagi H., Masuko T.: シスチントランスポーターxCT の阻害

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- はヒト肺癌の骨転移を抑制する. Inhibition of xCT cystine transporter suppress bone metastasis of human lung cancer. 第 75 回日本癌学会学術集会(横浜)2016.10.
- 399) 長友暁史、西田典永、田中(東)幸雅、吉川雅之、村岡 修、二宮清文、森川敏生:ローズヒップエキスおよび*trans*-tilirosideの脂質代謝促進作用. 第1回抗加齢学術フォーラム 産学協創で目指すアンチエイジングライフ(京都)2016.12.
- 400) 二宮清文、萬瀬貴昭、二宮 与、森 祐樹、酒井千恵、村岡 修、森川敏生:フェニルプロパノイドの肝臓中脂肪低減を介した耐糖能改善作用. 第 34 回メディシナルケミストリーシンポジウム(つくば)2016.11.
- 401) 森川敏生、二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 村岡 修:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 由来クマリン成分のアロマトターゼ阻害活性. 第 60 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(北海道)2016.10.
- 402) 森川敏生、二宮清文、二宮 与、丸本真輔、酒井千恵、村岡 修、菊池 崇、山田剛司、田中麗子:ブラジル生薬アンディローバ由来リモノイド成分の脂肪肝低減作用. 第 60 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(北海道)2016.10.
- 403) Manse Y., Ninomiya K., Okazaki A., Okada E., Imagawa T., Kaname K., Nakamura S., Morikawa T.:Diterpenoids from the Aerial Part of *Isodon trichocapus* with Melanogenesis Inhibitory Activity. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 404) Ninomiya K., Ninomiya K., Sakai C., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T.:Limonoids from Brazilian folk medicine, Andiroba, with fat metabolizing activity in hepatocytes. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 405) Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.:Hepatoprotective triterpene saponin constituents from roots of *Bupleurum falcatum*. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP12)(Osaka, Japan) 2016.10.
- 406) 萬瀬貴昭、田邊元三、福田梨沙、福田友紀、筒井 望、三宅史織、中屋友紀子、山添晶子、松本朋子、松田久司、二宮清文、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 butenolide 類の全合成および NO 産生抑制活性評価. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 407) 二宮清文、河端千尋、今野拓哉、南野 享、菅原 碧、森川敏生:釣藤鈎の機能性成分-神経突起伸長作用成分およびその作用機序-. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 408) 二宮清文、長友暁史、西田典永、田中(東)幸雅、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:ローズヒップエキスおよび*trans*-Tilirosideの脂質代謝促進作用. 第 21 回天然薬物の開発と応用シンポジウム(千葉)2016.10.
- 409) 二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川修平、北川仁一朗、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花由来サポニンのヒト消化管由来がん細胞増殖抑制活性—chakasaponinの作用機序—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 410) 二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川修平、北川仁一朗、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花由来サポニンのヒト消化管由来がん細胞増殖抑制活性 —chakasaponin II およびその誘導体の構造活性相関—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 411) 二宮清文、柴谷華苗、田邊元三、筒井 望、末吉真弓、佐伯竣介、杉田秀美、Chaipech

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分 (7)—含有クマリン成分のアロマトーゼ阻害活性—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 412) 二宮清文、杉田秀美、村木謙一、佐伯竣介、末吉真弓、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分 (6)—含有成分のがん細胞増殖抑制活性—. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 413) 二宮清文、萬瀬貴昭、今川貴仁、松本 拓、岡崎 茜、岡田枝里子、要 欣志、中村 翔、森川敏生:延命草 (*Isodon trichocarpus*, 地上部) のメラニン産生抑制活性成分. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 414) 二宮清文、北沢可哉子、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生:アンデローバ含有成分のコラーゲン分泌促進作用. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 415) 二宮清文、今野拓哉、矢田佳凜、森川敏生:サイコ (*Bupleurum falcatum* L.) の肝細胞内中性脂肪代謝作用. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 416) 森川敏生、松尾一彦、奥川修平、北川仁一朗、二宮清文、中西勇介、村岡 修、中山隆志:ケモカイン受容体を標的とした天然由来シーズの探索研究 (2):ロウバイカ (*Chimonanthus praecox* 花蕾部) の CCR6 および CCR7 アンタゴニスト活性成分. 日本生薬学会第 63 回年会(富山)2016.9.
- 417) 二宮清文、二宮 与、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生:センキュウの肝臓中脂肪低減を介した耐糖能改善作用. 第 37 回日本肥満学会(熊本)2016.10.
- 418) 森川敏生、二宮清文、二宮 与、丸本真輔、酒井千恵、宮澤聖也、尾関快天、松尾菜都子、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子:アンディローバ(*Carapa guianensis*)含有リモノイド成分の脂肪性肝炎抑制作用. 第 58 回天然有機化合物討論会(仙台)2016.9.
- 419) 田邊元三、藺田直樹、福田梨沙、福田友紀、萬瀬貴昭、筒井 望、二宮清文、森川敏生、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来NO産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 第 58 回天然有機化合物討論会(仙台)2016.9.
- 420) Kobayashi M., Akaki J., Morikawa T., Ninomiya K., Yamaguchi Y., Yamasaki H., Yoshikawa M., Muraoka O.: Suppressive effects of tablet containing *Salacia chinensis* extract on postprandial blood glucose and insulin levels in human volunteers. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 421) Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Nishida A., Okugawa S., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Anti-proliferative effects of chakasaponin II and related compounds from *Camellia sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 422) Ninomiya K., Nagatomo A., Nishida N., Tanaka-Azuma Y., Suyama T., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Lipid metabolizing effect of *trans*-tiliroside, a principal constituent in rosehip. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 423) Ninomiya K., Konno T., Yada K., Morikawa T.: Triterpene saponins from roots of *Bupleurum falcatum* with triglyceride metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 424) Ninomiya K., Imagawa T., Hachiman I., Motai C., Nishida E., Hayakawa T., Muraoka O.,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Morikawa T.: Inhibitory effects of constituents from aril of *Myristica fragrans* (Mace) on theophylline-stimulated melanogenesis in B16 4A5 cells. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 425) Ninomiya K., Muraki K., Sueyoshi M., Saeki S., Motai C., Chaipech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Growth inhibitory effects of coumarins from the flowers of *Mammea siamensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 426) Ninomiya K., Shibatani K., Sueyoshi M., Saeki S., Chaipech S., Pongpiriyadacha Y., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Coumarin constituents from the flowers of *Mammea siamensis* with aromatase inhibitory activity. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 427) Ninomiya K., Ninomiya K., Sakai C., Muraoka O., Kikuchi T., Yamada T., Tanaka R., Morikawa T. : Limonoids from flower and seed oil of *Carapa guianensis* with fat metabolizing activity in hepatocytes. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 428) Morikawa T., Okugawa S., Kitagawa N., Ninomiya K., Motai C., Kamei I., Yoshikawa M., Tanabe G., I-Jung Lee, Muraoka O. Quantitative determination of alkaloids in lotus flower (the flower buds of *Nelumbo nucifera*) and their melanogenesis inhibitory activity. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 429) Manse Y., Ninomiya K., Okazaki A., Okada E., Imagawa T., Kaname K., Nakamura S., Morikawa T.: Diterpenoids with melanogenesis inhibitory activity in the aerial part of *Isodon trichocapus*. International Symposium on Natural Products for the Future 2016 (ISNPF2016) (Tokushima, Japan) 2016.9.
- 430) 今野拓哉、二宮清文、矢田佳凜、森川敏生: 柴胡含有サポニン成分の肝細胞内中性脂肪低減活性成分. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 431) 二宮 与、二宮清文、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生: 川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の耐糖能改善作用物質. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 432) 二宮清文、二宮 与、酒井千恵、萬瀬貴昭、村岡 修、早川堯夫、森川敏生: コウズク (*Alpinia galanga*, 果実) の耐糖能改善作用成分. 第 33 回和漢医薬学会大会(東京)2016.8.
- 433) Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.: Triterpene saponin constituents from roots of *Bupleurum falcatum*: Hepatoprotective effects on D-galactosamine-induced cell damage. 9th Joint Natural Products Conference 2016 (JNPC2016) (Copenhagen, Denmark) 2016.7.
- 434) Ninomiya K., Sakai C., Ninomiya K., Shiotani M., Morikawa T.: Phthalides from rhizomes of *Cnidium officinale* accelerate metabolism of triglyceride in hepatocytes. 9th Joint Natural Products Conference 2016 (JNPC2016) (Copenhagen, Denmark) 2016.7.
- 435) 二宮清文、二宮 与、酒井千恵、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生: Andiroba (*Carapa guianensis*) 含有リモノイド成分の肝細胞内中性脂肪低下作用. 第 3 回肝臓と糖尿病・代謝研究会(金沢)2016.7.
- 436) 赤木淳二、小林正和、森川敏生、二宮清文、木内恵里、田邊元三、Yutana Pongpiriyadacha, 吉川雅之、村岡 修: サラシア・キネンシスに含有される抗糖尿病作用成分. 日本食品化学学

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 会第 22 回総会・学術大会(高知)2016.6.
- 437) 森川敏生、北川仁一朗、甕 千明、奥川修平、西田文香、吉川雅之、村岡 修、二宮清文:茶花由来アシル化サポニンのヒト口腔癌由来細胞株 HSC-2 に対する細胞増殖抑制活性. 第 70 回日本栄養・食糧学会大会(神戸)2016.5.
- 438) 前川智弘、野方美沙、中村光、藤岡弘道:メチレンアセタールの新奇変換反応—プロモホルメート体への変換とエポキシ環合成への応用. 第42回反応と合成の進歩シンポジウム(静岡)2016.11.
- 439) 中村光、今宮彰良、坂井田楓、三木康義、前川智弘:カルコンの転位反応を利用したベンゾフラン合成研究. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 440) 前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、濱本博三、三木康義:PhI(OAc)₂とSOCl₂を用いた aminochalcone のクロロメキシ化反応および分子内環化による indole 環構築への応用. 第46回複素環化学討論会(金沢)2016.9.
- 441) 前川智弘、中村光、三木康義:Synthesis of 2-acylindoles via chloromethoxylation of 2-amino chalcone. 252nd ACS National Meeting (Philadelphia) 2016.8.
- 442) 三木康義、中村光、大石峻平、前川智弘:Conversion of Ketoximes to Ketones or Amides by Hypervalent Iodine Compounds. (ICHIC2016) 2016.7.
- 443) 前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、濱本博三、三木康義:超原子価ヨウ素試薬を用いたカルコンのクロロメキシ化反応とそれを利用したインドール合成. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.
- 444) 前川智弘、野方美沙、中村光、藤岡弘道:メチレンアセタールの温和な条件下での変換反応—プロモホルメート体への変換—. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.
- 445) 前川智弘、山本晃平、大竹和樹、中村光、藤岡弘道:リン原子を活用したイソクロマン及びベンゾオキサジン誘導体の合成. 日本プロセス化学会2016サマーシンポジウム(名古屋)2016.7.
- 446) 岸本有加、岡田風花、木下充弘、山本佐知雄、鈴木茂生:HILICおよび逆相モードに共通した蛍光標識糖タンパク質糖鎖のオンライン精製HPLC法の開発. 第27回クロマトグラフィー科学会議(東京)2016.11.
- 447) 山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生:DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第27回クロマトグラフィー科学会議(東京)2016.11.
- 448) 山本佐知雄、姫野美幸、小林正弥、赤松美紀、木下充弘、鈴木茂生:光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11
- 449) 山上眞、松井友里恵、木下充弘、山本佐知雄、鈴木茂生:エキソグリコシダーゼ消化部分導入キャピラリー電気泳動による糖タンパク質糖鎖解析. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11.
- 450) 山本佐知雄、田又洋子、瀬島佳保里、木下充弘、鈴木茂生:フェニルボロン酸添加MEKCによる(S)-(+)-4-(N,N-Dimethylaminosulfonyl)-7-(3-aminopyrrolidin-1-yl)-2,1,3-benzoxadiazol標識化D-,L-糖の光学分離. 第36回キャピラリー電気泳動シンポジウム(徳島)2016.11.
- 451) 山本佐知雄、植田麻希、中村朋子、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第65回日本分析化学会年会(北海道)2016.9.
- 452) 鈴木茂生、岸本有加、橋本真一、岡田風花:糖タンパク質由来糖鎖の蛍光標識化とオンライン

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

	精製HPLC. 第65回日本分析化学会年会(北海道)2016.9.
453)	<u>木下充弘</u> 、 <u>山本佐知雄</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : バイオ医薬品開発における糖鎖解析技術. 第29回バイオメディカル分析科学シンポジウム(京都)2016.8.
454)	<u>姫野美幸</u> 、 <u>山本佐知雄</u> 、 <u>木下充弘</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : 光硬化性アクリルアミドゲルによるオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動を用いるリン酸化ペプチドの簡易解析技術. 第29回バイオメディカル分析科学シンポジウム(京都)2016.8.
455)	<u>山本佐知雄</u> 、 <u>大西翔太</u> 、 <u>鈴木翔</u> 、 <u>木下充弘</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : 光硬化性アクリルアミドゲルのピンポイント作製技術を用いる糖鎖の構造解析法の開発. 第76回分析化学討論会(岐阜)2016.5.
456)	<u>露口 正人</u> 、 <u>平澤 明</u> 、 <u>仲庭 哲津子</u> 、 <u>櫻井 淳史</u> 、 <u>仲西 功</u> 、 <u>木下 誉富</u> : CK2 サブタイプ間で異なる hematein の相互作用様式の解明. 2015 年度量子ビームサイエンスフェスタ(つくば)2016.3.
457)	<u>中村光</u> 、 <u>田中智士</u> 、 <u>高子怜大</u> 、 <u>前川智弘</u> 、 <u>三木康義</u> : 2-アミノカルコンの転位反応を利用するone-potインドール合成法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
458)	<u>前川智弘</u> 、 <u>野方美沙</u> 、 <u>中村光</u> 、 <u>藤岡弘道</u> : メチレンアセタールからプロモホルメートへの変換反応. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
459)	<u>前川智弘</u> 、 <u>山本晃平</u> 、 <u>大竹和樹</u> 、 <u>中村光</u> 、 <u>藤岡弘道</u> : O,P-アセタールを利用した分子内環化とHWE反応によるイソクロマン誘導体の合成. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
460)	<u>山本佐知雄</u> 、 <u>植田麻希</u> 、 <u>葛西優貴</u> 、 <u>木下充弘</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
461)	<u>竹田悠人</u> 、 <u>林優花</u> 、 <u>高本智世</u> 、 <u>山本佐知雄</u> 、 <u>木下充弘</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : 化学修飾型シリカナノ粒子を用いたキャピラリー電気泳動法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
462)	<u>木下充弘</u> 、 <u>斎藤愛</u> 、 <u>山本佐知雄</u> 、 <u>早川堯夫</u> 、 <u>鈴木茂生</u> : 糖鎖迅速解析のためのFmoc-ヒドラジン誘導体化と分離分析. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
463)	<u>二宮清文</u> 、 <u>酒井千恵</u> 、 <u>村岡 修</u> 、 <u>菊地 崇</u> 、 <u>山田剛司</u> 、 <u>田中麗子</u> 、 <u>森川敏生</u> : アンデローバ含有成分の脂肪肝低減作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
464)	<u>矢作忠弘</u> 、 <u>渥美聡孝</u> 、 <u>三宅克典</u> 、 <u>石内勘一郎</u> 、 <u>森永 紀</u> 、 <u>伏見裕利</u> 、 <u>大山雅義</u> 、 <u>森川敏生</u> 、 <u>有田正規</u> 、 <u>田中 謙</u> 、 <u>牧野利明</u> : 歴代成書にある生薬の効能に関する記載のデータベース化. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
465)	<u>田邊元三</u> 、 <u>森川敏生</u> 、 <u>小川哲平</u> 、 <u>藺田直樹</u> 、 <u>至田智行</u> 、 <u>萬瀬貴昭</u> 、 <u>二宮清文</u> 、 <u>筒井 望</u> 、 <u>村岡 修</u> : タイ天然薬物 <i>Melodorum fruticosum</i> 由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
466)	<u>二宮清文</u> 、 <u>奥川周平</u> 、 <u>甕 千明</u> 、 <u>北川仁一朗</u> 、 <u>田邊元三</u> 、 <u>村岡 修</u> 、 <u>森川敏生</u> : メラニン産生抑制活性を有する蓮華含有アルカロイド成分の安定性評価. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
467)	<u>二宮清文</u> 、 <u>萬瀬貴昭</u> 、 <u>岡田枝里子</u> 、 <u>松本 拓</u> 、 <u>岡崎 茜</u> 、 <u>要 欣志</u> 、 <u>中村 翔</u> 、 <u>森川敏生</u> : 延命草由来ジテルペノイド成分のメラニン産生抑制作用. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
468)	<u>二宮清文</u> 、 <u>河端千尋</u> 、 <u>柴谷華苗</u> 、 <u>南野 享</u> 、 <u>森川敏生</u> : 釣藤鈎の機能性成分(7)-含有成分の神経突起伸長作用-. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3. 学生優秀発表賞(ポスター発表の部)受賞
469)	<u>二宮清文</u> 、 <u>塩谷美幸</u> 、 <u>尾関快天</u> 、 <u>松尾菜都子</u> 、 <u>森川敏生</u> : センキュウ(<i>Cnidium officinale</i>)根茎の抗炎症作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.
470)	<u>二宮清文</u> 、 <u>柴谷華苗</u> 、 <u>居村克弥</u> 、 <u>坂本幸栄</u> 、 <u>早川堯夫</u> 、 <u>村岡 修</u> 、 <u>森川敏生</u> : 漢薬 女貞子

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

(*Ligustrum lucidum*, 果実)の機能性成分(4)-含有成分のアロマトーゼ阻害活性-. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.

471) 二宮清文、大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、岡田拓也、吉田郁代、森川敏生: ケープアロエ葉末の抗炎症作用成分. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.

472) 二宮清文、甕 千明、西田文香、奥川周平、北川仁一朗、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: Chakasaponin II および関連サポニン成分のヒト口腔癌由来細胞株 HSC-2 に対する細胞増殖抑制活性. 日本薬学会第 136 年会(横浜)2016.3.

473) 杉浦麗子: シグナル伝達拠点(ハブ)としての RNA 顆粒の役割. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12. (ワークショップ)

474) 佐藤亮介、萩原加奈子、喜多綾子、杉浦麗子: カルシニューリンシグナルの空間的制御機構. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12. (ワークショップ)

475) 小倉尚也、水野稜子、李翠芳、喜多綾子、佐藤亮介、西口英里、伊藤俊樹、杉浦麗子: イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.

476) 北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、石田紘基、喜多綾子、佐藤亮介、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子: 免疫抑制薬 FTY720 の遺伝子発現プロファイリングの解析. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.

477) 窪内康二、辻本翔、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、澤田奈々、西田升三、椿正寛、Mashud Rana、向井秀幸、杉浦麗子: PKN3 ノックアウトマウスを用いた新たな血管新生とがん転移シグナルの制御機構. 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会合同大会(神戸)2015.12.

478) 佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子: カルシニューリンシグナルの空間的制御機構. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.

479) 窪内康二、辻本翔、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、澤田奈々、西田升三、椿正寛、Rana Mashud、向井秀幸、杉浦麗子: PKN3 ノックアウトマウスを用いた新たな血管新生とがん転移シグナルの制御機構. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.

480) 小池史華、仁熊久美、高橋宏和、南林愛、窪内康二、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子: 細胞増殖シグナル Pmk1 MAPK 経路とオードファジー関連因子の関係. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.

481) 木村悠介、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子: KH 型 RNA 結合タンパク質 Rnc1 は MAPK シグナルに依存してストレス顆粒に移行する. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」(東大阪)2015.11.

482) 佐藤亮介、木村悠介、喜多綾子、杉浦麗子: Stress granule 形成を介した RNA 結合蛋白質の空間的制御におけるシグナル伝達経路の役割. 第 17 回日本 RNA 学会年会(札幌)2015.7.

483) 木村悠介、佐藤亮介、喜多綾子、杉浦麗子: KH 型 RNA 結合蛋白質 Rnc1 は MAPK シグナルに依存してストレス顆粒に移行する. 第 17 回日本 RNA 学会年会(札幌)2015.7.

484) Sugiura R.: RNA Granules as Signaling Hubs. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.

485) Kanda Y., Tsujimoto S., Matsumoto S., Inutsuka N., Kita A., Satoh R., Sugiura R.: The SH3 domain protein Skb5 is a novel regulator of PKC/MAPK signaling in fission yeast. 8TH

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 486) Kita A., Higa M., Doi A., Satoh R., Sugiura R.: Imp2, the PSTPIP homolog in fission yeast, regulates cytokinesis and membrane traffic. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 487) Kitai Y., Hagihara K., Mizukura A., Yao M., Ishida K., Kita A., Satoh R., Chikashige Y., Masuko T., Matzno S., Chiba K., Sugiura R.: Genome-Wide Analysis of Gene Expression Profiles upon FTY720 Treatment. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 488) Kubouchi K., Kita A., Satoh R., Nagasoko R., Iga Y., Sugiura R.: An endogenous calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 regulates calcium and oxidative stress signaling. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 489) Ogura N., Mizuno R., Li C., Kita A., Satoh R., Nishiguchi E., Itoh T., Sugiura R.: Functional analysis of novel regulatory factors involved in PI4P5K/PI4,5P2 signaling. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 490) Uno T., Doi A., Fujimoto A., Sato S., Kanda Y., Asami K., Tanaka Y., Kita A., Satoh R., Sugiura R.: Chemical genomics reveals genes associated with sensitivity to rapamycin in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. 8TH INTERNATIONAL FISSION YEAST MEETING (Pombe 2015) (Kobe)2015.6.
- 491) Sugiura R.: Combating Cancer with a Powerful Chemical Genomics and Model Systems ~ Cancer Therapeutics in Fission Yeast ~ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業~増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成~「キックオフシンポジウム」 (大阪)2015.3.
- 492) 杉浦麗子: 細胞増殖シグナル制御拠点としての RNA 顆粒の役割. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 493) 仁熊久美、片山雄大、小池史華、高橋宏和、南林愛、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子: Pmk1 MAPK 経路とオートファジー関連因子の機能的関係. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 494) 萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、高塚三恵、北井佑樹、石田紘基、木下佳那子、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子: S1P 受容体調節剤 FTY720 感受性遺伝子の網羅的探索. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 495) 露口正人、仲庭哲津子、仲西 功、木下誉富: CK2 $\alpha 2$ の高分解能 X 線結晶構造解析. 日本結晶学会平成 28 年度年会(水戸)2015.11.
- 496) 中村 真也: 相同性の高いタンパク質に対する同一化合物の結様式差の要因検討. 第三回ケモインフォマティクス若手の会(東京)2015.10.
- 497) 露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: CK2 サブタイプ間で異なる四環性化合物の阻害作用機序の解明. 日本結晶学会平成 27 年度年会(大阪)2015.10.
- 498) 露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: Structural basis for producing CK2 $\alpha 1$ -specific inhibitors: Crystal structures of hematein with CK2 $\alpha 1$ and CK2 $\alpha 2$. 第 43 回構造活性相関シンポジウム(新潟)2015.9.
- 499) 露口正人、平澤 明、仲庭哲津子、櫻井淳史、仲西 功、木下誉富: CK2 サブタイプ間で異なる hematein の阻害作用メカニズムの解明. 第 15 回日本タンパク質科学学会年会(徳島)2015.6.
- 500) 本田真歩、宮垣 潤、吉光佑二、岩田 顕、大槻和裕、丸山 透、中村 真也、仲西 功、大石

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 真也、大野浩章、藤井信孝:クロスメタセシス反応を利用したスフィンゴシンキナーゼ阻害剤の創製研究. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 501) Kawasaki N., Ogata F.:Relationship between athletic ability and mental health of university students in Japan. 3rd International Global Public Health 2015 (Colombo, Sri Lanka) 2015. 12.
- 502) ○Kawasaki N., Ogata F.:Health check-up by measurement of mineral concentration in hair, Public Health Conference 2015 (Bangkok, Thailand) 2015. 7.
- 503) Tanaka M., Terashima K., Imaida T., Abe S., Ueda S., Yagi H., Yagita H., Masuko T.:Effect of regulation of immune checkpoint molecules on ADCC with NK cells. 第 74 回日本癌学会学術集会(横浜)2015.10.
- 504) Abe S., Shimizu M., Terashima K., Imaida T., Ueda S., Yagi H., Masuko T.:Characterization of novel monoclonal antibodies recognizing xCT cystine transporter associated with CD98 and CD44. 第 74 回日本癌学会学術集会(横浜)2015.10.
- 505) Terashima K., Imaida T., Abe S., Tanaka M., Ueda S., Okita K., Torii R., Yagi H., Masuko T.: Innovative cancer diagnosis and therapy systems using hybridoma transplantation. 第74回日本癌学会学術集会(横浜)2015.10.
- 506) 森川敏生:サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分の消化管における安定性および吸収性評価. 第 8 回サラシア属植物シンポジウム(東京)2015.11.
- 507) 萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、橋本佳典、酒井千恵、二宮 与、Chaipech Saowanee, 早川 堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) 由来フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 508) 二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) 由来サポニン成分のヒト消化管由来細胞株に対する細胞増殖抑制活性. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 509) 森川敏生、北川仁一朗、奥川修平、甕 千明、田邊元三、亀井惟頼、二宮清文、吉川雅之、村岡 修:蓮華 (*Nelumbo nucifera*, 花部) のメラニン産生抑制活性成分を指標とした品質評価. 第 6 回食品薬学シンポジウム(岡山)2015.10.
- 510) 今野拓哉、二宮清文、吉川雅之、松田久司、森川敏生:ミシマサイコ (*Bupleurum falcatum* L.) 根部の肝障害抑制活性成分. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 511) 二宮清文、河端千尋、柴谷華苗、南野 享、和田哲幸、森川敏生:釣藤鈎の機能性成分(6)ー含有成分の神経突起伸長誘導とその作用特性ー. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 512) 至田智之、田邊元三、森川敏生、萬瀬貴昭、小川哲平、菌田直樹、二宮清文、筒井 望、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 513) 二宮清文、柴谷華苗、佐伯竣介、末吉真弓、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川 堯夫、村岡 修、森川敏生:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分(5)ー新規プレニルクマリン *mammeasin C* および *D* のアロマターゼ阻害活性ー. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 514) 二宮清文、二宮 与、萬瀬貴昭、酒井千恵、Chaipech Saowanee, 早川 堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻の機能性成分ー新規ネオリグナン成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用ー. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 515) 大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、吉田郁代、二宮清文、森川敏生:ケ

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- ープアロエの炎症性サイトカインTNF-alpha 誘発細胞障害抑制作用成分. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 516) 二宮清文、酒井千恵、塩谷美幸、森川敏生:センキュウ (*Cnidium officinale*, 根茎) の肝脂肪低減作用成分の探索. 第 36 回日本肥満学会(名古屋)2015.10.
- 517) Ninomiya K., Sakai C., Shiotani M., Morikawa T.:Phthalides from rhizomes of *Cnidium officinale* as new leads for fatty liver therapeutic candidates. 7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference (Taipei, Taiwan) 2015.10.
- 518) Konno T., Ninomiya K., Yoshikawa M., Matsuda H., Morikawa T.:Hepatoprotective triterpene saponins from roots of *Bupleurum falcatum*. 7th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference (Taipei, Taiwan) 2015.10.
- 519) 二宮清文、八幡郁子、田邊元三、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:メース(*Myristica fragrans*, 仮種皮)の機能性成分(6)-新規ネオリグナン成分の化学構造-. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 520) 二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花由来サポニン chakasaponin II および関連サポニンのヒト消化管由来細胞増殖抑制活性. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 521) 二宮清文、酒井千恵、村岡 修、菊地 崇、山田剛司、田中麗子、森川敏生:アンデローバ含有リモノイドの肝細胞内中性脂肪低減作用. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 522) 二宮清文、萬瀬貴昭、橋本佳典、酒井千恵、二宮 与、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡修、森川敏生:紅豆蔻の機能性成分(6)-フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用および構造活性相関構造-. 日本生薬学会第 62 回年会(岐阜)2015.9.
- 523) 八幡郁子、二宮清文、尾関快天、西田枝里子、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:メース (*Myristica fragrans*, 仮種皮)の新規ネオリグナン成分. 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 524) 萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) のメラニン産生抑制活性成分. 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 525) 田邊元三、森川敏生、小川哲平、藪田直樹、至田智行、萬瀬貴昭、二宮清文、筒井 望、村岡 修:タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* の由来 NO 産生抑制活性を有する Butenolide 類の全合成. 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 526) 森川敏生、二宮清文、佐伯竣介、宮澤聖也、Chaipech Saowanee, Pongpiriyadacha Yutana, 早川堯夫、村岡 修:タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の抗炎症作用成分. 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 527) 二宮清文、奥村尚道、許 鳳鳴、松田久司、早川堯夫、村岡 修、吉川雅之、森川敏生:*Nigella sativa* 種子由来ジテルペン成分の肝脂肪低減作用. 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(大阪)2015.9.
- 528) Okugawa S., Ninomiya K., Kitagawa N., Matsumoto T., Kamei I., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.:Quantitative determination of potent melanogenesis inhibitors in "lotus flower", the flower buds of *Nelumbo nucifera*. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 529) Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.:

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Growth inhibitory effects of acylated saponins from flower buds of *Camellia sinensis* on human digestive tract carcinoma cell lines. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 530) Kitagawa N., Ninomiya K., Okugawa S., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Flavonol glycosides from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with lipid accumulation inhibitory activity. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 531) Morikawa T., Kinouchi E., Akaki J., Ninomiya K., Tanabe G., Yoshikawa M., Muraoka O.: Suppressing effects of salacinol and related analogs, a new class of potent alpha-glucosidase inhibitors from *Salacia* genus plants, on postprandial blood glucose levels in mice. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 532) Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Hashimoto Y., Kamei I., Chaipetch S., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Structural requirements of phenylpropanoids for inhibition of theophylline-stimulated melanogenesis in B16 melanoma cells. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 533) Morikawa T., Hachiman I., Matsuo K., Ninomiya K., Muraoka O., Hayakawa T., Nakayama T.: Chemokine receptor CCR3 antagonist from arils of *Myristica fragrans*. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 534) Ninomiya K., Shiotani M., Sakai C., Morikawa T.: Phtalide constituents from rhizomes of *Cnidium officinale* with triglycelide metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 535) Ninomiya K., Kawabata C., Minamino T., Ozeki K., Matsuo N., Hayakawa T., Morikawa T.: Bioactive constituents from hooks of *Uncaria rhynchophylla* -effects on TNF-alpha-induced cell damage and neurite outgrowth-. Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015 (ISPSA2015) (Tokushima, Japan) 2015.8.
- 536) 奥川修平、二宮清文、北川仁一朗、中西勇介、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ロウバイカ (*Chimonanthus praecox*, 花蕾部) のメラニン産生抑制成分の定量分析. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 537) 北川仁一朗、二宮清文、奥川修平、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: ハス (*Nelumbo nicifera*) 花部の抗炎症作用アルカロイド成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山) 2015.8.
- 538) 甕 千明、二宮清文、北川仁一朗、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) 含有サポニンのヒト消化管由来癌細胞に対する細胞増殖抑制活性. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 539) 八幡郁子、二宮清文、松田久司、畑 裕基、菅原かおる、吉川雅之、早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 肉豆蔻衣 (*Myristica fragrans*, 仮種皮) の脱顆粒抑制作用成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 540) 塩谷美幸、二宮清文、尾関快天、松尾菜都子、森川敏生: 川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の機能性成分(3)-含有フタリド成分の一酸化窒素産生抑制活性-. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 541) 萬瀬貴昭、二宮清文、西 亮介、橋本佳典、萬瀬貴昭、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生:紅豆蔻 (*Alpinia galanga*, 果実) 由来フェニルプロパノイド成分のメラニン産生抑制作用. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 542) 二宮清文、倉本博行、尾関快天、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:ニホンスイセン (*Narcissus tazetta* var. *chinensis*) 花部の抗炎症作用成分. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 543) 大山更紗、赤木淳二、松本 拓、松尾菜都子、尾関快天、吉田郁代、二宮清文、森川敏生:アロエ属植物による炎症性サイトカイン TNF- α の感受性低減作用. 第 32 回和漢医薬学会大会(富山)2015.8.
- 544) Okugawa S., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Flavonol glycosides from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with lipid accumulation inhibitory activity. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 545) Motai C., Kitagawa N., Ninomiya K., Lee I., Yoshikawa M., Muraoka O., Morikawa T.: Acylated saponins from tea flower, the flower buds of *Camellia sinensis*, with anti-proliferative effects on human digestive tract carcinoma cells. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 546) Manse Y., Ninomiya K., Nishi R., Sakai C., Chaipech S., Hayakawa T., Muraoka O., Morikawa T.: Phenylpropanoids from *Alpinia galanga* with lipid metabolism-promoting activity in high glucose-pretreated HepG2 cells. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 547) Hachiman I., Matsuo K., Ninomiya K., Muraoka O., Hayakawa T., Nakayama T., Morikawa T.: Search for chemokine receptor CCR3 selective antagonist as anti-allergic principles from Mace, the arils of *Myristica fragrans*. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 548) Akaki J., Morikawa T., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Pongpiriyadacha Y., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from the stems of *Salacia chinensis*. 12th Asian Congress of Nutrition (ACN2015) (Yokohama, Japan) 2015.5.
- 549) 田邊元三、白戸美希、菅野雄太、藺田直樹、森川敏生、二宮清文、筒井 望、村岡 修:バンレイシ科植物, *Hornschurchia obliqua*由来4,5-didehydroguadiscineの合成およびそのメラニン形成抑制活性評価. 年会(神戸)2015.3.
- 550) 小林正和、赤木淳二、森川敏生、二宮清文、木内恵里、吉川雅之、村岡 修:遺伝的肥満モデル *ob/ob* マウスに対する *Salacia chinensis* の抗糖尿病作用. 年会(神戸)2015.3.
- 551) 赤木淳二、二宮清文、大山更紗、松本 拓、尾関快天、森川敏生: ケープアロエによる炎症性サイトカイン TNF- α の細胞障害に対する保護作用. 年会(神戸)2015.3.
- 552) 二宮清文、橋本佳典、萬瀬貴昭、西 亮介、酒井千恵、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分(5)-含有フェニルプロパノイド成分の肝細胞内中性脂肪代謝促進作用-. 年会(神戸)2015.3.
- 553) 二宮清文、萬瀬貴昭、西 亮介、橋本佳典、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分(4)-新規ネオリグナン成分の化学構造およびメラニン産生抑制作用-. 年会(神戸)2015.3.プレス向けハイライトに選出

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 554) 森川敏生、八幡郁子、二宮清文、早川堯夫、田邊元三、村岡 修:メース(*Myristica fragrans*, 仮種皮)の機能性成分(5)-新規ジアリルノナノイド-ネオリグナン付加体成分の化学構造-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 555) 二宮清文、甕 千明、北川仁一郎、吉原和弥、西田枝里子、李 雪征、松田久司、中村誠宏、吉川雅之、早川堯夫、村岡 修、森川敏生:デイジーフラワー(*Bellis perennis*, 花部)の機能性成分(7)-含有サポニン成分の胃がん細胞増殖抑制作用-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 556) 二宮清文、奥川修平、北川仁一郎、松尾菜都子、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:ハス(*Nelumbo nucifera*, 花部)の機能性成分(3)-含有アルカロイド成分の抗炎症作用-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 557) 森川敏生、倉本博行、二宮清文、亀井惟頼、吉川雅之、村岡 修:ニホンスイセン(*Narcissus tazetta* var. *chinensis*)花部の機能性成分(2)-新規フェニルエタノイド配糖体成分の化学構造および含有成分のメラニン産生抑制活性-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 558) 森川敏生、佐伯竣介、松本 拓、末吉真弓、二宮清文、Chaipech Saowanee、村岡 修:タイ天然薬物*Mammea siamensis*花部の機能性成分(4)-新規プレニルクマリンの化学構造-. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 559) 二宮清文、甕 千明、北川仁一郎、吉原和弥、吉川雅之、村岡 修、森川敏生:茶花(*Camellia sinensis*, 花蕾部)由来アシル化サポニンのヒト消化管由来癌細胞株に対する細胞増殖抑制活性. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 560) 前川智弘、中村光、三木康義:Synthesis of Indoles from 2-Aminochalcone Using Hypervalent Iodine Reagent via Acetal Intermediate. Pacifichem 2015 (Hawaii, USA) 2015.12.
- 561) 前川智弘、岡村杏子、服部翔、中村光、三木康義:2-アミノカルコンのクロロメトキシ化反応と続く2-アシルインドールへの変換. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.
- 562) 中村光、加納穂嵩、瀬木良俊、三木康義、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬を用いたアルドキシムのカルボン酸への変換反応. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.
- 563) 中村光、前川智弘、三木康義、大中卓也、梅本英彰:2-TMSCH₂-tetrazoleを利用した2,5-二置換tetrazole誘導体の合成. 第41回反応と合成の進歩シンポジウム(大阪)2015.10.
- 564) 前川智弘、本田貴也、太田千晶、藤本一真、中村光、三木康義、濱本博三:Formation of quinoline skeleton from chalcone: The effect of amino protective group to the reactivity of 2-aminochalcones. The 25th ISHC Congress, (Santa Barbara, USA) 2015.8.
- 565) 前川智弘、太田千晶、藤本一真、加藤美菜、服部翔、中村光、三木康義、濱本博三:Indole Synthesis from 2-Aminochalcone via Rearrangement Reaction The 3rd International Symposium on Process Chemistry [ISPC 2015](京都)2015.7.
- 566) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第26回クロマトグラフィー科学会議(福岡)2015.11.
- 567) 木下充弘、藤井稔生、竹田悠人、山本佐知雄、鈴木茂生:キャピラリー電気泳動を用いる糖ヌクレオチド及びその関連物質の分析. 第35回キャピラリー電気泳動シンポジウム(岡山)2015.11.
- 568) 竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:化学修飾型シリカナノ粒子を用いたキャピラリー電気泳動法の開発. 第65回日本薬学会近畿支部大会(大阪)2015.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 569) 山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生:DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第64回日本分析化学会年会(広島)2015.9.
- 570) 鈴木茂生、橋本真一、岸本有加、木下充弘、山本佐知雄:オンライン抽出HPLCを用いる糖タンパク質糖鎖蛍光標識体の簡便分析. 第64回日本分析化学会年会(福岡)2015.9.
- 571) 山本佐知雄、植田麻希、葛西優貴、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム(長崎)2015.8.
- 572) 木下充弘、村中佑季、山本佐知雄、鈴木茂生:アスパラギン結合型糖鎖の迅速解析のためのアルカリフローリアクタ/陽イオン交換オンラインシステム. 第22回クロマトグラフィーシンポジウム(大阪)2015.5.
- 573) 山本佐知雄、松井理恵、木下充弘、池上亨、西原啓二、鈴木茂生:DCpak PTZ カラムを用いた8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid (APTS)標識化糖タンパク質由来糖鎖のHPLC分析. 第22回クロマトグラフィーシンポジウム(大阪)2015.5
- 574) 山本佐知雄、田又洋子、瀬島佳保里、木下充弘、鈴木茂生:光学活性を有する標識化試薬とフェニルボロン酸を用いる単糖のMEKCによるキラル分離. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 575) 竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:化学修飾化シリカナノ粒子を用いるキャピラリー電気泳動法の開発. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 576) 窪内康二、辻本翔、神田勇輝、木戸友絵、小野祐輝、喜多綾子、佐藤亮介、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子:プロテインキナーゼPKN3ノックアウトマウスにおけるがん転移抑制メカニズムの解析. 第37回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 577) 北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、喜多綾子、佐藤亮介、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:FTY720 を介するカルシニューリンシグナル伝達経路とストレス応答 MAP キナーゼ経路のクロストーク機構. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 578) 小倉尚也、李翠芳、喜多綾子、加藤彩香、水野稜子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子:イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 579) 萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、北井佑樹、石田紘基、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介する遺伝子発現プロファイリングの網羅的解析. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 580) Kubouchi K., Kita A., Higa M., Satoh R., Sugiura R.:Novel functional roles for calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 in the regulation of calcium and oxidative stress signaling. 11th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP11) (Sendai)2014.11.
- 581) 比嘉真理、喜多綾子、萩原加奈子、土井章、長底利恵、伊賀弓佳、佐藤亮介、杉浦麗子:熱刺激に応答したカルシニューリンの局在制御機構の解析. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 582) 辻本翔、窪内康二、神田勇輝、小野祐輝、木戸友絵、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子:PKN3 遺伝子ノックアウトマウスを用いたがん転移抑制メカニズムの探索. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 583) 水野稜子、李翠芳、小倉尚也、加藤彩香、喜多綾子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子:イノシトールリン脂質代謝を制御する PH domain タンパク質の同定と機能解析.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.

584) 神田勇輝、土井章、辻本翔、喜多綾子、成瀬一、佐藤亮介、杉浦麗子:SH3ドメインタンパク質 Skb5 による PKC/MAPK シグナル制御メカニズムの解明. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.

585) 杉浦麗子:低分子量 G タンパク質 Rab ファミリーを介するメンブレントラフィックとイノシトールリン脂質シグナル伝達経路の空間的制御. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.

586) 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子:MAP キナーゼシグナル依存的な RNA 結合タンパク質 Nrd1 による細胞運命制御機構. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.

587) 大浦惇義、土井章、宇野貴哉、佐藤駿、神田勇輝、喜多綾子、萩原加奈子、比嘉真理、佐藤亮介、杉浦麗子:ヒト PDK1 分裂酵母ホモログ Ksg1 の細胞形態制御と Ca²⁺シグナル伝達経路における役割. 第 87 回日本生化学会大会(京都)2014.10.

588) 小野太貴、松浦一貴、野口大輝、山中真之、竹内健太、佐藤亮介、喜多綾子、益子 高、杉浦麗子:酵母モデル生物を用いた ERK MAPK シグナル伝達経路阻害薬の探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.

589) 片山雄大、于陽、新谷真未、窪内康二、喜多綾子、杉浦麗子:AP-1 アクセサリータンパク質 Sip1 のゴルジ/エンドゾームにおける細胞内膜輸送の役割. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.

590) 杉浦麗子:酵母モデル生物を用いた MAPK シグナル伝達阻害薬による抗がん作用の開発. 第 32 回バイオ技術シーズ公開会(大阪)2014.9.

591) Satoh R., Ito Y., Kita A., Hagihara K., Doi A., Sugiura R.:Role of RNA-binding protein in MAPK signaling and cell fate regulation. The FEBS EMBO 2014 Conference (Paris)2014.8.

592) Kanda Y., Doi A., Kita A., Naruse H., Sugiura R.:The SH3 domain protein is a novel regulator of PKC/MAPK signaling in fission yeast. The FEBS EMBO 2014 Conference (Paris)2014.8.

593) 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子:MAP キナーゼシグナル依存的な RNA 結合タンパク質 Nrd1 によるストレス顆粒形成機構. 第 16 回日本 RNA 学会年会(名古屋)2014.7.

594) 石田紘基、萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、岡田千聖、高塚三恵、北井佑樹、喜多綾子、益子 高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子:S1P 受容体調節剤 FTY720 を介する新たなシグナル伝達機構の解明. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 9 回年会(大阪)2014.6.

595) Satoh R., Sugiura R.:Role of RNA-binding prtein in MAPK signaling and cell fate regulation. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014: Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases (Osaka)2014.6.

596) 仲西 功:アカデミアシーズからの in silico ドラッグデザイン研究. 第 356 回 CBI 学会研究講演会(大阪)2014.12. (invited)

597) 森川敏生、赤木淳二、二宮清文、木内恵理、田邊元三、仲西 功、中村 真也、吉川雅之、村岡 修:サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinol およびその類縁体の食後過血糖改善作用. 第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)2014.11.

598) 田邊元三、松田侑也、筒井 望、森川敏生、赤木淳二、二宮清文、仲西 功、中村 真也、吉川雅之、村岡 修:アーユルベエダ天然薬物“サラシア”由来 salacinol をシードとする α -グルコシダーゼ阻害剤の in silico 設計, 合成及び in vitro 評価. 第 20 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)2014.11.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 599) 本田真歩、宮垣 潤、吉光佑二、岩田 颯、大槻和裕、丸山 透、中村 真也、仲西 功、大石真也、大野浩章、藤井信孝:スフィンゴシンキナーゼ阻害活性を有する Jaspine B 誘導体の構造活性相関研究. 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)2014.11.
- 600) 大東可苗、西脇 敬二、中村 真也、出口貴浩、村田和也、松田秀秋、仲西 功:構造活性相関解析に基づく XO 阻害剤 Hydroxychavicol の結合様式推定. 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)2014.11.
- 601) 中西伸介、岡田裕規、森脇寛智、西脇 敬二、中村 真也、木下誉富、大石真也、大野浩章、藤井信孝、仲西 功:結合自由エネルギーを指標とした Protein kinase CK2 阻害剤のデザインと構造活性相関. 第 37 回情報化学討論会(豊橋)2014.11.
- 602) 中村 真也:天然物サラシアを起源とする α グルコシダーゼ阻害薬創出への計算化学的アプローチ. 第 23 回創薬情報研究会(京都)2014.10. (invited)
- 603) Sakurai A., Nakamura S., Taniguchi S., Nagata N., Kurono M., Murata K., Kitaura K., Hirasawa A., Tsujimoto G., Nakanishi I.:Binding mode analysis of protein kinase CK2 inhibitors with a purine scaffold. CBI Annual Meeting 2014 (Tokyo)2014.10.
- 604) Nakamura S., Tanabe G., Muraoka O., Nakanishi I. : Computer-aided design of novel alpha-glucosidase inhibitors based on salacinol derived from Salacia reticulate of Ayurvedic traditional medicine. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 605) Nakanishi I., Murata K., Nagata N., Kurono M., Kinoshita T., Yasue M., Miyazaki T., Takei Y., Hirasawa A., Tsujimoto G. :Identification of protein kinase CK2 inhibitors by the solvent ordering virtual screening method. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 606) Nishiwaki K., Ohigashi K., Nakamura S., Murata K., Matsuda H., Nakanishi I.:Binding pose prediction of Xantine oxidase inhibitor hydroxychavicol and drug design of its analogues. International Symposium on Medicinal Chemistry 2014(Lisbon, Portugal)2014.9.
- 607) Kinoshita T., Sekiguchi Y., Nakaniwa T., Sogabe Y., Tanaka M., Sakurai A., Nakamura S., Nakanishi I.:Species-dependent variation in the structure of CK2- α -apigenin complex. 23rd Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography(Montreal, Canada)2014.8.
- 608) \circ Kawasaki N., Ogata F.:Development of drinking water treatment using vegetable biomass. The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment (Bangkok, Thailand) 2014. 12.
- 609) \circ Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y., Okamoto N., Shimomura Y. : Effect of supplementary water contains minerals on corneal wound healing rate in ovariectomized rats. 13th Congress of the International Society of Ocular Toxicology (Kanazawa, Japan) 2014. 10.
- 610) \circ Ogata F., Kawasaki N.:Adsorption of Pt(IV) and Pd(II) by calcined dried aluminum hydroxide gel from aqueous solution, IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Lisbon, Portugal) 2014. 9.
- 611) \circ Kawasaki N., Ogata F. :Removal mechanism of arsenic ion in drinking water by calcined alumium oxide. IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Lisbon, Portugal) 2014. 9.
- 612) 石濱里穂、道山忠史、森山麻里子、村岡 修、二宮清文、早川堯夫、森川敏生、森山博由:タイ天然薬物 *Shorea roxburghii* 樹皮由来オリゴスチルベノイドは悪性黒色腫に対して抗がん

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 作用を示す. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜)2014.11.
- 613) 森川敏生、赤木淳二、二宮清文、田邊元三、吉川雅之、村岡 修: サラシア属植物の α -グルコシダーゼ阻害活性成分を指標とした品質評価. 第 43 回生薬分析シンポジウム(大阪)2014.11.
- 614) Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Pan Y., Yuan D., Yoshikawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.: Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from *Cistanche tubulosa*, improve glucose tolerance in mice. International Conference on Food for Health in Niigata 2014 (ICFHN2014) (Niigata, Japan) 2014.10.
- 615) 森川敏生、赤木淳二、二宮清文、吉川雅之、村岡 修: サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分の消化管における安定性および吸収性評価. 日本ハーブ療法研究会第 2 回学術大会(京都)2014.10.
- 616) 森川敏生、松尾一彦、八幡郁子、二宮清文、村岡 修、中山隆志: メース (*Myristica fragrans*, 仮種皮) のケモカイン受容体 CCR3 選択的アンタゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索. 第 56 回天然有機化合物討論会(高知)2014.10.
- 617) 道山忠史、森山麻里子、森川敏生、早川堯夫、森山博由: 悪性黒色腫細胞に対する *Shorea roxburghii* 由来オリゴスチルベノイドの影響. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 618) 二宮清文、塩谷美幸、酒井千恵、森川敏生: 漢薬川芎 (*Cnidium officinale*, 根茎) の肝細胞内中性脂肪低減作用. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 619) 二宮清文、尾関快天、南野 享、森川敏生: 釣藤鈎の機能性成分(5) - 含有成分の神経突起伸長およびTNF- α 作用成分-. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)2014.10.
- 620) 森川敏生、木内恵里、赤木淳二、二宮清文、田邊元三、仲西 功、中村 真也、吉川雅之、村岡 修: α -グルコシダーゼ阻害活性物質 salacinol およびその誘導体の血糖値上昇抑制活性. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 621) 森川敏生、佐伯竣介、松本 拓、末吉真弓、二宮清文、Saowanee Chaipech, 村岡 修: タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 花部の機能性成分(3): 新規プレニルクマリンの化学構造-. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 622) 森川敏生、八幡郁子、松尾一彦、二宮清文、村岡 修、中山隆志: メースの機能性成分(4): ケモカイン受容体アンタゴニスト作用成分の探索. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 623) 森川敏生、二宮清文、倉本博行、松本友里恵、中村誠宏、松田久司、王 立波、呉 立軍、早川堯夫、吉川雅之、村岡 修: エバーラスティングフラワーの機能性成分(7) - 新規カルコン2量体成分の化学構造-. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 624) 二宮清文、甕 千明、北川仁一朗、吉原和弥、中村誠宏、松田久司、吉川雅之、村岡 修、森川敏生: 茶花由来サポニンの胃癌細胞 MKN-45 増殖抑制活性. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 625) 二宮清文、萬瀬貴昭、西 亮介、亀井惟頼、Chaipech Saowanee, 早川堯夫、村岡 修、森川敏生: 紅豆蔻の機能性成分(3) - 新規フェニルプロパノイドおよびジテルペン成分の構造とメラニン産生抑制活性-. 日本生薬学会第 61 回年会(福岡)2014.9.
- 626) Ninomiya K., Minamino T., Ozeki K., Matsuo N., Kawabata C., Hayakawa T., Morikawa T.: Effects of constituents from hooks of *Uncaria rhynchophylla* on neurite outgrowth and TNF- α -induced cell damage. The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan) 2014.9. Awarded for Best Poster Award

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 627) Morikawa T., Kitagawa N., Okugawa S., Matsumoto T., Ninomiya K., Kamei I., Lee I., Nakamura S., Matsuda H., Yoshikawa M., Muraoka O.: Simultaneous quantitative analysis of alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in "lotus flower", the flower buds of *Nelumbo nucifera*. The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan) 2014.9.
- 628) Michiyama T., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T., Ninomiya K., Muraoka O., Chaipech S., Morikawa T.: Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 629) Morikawa T., Hachiman I., Ninomiya K., Matsuda H., Hata Y., Sugawara K., Sakata Y., Yoshikawa M., Hayakawa T., Muraoka O.: Antiallergic principles from *Myristica fragrans*: inhibitors of degranulation and TNF- α release in RBL-2H3 cells. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 630) Ninomiya K., Morikawa T., Matsumoto T., Sueyoshi M., Miyazawa S., Saeki S., Chaipech S., Hayakawa T., Muraoka O.: Anti-inflammatory effects and mode of action of prenylcoumarins from Thai natural medicine *Mammea siamensis*. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 631) Morikawa T., Ninomiya K., Imamura M., Akaki J., Fujikura S., Pan Y., Yuan D., Yoshiukawa M., Jia X., Li Z., Muraoka O.: Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from *Cistanche tubulosa*, improve glucose tolerance in mice. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya, Japan) 2014.9.
- 632) 北川仁一郎、森川敏生、奥川修平、二宮清文、三宅荘八郎、三木芳信、吉川雅之、李 宣融、村岡 修: 茶花 (*Camellia sinensis*, 花蕾部) のサポニンおよびフラボノイド成分の定量分析. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 633) 奥川修平、森川敏生、北川仁一郎、二宮清文、松本 拓、吉川雅之、中村誠宏、松田久司、李 宣融、村岡 修: ハス (*Nelumbo nucifera*) のメラニン産生抑制作用成分の定量分析. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 634) 二宮清文、河端千尋、松本 拓、南野 享、森川敏生: 釣藤鈎の機能性成分(4)—含有成分の神経突起伸長作用成分—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 635) 尾関快天、二宮清文、岡田枝里子、松本 拓、南野 享、松尾菜都子、森川敏生: 釣藤鈎の機能性成分(3)—含有成分の抗炎症作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8. 優秀発表賞受賞
- 636) 萬瀬貴昭、二宮清文、岡田枝里子、松本 拓、忍海邊綾子、岡崎 茜、亀井惟頼、要 欣志、森川敏生: 延命草の機能性成分—含有ジテルペン成分のメラニン産生抑制作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 637) 今野拓哉、二宮清文、松田久司、吉川雅之、森川敏生: 柴胡の機能性成分—含有サポニン成分の肝障害抑制作用—. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 638) 倉本博行、森川敏生、二宮清文、亀井惟頼、村岡 修、吉川雅之: ニホンスイセン (*Narcissis tazetta* var. *chinensis*) 花部含有アルカロイド成分のメラニン産生抑制作用. 第 31 回和漢医薬学会大会(横浜)2014.8.
- 639) 赤木淳二、森川敏生、二宮清文、三宅荘八郎、田邊元三、吉川雅之、村岡 修: サラシア属植物由来スルホニウム塩型および既存 α -グルコシダーゼ阻害剤の同時分析. 第 68 回日本栄

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 640) 木内恵里、赤木淳二、森川敏生、二宮清文、田邊元三、吉川雅之、村岡 修:ヒト α -グルコシダーゼに関するサラシノールおよびその類縁体の阻害活性プロフィール. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 641) 酒井千恵、二宮清文、北原潤美、堀 佑一郎、村岡 修、早川堯夫、森川敏生:ローズヒップ (*Rosa canina*, 果実) の肝臓内脂肪低減作用成分. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5. プレス向けハイライトに選出
- 642) 八幡郁子、二宮清文、尾関快天、西田枝里子、村岡 修、早川堯夫、森川敏生:メース (*Myristica fragrans*, 仮種皮) のマクロフェージ活性化抑制作用成分. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道)2014.5.
- 643) Morikawa T., Akaki J., Ninomiya K., Kinouchi E., Tanabe G., Yoshikawa M., Muraoka O.: Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina *Salacia chinensis*. 5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO5) (Phuket, Thailand) 2014.5. Selected for publication as a Conference Report in *Nutrients*
- 644) 木下充弘、三ツ井洋介、山本佐知雄、鈴木茂生:ヒト黒色細胞腫のグライコフォーム-フォーカストプロテオミクス. 第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)2014.12.
- 645) 山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)2014.12.
- 646) 八木有紀、鈴木茂生:マイクロチップ電気泳動法を用いた抗体医薬品の分解物評価. 第34回キャピラリー電気泳動シンポジウム(京都)2014.12.
- 647) 山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第34回キャピラリー電気泳動シンポジウム(京都)2014.12.
- 648) 山本佐知雄、小林正弥、赤松美紀、木下充弘、鈴木茂生:光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発. *Cheminas* 30(北海道)2014.10.
- 649) 植田麻希、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖タンパク質糖鎖調製法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 650) 橋本真一、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:カラムスイッチングによるオリゴ糖誘導体のオンライン精製HPLC法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 651) 竹田悠人、林 優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:化学修飾型シリカナノ粒子を用いるキャピラリー電気泳動法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部大会(京都)2014.10.
- 652) 鈴木茂生、八木有紀、西田憲晃、山本佐知雄:糖タンパク質糖鎖の定量的網羅的解析法の開発. 第63回日本分析化学会年会(広島)2014.9.
- 653) 木下充弘、鈴木茂生、掛樋一晃:バイオ医薬品における分離分析技術の役割. 第41回BMSコンファレンス(石川)2014.7
- 654) 山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:光重合性アクリルアミドを利用したマイクロチップ電気泳動における新規オンライン濃縮電気泳動法の開発. *Cheminas* 29(東京)2014.5.

研究課題(B): 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析 (509件)

- 655) 立石駿介、川瀬篤史、向井秀幸、黒田真太郎、佐藤亮介、島田紘明、岩城正宏、杉浦麗子:

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

	肝臓でのシトクロム P450 誘導過程におけるプロテインキナーゼ N の関与. 未来創薬医療イノベーションシンポジウム(大阪)2019.3.
656)	森山博由. 脂肪由来間葉系間質幹細胞の探究 ~代謝メカニズムの視点より~. 再生医療・幹細胞研究フォーラム. 三宮コンベンションセンター, 神戸. 2019.3.20.
657)	川畑 篤史. : HMGB1 を標的とする化学療法誘発性末梢神経障害の発症予防. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3. (シンポジウム)
658)	関口富美子、川畑 篤史. : 前立腺がん細胞における低電位活性化 Ca _v 3.2 T 型カルシウムチャネルの役割. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3. (シンポジウム)
659)	坪田真帆、川畑 篤史. : 硫化水素によるCa _v 3.2を介する疼痛シグナルの調節. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3. (シンポジウム)
660)	堂本莉紗、宮本朋佳、西村莉香、福田亮太郎、関口富美子、坪田真帆、小泉祐一、西堀正洋、川畑 篤史. : ヒトおよびマウスにおいて肝障害はオキサリプラチン誘発性末梢神経障害の増悪因子である:HMGB1 が関与する可能性について. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
661)	平本志於里、鳥山祐希、榮木彩、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史. : マウスにおいて膀胱炎に伴う疼痛シグナル発生に關与する HMGB1/RAGE 系と CSE/H2S/Ca _v 3.2 系のクロストーク:ATP によるマクロファージ活性化の役割. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
662)	笠波嘉人、大西伶佳、木野貴博、関口富美子、坪田真帆、宮崎貴也、平本志於里、岡崎杏子、Nguyen Huy Du、岡田卓哉、豊岡尚樹、吉田 繁、大久保つや子、川畑 篤史. : T 型カルシウムチャネル、カンナビノイド受容体および難治性疼痛に及ぼすホップ成分 6-prenylnaringenin とその誘導體 K _T t45 の効果. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
663)	山口一樹、堂本莉紗、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史. : Paclitaxel によるマクロファージからの HMGB1 遊離における cystathionine γ-lyase/H2S 系の役割と末梢神経障害への関与 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
664)	小池寧々、安井洋樹、関口富美子、田邊元三、川畑 篤史. : T 型カルシウムチャネルはマウスにおいてメタンフェタミンにより誘起される行動量増加および脳内特定部位における cFos 発現に關与する. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
665)	池田裕哉、宮崎貴也、坪田真帆、富田詩織、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史. : マウスにおける bortezomib 誘発性末梢神経障害に關与する HMGB1 の起源と標的分子:発症期と維持期における違いについて. 第 92 回日本薬理学会年会 (大阪) 2019.3.
666)	東山慎太郎、松尾一彦、山本真也、長久保大輔、義江修、中山隆志:制御性 T 細胞を標的としたワクチンアジュバントの開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
667)	亀井萌百、松尾一彦、北畑孝祐、義江修、中山隆志:CD103 陽性樹状細胞を標的とした CTL 誘導ケモカインアジュバントの開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
668)	北畑孝祐、松尾一彦、長沼孝典、西川莉央、中山隆志:抗炎症作用を有する新規アスコルビン酸誘導體 DDH-1 の乾癬病態における改善効果. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
669)	松尾一彦、山本真也、長久保大輔、義江修、中山隆志:ケモカイン CCL28 の欠損は IgA を介した粘膜免疫を減弱させる. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
670)	岩間有咲、松尾一彦、山本真也、三嶋樹、中山隆志:CD70 陽性樹状細胞を標的とした Th17 細胞依存的 CTL 誘導アジュバントの開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
671)	山崎真子、松尾一彦、長久保大輔、義江修、中山隆志:ケモカイン CCL28 欠損はメラノーマ細

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

	胞の増殖を促進する. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
672)	須佐美陽子、 <u>松尾一彦</u> 、長尾遥佳、 <u>中山隆志</u> :フタル酸ジブチルを用いた新規アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製とケモカイン受容体 CCR4 の役割. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
673)	山口 真史、佐藤 完太、 <u>山本 哲志</u> 、 <u>三田村 邦子</u> 、 <u>多賀 淳</u> : LC-MS/MS を用いたターゲットメタボロミクスによる TCA 回路代謝物の分析法の開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3.
674)	奥野 人美、 <u>山本 哲志</u> 、 <u>三田村 邦子</u> 、 <u>多賀 淳</u> : キャピラリー電気泳動による酸性多糖の分析法の開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3.
675)	佐藤 完太、 <u>山本 哲志</u> 、 <u>三田村 邦子</u> 、 <u>多賀 淳</u> : キャピラリー電気泳動による糖鎖重合度決定法の開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3.
676)	<u>三田村 邦子</u> 、上野 光穂、内海 裕子、日野 美紀、村井 勇太、門出 健次、 <u>山本 哲志</u> 、 <u>多賀 淳</u> 、根本 英幸、池川 繁男 : LC/MS による玄米米糠麴中グルコシルセラミド同定・定量法の開発. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3.
677)	中岡玖美、佐藤春妃、岡村杏子、 <u>中村光</u> 、 <u>前川智弘</u> :超原子価ヨウ素試薬と塩化チオニルを用いた活性メチレン上のクロル化反応の開発. 日本薬学会 第 139 年会 (千葉)2019.3.
678)	川島紀香、中岡玖美、岡村杏子、 <u>中村光</u> 、 <u>前川智弘</u> :2-ヒドロキシカルコンのクロロメキシン化と続く環化反応によるベンゾフラン合成. 日本薬学会 第 139 年会 (千葉)2019.3.
679)	森本盾矢、谷口茉穂、 <u>中村光</u> 、 <u>前川智弘</u> :ヨウ化物イオンと酸化剤を用いたヒドロキサム酸の触媒的変換反応の開発. 日本薬学会 第 139 年会 (千葉)2019.3.
680)	田畑光希、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、河本雄一、加藤菜月、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> : HGF による MET/NF- κ B 経路を介した RANKL 発現促進効果. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.(優秀ポスター賞受賞)
681)	松田拓弥、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> :多発性骨髄腫におけるメルファラン耐性に HIF-1 α 過剰発現が寄与する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
682)	河本雄一、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、浅野良太、田畑光希、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> :多発性骨髄腫におけるアドリアマイシン耐性に Bim 発現低下が寄与する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
683)	地主みなみ、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、浅野良太、田畑光希、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> : Src 阻害剤による RANK/RANKL を介した CAM-DR 克服機構の解析. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
684)	浅野良太、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、川島啓司、地主みなみ、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> :新規 NF- κ B/STAT3 阻害剤による多発性骨髄腫でのアポトーシス誘導機構の解析. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
685)	尾花輝樹、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> :Statins による Ras 経路阻害を介した造血器系腫瘍でのアポトーシス誘導機構. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
686)	加藤菜月、 <u>椿正寛</u> 、 <u>武田朋也</u> 、川島啓司、地主みなみ、藤本伸一郎、森井悠介、 <u>西田升三</u> : PKC 阻害剤による抗がん剤誘導末梢神経障害抑制効果. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10.
687)	<u>武田朋也</u> 、 <u>椿正寛</u> 、浅野良太、川島啓司、 <u>西田升三</u> :Dimethyl fumarate による NF- κ B 阻害

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- を介した悪性黒色腫での抗腫瘍効果. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路) 2018.10.
- 688) 田畑光希、椿正寛、武田朋也、加藤菜月、西田升三: HGF は骨髄間質細胞及び骨芽細胞における RANKL 発現を増加させる. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 689) 浅野良太、椿正寛、武田朋也、加藤菜月、田畑光希、西田升三: 新規 NF-kappaB/STAT3 阻害剤による多発性骨髄腫でのアポトーシス誘導効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪) 2018.9.
- 690) 西田升三、椿正寛、武田朋也、藤原 大 一 朗、河本雄一、藤本 伸一郎: スタチンによる造血器腫瘍での Ras 経路阻害を介したアポトーシス誘導効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 691) 椿正寛、武田朋也、川島啓司、地主みなみ、西田升三: Statins 及びダカルバジン併用投与による腫瘍増殖及び転移抑制効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 692) 加藤菜月、椿正寛、武田朋也、河本雄一、川島啓司、西田升三: PKC 阻害剤による抗がん剤誘発末梢神経障害抑制効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 693) 河本雄一、椿正寛、武田朋也、浅野良太、西田升三: シグナル伝達因子活性化による Bim 発現低下を介したアドリアマイシン耐性獲得機序: 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 694) 川島啓司、椿正寛、武田朋也、浅野良太、藤本 伸一郎、西田升三: レバミピドによる口腔粘膜細胞での Akt/mTOR 経路活性化を介した抗がん剤誘導細胞死抑制効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪)2018.9.
- 695) 武田朋也、椿正寛、浅野良太、川島啓司、田畑光希、西田升三: Dimethyl fumarate による NF-kappaB 抑制を介した腫瘍増殖及び転移抑制効果. 第 77 回日本癌学会学術総会(大阪) 2018.9.
- 696) 椿正寛、武田朋也、川島啓司、地主みなみ、西田升三: Statins 及び dacarbazine 併用による悪性黒色腫での腫瘍増殖・転移抑制及び延命効果. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 697) 武田朋也、椿正寛、浅野良太、川島啓司、田畑光希、西田升三: Dimethyl fumarate による NF-κB 核移行阻害を介した悪性黒色腫での腫瘍増殖・転移抑制効果. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 698) 西田升三、椿正寛、武田朋也、河本雄一、加藤菜月: Statins による Ras/ERK 及び Ras/mTOR 経路阻害を介した Bim 発現増加でのアポトーシス誘導機序. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 699) 田畑光希、椿正寛、武田朋也、加藤菜月、西田升三: HGF による骨髄間質細胞および骨芽細胞における RANKL 発現促進効果を介した骨破壊機序の解明. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 700) 河本雄一、椿正寛、武田朋也、浅野良太、地主みなみ、西田升三: Adriamycin 耐性多発性骨髄腫においてシグナル伝達経路を介した Bim 発現増加が耐性獲得の中心的役割を果たす. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 701) 地主みなみ、椿正寛、武田朋也、河本雄一、田畑光希、西田升三: 多発性骨髄腫での RANK/RANKL を介した CAM-DR は Src 経路阻害により克服できる. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.
- 702) 加藤菜月、椿正寛、武田朋也、河本雄一、川島啓司、西田升三: PKC 阻害剤により抗がん剤誘導末梢神経障害を抑制できる. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

2018.5.

703) 川島啓司、椿正寛、武田朋也、浅野良太、地主みなみ、西田升三:レバミピドによるAkt/mTOR 経路活性化を介した抗がん剤誘導口腔粘膜細胞死抑制効果. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.

704) 浅野良太、椿正寛、武田朋也、加藤菜月、田畑光希、西田升三:新規 NF-kappaB/STAT3 阻害剤 bavachin による多発性骨髄腫でのアポトーシス誘導機構の解析. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2018.5.

705) 宇佐見拓丈、椿正寛、武田朋也、河本雄一、西田升三:多発性骨髄腫での RANK/RANKL を介した抗がん剤耐性は Src 経路活性化が関与する. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

706) 小泉翔太郎、椿正寛、武田朋也、浅野良太、川島啓司、西田升三:新規 NF-kappaB/STAT3 阻害剤による多発性骨髄腫でのアポトーシス誘導機構の解析. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

707) 西田升三、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、藤本伸一郎、阪口勝彦:Statins による Ras 経路阻害を介した Bim 発現増加でのアポトーシス誘導機序. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

708) 武田朋也、椿正寛、浅野良太、川島啓司、西田升三:Dimethyl fumarate による悪性黒色腫での NF-κB 阻害を介した腫瘍増殖・転移抑制効果. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

709) 浅野良太、椿正寛、武田朋也、川島啓司、藤原大一朗、阪口勝彦、西田升三:Pioglitazone は PPARγ 非依存的に STAT3 阻害を介してアポトーシスを誘導する. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

710) 椿正寛、武田朋也、河本雄一、浅野良太、藤本伸一郎、山添譲、西田升三:慢性骨髄性白血病における BCR-ABL1 阻害薬耐性に MET 経路活性化が寄与する. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

711) 河本雄一、椿正寛、武田朋也、川島啓司、西田升三:多発性骨髄腫での MIP-1α オートクラインは ERK 及び Akt 経路活性化により抗がん剤耐性に寄与する. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

712) 川島啓司、椿正寛、武田朋也、浅野良太、藤本伸一郎、西田升三:レバミピドは口腔粘膜細胞において Akt 経路活性化により 5-fluorourasil 誘導細胞死を抑制する. 日本薬学会第 138 回年会(金沢)2018.3.

713) H. Moriyama, M. Moriyama,T. Hayakawa, M. THE POTENTIAL OF A HUMAN ADIPOSE-DERIVED STROMAL/STEM CELL PROPATIES TO DIFFERENTIATION OF DOPAMINERGIC NEURAL CELLS. 16th International Society for Stem Cell Research 2018, Melbourne, Australia, 2018.6.20.

714) 早川堯夫, 佐藤陽治, 安田 智, 森山博由.「ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関する研究」2018 年度 AMED 再生医療情報交換会 (2017. 9.4). (ポスター発表)

715) Hiroyuki Moriyama. NOTCH SIGNALING ENHANCES STEMNESS BY REGULATING METABOLIC PATHWAYS THROUGH MODIFYING P53, NF-, AND HIF-1.16th International Federation for Adipose Therapeutics and Science Meeting, Cosmopolitan of Las Vegas, Las Vegas, Nevada, USA. (2018.12.14).

716) 森山博由. 慢性疾患に於ける間葉系幹細胞を用いた再生医療の科学的意義. 神戸学院大学フロンティアサイエンスセミナー, 2018.12.17.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 717) 島田紘明, ト部裕一, 岡本雄平, 川瀬篤史, 李征, 森川敏生, 村岡 修, 岩城正宏: 砂漠人 参カンカニクジュヨウの血糖上昇抑制作用メカニズムの解明. 第 39 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(金沢)2017.10.
- 718) 島田紘明, ト部裕一, 岡本雄平, 川瀬篤史, 李征, 森川敏生, 村岡 修, 岩城正宏: カンカニクジュヨウ中主成分エキナコシド, アクテオシドのグルコース/Na⁺共輸送トランスポーター阻害作用. 日本生薬学会第 64 回年会(千葉)2017.9
- 719) 川瀬篤史, 金藤彩加, 石橋真央, 小林諒裕, 中村 暉, 島田紘明, 岩城正宏: マウス肝細胞-腹腔マクロファージ共培養系におけるグルタチオン枯渇のジクロフェナク毒性に対する影響. 第 44 回日本毒性学会学術年会(横浜)2017.7.
- 720) Kawase A., Kaneto A., Ishibashi M., Shimada H., Iwaki M.: Effects of glutathione depletion on diclofenac-induced cytotoxicity in mouse hepatocytes. PSWC2017 (Stockholm) 2017.5.
- 721) Muraoka O., Shimada H., Urabe Y., Okamoto Y., Zheng L., Kawase A., Morikawa T., Iwaki M.: Echinacoside and acteoside inhibit sodium-dependent glucose transporter of intestinal epithelial cells. The 9th Symposiums on Cistances Herba and Desert Medicinal Plants (Hotan) 2017.5.
- 722) 川畑 篤史: 化学療法誘発性末梢神経障害の原因物質としての HMGB1 の役割: 臨床データ解析と基礎研究を駆使したアプローチ. 痛み研究会 2018 (岡崎) 2018.12.
- 723) 堂本莉紗, 山口一樹, 関口富美子, 坪田真帆, 川畑 篤史.: マクロファージにおいてパクリタキセルにより誘発される内因性 H₂S に依存した HMGB1 遊離: 化学療法誘発性末梢神経障害への関与 痛み研究会 2018 (岡崎) 2018.12
- 724) 川畑 篤史: Ca_v3.2 T型カルシウムチャネル - どこで何をしているのか? 第 134 回日本薬理学会近畿部会 (神戸) 2018.11. 招待講演
- 725) 宮本朋佳, 福山紘基, 畑中重克, 富士谷昌典, 堂本莉紗, 関口富美子, 小泉祐一, 川畑 篤史.: オキサリプラチン誘発末梢神経障害のリスク因子: 肝機能障害との関係について. 第 134 回日本薬理学会近畿部会 (神戸) 2018.11.
- 726) 堂本莉紗, 西村莉香, 関口富美子, 坪田真帆, 宮本朋佳, 小泉祐一, 西堀正洋, 川畑 篤史.: マウスにおいてオキサリプラチン誘発性末梢神経障害は肝障害によって増悪する. 第 134 回日本薬理学会近畿部会 (神戸) 2018.11.
- 727) 林 佑亮, 坪田真帆, 福田亮太郎, 宮崎貴也, 西堀正洋, 川畑 篤史.: トロンボモジュリン/トロンビン系は HMGB1 を不活性化することでオキサリプラチン誘発性末梢神経障害の発症を抑制的に制御している. 第 134 回日本薬理学会近畿部会 (神戸) 2018.11.
- 728) 小池寧々, 安井洋樹, 関口富美子, 田邊元三, 川畑 篤史.: マウスにおいて覚醒剤メタンフェタミンにより誘起される行動量増加と脳内 cFos 発現に及ぼす T 型カルシウムチャネル阻害薬の効果 第 134 回日本薬理学会近畿部会 (神戸) 2018.11.
- 729) 坪田真帆, 川畑 篤史.: 内臓痛発現における硫化水素および過硫化物の役割. 第 91 回日本生化学会大会 (京都) 2018.9. (シンポジウム)
- 730) Kawabata A., Nishikawa, H., Uenoyama, K., Sekiguchi F., Tsubota M., Okada, T., Toyooka, N. : Middle Molecular Weight Heparinylphenylalanine Prevents the Development of Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Mice. 17th World Congress on Pain. (Boston, USA) 2018.9.
- 731) Matsui, K., Nakano, M., Tomochika, K., Tsubota M., Kawabata A. : Pharmacological blockade and genetic deletion of Cav3.2 T-type Ca²⁺ channels abolish butyrate-induced colonic hypersensitivity in mice. 17th World Congress on Pain. (Boston, USA) 2018.9.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 732) Wakitani, K., Sekiguchi F., Tsubota M., Nakamura S., Nakanishi I., Kawabata A.: Azelastine attenuates RAGE-dependent allodynia in mice: a discovery by a drug reprofiling/repositioning approach. 17th World Congress on Pain. (Boston, USA) 2018.9.
- 733) 川畑 篤史: DAMPsと痛み. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学大会合同年会 (神戸) 2018.9. (シンポジウム)
- 734) 堂本莉紗、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史. : Paclitaxel によるマクロファージからの HMGB1 放出はニューロン由来 ATP によって促進される: 化学療法誘起末梢神経障害における神経系-免疫系クロストークの役割 生体機能と創薬シンポジウム 2018 (福岡) 2018.8.
- 735) 平本志於里、鳥山祐希、榮木彩、坪田真帆、山口 薫、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおいて ATP/HMGB1/RAGE 系は CSE/H2S/Cav3.2 系の上流シグナルとして膀胱痛の発症に関与する 生体機能と創薬シンポジウム 2018 (福岡) 2018.8
- 736) 林 佑亮、坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、西堀正洋、川畑 篤史. : オキサリプラチン誘起末梢神経障害に対するトロンボモジュリンアルファの予防効果に及ぼす抗凝固薬の影響. 生体機能と創薬シンポジウム 2018 (福岡) 2018.8
- 737) Kawabata A., Tomita, S., Miyazaki, T., Deguchi, T., Sekiguchi F., Tsubota M., Nguyen, H.D., Okada, T., Yoshida, S., Toyooka, N. : Cav3.2 T-type calcium channels as therapeutic targets for bortezomib-induced peripheral neuropathy in mice. 11thFENS Forum of Neuroscience. (Berlin, Germany) 2018.7.
- 738) Sekiguchi F., Noda, S., Kasanami, Y., Onishi, R., Ono, S., Murata, K., Matsuda, H., Nguyen, H.D., Toyooka, N., Harada, N., Kawabata A.: Agonistic activity of 6-prenylnarigenin, a novel T-type Ca²⁺ channel inhibitor, toward cannabinoid CB1 receptors in neural progenitor-like NG108-15 cells and CB1-transfected HEK293 cells. 11thFENS Forum of Neuroscience. (Berlin, Germany) 2018.7.
- 739) Domoto, R., Yamasoba, D., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori, M., Kawabata A. : Molecular mechanisms for the HMGB1-dependent mechanical allodynia following intraplantar administration of lipopolysaccharide in mice. 11thFENS Forum of Neuroscience. (Berlin, Germany) 2018.7.
- 740) Hiramoto, S., Tsubota M., Yamaguchi, K., Toriyama, Y., Tanaka, J., Sekiguchi F., Ishikura, H., Nishibori, M., Kawabata A.: ATP and HMGB1 mediate H₂S-dependent bladder pain in mice with cyclophosphamide-induced cystitis. 11thFENS Forum of Neuroscience. (Berlin, Germany) 2018.7.
- 741) Nakatake, Y., Sekiguchi F., Tsubota M., Tsujita, R., Honda, G., Kawabata A.: Effect of extracellular HMGB1 on neuritogenesis in mouse dorsal root ganglion neurons and its inhibition by thrombomodulin alfa. 11thFENS Forum of Neuroscience. (Berlin, Germany) 2018.7.
- 742) Sekiguchi F., Yagura, A., Kawabata A.: High mobility group box 1 suppresses smooth muscle tension in rat aorta via Toll-like receptor 4-dependent upregulation of iNOS. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Kyoto, Japan) 2018.7.
- 743) Nishikawa, H., Uenoyama, K., Sekiguchi F., Tsubota M., Kawabata A.: Middle molecular weight heparinylphenylalanine is an analgesic with reduced risk of hemorrhage. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Kyoto, Japan) 2018.7.
- 744) Domoto, R., Yamasoba, D., Yamanishi, H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori, M., Kawabata

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- A: Macrophage-derived HMGB1 is a key molecule in paclitaxel-induced peripheral neuropathy in mice: involvement of ROS generation and NF- κ B activation. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Kyoto, Japan) 2018.7.
- 745) Hayashi, Y., Tsubota M., Tsujita, R., Honda, G., Kawabata A. : Molecular mechanisms for the recombinant soluble thrombomodulin-induced suppression of HMGB1-dependent allodynia in mice: Roles of the N-terminal domains of thrombomodulin. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (Kyoto, Japan) 2018.7.
- 746) Tsubota M., Matsui, K., Nakano, M. Tomochika, K., Sekiguchi F., Kawabata A. : Role of Ca_v3.2 T-type calcium channels in the butyrate-induced colonic hypersensitivity in the mouse, a model for irritable bowel syndrome 10th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotection. (Kyoto, Japan) 2018.6.
- 747) 川畑 篤史: 内臓痛におけるマクロファージ由来 HMGB1 の役割と治療標的分子としての可能性 第 40 回日本疼痛学会 (長崎) 2018.6. (シンポジウム)
- 748) 西川裕之、上野山桐子、関口富美子、坪田真帆、岡田卓哉、豊岡尚樹、川畑 篤史: 中分子ヘパリニルフェニルアラニンは化学療法誘起末梢神経障害を抑制する 第 40 回日本疼痛学会 (長崎) 2018.6.
- 749) 川端柚希、林愛理沙、坪田真帆、中武ゆい、辻田隆一、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史: 急性および慢性術後痛における HMGB1 の役割 第 40 回日本疼痛学会 (長崎) 2018.6.
- 750) 脇谷航平、関口富美子、坪田真帆、中村 真也、仲西 功、川畑 篤史: RAGE を標的とした化学療法誘起末梢神経障害治療薬の探索: In silico ドラッグ・リプロファイリング/リポジショニングからのアプローチ 第 40 回日本疼痛学会 (長崎) 2018.6.
- 751) 西川裕之、上野山桐子、関口富美子、坪田真帆、岡田卓哉、豊岡尚樹、川畑 篤史: がん化学療法誘起末梢神経障害モデルマウスにおける中分子ヘパリニルフェニルアラニンの抗アロディニア作用 第 133 回日本薬理学会近畿部会 (広島) 2018.6.
- 752) 坪田真帆、松井和樹、中野真希、友近拳、関口富美子、川畑 篤史: T 型 Ca²⁺チャネル阻害活性を有するホップ成分 6-prenylnaringenin は結腸痛を抑制する 第 133 回日本薬理学会近畿部会 (広島) 2018.6.
- 753) 脇谷航平、関口富美子、坪田真帆、中村 真也、仲西 功、川畑 篤史: Azelastine は RAGE が関与する化学療法誘起末梢神経障害の発症を抑制する - ドラッグ・リプロファイリング/リポジショニング研究からの知見 第 133 回日本薬理学会近畿部会 (広島) 2018.6.
- 754) 川畑 篤史: 慢性疼痛における Ca_v3.2 T型カルシウムチャネルの役割と治療標的分子としての可能性 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会 (東京) 2018.5. (シンポジウム)
- 755) 木下充弘、山本万莉、山本佐知雄、鈴木茂生 : 全自動マイクロチップ電気泳動装置を用いる次世代糖鎖プロファイリング法の開発. SCE2018(大阪)2018.12
- 756) 河崎拓也、山本佐知雄、鈴木茂生、木下充弘 : 抗体医薬の定常領域配列に着目した迅速糖鎖プロファイリング. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 757) 松本和樹、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : ヒト肝臓がん細胞タンパク質および分泌タンパク質の発現糖鎖解析. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 758) 寺口瑠果、山本佐知雄、鈴木茂生、木下充弘 : ヘキソサミン経路とその周辺代謝環境が糖鎖生合成に与える影響. 第 68 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10
- 759) 河崎拓也、松本和樹、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 抗体医薬の定常領域配列に着目した迅速糖鎖プロファイリング. 第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(福岡)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

2018.8

760) 木下充弘 : グライコーム/グライコプロテオーム解析技術としての電気泳動の可能性. 第 69 回日本電気泳動学会総会 (神奈川)2018.8

761) Momo Kamei, Kazuhiko Matsuo, Kosuke Kitahata, Shinya Yamamoto, Osamu Yoshie, Takashi Nakayama: Efficient induction of memory CD8+ T cell responses by a highly active form of XCL1. 第 47 回日本免疫学会学術集会(福岡)2018.12

762) Kazuhiko Matsuo, Shinya Yamamoto, Daisuke Nagakubo, Osamu Yoshie, Takashi Nakayama: A role of CCL28 as an activating factor for IgA-secreting cells. 第 47 回日本免疫学会学術集会(福岡)2018.12

763) Shintaro Higashiyama, Kazuhiko Matsuo, Shinya Yamamoto, Daisuke Nagakubo, Osamu Yoshie, Takashi Nakayama: A CCR4 antagonist has a potent vaccine adjuvant activity through the inhibition of regulatory T-cell recruitment into the muscle. 第 47 回日本免疫学会学術集会(福岡)2018.12

764) Kosuke Kitahata, Kazuhiko Matsuo, Daisuke Nagakubo, Osamu Yoshie, Takashi Nakayama: Comparison of atopic dermatitis-like skin lesions between BALB/c mice and C57BL/6 mice. 第 47 回日本免疫学会学術集会(福岡)2018.12

765) 亀井萌百, 松尾一彦, 北畑孝祐, 義江修, 中山隆志: 高活性型ケモカイン XCL1 はエフェクターおよびメモリーCTL 誘導を増強する. 第 22 回日本ワクチン学会学術集会(神戸)2018.12

766) 東山慎太郎, 松尾一彦, 山本真也, 長久保大輔, 西脇 敬二, 義江修, 中山隆志: 筋肉内投与ワクチンにおけるケモカイン受容体 CCR4 阻害剤のアジュバント効果. 第 22 回日本ワクチン学会学術集会(神戸)2018.12

767) 長沼孝典, 松尾一彦, 北畑孝祐, 西川莉央, 中山隆志: 新規アスコルビン酸誘導体は抗炎症作用を介して乾癬病態を改善する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

768) 山本真也, 松尾一彦, 三嶋樹, 中山隆志: ATP は Th17 細胞の誘導を介して CTL 誘導および抗腫瘍効果を増強する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

769) 北畑孝祐, 松尾一彦, 山本真也, 長久保大輔, 義江修, 中山隆志: ケモカイン CCL28 は IgA 産生細胞の IgA 分泌を促進する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

770) 長尾遥佳, 松尾一彦, 小幡梓, 竹内つぐみ, 鶴井直樹, 権英淑, 神山文男, 義江修, 中山隆志: フタル酸ジブチルを用いた新規アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

771) 小幡梓, 松尾一彦, 長久保大輔, 権英淑, 神山文男, 義江修, 中山隆志: BALB/c マウスと C57BL/6 マウスにおけるアトピー性皮膚炎発症の比較. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

772) 藤本菜央, 松尾一彦, 亀井萌百, 今西遥香, 北畑孝祐, 山本真也, 義江修, 中山隆志: 高活性型ケモカイン XCL1 は抗原特異的メモリーCTL を効率よく誘導する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

773) 坂井翔, 松尾一彦, 北畑孝祐, 本澤龍菜, 中山隆志: ATP は樹状細胞の活性化およびリンパ節遊走を促進して抗原特異的抗体産生を増強する. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

774) 辰巳蒼波, 松尾啓司, 松尾一彦, 中山隆志, 長久保大輔: 腸管での粘液産生におけるケモカイン CCL28 の影響の検討. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路)2018.10

775) 山本真也, 松尾一彦, 神原弘和, 長久保大輔, 義江 修, 中山隆志: ケモカイン CCL28 の IgA

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 産生細胞に対する活性化因子としての役割. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3
- 776) 亀井 萌百、松尾一彦、北畑孝祐、吉岡靖雄、義江 修、中山隆志: 高活性型 XCL1/lymphotactin による抗原特異的メモリーCTL の効率的な誘導. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3
- 777) 東山慎太郎、松尾一彦、山本真也、長久保大輔、西脇啓二、義江 修、中山隆志: 筋肉内投与ワクチンにおいて CCR4 阻害剤は Treg の筋肉組織への遊走を阻害することで抗原特異的免疫応答を増強する. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3
- 778) 竹内つぐみ、松尾一彦、竹田なつみ、長久保大輔、西脇啓二、義江 修、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR4 は急性期アトピー性皮膚炎の発症に重要な役割を担う. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3
- 779) 長沼孝典、松尾一彦、中山隆志: 新規アスコルビン酸誘導体の乾癬に対する予防的ならびに治療的効果. 日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3
- 780) Rikuto Miyake, Akitaka Yamasaki, Yuta Hara, Yoshiya Ohno, Takashi Masuko. Crosstalk among oncogene products revealed by CRISPR/ Cas9-based knock out. CRISPR/Cas9、遺伝子破壊に基づく癌遺伝子産物間クロストークの解析. 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 781) Natsumi Hayashi, Shiho Ueda, Akio Ohta, Takashi Masuko Temperature or fixation dependent reactivity of antibodies against multi-pass membrane proteins.複数回膜貫通タンパク質を認識する抗体の温度、及び固定依存的な反応性. 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 782) Yuta Hara, Takashi Masuko. Anti-cancer effects of novel anti-ASCT2 monoclonal antibody on human colorectal cancer. 新規抗 ASCT2 モノクローナル抗体のヒト大腸癌に対する抗癌効果 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 783) Akitaka Yamasaki, Yuta Hara, Takashi Masuko. Inhibition of HER3 and MET as combination targeted therapy in human colorectal cancer. HER3 および MET の阻害によるヒト大腸癌の治療効果に関する検討 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 784) Kazuki Imai, Shiho Ueda, Yuta Hara, Toshiyuki Ishiwata, Takashi Masuko. Comprehensive analysis of cell-surface molecules and exosomes in human pancreatic cancers. ヒト膵臓癌表面分子とエクソソームの網羅的解析 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 785) Hiroshi Okura, Shiho Ueda, Yuta Hara, Takashi Masuko. Production of novel monoclonal antibodies recognizing SLC7A1 (CAT1). 新規抗 SLC7A1 (CAT1)モノクローナル抗体の作製 第 77 回日本癌学会学術集会(大阪)2018.9.
- 786) 西本 晃太郎、山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳 : メープルシロップ酢酸エチル抽出物による抗酸化作用の解析. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 787) 町田 佳奈子、池川 繁男、三田村 邦子、山本 哲志、多賀 淳 : LC/MS によるヒト尿中グルクロン酸抱合型コルトールおよび関連代謝物の分析. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 788) 上野 光穂、内海 裕子、日野 美紀、根本 英幸、池川 繁男、三田村 邦子、山本 哲志、多賀 淳 : LC/MS による FBRA 中グルコシルセラミドの分析. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 789) 栗巢 くらら、山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳 : ヒト皮膚角質細胞における細胞外基質タンパク質 lumican の役割. 第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫)2018.10.
- 790) 渡邊 菜摘、福岡 侑也、大竹 裕子、佐藤 完太、山本 哲志、多賀 淳、岡美 佳子、牛久保

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

裕子、平松 範子、山本 直樹、長井 紀章：白内障治療薬の開発：ラノステロールナノ点眼薬による水晶体構造異常保護作用と白濁抑制効果。第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫)2018.10.

791) 山本 哲志、工藤 光洋、橋本 知樹、三田村 邦子、内藤 善哉、多賀 淳：ホルマリン固定パラフィン包埋大腸癌組織を用いた新規大腸癌診断マーカーの探索とその定量法の開発。第43回日本医用マスペクトル学会年会(札幌)2018.9.

792) 佐藤 完太、山口 真史、山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳：LC-MS/MS を用いた TCA 回路代謝物の一斉分析。第43回日本医用マスペクトル学会年会(札幌)2018.9.

793) 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌(北海道大学) 2018年9月6-7日

794) 久保田 千晶、山本 哲志、多賀 淳：クロマグロ抽出コラーゲンの悪性黒色腫細胞増殖への影響の検討。日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.

795) 山本 哲志、中西 紗緒理、三田村 邦子、多賀 淳：プロテオーム解析によるすっぽんコラーゲンのヒト皮膚角化細胞への影響の検討。日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.

796) 大竹 裕子、山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳、長井 紀章：ショットガンプロテオミクス解析を用いた糖尿病白内障要因の解析。日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.

797) 遠藤 晋吾、石渡 俊二、山本 理恵、北野 里佳、藤本 美弥、山本 哲志、多賀 淳、升永 早紀、益子 高、福田 由之、安井 友佳子、石坂 敏彦、井上 知美、小竹 武：各種温度下におけるシクロホスファミドの最大ガス化量。日本薬学会第 138 年会(金沢)2018.3.

798) Yuuka Hirose, Mirai Yamazaki, Misa Nogata, Akira Nakamura Tomohiro Maegawa: Bromination of aromatic compounds using the combination of sulfur compounds and NBS. The 14th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (Kyoto) 2018.11.

799) 中村光、今宮彰良、饒非、池上裕一郎、前川智弘:2-ヒドロキシカルコンの転位反応を利用したベンゾフラン類の選択的合成研究。第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム (熊本) 2018.11.

800) 廣瀬優香、山崎未来、野方美沙、中村光、前川智弘:硫黄化合物とNBSを組み合わせた芳香環の臭素化反応。第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム (熊本) 2018. 11.

801) 廣瀬優香、山崎未来、中村光、前川智弘:硫黄化合物によるNBSの活性化を利用した芳香環の臭素化反応。第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫)2018.10.

802) 木根燈子、上西春菜、嘉瀬泰仁、中村光、前川智弘:カルコンの転位体から 3,4-二置換イソオキサゾールへの変換反応の検討。第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫)2018.10.

803) 前川智弘、野方美沙、廣瀬優香、中村光、三木康義、藤岡弘道:PhSTMS および NBS を用いた温和な条件でのメチレンアセタールの開裂反応。近畿大学大学院サイエンスネットワーク 2018・第 8 回院生サミット(大阪)2018.9.

804) Akira Nakamura, Satoshi Tanaka, Reo Takane, Yasuyoshi Miki, Tomohiro Maegawa: One-pot Synthesis of 3-Acylindoles by Oxidative Rearrangement of 2-Aminochalcones Using a Hypervalent Iodine Reagent. XXII International Conference on Organic Synthesis (22-ICOS) (Italy) 2018.9.

805) 中村光、木根燈子、上西春菜、嘉瀬泰仁、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬によるカルコンの転位を利用した 3,4-二置換イソオキサゾールの合成。第 48 回 複素環化学討論会 (長崎) 2018.9.

806) Tomohiro Maegawa, Misa Nogata, Yuuka Hirose, Akira Nakamura, Yasuyoshi Miki, Hiromichi Fujioka: Mild Cleavage Reaction of Methylene Acetal Using the Combination of PhSSiMe₃ and

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- N-Bromosuccinimide.第 28 回有機硫黄化学国際シンポジウム (ISOCS-28) (東工大) 2018.8.
- 807) 廣瀬優香、山崎未来、野方美沙、中村光、前川智弘: PhSTMS と NBS を組み合わせた芳香環の臭素化反応. 第 38 回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために (兵庫) 2018.8.
- 808) 柴田彩杏、北本沙羅、藤村一真、濱本博三、中村光、三木康義、前川智弘: $\text{PhI}(\text{OAc})_2$ と LiBr の組み合わせによるメキシベンジルアルコール類からの脱ヒドロキシメチル臭素化反応の開発. 日本プロセス化学会 2018 サマーシンポジウム (東京) 2018.7.
- 809) 中村光、森下かんな、柳綾沙美、山下優哉、前川智弘: ケトキシムから 1,5-二置換テトラゾールの合成反応の開発. 日本プロセス化学会 2018 サマーシンポジウム (東京) 2018.7.
- 810) 前川智弘、野方美沙、廣瀬優香、中村光、三木康義、藤岡弘道: PhSTMS-NBS 組み合わせ条件を用いたメチレンアセタールからプロモホルメート体への変換反応における反応機構の考察. 日本薬学会 第 138 回年会 (金沢) 2018.3.
- 811) 中村光、嘉瀬泰仁、木根燈子、上西春奈、前川智弘: カルコンの転位反応を利用した 3,4-二置換イソオキサゾール類の合成研究. 日本薬学会 第 138 回年会 (金沢) 2018.3.
- 812) 前川智弘、水井亮太、浦崎美希、藤村一真、中村光、三木康義: アニリン誘導体とフェニルビニルケトン誘導体からの新規カルコン合成法の開発. 日本薬学会 第 138 回年会 (金沢) 2018.3.
- 813) 菅野裕也、椿正寛、武田朋也、川島啓司、西田升三: Dimethyl fumarate による NF- κ B 阻害を介した転移抑制効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10. (優秀ポスター賞受賞)
- 814) 伊藤麻祐、椿正寛、武田朋也、友成佳加、西田升三: Statins による Ras/ERK 及び Ras/mTOR 経路阻害を介した造血器系腫瘍でのアポトーシス誘導機序. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10. (優秀ポスター賞受賞)
- 815) 川島啓司、椿正寛、武田朋也、西田升三: レバミピドは Akt 阻害を介して抗がん剤殺細胞作用を増強する. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.
- 816) 河本雄一、椿正寛、武田朋也、西田升三: MIP-1 α オートクラインを介した多発性骨髄腫での抗がん剤抵抗性機序の解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10. (優秀ポスター賞受賞)
- 817) 清水菜穂、椿正寛、武田朋也、友成佳加、西田升三: Sorafenib によるシグナル活性阻害を介した悪性黒色腫での抗腫瘍効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.
- 818) 小泉翔太郎、椿正寛、武田朋也、浅野良太、西田升三: 新規 NF- κ B 経路阻害剤によるアポトーシス誘導効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.
- 819) 浅野良太、椿正寛、武田朋也、西田升三: Pioglitazone は PPAR γ 非依存的に STAT3 阻害を介してアポトーシスを誘導する. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.
- 820) 宇佐見拓丈、椿正寛、武田朋也、河本雄一、西田升三: Src 阻害を介した多発性骨髄腫での RANK/RANKL による抗がん剤耐性克服効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.
- 821) 友成佳加、椿正寛、武田朋也、西田升三: 多発性骨髄腫におけるメルファラン耐性にシグナル活性化を介した HIF-1 α 過剰発現が寄与する. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10. (優秀ポスター賞受賞)
- 822) 武田朋也、椿正寛、浅野良太、川島啓司、西田升三: Mangiferin による NF- κ B 経路阻害を介した腫瘍増殖・転移抑制効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) 2017.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 823) 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 河本雄一, 西田升三:慢性骨髄性白血病での BCR-ABL 阻害薬耐性に MET/ERK 及び MET/JNK 経路活性化が関与する. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10.
- 824) 河本雄一, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 眞下恵次, 阪口勝彦, 西田升三:MIP-1alpha オートクラインは多発性骨髄腫でのメルファラン感受性を低下させる. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 825) 浅野良太, 椿正寛, 武田朋也, 河本雄一, 西田升三:Pioglitazone は STAT3 阻害を介して Survivin の発現低下及び AIF の発現増加によりアポトーシスを誘導する. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 826) 武田朋也, 椿正寛, 浅野良太, 川島啓司, 西田升三:新規 NIK 阻害剤 Mangiferin による転移・腫瘍増殖抑制効果. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 827) Masanobu Tsubaki, Tomoya Takeda, Yu-ichi Koumoto, Shin-ichiro Fujimoto, Shozo Nishida. MET/ERK and MET/JNK pathways is involved with imatinibresistance in chronic myeloid leukemia. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 828) 川島啓司, 椿正寛, 武田朋也, 河本雄一, 西田升三:Rebamipide は口腔癌において 5-fluorourasil 感受性を増強させる. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 829) 西田升三, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 川島啓司: Src 阻害は RANK/RANKL による CAM-DR を克服する. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 830) 友成佳加, 椿正寛, 武田朋也, 藤本伸一郎, 西田升三:多発性骨髄腫でのメルファラン耐性にシグナル伝達経路活性化による HIF-1alpha 過剰発現が関与する. 第 76 回日本癌学会学術総会(横浜)2017.10.
- 831) 浅野良太, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 藤原大一郎, 阪口勝彦, 西田升三:Pioglitazone は STAT3 阻害を介して Survivin の発現低下及び AIF の発現増加によりアポトーシスを誘導する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6. (優秀ポスター賞受賞)
- 832) 川島啓司, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 浅野良太, 河本雄一, 西田升三:レバミピドは Akt 及び mTOR を阻害することで抗がん剤の感受性を増加させる. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.
- 833) 河本雄一, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 浅野良太, 川島啓司, 眞下恵次, 阪口勝彦, 西田升三:多発性骨髄腫での MIP-1alpha オートクラインは抗がん剤の感受性を低下させ抗がん剤耐性に寄与する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.
- 834) 西田升三, 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 浅野良太, 河本雄一, 川島啓司:Src 阻害は RANK/RANKL による多発性骨髄腫での抗がん剤耐性を克服する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.
- 835) 友成佳加, 椿正寛, 武田朋也, 河本雄一, 浅野良太, 川島啓司, 藤本伸一郎, 山添譲, 西田升三:多発性骨髄腫でのメルファラン耐性にはシグナル経路活性化を介した HIF-1alpha の過剰発現が寄与する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.
- 836) 椿正寛, 武田朋也, 友成佳加, 河本雄一, 浅野良太, 川島啓司, 藤本伸一郎, 山添譲, 西田升三:慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ耐性に MET/ERK 及び MET/JNK 経路が寄与する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.
- 837) 武田朋也, 椿正寛, 友成佳加, 河本雄一, 浅野良太, 川島啓司, 藤本伸一郎, 山添譲, 西田升三:Mangiferin による NIK/NF-kappaB 経路阻害を介した腫瘍増殖・転移抑制効果. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会(福岡)2017.6.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 838) 辻田隆一、坪田真帆、林佑亮、佐伯晴香、本田剛一、川畑 篤史: HMGB1 による痛みの増強に対するヒト型可溶性トロンボモジュリンの抑制作用に關与する分子メカニズム 痛み研究会 2017(痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー) (名古屋) 2017.12.
- 839) 川畑 篤史: T 型カルシウムチャネルを標的とする難治性疼痛の治療. ワークショップ「カルシウムシグナル動態制御の分子基盤と疾患治療戦略 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) 2017.12. (ワークショップ) パネル
- 840) 尾崎友香、松岡順紀、坪田真帆、富田詩織、関口富美子、南武志、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける H2S/Cav3.2 系を介する膀胱痛の発現: NF- κ B 系の役割と亜鉛による制御 第 132 回日本薬理学会近畿部会 (豊中) 2017.11.
- 841) 関口富美子、野田紗友理、洞口大和、山岡 桜、笠波嘉人、大野 董、Nguyen Huy Du、豊岡尚樹、村田和也、松田秀秋、吉田 繁、原田成信、伊藤由香里、大久保つや子、川畑 篤史: 新規 T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬 6-prenylnaringenin とその誘導体はカンナビノイド CB1 受容体を介して神経前駆 NG108-15 細胞の神経様突起伸長を誘起する 第 132 回日本薬理学会近畿部会 (豊中) 2017.11.
- 842) 坪田真帆、川畑 篤史: Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスの知覚神経過敏における $Ca_v3.2$ T 型 Ca^{2+} チャネルの役割 第 45 回日本潰瘍学会 (京都) 2017.11.
- 843) Kawabata A., Tomita, S., Deguchi, T., Sekiguchi F., Tsubota M., Yoshida, S: The critical role of Cav3.2 T-type calcium channels in the peripheral neuropathy induced by bortezomib, a proteasome-inhibiting chemotherapy agent, in mice. Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 844) Sekiguchi F., Tomita, S., Shikimi, S., Tsubota M., Kawabata A: Involvement of $Ca_v3.2$ T-type calcium channels in zinc deficiency-induced mechanical allodynia in mice. Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 845) Matsui, K., Terada, Y., Tsubota M., Kawabata A: Tacrolimus, a calcineurin inhibitor, promotes capsaicin-induced colonic pain in mice Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 846) Domoto, R., Nakashima, K., Tsubota M., Sekiguchi F., Kawabata A: Macrophages and NF- κ B signaling mediate peripheral HMGB1-induced mechanical allodynia in mice. Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 847) Nakatake, Y., Sekiguchi F., Tsubota M., Tsujita, R., Honda, G., Kawabata A. : HMGB1-induced neurite outgrowth in mouse dorsal root ganglion neurons and its inhibition by thrombomodulin Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 848) Hayashi, Y., Tsubota M., Tsujita, R., Honda, G., Kawabata A: Thrombin-dependent inhibition of HMGB1-induced mechanical allodynia by thrombomodulin in mice. Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 849) Kawabata, Y., Tsubota M., Tsujita, R., Nishibori, M., Kawabata A: Involvement of HMGB1 in postoperative pain. Neuroscience 2017 (Washington DC, USA) 2017.11.
- 850) 尾崎友香、松岡順紀、坪田真帆、富田詩織、関口富美子、南武志、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける亜鉛欠乏による膀胱痛増強メカニズム— $Ca_v3.2$ T 型 Ca^{2+} チャネルの機能増強と発現増加の關与— 第 67 回日本薬学会近畿支部大会 (神戸) 2017.10.
- 851) 矢倉綾乃、関口富美子、川畑 篤史: 核内タンパク high mobility group box 1 はラット胸部大動脈において iNOS 発現誘導を促進することでフェニレフリン収縮を抑制する. 第 67 回日本薬

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 学会近畿支部大会 (神戸) 2017.10.
- 852) 関口富美子、富田詩織、出口智代、坪田真帆、吉田繁、川畑 篤史 : プロテアソーム阻害作用を有する多発性骨髄腫治療薬 bortezomib によって誘起されるマウスの神経障害性疼痛には一次知覚神経における Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネルの発現量増加が関与する. 第 39 回日本生物学的精神医学会・第 47 回日本神経精神薬理学会 合同年会 (札幌) 2017.9.
- 853) 坪田真帆、梶谷梨絵、野中結、石井優子、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史: Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸痛へのマクロファージ由来 HMGB1 の関与 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 854) 堂本莉紗、中島夏奈、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: マウスにおいて HMGB1 足底内投与により誘起される機械的アロディニアには NF-κB シグナルとマクロファージが関与する 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 855) 宮崎貴也、坪田真帆、富田詩織、出口智代、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史: Bortezomib 誘起神経障害性疼痛へのマクロファージ由来 HMGB1 の関与 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 856) 林 佑亮、佐伯晴香、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑 篤史: トロンボモジュリンアルファはトロンビン依存的に HMGB1 を分解し炎症性疼痛を抑制する. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 857) 中武ゆい、関口富美子、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑 篤史: マウス後根神経節細胞において thrombomodulin alfa は還元型 HMGB1 により誘起される神経突起伸長をトロンビン依存的および非依的に抑制する. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 858) 中島夏奈、堂本莉紗、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: レドックス状態の異なる HMGB1 による機械的アロディニアの発現メカニズムの解析: Toll-like receptor 5、NMDA 受容体および NF-κB の関与とマクロファージの役割. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 859) 川端柚希、坪田真帆、辻田隆一、西堀正洋、川畑 篤史: 術後痛における HMGB1 シグナルの役割と治療標的分子としての可能性. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 860) 松井和樹、中野真希、友近拳、坪田真帆、川畑 篤史: Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸の知覚神経過敏における Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネルの役割. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) 2017.8.
- 861) Kawabata A.: HMGB1 and pain. 第 40 回日本神経科学大会 (千葉) 2017.7. (シンポジウム)
- 862) 関口富美子、野田紗友理、大野 堇、洞口大和、笠波嘉人、Nguyen Huy Du、豊岡尚樹、村田和也、松田秀秋、原田成信、伊藤由香里、川畑 篤史: 6-prenylnaringenin は神経前駆様 NG108-15 細胞において T 型カルシウムチャネル阻害活性とカンナビノイド CB1 受容体アゴニスト活性を示す. 第 40 回日本神経科学大会 (千葉) 2017.7.
- 863) 坪田真帆、福田 亮太郎、宮崎 貴也、川畑 篤史: Ca_v3.2 T 型カルシウムチャネルを標的とするオキサリプラチン誘起末梢神経障害の治療 第 40 回日本神経科学大会 (千葉) 2017.7.
- 864) 宮崎貴也、坪田真帆、富田詩織、出口智代、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史: マクロファージ由来 high mobility group box1 は bortezomib 誘起神経障害性疼痛に関与する. (名古屋) 2017.6.
- 865) 中島夏奈、堂本莉紗、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: 末梢組織中のチオール型およびジスルフィド型 high mobility group box 1 により誘起される痛覚増強へのマクロファージの関与. (名古屋) 2017.6.
- 866) 中武ゆい、関口富美子、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑 篤史: マウス脊髄後根神経

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

節細胞における HMGB1 誘起神経突起伸長とそれに対する遺伝子組み換えヒト可溶性 thrombomodulin の効果 第 131 回日本薬理学会近畿部会 (名古屋) 2017.6.

867) 坪田真帆、福田亮太郎、関口富美子、宮崎貴也、堂本莉紗、安井洋樹、山下莉加、上田慎、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: オキサリプラチン誘起神経障害性疼痛の発症メカニズムの解析:Cav3.2 T 型カルシウムチャンネルと HMGB1 の関与. 第 39 回日本疼痛学会 (神戸) 2017.6.

868) 平本 志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史. : シクロホスファミド誘起間質性膀胱炎様マウスモデルにおける膀胱痛は ATP/HMGB1/H₂S シグナルを介して発現する. 第 39 回日本疼痛学会 (神戸) 2017.6.

869) 関口富美子、富田詩織、出口智代、坪田真帆、吉田繁、川畑 篤史. : プロテアソーム阻害薬 bortezomib 誘起神経障害性疼痛には一次知覚神経における Cav3.2 T 型カルシウムチャンネルのタンパク量増加が関与する. 第 39 回日本疼痛学会 (神戸) 2017.6

870) 辻田隆一、林佑亮、坪田真帆、本田剛一、川畑 篤史: トロンボモジュリンアルファはトロンビン依存性に HMGB1 誘起痛覚過敏を抑制する 第 39 回日本疼痛学会 (神戸) 2017.6.

871) 松本和樹、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 解糖系およびヘキソサミン合成経路の変化が N-結合型糖鎖生合成に与える影響 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) 2017.10

872) 木下充弘、御子柴柚子、山本万莉、松本和樹、山本佐知雄、鈴木茂生 : バイオ医薬品の PAT 指向型分析プラットフォーム構築. 第 30 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(東京) 2017.8

873) 山本万莉、松本和樹、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : マイクロチップアフィニティ電気泳動による複合糖質糖鎖の迅速解析. 第 30 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(東京) 2017.8

874) 松本和樹、小縣史帆、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生:解糖系およびヘキソサミン合成経路の変化が N 結合型糖鎖生合成に与える影響. 日本糖質学会年会(北海道)2017.8

875) 松本和樹、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生 : 解糖系およびヘキソサミン合成経路の変化が N-結合型糖鎖生合成に与える影響. 日本分析化学会近畿支部 第 11 回夏季セミナー(兵庫)2017.8

876) 木下充弘、御子柴柚子、山本佐知雄、鈴木茂生:糖タンパク質性バイオ医薬品の PAT 指向型分析技術基盤の開発に向けた取り組み. 日本糖質学会年会(北海道)2017.8

877) MATSUO Kazuhiko, NAGAKUBO Daisuke, YOSHIE Osamu, NAKAYAMA Takashi: CCR4 is involved in atopic dermatitis-like skin lesions induced by topical sensitization of ovalbumin and delta-toxin using a hydrogel patch. 第 46 回日本免疫学会学術集会 (仙台) 2017.12

878) YAMAMOTO Shinya, MATSUO Kazuhiko, YOSHIOKA Yasuo, YOSHIE Osamu, NAKAYAMA Takashi: A highly active form of lymphotactin/XCL1 (XCL1-CC3) functions as a potent adjuvant to accumulate CD103+XCR1+ cross-presenting dendritic cells and induce CD8+ CTL-mediated antitumor and antiviral effects 第 46 回日本免疫学会学術集会 (仙台) 2017.12

879) KAMBARA Hirokazu, MATSUO Kazuhiko, NAGAKUBO Daisuke, YOSHIE Osamu, NAKAYAMA Takashi: CCL28-deficiency altered microbiota in the colon and aggravated DSS-induced colitis in mice 第 46 回日本免疫学会学術集会 (仙台) 2017.12

880) NAGAKUBO Daisuke, MATSUI Makoto, SATOOKA Hiroki, SATO Tomomi, MATSUO

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Kazuhiko, YAMAMOTO Shinya, NAKAYAMA Takashi, YOSHIE Osamu, HIRATA Takako: Involvement of CCL28 in the pathogenesis of allergic rhinitis in a mouse model 第 46 回日本免疫学会学術集会(仙台)2017.12

881) 綿原光司、松尾一彦、北畑孝祐、川端史花、石橋美保、亀井萌百、小畑幸人、吉岡靖雄、中山隆志:高活性型 XCL1/lymphotactin を用いた新規ケモカインアジュバントの開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10

882) 鶴井直樹、松尾一彦、竹内つぐみ、竹田なつみ、長久保大輔、西脇啓二、義江 修、中山隆志:アトピー性皮膚炎発症におけるケモカイン受容体 CCR4 の役割の解明と治療への応用. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10

883) 山本真也、松尾一彦、神原弘和、長久保大輔、義江 修、中山隆志:ケモカイン MEC/CCL28 の腸管粘膜免疫における役割の解明. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10

884) 東山慎太郎、松尾一彦、松永奈緒子、山田祐毅、畑 綾香、西脇啓二、義江 修、中山隆志:筋肉内投与ワクチンにおける CCR4 阻害剤によるワクチン効果増強メカニズムの解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10

885) 山本真也、松尾一彦、北畑孝祐、川端史花、吉岡靖雄、中山隆志:高活性型 XCL1/lymphotactin を用いた CTL 誘導ワクチンアジュバントの開発. 第 16 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2017(札幌)2017.9

886) Shiho Ueda, Akitaka Yamasaki, Takashi Masuko. Dual affinities of antibodies recognizing L-type amino acid transporter 1 against LAT1-CD98hc complex. L-type アミノ酸トランスポーター (LAT1)-CD98hc 複合体への抗 LAT1 抗体の二重親和性 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

887) Kouki Okita, Shiho Ueda, Kazuki Imai, Kenji Hirotani, Takashi Masuko. Epitope analysis of novel anti-HER3 rat mAb towards overcoming resistance of cancer cells against anti-HER2 drugs. 癌の抗 HER2 薬剤耐性の克服に向けた抗 HER3 mAb のエピトープ解析. 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

888) Yuta Hara, Shiho Ueda, Akitaka Yamasaki, Kenichi Fujita, Kazuto Nishio, Takashi Masuko. Production of monoclonal antibodies against fibroblast growth factor 19 (FGF19). 線維芽細胞増殖因子 19 (FGF19) に対するモノクローナル抗体作製. 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

889) Akitaka Yamasaki, Shiho Ueda, Kazuki Imai, Kouki Okita, Yuta Hara, Kenichi Fujita, Takashi Masuko. Comprehensive analysis of cell-surface molecules in human colon cancers towards precision medicine. プレシジョン・メディシンに向けたヒト大腸癌表面分子の網羅的解析 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

890) Kazuki Imai, Shiho Ueda, Yuta Hara, Toshiyuki Ishiwata, Takashi Masuko. Comprehensive analysis of cell-surface molecules and exosomes in human pancreatic cancers. ヒト膵臓癌表面分子とエクソソームの網羅的解析 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

891) Hiroshi Okura, Shiho Ueda, Hideki Yagi, Yuta Hara, Takashi Masuko. Hybridoma transplantation-based analysis of receptors for sphingosine 1-phosphate. ハイブリドーマ移植によるリン酸化スフィンゴシン受容体の性状分析. 第 76 回日本癌学会学術集会(横浜)2017.9.

892) 柴田彩杏、北本沙羅、藤村一真、濱本博三、中村光、三木康義、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬を用いるアルコキシベンジルアルコールの脱ヒドロキシメチルプロモ化反応. 第 43 回反応

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- と合成の進歩シンポジウム(富山)2017.11.
- 893) 中村光、柳綾沙美、森下かんな、前川智弘:ケトキシムの転位反応を利用した 1,5-二置換テトラゾールの合成研究. 第 47 回複素環化学討論会(高知)2017.10.
- 894) 前川智弘、野方美沙、廣瀬優香、中村光、三木康義、藤岡弘道:NBS と PhSTMS を用いたメチレンアセタールからブロモホルメートへの変換反応における活性種に検討. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸) 2017.10.
- 895) 中村光、柳綾沙美、森下かんな、前川智弘:Beckmann 型の転位反応を利用した 1,5-二置換テトラゾール類の合成研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸) 2017.10.
- 896) 柴田彩杏、北本沙羅、藤村一真、濱本博三、中村光、三木康義、前川智弘:超原子価ヨウ素試薬を用いたベンジルアルコール類からの直接的臭素化反応の開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸) 2017.10.
- 897) Tomohiro Maegawa, Misa Nogata, Yuuka Hirose, Akira Nakamura, Yasuyoshi Miki, Hiromichi Fujioka: Novel Transformation of Methylene Acetals Using Trimethyl(phenylthio)silane and *N*-Bromosuccinimide 8th International Meeting on Halogen Chemistry (HALCHEM VIII) (愛知) 2017.9.
- 898) Tomohiro Maegawa, Akira Nakamura, Noriko Makino, Yasuyoshi Miki: Halogenation of Dimethyl Indole-2,3-dicarboxylate Using Phenyliodine Diacetate and Alkali Metal Halides. 26th International Society of Heterocyclic Chemistry(ドイツ Regensburg) 2017.9.
- 899) 中村光、今宮彰良、坂井田楓、谷上絢一、三木康義、前川智弘:カルコンの超原子価ヨウ素試薬による転位反応を利用したベンゾフラン合成. 第 37 回有機合成若手セミナー(京都) 2017.8.
- 900) 前川智弘、野方美沙、廣瀬優香、中村光、三木康義、藤岡弘道:PhSTMS と NBS を用いたメチレンアセタールの新規変換反応. 第 37 回有機合成若手セミナー(京都)2017.8.
- 901) 中村光、今宮彰良、坂井田楓、三木康義、前川智弘:2-ヒドロキシカルコンの転位反応を用いるベンゾフランの合成研究. 日本プロセス化学会 2017 サマーシンポジウム(大阪) 2017.8.
- 902) 中村光、田中智士、今宮彰良、坂井田楓、高子怜大、三木康義、前川智弘:カルコンの転位反応を利用した複素環の新規合成法開発. 第 15 回次世代を担う有機化学シンポジウム(東京) 2017.5.
- 903) 椿正寛、武田朋也、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三: RANK/RANKL を介した多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得機序. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 904) 友成佳加、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:多発性骨髄腫でのメルファラン耐性には HIF-1 α の過剰発現が寄与する. 日本薬学会第 137 回年会(仙台) 2017.3.
- 905) 西田升三、河本雄一、椿正寛、武田朋也、友成佳加、藤本伸一郎、山添讓:多発性骨髄腫での NF- κ B 阻害薬 mangiferin と抗がん剤併用による細胞死誘導増強効果. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 906) 武田朋也、椿正寛、友成佳加、藤本伸一郎、山添讓、西田升三:新規 NIK 阻害剤 mangiferin 投与による腫瘍増殖・転移抑制効果. 日本薬学会第 137 回年会(仙台)2017.3.
- 907) 坪田真帆、福田亮太郎、関口富美子、宮崎貴也、堂本莉紗、安井洋樹、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛における HMGB1 とその標的分子の役割:マクロファージ非依存的機序の関与について. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎) 2017.3.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 908) 富田詩織、出口智代、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史:抗がん薬ボルテゾミブにより誘起される神経障害性疼痛には Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加が関与する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 909) 川端柚希、坪田真帆、辻田隆一、西堀正洋、川畑 篤史. HMGB1 は術後痛に関与する: 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 910) 林佑亮、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑 篤史: トロンボモジュリンアルファの HMGB1 誘起痛覚過敏に対する抑制効果はトロンピンに依存する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 911) 松井和樹、中野真希、石井優子、寺田侑加、坪田真帆、川畑 篤史: 結腸痛発症メカニズムの解析: 侵害受容ニューロン発現分子 TRPV1、PAR2 および Cav3.2 の役割. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 912) 宮本朋佳、坪田真帆、昼馬佐紀、川畑 篤史: マウスにおけるシクロホスファミド誘起膀胱炎・膀胱痛は反復寒冷ストレスにより軽減される: ストレスによるマクロファージ機能低下の関与について. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 913) 堂本莉紗、山嵜大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史: パクリタキセルによるマクロファージからの HMGB1 遊離の分子メカニズム: 化学療法誘起末梢神経障害の発症における役割. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 914) 関口富美子、野田紗友理、大野 董、村田和也、松田秀秋、Nguyen, H.D.、豊岡尚樹、川畑 篤史: 新規 T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬 6-prenylnaringenin はカンナビノイド CB1 受容体を介して神経前駆様 NG108-15 細胞の神経突起伸張を促進する. 第 90 回日本薬理学会年会(長崎)2017.3.
- 915) 坪田真帆、福田亮太郎、関口富美子、宮崎貴也、堂本莉紗、安井洋樹、山下莉加、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: 抗がん薬オキサリプラチン誘起神経障害性疼痛への Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネルと HMGB1 の関与について. 痛み研究会 2016「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」(岡崎)2017.1.
- 916) 堂本莉紗、山嵜大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史: Paclitaxel 誘起痛覚過敏へのマクロファージ由来 high mobility group box 1 の関与. 痛み研究会 2016「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」(岡崎)2017.1.
- 917) 神原弘和、松尾一彦、山本真也、長久保大輔、義江 修、中山隆志: モカイン CCL28 の欠損は DSS 腸炎モデルマウスにおける病態を増悪させる. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 918) 高橋周平、松尾一彦、小山 篤、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: モカイン受容体 CCR4 の欠損はメラノーマ担癌モデルマウスの病態を増悪させる. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 919) 木村勇太、松尾一彦、小森悠平、畑中翔太、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: モカイン受容体 CCR4 の欠損はアトピー様皮膚炎の病態を改善させる. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 920) 伊藤茉奈、松尾一彦、長沼孝典、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: CR4 欠損マウスおよび CCR6 欠損マウスを用いたイミキモド誘発性乾癬の解析. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 921) 東山慎太郎、松尾一彦、松永奈緒子、山田祐毅、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: CR4 阻害剤は Treg の筋肉組織への遊走を阻害することでワクチン効果を向上させる. 日本薬学会第 137 年会(仙台)2017.3.
- 922) 石橋美保、松尾一彦、川端史花、北畑孝祐、中山隆志: 高活性型 lymphotactin/XCL1 を用い

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- たがんワクチンアジュバントの開発. 日本薬学会第137年会(仙台)2017.3.
- 923) 森山博由、森山麻里子、早川堯夫: 低酸素状態下のヒト間葉系幹細胞維持機構における Notch シグナルの役割. 第 16 回日本再生医療学会総会(宮城)2017.3.
- 924) Kawase A., Nimura N., Yamashita M., Ono Y., Kubouchi K., Sawada N., Shimada H., Satoh R., Kita A., Mukai H., Iwaki M., Sugiura R.: Protein kinase N family-dependent regulation of hepatic cytochrome P450 2C in mice. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 925) Shimada H., Urabe Y., Okamoto Y., Komura M., Yamashita Y., Kawase A., Morikawa T., Muraoka O., Iwaki M.: Stability of echinacoside and acteoside, components of Cistanche Tubulosa, in gastrointestinal tract and liver. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 926) Inoue Y., Kawase A., Nakazaki S., Koizumi E., Shimada H., Iwaki M.: Effect of ERM protein function depression on ABC transporter activities. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 927) Hashimoto R., Kawase A., Shibata M., Shimada H., Iwaki M.: Involvement of reactive metabolites of diclofenac in cytotoxicity in sandwich cultured rat hepatocytes. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 928) Inagaki M., Nishimura T., Nakanishi T., Shimada H., Akanuma S., Tachikawa M., Hosoya K., Tamai I., Nakashima E., Tomi M.: Role of prostaglandin transporter for PGE2 degradation in the murine placental spongiotrophoblasts. 日本薬物動態学会 第 31 回年会(長野)2016.10.
- 929) Inoue Y., Kawase A., Nakazaki S., Koizumi E., Shimada H., Iwaki M.: Influence of radixin knockdown on drug efflux transporters of cancer cells., 第 12 回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス(大阪)2016.10.
- 930) Iwaki M., Irino Y., Take M., Egashira S.: Inhibition of methotrexate uptake by glucuronides of nonsteroidal anti-inflammatory drugs via organic anion transporters OAT1 and OAT3, ISSX2016 (Busan) 2016.6..
- 931) Shimada H., Nakanishi T., Nakamura Y., Iwaki M., Tamai I.: Potential of prostaglandin transporter OATP2A1/SLCO2A1 as a target of novel anti-inflammatory drug. ISSX2016 (Busan)2016.6.
- 932) Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Tomonari Y., Fujimoto S., Nishida S.: Overexpression of HIF-1alpha is involved with melphalanresistance in multiple myeloma cells. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 933) Tomonari Y., Tsubaki M., Takeda T., Kino T., Fujiwara D., Sakaguchi K., Nishida S.: Inhibition of NF-kappaB by mangiferin increased the sensitivity of human multiple myeloma cells to anticancer drugs. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 934) Kino T., Tsubaki M., Takeda T., Tomonari Y., Mashimo K., Sakaguchi K., Nishida S.: Mangiferin induced the apoptosis via suppression of NIK/NF-kB pathway in human multiple myeloma cells. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 935) Takeda T., Tsubaki M., Kino T., Tomonari Y., Fujimoto S., Nishida S.: Mangiferin, a novel nuclear factor kappa B-inducing kinase inhibitor, suppresses metastasis in a mouse metastatic melanoma model. The 12th International Conference on Protein Phosphatase(大阪)2016.10.
- 936) 椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三: 慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ耐性に MET 経路活性化が寄与する. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 937) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、友成佳加、西田升三:新規 NIK 阻害剤 mangiferin による腫瘍増殖・転移抑制効果. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 938) 前川紗穂、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三:多発性骨髄腫におけるメルファラン耐性に HIF-1 α 過剰発現が寄与する. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 939) 松本幹広、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三:オキサリプラチン誘発末梢神経障害は PKC/MEK 阻害剤で抑制できる. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 940) 友成佳加、椿正寛、武田朋也、木野稔己、西田升三:新規 NIK 阻害剤 Mangiferin は多発性骨髄腫における抗がん剤殺細胞作用を増強する. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 941) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、友成佳加、西田升三:RANK/RANKL は多発性骨髄腫における CAM-DR に寄与する. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 942) 倉橋真弓、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三:Mangiferin による NIK/IKK/NF- κ B 経路阻害を介した細胞死誘導効果. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 943) 永田真穂、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三:MIP-1 α オートクライン阻害を介した抗がん剤感受性増強効果. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 944) 生駒航、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、西田升三:Ras 過剰発現頭頸部腫瘍に対する statins の細胞死誘導効果. 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2016.10.
- 945) 友成佳加、椿正寛、武田朋也、木野稔己、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:Mangiferin は多発性骨髄腫において抗がん剤感受性を増強させる. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 946) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:RANK/RANKL による細胞接着を介した抗がん剤耐性機構の解析. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 947) 西田升三、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、藤本伸一郎:HIF-1 α の過剰発現は多発性骨髄腫でのメルファラン耐性に寄与する. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 948) 椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、藤本伸一郎、西田升三:慢性骨髄性白血病における MET 活性化はイマチニブ耐性に寄与する. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 949) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、阪口勝彦、西田升三:新規 NIK 阻害薬による NF-kappaB 経路抑制を介したアポトーシス誘導機序. 第 75 回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.
- 950) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:多発性骨髄腫における新規 NIK 阻害剤 mangiferin による細胞死誘導機構の解析. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 951) 友成佳加、椿正寛、武田朋也、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三:多発性骨髄腫における NF-kappaB 阻害薬 mangiferin と抗がん剤併用による細胞死誘導効果及びその作用機序の解明. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 952) 西田升三、椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、藤本伸一郎、阪口勝彦、山添譲:Statins での Ras グラニルグラニル化阻害を介した MIP-1 α 分泌阻害効

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 果. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 953) 椿正寛、武田朋也、木野稔己、友成佳加、眞下恵次、藤原大一郎、藤本伸一郎、阪口勝彦、山添譲、西田升三:慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ耐性に MET 活性化が関与する. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 954) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、友成佳加、藤本伸一郎、山添譲、西田升三:RANK/RANKL システムは多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得に関与する. 第 20 回日本がん分子標的治療学会(大分)2016.6.
- 955) 宮崎貴也、坪田真帆、富田詩織、出口智代、関口富美子、山唄大智、西堀正洋、川畑 篤史: Bortezomib 誘起神経障害性疼痛への核内タンパク high mobility group box1 の関与. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 956) 上田舞、深海和樹、浅野絵莉茄、関口富美子、吉田繁、川畑 篤史:ヒト前立腺癌細胞における interleukin-6 誘起神経内分泌様分化に伴う Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加に関与する細胞シグナルの解析. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 957) 平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: シクロホスファミド誘起膀胱痛の発現メカニズムの解析:マクロファージ由来 HMGB1 による RAGE 活性化を介する H₂S 産生酵素の発現誘導の関与. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 958) 林佑亮、坪田真帆、辻田隆一、本田剛一、川畑 篤史:トロンボモジュリンアルファの HMGB1 誘起痛覚過敏に対する抑制作用の分子メカニズムとトロンビン依存性の解析. 第 130 回日本薬理学会近畿部会(京都)2016.11.
- 959) Tsubota M., Fukuda R., Miyazaki T., Domoto R., Kamitani N., Nishida T., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: Targeting HMGB1 and its downstream molecules for treatment of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 960) Tomita S., Sekiguchi F., Tsubota M., Kawabata A.: Molecular mechanisms for the upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels in the neuropathic pain. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 961) Miyazaki T., Fukuda R., Tsubota M., Kawabata A.: Cav3.2 T-type calcium channels as therapeutic targets for the oxaliplatin-induced peripheral neuropathy. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 962) Fukami K., Ueda M., Asano E., Sekiguchi F., Yoshida S., Kawabata A.: Interleukin-6-induced neuroendocrine-like differentiation of human prostate cancer cells: cell signaling and upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 963) Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A.: A role of macrophage-derived HMGB1 in paclitaxel-induced peripheral neuropathy in mice. The 12th International Conference on Protein Phosphatase (Higashi-Osaka, Japan) 2016.10.
- 964) 山岡桜、洞口大和、Nguyen, H.D.、北村 駿、岡田卓哉、大野 董、関口富美子、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、大久保つや子、豊岡尚樹、川畑 篤史:6-Prenylnaringenin をリード化合物とした新規 T 型 Ca²⁺チャネル阻害薬の探索:電気生理学的検討. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 965) 式見仕勇、富田詩織、関口富美子、坪田真帆、岸岡史郎、川畑 篤史:マウスの坐骨神経部分

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 結紮誘起神経障害性疼痛には知覚神経における Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現増加が関与する:転写因子 Egr-1 および脱ユビキチン化酵素 USP5 の役割. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 966) 中野真希、松井和樹、石井優子、坪田真帆、川畑 篤史:Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸痛覚過敏への Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネルの関与. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 967) 洞口大和、山岡 桜、大野 堇、関口富美子、Nguyen, H.D.、藤田友代、村田和也、松田秀秋、吉田 繁、大久保つや子、豊岡尚樹、川畑 篤史:新規 T 型カルシウムチャネル阻害薬 6-prenylnaringenin のイオンチャネル選択性に関する検討:2S 体とラセミ体の比較. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 968) 野田紗友理、大野堇、関口富美子、村田和也、松田秀秋、Nguyen, H.D.、豊岡尚樹、川畑 篤史:神経前駆様 NG108-15 細胞において新規 T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬 6-prenylnaringenin はカンナビノイド CB1 受容体を介して神経突起伸長を促進する. 第 66 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.
- 969) Kawabata A.:Impact of zinc or ascorbic acid deficiency on Cav3.2-dependent pain. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10. (Invited).
- 970) Kawabata A., Tsubota M. : Involvement of Cav3.2 T-type Ca^{2+} channels in the oxaliplatin-induced neuropathic pain. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10.
- 971) Kawabata A., Tomita S.:Mechanisms of Cav3.2 upregulation in neuropathic pain models. 2016 International Calcium channel Meeting. (Hoi An, Vietnam) 2016.10.
- 972) Kawabata A. : Roles of TLR4 and RAGE targeted by high mobility group box 1 in inflammatory and chemotherapy-induced peripheral neuropathy. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9. (Invited speaker)
- 973) Terada Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Wada K., Kuwahara T., Takada M., Kawabata A. : Tacrolimus causes relapse of pancreatic pain through TRPV1 activation during the recovery from cerulein-induced pancreatitis in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 974) Miyazaki T., Fukuda R., Tsubota M., Kawabata A. :Cav3.2 T-type calcium channels contribute to oxaliplatin-induced neuropathic pain in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 975) Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A. : Macrophage-derived HMGB1 participates in lipopolysaccharide-induced inflammatory hyperalgesia and paclitaxel-induced neuropathic pain in mice. 16th World Congress on Pain(Yokohama, Japan) 2016.9.
- 976) 川畑 篤史:HMGB1 研究の新展開 ～免疫系と神経系のクロストークにおける役割～. 第 31 回日本救命医療学会総会・学術集会 イブニングセミナー(福岡)2016.9.(招待講演)
- 977) 川畑 篤史:トロンボモジュリンアルファの内臓痛治療への応用. 第 44 回日本潰瘍学会 シンポジウム「医薬品の消化器病への適用拡大における理論構築 ～ これぞ消化器薬理の力」(旭川)2016.9.(シンポジウムスピーカー)
- 978) 平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:シクロホスファミド誘起間質性膀胱炎様マウスにおける膀胱痛に関与する HMGB1/RAGE 系と

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- H₂S/Cav3.2 系の相互関係. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 979) 平本志於里、山口薫、坪田真帆、田中潤一、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: シクロホスファミド誘起膀胱痛にはマクロファージ由来 HMGB1 による RAGE を介する H₂S 産生酵素の発現誘導が関与する. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 980) 坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、川畑 篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛への Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの関与. 生体機能と創薬シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 981) 坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、堂本莉紗、上谷夏生、西田武司、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛の発現メカニズムの解析: HMGB1 とその標的分子の関与について. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 982) 坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、川畑 篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛への HMGB1 の関与: その由来と標的分子について. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2016(仙台)2016.8.
- 983) Kawabata A., Irie Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M.: High mobility group box 1 mediates pancreatic pain in mice. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 984) Sekiguchi F., Sugimoto R., Imanishi M., Ueda N., Kawabata A.: Macrophage-derived high mobility group box 1 enhances neuritogenesis via NMDA receptors in neuron-like NG108-15 cells. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 985) Domoto R., Yamasoba D., Yamanishi H., Sekiguchi F., Tsubota M., Nishibori M., Kawabata A.: Involvement of macrophage-derived high mobility group box 1 in paclitaxel-induced neuropathic pain in mice. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 986) Hiramoto S., Tsubota M., Yamguchi K., Tanaka J., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: Macrophage-derived high mobility group box 1 mediates H₂S-dependent bladder pain in mice with cyclophosphamide-induced cystitis. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 987) Maeda M., Irie Y., Tsubota M., Kubo L., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: High mobility group box 1 mediates substance P-induced bladder pain in mice, a model for bladder pain syndrome. Physiology 2016 (Dublin, Ireland) 2016.7.
- 988) 富田詩織、式見志勇、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: ラットあるいはマウスの神経障害性疼痛に関与する一次知覚神経における Cav3.2 T 型 Ca²⁺チャネルの発現誘導メカニズム. 第 38 回日本疼痛学会(札幌)2016.6.
- 989) 堂本莉紗、山嵜大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史: マクロファージ由来 HMGB1 は lipopolysaccharide 誘起炎症性疼痛と paclitaxel 誘起神経障害性疼痛に関与する. 第 38 回日本疼痛学会(札幌)2016.6.
- 990) 坪田真帆、福田亮太郎、宮崎貴也、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛にはマクロファージ以外の細胞に由来する HMGB1 が関与する. 第 129 回日本薬理学会近畿部会(広島)2016.6.
- 991) 天羽一騎、大野董、関口富美子、川畑 篤史: マウス後根神経節細胞において硫化水素ドナーおよび膜透過性 cyclic AMP アナログは T 型 Ca²⁺チャネルを介して神経突起伸長を誘起する: 細胞サイズによる効果の違いについて. 第 129 回日本薬理学会近畿部会(広島)2016.6.
- 992) 松井和樹、中野真希、石井優子、寺田侑加、坪田真帆、川畑 篤史: 結腸痛の発症における侵害受容ニューロン発現分子 TRPV1、PAR2 および Cav3.2 の役割について. 第 129 回日本

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

薬理学会近畿部会(広島)2016.6.

993) Koyama A., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.:CCR4 is involved in Th17 expansion and induction of Th17-mediated CD8+ effector T cells in mice bearing intradermal B16 melanoma. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.

994) Yamamoto S., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.:A CC3 variant of lymphotactin/XCL1 (XCL1-CC3) functions as a potent adjuvant to accumulate CD103+XCR1+ cross-presenting dendritic cells and induce antigen-specific CD8+ T cell responses. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.

995) Komori Y., Matsuo K., Yoshie O., Nakayama T.:Development of a novel mouse model for atopic dermatitis and roles of CCR4 in pathogenesis of atopic dermatitis. 第45回日本免疫学会学術集会(那覇)2016.12.

996) 小山 篤、松尾一彦、義江 修、中山隆志:メラノーマに対する抗腫瘍免疫応答におけるケモカイン受容体CCR4の役割—CCR4はTh17細胞を介した腫瘍免疫の活性化に寄与する—. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

997) 小森悠平、松尾一彦、権 英淑、神山文男、義江 修、中山隆志:新規マウスモデルを用いたアトピー性皮膚炎発症におけるケモカイン受容体CCR4の寄与. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

998) 畑中翔太、松尾一彦、小森悠平、木村勇太、権 英淑、神山文男、中山隆志:親水性ゲルパッチを用いた新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

999) 山田祐毅、松尾一彦、小山 篤、義江 修、中山隆志:CCR4阻害剤によるTreg抑制は筋肉内投与ワクチンの効果を向上させる. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

1000) 長沼孝典、松尾一彦、義江 修、中山隆志:ケモカイン受容体CCR4およびCCR6遺伝子欠損による乾癬発症への影響. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

1001) 北畑孝祐、松尾一彦、義江 修、中山隆志:高活性型lymphotactin/XCL1を用いたがんワクチンアジュバントの開発. 第66回日本薬学会近畿支部総会・大会(高槻)2016.10.

1002) Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.:Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. 14th International Society for Stem Cell Research 2016(San Francisco, CA USA) 2016.6.

1003) 森山博由、森山麻里子、早川堯夫:ヒト脂肪由来間葉系幹細胞の糖代謝制御機構. 同志社大学リトリート(滋賀)2016.8.

1004) 野沢一樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫:低酸素状態下でのヒト脂肪由来間葉系幹細胞における Notch シグナルの役割 第66回日本薬学会近畿支部会. (大阪)2016.10.

1005) Morita T., Inoue S., Marutani Y., Moriyama H., Moriyama M., Ninomiya K., Morikawa T., Hayakawa T.:Inhibitory Effects of Oligostilbenoids from Bark of *Shorea roxburghii* on Malignant Melanoma Cell Growth: Implications for a Candidate of Novel Topical Anticancer Agents. 12t ICCP. (Osaka,Japan) 2016.10.

1006) Yamamoto T., Shiburo R., Mitamura K., Taga A.: Identificaiton of antitumor component in maple syrup to develop novel anti-cancer drugs for colorectal cancer. 第75回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.

1007) Kubota C., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: The role of maple syrup on cell proliferation of colorectal cancer cells. 第75回日本癌学会学術総会(横浜)2016.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1008) Yamamoto T., Shiburo R., Mitamura K., Taga A.: Protein component in maple syrup has a potential to develop novel anti-cancer drugs for colorectal cancer. 米国消化器病週間 (DDW2016) (San Diego, USA) 2016.5.
- 1009) Takakura H., Yamamoto T., Mitamura K., Kudo M., Naito Z., Taga A.: The role of cyclophilin A as a novel therapeutic target of colorectal cancer based on proteome analysis using formalin-fixed and paraffin embedded colorectal cancer tissue. 米国消化器病週間 (DDW2016) (San Diego, USA) 2016.5.
- 1010) 小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志: 新規発がん遺伝子SOX4による成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫 (ATLL) の新たな発がん機構の解明. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1011) 小山 篤、松尾一彦、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: 抗原特異的免疫応答の誘導におけるケモカイン受容体CCR4の役割ならびにCCR4阻害剤のアジュバント活性評価. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1012) 藤里 駿、松尾一彦、小森悠平、権 英淑、神山文男、中山隆志: 新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製ならびにケモカイン受容体CCR4の寄与. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1013) 伊藤茉奈、松尾一彦、小森悠平、中山隆志: イミキモド誘発性乾癬の発症におけるケモカイン受容体CCR4の寄与ならびにCCR4阻害剤の治療効果. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1014) 川端史花、松尾一彦、長谷川裕太、西馬 伶、中山隆志: ケモカインLymphotactin/XCL1を用いたCTL誘導アジュバントの開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1015) 山本真也、松尾一彦、藤田 貢、義江 修、中山隆志: 腸管免疫におけるケモカインMEC/CCL28の役割. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1016) 森山博由、早川堯夫: ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関する研究, AMED 再生医療交換シンポジウム(東京)2016.1.
- 1017) 山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳: メープルシロップ投与による大腸癌細胞増殖抑制機構の検討. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1018) 三田村 邦子、森 莉子、上田麻美子、亀井美希、山本 哲志、多賀 淳: LC/ESI-MS による乾燥ろ紙尿中糖質コルチコイド代謝物スクリーニング法の開発. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1019) 高倉英樹、山本 哲志、三田村 邦子、工藤光洋、内藤善哉、多賀 淳: ショットガンプロテオミクス解析に基づく、大腸癌における新規治療標的CyclophilinAの役割. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1020) 久保田千晶、山本 哲志、上村健太郎、澤岷有喜、三田村 邦子、多賀 淳: スッポンからのコラーゲン抽出法の最適化. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.
- 1021) Kawabata A.: T-type calcium channels and neuropathic/visceral pain. Symposium entitled “Ion channels and pain: current research trends” organized by Kawabata, Tanabe and Zamponi. 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.(シンポジウムスピーカー)
- 1022) 尾崎友香、坪田真帆、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎・膀胱痛マウスにおける硫化水素/T型Ca²⁺チャネル系の役割-下部尿路機能障害に対する新たな治療標的分子としての可能性. 院生シンポジウム「次世代若手研究者の挑戦! ~難治性疾患に対する新たな創薬ストレテジー~」(オーガナイザー: 福重・尾崎) 日本薬学会第136年会(横浜)2016.3.(シンポジウムスピーカー)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1023) 入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:急性膝炎に伴う膝臓痛へのマクロファージ由来 HMGB 1 の関与:RAGE および CXCR4 の標的分子としての役割. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1024) 富田詩織、式見仕勇、関口富美子、坪田真帆、白井亮洋、西堀正洋、川畑 篤史:亜鉛欠乏により誘起されるマウス痛覚過敏:Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネルと high mobility group box 1 の関与. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1025) 大野 堇、山岡 桜、関口富美子、市井真貴、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑 篤史:新規 T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬 sophoraflavanone G と 6-prenylnaringenin の薬理作用解析:電気生理学的性質の違いとマウスにおける痛覚過敏抑制作用. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1026) 前田真理子、入江悠平、坪田真帆、久保里紗、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:Substance P 誘起間質性膀胱炎/膀胱痛症候群モデルマウスにおけるマクロファージ由来 HMGB1 の役割. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1027) 関口富美子、杉本 陵、今西未己、川畑 篤史:神経およびマクロファージ由来 HMGB1 は NMDA 受容体を介して神経前駆様 NG108-15 細胞の神経突起伸張を促進する. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1028) 坪田真帆、山唄大智、堂本莉紗、関口富美子、西堀正洋、川畑 篤史:末梢組織中においてレドックス状態の異なる HMGB1 により誘起される痛覚過敏メカニズムの相違. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1029) 松岡順紀、尾崎友香、坪田真帆、川畑 篤史:亜鉛キレーターは T 型 Ca^{2+} チャネルの機能増強により cyclophosphamide 誘起膀胱炎に伴う膀胱痛を増強する. 第 89 回日本薬理学会年会(横浜)2016.3.
- 1030) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、山添讓、阪口勝彦、西田升三:Survivin は多発性骨髄腫の vincristine 耐性獲得に寄与する. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 1031) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、眞下恵次、山添讓、阪口勝彦、西田升三:NIK 阻害剤による多発性骨髄腫の細胞死誘導効果及びその作用機序の解明. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 1032) 椿正寛、武田朋也、木野稔己、藤原大一朗、山添讓、阪口勝彦、西田升三:PKC 及び MEK 阻害剤によるオキサリプラチン誘発末梢神経障害の抑制及び抗腫瘍効果の増強. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 1033) 西田升三:抗がん剤耐性克服を目指した分子標的の探索と治療法の開発. 日本薬学会第 136 回年会(横浜)2016.3.
- 1034) Iwaki M., Bando S., Kawase A., Komura H., Niwa T.:Contribution of human hepatic cytochrome P450 isoforms to the stereoselective oxidation of carvedilol. 日本薬物動態学会第 30 回年会(東京)2015.11.
- 1035) Kawase A., Hata S., Takagi M., Iwaki M.:Inhibitory effects of pravastatin on the expression of intestinal Niemann-pick C1 like 1. 日本薬物動態学会 第 30 回年会(東京)2015.11.
- 1036) 小野祐輝、窪内康二、木戸友絵、澤田奈々、二村信之、山下真理奈、川瀬篤史、岩城正宏、向井秀幸、喜多綾子、佐藤亮介、杉浦麗子:Protein Kinase N ファミリー遺伝子改変マウスを用いた薬物代謝酵素の解析. 第 65 回 日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1037) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、西田升三:Bisphosphonates 及び statins による多発性骨髄腫での MIP-1 α 分泌抑制効果. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1038) 椿正寛、武田朋也、木野稔己、西田升三:RANK/RANKL によるシグナル伝達因子活性化を介した抗がん剤耐性獲得機序.第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1039) 磯山翔太、椿正寛、武田朋也、西田升三:新規 NIK 阻害剤による細胞死誘導効果とその機序の解明. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1040) 野口正樹、椿正寛、武田朋也、西田升三:大腸癌における MEK 阻害剤抵抗性因子の解析. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1041) 安原翔大、椿正寛、武田朋也、西田升三:PKC 阻害剤はオキサリプラチン誘発末梢神経障害を抑制し抗腫瘍効果を増強させる. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1042) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、西田升三:Vincristine 耐性多発性骨髄腫での Survivin 発現増加が耐性獲得に中心的役割を果たす. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪)2015.10.
- 1043) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、小川直希、石坂敏彦、西田升三:Dimethyl fumarate による NF-kappaB 阻害を介したアポトーシス誘導効果. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1044) 西田升三、椿正寛、武田朋也、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦:Survivin の発現増加が多発性骨髄腫における vincristine 耐性に中心的な役割を果たす. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1045) 武田朋也、椿正寛、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三: Bisphosphonates 及び statins による骨髄腫での Ras 経路阻害を介した MIP-1alpha 発現抑制効果. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1046) 椿正寛、武田朋也、中橋拓也、小川直希、石坂敏彦、西田升三:PKC 阻害剤はオキサリプラチン誘導末梢神経障害を抑制するとともに抗腫瘍効果を増強させる. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1047) 木野稔己、椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、中橋拓也、小川直希、山添譲、石坂敏彦、西田升三:Dimethyl fumarate による NF-kappaB 阻害を介したアポトーシス誘導効果. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 1048) 中橋拓也、椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、木野稔己、眞下恵次、藤原大一郎、山添譲、阪口勝彦、西田升三: Vincristine 耐性多発性骨髄腫においてシグナル伝達経路を介した Survivin 発現増加が耐性獲得の中心的役割を果たす. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 1049) 椿正寛、武田朋也、藤田亜梨沙、木野稔己、中橋拓也、小川直希、山添譲、石坂敏彦、西田升三:PKC/MEK 阻害剤により oxaliplatin 誘導末梢神経障害を抑制できる. 第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 1050) 武田朋也、椿正寛、藤田亜梨沙、木野稔己、中橋拓也、眞下恵次、藤原大一郎、山添譲、阪口勝彦、西田升三: Bisphosphonates 及び statins による骨髄腫での MIP-1 α 分泌抑制効果-ドラッグリポジショニングによる骨破壊因子抑制剤の開発-.第 19 回日本がん分子標的治療学会(松山)2015.6.
- 1051) 富田詩織、式見志勇、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史:神経障害性疼痛モデル動物の後根神経節における Cav3.2 T 型カルシウムチャネルの発現誘導メカニズムの解析. 痛み研究会 2015(岡崎)2015.12.
- 1052) 入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:マクロファージ由来

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- high mobility group box 1はセルレイン誘起急性膀胱炎およびサブスタンスP誘起間質性膀胱炎/膀胱痛症候群モデルにおける内臓痛に関与する. 痛み研究会 2015(岡崎)2015.12.
- 1053) 堂本莉紗、山岨大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史. マクロファージ由来 high mobility group box 1はマウスにおける lipopolysaccharide 誘起炎症性痛覚過敏及び抗癌剤 paclitaxel 誘起神経障害性疼痛に関与する. 第128回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 1054) 入江悠平、前田真理子、久保理沙、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: High mobility group box 1は substance P 誘起膀胱痛症候群モデルマウスにおける関連痛覚過敏の発現・維持に関与する. 第128回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 1055) 尾崎友香、松岡順紀、坪田真帆、富田詩織、関口富美子、南武志、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける膀胱痛は亜鉛欠乏により増強される: T型 Ca^{2+} チャンネルの関与について. 第128回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 1056) 大野董、山岡桜、関口富美子、市井真貴、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川浩之、吉田繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑 篤史: Sophoraflavanone G とその類縁体 6-prenylnaringenin の T型 Ca^{2+} チャンネル阻害作用の電気生理学的特徴と各種疼痛モデルでの有効性. 第128回日本薬理学会近畿部会(豊中)2015.11.
- 1057) Kawabata A., Tsubota M., Yamaguchi K., Hiramoto S., Sekiguchi F., Tanaka J., Ishikura H., Nishibori M.: Bladder pain accompanying cyclophosphamide-induced mouse cystitis involves HMGB1 release upstream of the cystathionine-gamma-lyase/ H_2S /Cav3.2 pathway in the bladder tissue. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1058) Sekiguchi F., Amo I., Ono S., Kawabata A.: Hydrogen sulfide and intracellular cyclic AMP enhance T-type calcium channel-dependent neurite outgrowth in distinct subpopulations of isolated and dissociated mouse dorsal root ganglion neurons. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1059) Irie Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M., Kawabata A.: Macrophage-derived high mobility group box 1 participates in the development and maintenance of pancreatic pain through the activation of RAGE and CXCR4 in mice with cerulein-induced acute pancreatitis. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1060) Ozaki T., Matsuo Ka J., Tsubota M., Tomita S., Sekiguchi F., Minami T., Kawabata A.: Zinc deficiency aggravates bladder pain accompanying cyclophosphamide-induced cystitis through the enhanced activity of Cav3.2 T-type Ca^{2+} channels in mice. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1061) Miyamoto T., Funakami Y., Kawasita E., Nomura A., Sugimoto N., Ichida S., Kawabata A.: Chronic stress enhances the hyperthermia in response to acute restraint stress. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1062) Ono S., Ichii M., Yamaoka S., Sekiguchi F., Fujita T., Deguchi T., Tsubota M., Nishikawa H., Yoshida S., Murata K., Matsuda H., Toyooka N., Ohkubo T., Kawabata A.: The electrophysiological property and antihyperalgesic activity of sophoraflavanone G and 6-prenylnaringenin, novel T-type calcium channel blockers. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1063) Tomita S., Sekiguchi F., Tsubota M., Kawabata A.: Molecular mechanisms for the upregulation of Cav3.2 T-type calcium channels in the dorsal root ganglion of rats with spinal nerve

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- injury-induced neuropathy: involvement of Egr-1 and USP5. Neuroscience 2015 (Chicago, USA) 2015.10.
- 1064) 上谷夏生、西田武司、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Vincristine 誘起神経障害性疼痛の発現および維持における核内タンパク HMGB1 の役割. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 1065) 山岡桜、大野堇、市井真貴、関口富美子、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、吉田繁、村田和也、松田秀秋、大久保つや子、川畑 篤史: 参由来新規 T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬 sophoraflavanone G およびその類縁体の薬理作用解析. 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.
- 1066) 原田成信、伊藤由香里、高嶋一平、王子田彰夫、川畑 篤史. 硫化水素によって惹起された外有毛細胞の TRPV4 受容体を介したストア作動性カルシウム流入. 第 25 回日本耳科学会総会(長崎)2015.10.
- 1067) Kawabata A., Tsubota M., Uebo K., Miki K., Sekiguchi F., Fukuda R., Kondo Y., Takahashi K., Masutomi H., Ishigami A.: Vitamin C deficiency aggravates hydrogen sulfide-induced pain/hyperalgesia and chemotherapy-induced neuropathy in mice: possible involvement of T-type calcium channels. 9th Congress of the European Pain Federation EFIC (Vienna, Austria) 2015.9.
- 1068) 坪田真帆、上坊健太、三木好輝、福田亮太郎、関口富美子、近藤嘉高、高橋経太、増富裕文、石神昭人、川畑 篤史: Ascorbic acid 欠乏は、Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネルを介する痛みを増強する. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 1069) 富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: 第 5 腰神経切断誘起神経障害性疼痛ラットの後根神経節における Cav3.2 の発現量増加機序の解析: 転写促進因子 Egr-1 による発現誘導と脱ユビキチン化酵素 USP5 によるプロテアソーム分解抑制. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 1070) 大野 堇、天羽一騎、関口富美子、川畑 篤史: マウス脊髄後根神経節細胞における硫化水素ドナー Na_2S の T 型カルシウムチャネルを介した神経突起伸長促進効果: 細胞の大きさによる効果の違いについて. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 1071) 堂本莉紗、山唄大智、山西広樹、関口富美子、坪田真帆、西堀正洋、川畑 篤史: マウスにおける lipopolysaccharide 誘起炎症性痛覚過敏および抗癌剤 paclitaxel 誘起神経障害性疼痛へのマクロファージ由来 high mobility group box 1 の関与. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 1072) 式見仕勇、富田詩織、関口富美子、坪田真帆、岸岡史郎、川畑 篤史: マウスの坐骨神経部分結紮誘起神経障害性疼痛における Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネルの役割. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015(東京)2015.8.
- 1073) 川畑 篤史: 内臓痛の新しい治療標的分子: T 型 Ca^{2+} チャネルと HMGB1. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋)2015.8. (シンポジウム・スピーカー)
- 1074) 大野 堇、市井真貴、山岡 桜、関口富美子、藤田友代、出口貴浩、坪田真帆、西川裕之、吉田 繁、村田和也、松田秀秋、豊岡尚樹、大久保つや子、川畑 篤史: 新規 T 型カルシウムチャネル阻害薬 sophoraflavanone G および 6-prenylnaringenin の電気生理学的性質と痛覚過敏抑制効果. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋)2015.8.
- 1075) 富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: ラット第 5 腰神経切断により誘起される神経障害性疼痛および脊髄後根神経節における Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャネル発現増加への転写調節

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

因子 Egr-1 と脱ユビキチン化酵素 USP5 の関与. 生体機能と創薬シンポジウム 2015(船橋) 2015.8.

1076) 川畑 篤史: PAR2 と痛み. 日本ペインクリニック学会第 49 回大会(大阪)2015.7.(招待:招請講演)

1077) 坪田真帆、石井優子、中野真希、梶谷梨絵、西堀正洋、川畑 篤史: Butyrate 誘起過敏性腸症候群モデルマウスにおける結腸痛覚過敏への T 型 Ca^{2+} チャンネルおよび HMGB1 の関与. 第 127 回日本薬理学会近畿部会(岐阜)2015.6.

1078) 入江悠平、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Cerulein 誘起マウス急性膵炎モデルにおける膵臓痛の発現・維持にはマクロファージ由来 high mobility group box 1 による RAGE および CXCR4 の活性化が関与する. 第 127 回日本薬理学会近畿部会(岐阜) 2015.6.

1079) Matsuo K., Fujita M., Nakayama T., Yoshie O.: The impact of CCL28-deficiency in mucosal immunity. 第44回日本免疫学会学術集会(札幌)2015.10.

1080) 伊藤茉奈、松尾一彦、藤田 貢、義江 修、中山隆志: DSS誘発性大腸炎におけるケモカイン MEC/CCL28の役割. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1081) 今川ひかる、松尾一彦、藤里 駿、小森悠平、中山隆志: イミキモド誘発性乾癬におけるケモカイン受容体CCR4の役割. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1082) 小山 篤、松尾一彦、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: 抗原特異的免疫応答におけるケモカイン受容体CCR4の役割. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1083) 藤里 駿、松尾一彦、小森悠平、権 英淑、神山文男、中山隆志: 新規迅速アトピー性皮膚炎モデルマウスの作製およびケモカイン受容体CCR4の寄与. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1084) 小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志: Fra-2-SOX4経路を介した成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫 (ATLL) の発がん機構. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1085) 長谷川悠太、松尾一彦、中山隆志: 高活性型Lymphotactin/XCL1の作製ならびにCTL誘導能. 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(富田林)2015.10.

1086) 森山博由、森山麻里子、小澤俊之、大倉華雪、松山晃文: 低酸素状態を経た脂肪由来間葉系幹細胞機能亢進の不可逆性 ～Notch シグナルと解糖系調節機構～. 第 14 回日本再生医療学会(横浜)2015. 3.

1087) Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. 13th International Society for Stem Cell Research 2015, Stockholm, Sweden, Stockholm) 2015.6.

1088) Ikeda K., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T. : DIFFERENTIATION OF DOPAMINERGIC NEURAL CELLS FROM HUMAN ADIPOSE-DERIVED MULTILINEAGE PROGENITOR CELLS. 13th International Society for Stem Cell Research 2015, Stockholm, Sweden, Stockholm)2015.6.

1089) 百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: Notch シグナルは解糖系の亢進を介して間葉系幹細胞を維持する. 第6回生命機能研究会(大阪)2015.9.優秀発表賞受賞

1090) 百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: 低酸素状態下のヒト間葉系幹細胞維持機構における Notch シグナルの役割. 第65回日本薬学会近畿支部会(大阪)2015.10.

1091) 大石実央、森山博由、森山麻里子、早川堯夫: Notchシグナルによる NF- κ B シグナル活性化

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- はヒト間葉系幹細胞の解糖系を亢進させる. 第65回日本薬学会近畿支部会(大阪)2015.10.
- 1092) Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T.: ROLE OF NOTCH SIGNALING IN GLYCOLYSIS REGULATION OF ADIPOSE-DERIVED MESCENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS. 13th Annual IFATS Meeting. (Neworleans, USA)2015.11.
- 1093) 百合祐季、森山博由、森山麻里子、早川堯夫:Role of Notch signaling in the maintenance of human mesenchymal stem cells under hypoxic conditions. 近畿大学戦略的基盤形成支援事業後援シンポジウム(大阪)2015.11.
- 1094) 百合祐樹、森山博由、森山麻里子、早川堯夫:Role of Notch signaling in the maintenance of human mesenchymal stem cells under hypoxic conditions. 第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会. (神戸)2015.12.
- 1095) Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Mitamura K., Taga A., Naito Z.: Proteomics using formalin-fixed paraffin-embedded colorectal tissue for identification of biomarker. 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1096) Kubota C., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: The effect of maple syrup on cell proliferation and invasion in colorectal cancer cells. 第74回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1097) Mitamura K., Kurabuchi S., Ueda M., Yamamoto T., Taga A., Ikegawa S.: Comparison of the sensitivity and selectivity for the CID and PQD mode in the analysis of conjugated steroids. 63rd ASMS conference (St. Louis, USA) 2015.5.
- 1098) 寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原健、高田充隆、川畑 篤史:急性膵炎・膵臓痛動物モデルを用いた病態解析:T型 Ca^{2+} チャンネルおよび TRP チャンネルの役割.「大学院生シンポジウム」日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.(シンポジウムスピーカー)
- 1099) 天羽一騎、大野 董、関口富美子、川畑 篤史:マウス後根神経節細胞において硫化水素ドナー Na_2S は T 型 Ca^{2+} チャンネルを介して神経突起伸長を促進する:細胞の大きさによる効果の違いについて. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1100) 福田亮太郎、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史:HMGB1は oxaliplatin 誘起神経障害性疼痛の発現および維持に関与する. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1101) 日本薬学会第135年会. 浅野絵莉茄、深海和樹、関口富美子、泰川未来、笠松隆二、吉田繁、川畑 篤史:高グルコース条件下で培養した神経内分泌様分化ヒト前立腺癌 LNCaP 細胞における Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャンネルの糖鎖修飾による機能増強と分泌機能亢進. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1102) 村上(中山)雅裕、昼馬佐紀、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村 健、森山雅弘、川畑 篤史:シクロホスファミド誘起膀胱炎マウスにおけるポラプレジンクの予防・治療効果. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1103) 坪田真帆、川畑 篤史:HMGB1 を標的とする内臓痛治療. 第88回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.(シンポジウムスピーカー)
- 1104) 深海和樹、浅野絵莉茄、関口富美子、泰川未来、笠松隆二、吉田繁、川畑 篤史:神経内分泌様分化した前立腺癌 LNCaP 細胞において高グルコース条件下での Cav3.2 T 型カルシウムチャンネルの N-結合型グリコシル化により分泌機能が亢進する. 第88回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 1105) 山嵜大智、関由加里、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、八木秀樹、益子 高、西堀正洋、川畑 篤史:マクロファージ由来 HMGB1 は NF- κ B 系を介して炎症性痛覚過敏に寄与する. 第

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 1106) 富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: 神経障害性疼痛ラットの知覚神経における Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャンネル発現誘導には転写因子 Egr-1 および脱ユビキチン化酵素 USP5 が関与する. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 1107) 昼馬佐紀、村上(中山)雅裕、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村健、森山雅弘、川畑 篤史: 亜鉛含有製剤ポラプレジンの cyclophosphamide 誘起膀胱炎・膀胱痛に対する予防および治療効果. 第 88 回日本薬理学会年会(名古屋)2015.3.
- 1108) 山本 哲志、上村健太朗、三田村 邦子、多賀 淳: メープルシロップを用いた大腸癌抗腫瘍効果の検討. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 1109) 三田村 邦子、上田麻美子、山本 哲志、多賀 淳、池川繁男: LC/ESI-MS/MS による尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドのプロファイル分析. 日本薬学会第 135 年会(神戸)2015.3.
- 1110) 小山 篤、松尾一彦、西脇 敬二、義江 修、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR4 アンタゴニストの特性解析ならびにアジュバント活性評価. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1111) 小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山隆志: 成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫(ATLL) 発がんにおける SOX4 の役割の解明. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1112) 松尾一彦、北田卓也、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山隆志: ケモカイン MEC/CCL28 の腸管組織における生物学的役割. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1113) 西馬 怜、松尾一彦、小泉桂一、義江 修、中山隆志: 和漢薬ライブラリーを利用したケモカイン受容体 CCR3 及び CCR4 のアンタゴニスト成分の探索. 日本薬学会第135年会(神戸)2015.3.
- 1114) Kawase A.: Academy of Pharmaceutical Science and Technology, Japan, Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation. Global Education Seminar West 2014-1st(京都)2014.12.
- 1115) Matsuyama K., Ohtori T., Kawase A., Iwaki M., Kimachi T., Ishi Y.: Development for hemiacetal ester of new quinolone avoiding chelation with metal containing drugs, together with avoiding pseudomembranous colitis. 19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting (San Francisco) 2014.10.
- 1116) Iwaki M., Kawase A., Sakata M., Nakasaka M., Kato Y.: Alterations in expression and function of ezrin/radixin/moesin proteins for transporters in adjuvant-induced arthritis rats. 19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting (San Francisco) 2014.10.
- 1117) Kawase A., Iwaki M.: Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases, Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in adjuvant-induced arthritis rats. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014(大阪)2014.6.
- 1118) Iwaki M., Bandoh S., Itoh M., Yamasaki K., Komura H.: Species difference in stereoselective oxidation of carvedilol enantiomers in rat and human. The 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne) 2014.4.
- 1119) Kawabata A., Kawaiishi Y., Nishida T., Yamanishi H., Kamitani N., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishikura H., Nishibori M.: High mobility group box 1 as a target for prevention and therapeutic treatment of chemotherapy-induced neuropathic pain. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 1120) Terada Y., Tsubota M., Sekiguchi F., Wada K., Kuwahara T., Takada M., Kawabata K.: Effect of tacrolimus on caerulein-induced pancreatitis-related pain in mice. Pharmacology 2014 (London,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- UK) 2014.12.
- 1121) Ozaki T., Tsubota M., Kawabata A. : The NK1 receptor antagonist prevents the cyclophosphamide-induced cystitis-related bladder pain and upregulation of cystathionine- γ -lyase, an H₂S-generating enzyme, in mice. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 1122) Ohno S., Kanaoka D., Ide H., Sekiguchi F., Yoshida S., Fukunaga K., Kawabata A.: The novel cognitive enhancer ST101 induces neurite outgrowth in NG108-15 cells and hyperalgesia in mice through T-type Ca²⁺ channels. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 1123) Irie Y., Kubo L., Tsubota M., Sekiguchi F., Ishimura H., Nishibori M., Kawabata A. Involvement of high mobility group box 1 in substance P-induced cystitis-related bladder pain in mice. Pharmacology 2014 (London, UK) 2014.12.
- 1124) 寺田侑加、松井和樹、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原 健、高田充隆、川畑 篤史: Calcineurin 阻害薬 tacrolimus は capsaicin 誘起結腸痛および cerulein 誘起急性膀胱炎関連痛を増強する. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 1125) 富田詩織、関口富美子、坪田真帆、川畑 篤史: 第 5 腰神経切断神経障害性疼痛ラットにおける Cav3.2 T 型 Ca²⁺チャネル発現増加機序の解析: 転写調節因子 Egr-1 と脱ユビキチン化酵素 USP5 の挙動について. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 1126) 山嵜大智、関由加里、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、八木秀樹、益子 高、西堀正洋、川畑 篤史: マクロファージ由来 HMGB1 の炎症性痛覚過敏への関与と分子作用メカニズムの解析. 第 126 回日本薬理学会近畿部会(和歌山)2014.10.
- 1127) Kawabata A.: Hydrogen sulfide: Importance of T-type calcium channels as the molecular target. International Symposium “Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology” (Kazan, Russia) 2014.9. (Invited lecture)
- 1128) Ozaki T., Tsubota M., Kawabata A. : Mechanisms for upregulation of cystathionine-gamma-lyase, a hydrogen sulfide-generating enzyme, in mice with cyclophosphamide-induced cystitis: Involvement of substance P/NK1 pathway and NF-kappaB signals. International Symposium “Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology” (Kazan, Russia) 2014.9.
- 1129) 富田詩織、瓦侑馬、関口富美子、川石雄大、坪田真帆、吉田 繁、大久保つや子、川畑 篤史: 新規 T 型 Ca²⁺チャネル阻害薬 RQ-00311651 の電気生理学的性質および神経障害性疼痛に対する抑制効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1130) 杉本陵、上田菜生、関口富美子、川畑 篤史: Histone deacetylase 阻害薬は内因性 high mobility group box 1 遊離を介して神経前駆細胞株 NG108-15 細胞の神経突起伸長を誘起する. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1131) 松井和樹、寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、川畑 篤史: Capsaicin 誘起結腸痛に対する calcineurin 阻害薬 FK506 の増強効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1132) Sekiguchi F., Kawabata A. Exploration of novel T-type Ca²⁺ channel inhibitors for treatment of intractable pain. シンポジウム 5「Novel therapeutic strategy for treatment of pain」生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8. (シンポジウムスピーカー)
- 1133) 坪田真帆、川畑 篤史: ヒト可溶性トロンボモジュリンを用いた痛みの治療: HMGB1 吸着・分解促進作用の関与. シンポジウム 4「血液凝固・線溶系関連因子を標的とした創薬研究の新展

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 開]生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8. (シンポジウムスピーカー)
- 1134) 寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、和田恭一、栗原 健、高田充隆、川畑 篤史: Calcineurin 阻害薬 tacrolimus は TRPV1 を介して cerulein 誘起急性膀胱炎関連痛を増強する. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1135) 昼馬佐紀、中山雅裕、坪田真帆、関口富美子、松山賢治、木村健、森山雅弘、川畑 篤史. ポラプレジックは cyclophosphamide 誘起膀胱炎マウスにおける炎症症状および膀胱痛を抑制する. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1136) 中山雅裕、中村豪志、東 剛史、松山賢治、森山雅弘、木村 健、川畑 篤史. ポラプレジックを使用した含嗽液の安定性と放射線性口腔粘膜炎に対する臨床評価. 生体機能と創薬シンポジウム 2014(東大阪)2014.8.
- 1137) Kawabata A., Kawaishi Y., Nishida T., Yamanishi H., Kamitani N., Tsubota M., Ishikura H., Sekiguchi F., Nishibori M.: Prevention and reversal of chemotherapy-induced neuropathic pain by HMGB1 neutralization in rodents. 9th FENS Forum of European Neuroscience (Milan, Italy) 2014.7.
- 1138) Sekiguchi F., Fujita T., Deguchi T., Ichii M., Yamaoka S., Nishikawa H., Yoshida S., Murata K., Matsuda M., Ohkubo T., Kawabata A.: Sophoraflavanone G as a novel T-type Ca^{2+} channel inhibitor: electrophysiological evidence in Cav3.2-expressing HEK293 cells and anti-hyperalgesic activity in mice. 9th FENS Forum of European Neuroscience (Milan, Italy) 2014.7.
- 1139) 関口富美子、川畑 篤史: 新規 T 型 Ca^{2+} チャンネル阻害薬 sophoraflavanone G の薬理学的特徴と痛覚過敏抑制効果. 第 36 回日本疼痛学会(大阪)2014.6.
- 1140) 久保里紗、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: 可溶性トロンボモジュリンおよび抗 HMGB1 中和抗体は lipopolysaccharide あるいは substance P 膀胱内注入により誘起される膀胱痛を抑制する. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 1141) 山口薫、田中潤一、坪田真帆、関口富美子、関由加里、石倉宏恭、西堀正洋、川畑 篤史: Cyclophosphamide 誘起マウス膀胱炎モデルにおける膀胱痛発症メカニズムの解析: 核内蛋白 HMGB1 と内因性 H_2S の役割. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 1142) 上坊健太、三木好輝、坪田真帆、関口富美子、近藤嘉高、高橋経太、増富裕文、石神昭人、川畑 篤史: Cav3.2 T 型 Ca^{2+} チャンネルを阻害する ascorbic acid の欠乏は硫化水素による体性痛・内臓痛および paclitaxel 誘起神経障害性疼痛を増強する. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 1143) 小椋彩加、関本晃己、関口富美子、川畑 篤史: ヒト胃癌由来 AGS 細胞における内因性硫化水素の細胞増殖への関与とその下流シグナルの解析. 第 125 回日本薬理学会近畿部会(岡山)2014.6.
- 1144) Fukami K., Kawabata A.: Roles of hydrogen sulfide and T-type calcium channels in neuroendocrine-differentiated prostate cancer cells at androgen-independent stage. Anti-Aging International Mini-Symposium 2014. "Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases." (Higashi-Osaka) 2014.6.
- 1145) Kawabata A.: Roles of the hydrogen sulfide-Cav3.2 T-type calcium channel pathway in neuronal and neuroendocrine differentiation. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6. (Invited lecture).
- 1146) Sekiguchi F., Takeda Y., Kanaoka D., Yoshida S., Kawabata A.: Involvement of endogenous

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- hydrogen sulfide and T-type calcium channels in cyclic AMP-induced neuronal differentiation in NG108-15 cells. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6.
- 1147) Tsubota M., Uebo K., Miki K., Sekiguchi F., Kondo Y., Takahashi K., Masutomi H., Ishigami A., Kawabata A.: Ascorbic acid deficiency augments hyperalgesia induced by hydrogen sulfide in mice. Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (Kyoto, Japan) 2014.6.
- 1148) 北田卓也、松尾一彦、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山隆志: ケモカインMEC/CCL28はIgA抗体産生細胞の腸管組織への遊走を制御することでDSS誘発性大腸炎の劇症化抑制に寄与する. 生体機能と創薬シンポジウム2014(東大阪)2014.8.
- 1149) Moriyama H., Moriyama M., Ueda A., Nishibata Y., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T.: ROLE OF NOTCH SIGNALING IN THE MAINTENANCE OF HUMAN MESENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS. 12th ISSCR at Vancouver, (CANADA).2014.6.
- 1150) Ohmori S., Taniguchi Y., Moriyama M., Moriyama H., Hayakawa T.: DIFFERENTIATION OF DOPAMINERGIC NEURONAL CELLS FROM HUMAN ADIPOSE-DERIVED MULTILINEAGE PROGENITOR CELLS. 12th ISSCR at Vancouver(CANADA)2014.6.
- 1151) 石原慎、森山麻里子、阪口公一、石濱里穂、大倉華雪、松山晃文、早川堯夫、森山博由. 低酸素状態における Notch シグナルと解糖系の関係. 生体機能と創薬シンポジウム
- 1152) Michiyama T., Moriyama H., Moriyama M., Hayakawa T., Ninomiya K., Muraoka O., Chaipech S., Morikawa T. : Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of *Shorea roxburghii* on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014) (Nagoya) 2014.9.
- 1153) 石原慎、森山麻里子、阪口公一、上村充香、大石実央、大倉華雪、松山晃文、早川堯夫、森山博由: 低酸素状態におけるNotchシグナルと解糖系の相関性. 第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都)2014.10.
- 1154) 道山忠史、森山麻里子、二宮清文、Chaipech S., 村岡 修、森川敏生、早川堯夫、森山博由: 悪性黒色腫細胞に対する *Shorea roxburghii* 由来オリゴスチルベノイドの影響. 第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会. (京都)2014.10.
- 1155) Ishihara S., Moriyama M., Sakaguchi K., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T., Moriyama H.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. The 36th annual meeting of the molecular biology society of Japan. (Yokohama)2014.11.
- 1156) Ishihara S., Moriyama M., Sakaguchi K., Okura H., Matsuyama A., Hayakawa T., Moriyama H.: Role of Notch signaling in glycolysis regulation under hypoxic conditions. The 36th annual meeting of the molecular biology society of Japan. (Yokohama)2014.11.
- 1157) 三田村 邦子、藏渕 慧、上田麻美子、池川繁男、山本 哲志、多賀 淳: LC/ESI-LIT-MS/MS における PQD 及び CID 測定による尿中硫酸抱合型ステロイドの分析. 第 39 回日本医用マスペクトル学会年会(千葉)2014.10.
- 1158) 藏渕 慧、三田村 邦子、池川繁男、山本 哲志、多賀 淳: 同位体希釈 LC/ESI-MS/MS によるヒト尿中硫酸抱合型オキシステロールの高感度直接一斉定量法の開発. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.
- 1159) 上田麻美子、三田村 邦子、山本 哲志、多賀 淳: LC/ESI-MS/MS による尿中抱合型テトラヒ

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- ドロコルチコステロイドのプロファイル分析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.
- 1160) 新 幸子、三田村 邦子、山本 哲志、多賀 淳: HPLC 及び LC/MS によるヒト血清中テイコプラニンの定量の試み. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会(京都)2014.10.
- 1161) Yamamoto T., Kudo M., Peng WX., Takata H., Mitamura K., Taga A., Naito Z.: Proteomic analysis of formalin-fixed paraffin-embedded colorectal tissue for identification of therapeutic target. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1162) Uemura K., Yamamoto T., Mitamura K., Taga A.: Anti-cancer effect of maple syrup on colorectal cancer. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1163) Takata H., Kudo M., Yamamoto T., Wada R., Peng WX., Ishino K., Teduka K., Fujii T., Kawamoto Y., Uchida E., Naito Z.: Identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. 第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.

研究課題(C):臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズのPOC (296件)

- 1164) 本澤龍菜、松尾一彦、北畑孝祐、長沼孝典、有馬優香、岩間有咲、長久保大輔、義江修、中山隆志: Th17 依存的な乾癬モデルマウスの作製とケモカイン受容体 CCR4 の役割. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
- 1165) 有馬優香、松尾一彦、岩間有咲、長沼孝典、西脇啓二、義江 修、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR4 および CCR6 は乾癬発症において異なる役割を担う. 日本薬学会第 139 年会(千葉)2019.3
- 1166) 西尾和人, Homebrew NGS パネル検査の経験から, Novartis LC Medical Seminar, 東京都, 2019.03.17
- 1167) 西尾和人, ガンゲノム医療がもたらすもの, ガンゲノム医療講習会, 東京都, 2019.03.03
- 1168) 西尾和人, ガン遺伝子パネル検査時代における EGFR 遺伝子変異検査の位置づけ, GIOTRIF Meet the Expert in 北陸, 石川県金沢市, 2019.02.16
- 1169) Shinichi Sakamoto, Keisuke Ando, Nobushige Takeshita, Satoshi Yamamoto, Akira Komiya, Kazuto Nishio, Tomohiko Ichikawa, Yusuke Imamura; , Clinical significance of AR amplification from cf DNA among Japanese castration-resistant prostate cancer patients. , ASCO 2019 Genitourinary Cancers Symposium , San Francisco, 2019.02.14-16
- 1170) 西尾和人, Session1: Precision Medicine and Future Oncology, 第 34 回名古屋国際癌治療シンポジウム, 名古屋市, 2019.02.09
- 1171) 西尾和人, In house clinical sequencing for targeted therapy and immuno oncology, 第 34 回名古屋国際癌治療シンポジウム, 名古屋市, 2019.02.09
- 1172) 西尾和人, ガンゲノム医療のための人材育成, 平成 30 年度 ガンプロ教育合同フォーラム, 東京都, 2019.02.05
- 1173) 西尾和人, Oral Session-1(Genome Science), 【がんプロ】第 2 回国際がん研究シンポジウム, 大阪市, 2019.02.02
- 1174) 西尾和人, マルチコンパニオン時代の肺がんプレジジョンメディスン, 第 12 回日本海肺癌化学療法研究会, 石川県金沢市, 2019.01.26
- 1175) 西尾和人, リキッドバイオプシー技術のもたらす未来と展望「近大 ctDNA について」, 第 6 回 JMAC シンポジウム, 東京都, 2019.01.25
- 1176) 西尾和人, Liquid Biopsy のこれから, 第 3 回 Liquid Biopsy 研究会, 東京都, 2019.01.19
- 1177) 西尾和人, クリニカルシーケンスとリキッドバイオプシー, Basic Biology Seminar in Okayama, 岡山市, 2018.12.21
- 1178) 西尾和人, NGS を用いたガンゲノム医療の実装, 第 49 回神戸肺癌カンファレンス, 神戸市, 2018.12.14
- 1179) 西尾和人, ガンゲノム医療の現状と今後、免疫療法への応用, 日本バイオセラピー学会・日本がん免疫学会合同シンポジウム, 東京都, 2018.12.14

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

1180)	西尾和人,がんゲノム医療:基本として理解しておくこと,NCC がん専門相談員向け研修会,東京都,2018.12.13
1181)	西尾和人,がんゲノム医療の提供体制,日本遺伝子診療学会遺伝子診断・検査技術フォーラム,東京都,2018.12.06
1182)	西尾和人,がんゲノム医療① がん臨床シーケンス Beyond BRCA,第6回遺伝看護セミナー,京都市,2018.12.01
1183)	西尾和人,プレジジョンメディスンの最新動向と実装,第59回日本肺癌学会 学術集会 イブニングセミナー,東京都,2018.11.30
1184)	西尾和人,がん遺伝子パネル検査時代における EGFR 遺伝子変異検査の位置づけ
1185)	”Positioning of EGFR gene mutation test in the era of cancer genomic panel testing”,第59回日本肺癌学会 学術集会,東京都,2018.11.30 ”
1186)	西尾和人,Homebrew NGS パネル検査の経験から,第59回日本肺癌学会 学術集会,東京都,2018.11.29
1187)	西尾和人,キットバイオプシーの up to date,第59回日本肺癌学会 学術集会,東京都,2018.11.29
1188)	西尾和人,がんの遺伝子パネル検査の実装,第3回大分県腫瘍・血液内科懇話会,大分県,2018.11.21
1189)	西尾和人,次世代シーケンサーを用いたバイオマーカー研究の現状と将来展望,Immuno-Oncology web ライフセミナー,大阪市,2018.11.06
1190)	西尾和人,がんゲノム医療時代の WJOG 試験,第4回 WJOG 合同グループ会議,大阪市,2018.11.03
1191)	西尾和人,がんの臨床シーケンスの実装,Translational Reserch seminar,奈良県,2018.10.30
1192)	西尾和人,キットバイオプシーの臨床応用,第56回 日本癌治療学会学術集会,横浜市,2018.10.18
1193)	西尾和人,肺がん診療の現在と未来,日本臨床検査自動化学会 第50回大会 サテライトセミナー,神戸市,2018.10.11
1194)	西尾和人,がんゲノム医療時代の到来と課題 特別講演「Precision Medicine の現状と展望」,神戸大学医学部付属病院 地域がん診療連携拠点病院機能強化事業,神戸市,2018.10.07 ”
1195)	西尾和人,遺伝子パネル検査によるがん臨床シーケンスの実装,九州大学胸部疾患研究施設第66回開港記念講演会,福岡県,2018.10.06
1196)	西尾和人,がん遺伝子パネル検査の実施にあたり知っておくべきこと,近畿大学がんゲノム医療第2回がん薬物療法研修,大阪狭山市,2018.10.04
1197)	西尾和人,肺癌治療におけるバイオマーカーの利活用,Lung Cancer Symposium,東京都,2018.10.02
1198)	西尾和人,がん遺伝子解析研究からプレジジョンメディスン実装へ,日本皮膚科学会大阪地方会,大阪市,2018.09.29
1199)	西尾和人,がんの個別化医療の実際と展望,大阪府立大学 がん看護講演会,大阪市,2018.09.29
1200)	西尾和人,シンポジウム「個別化医療に向けた基礎と臨床の最前線」,第77回日本癌学会学術総会,大阪市,2018.09.28
1201)	西尾和人,Precision Medicine and its role in the treatment of oncology,BMS パートナリング&イノベーションセミナー,東京都,2018.09.25
1202)	Wataru Yamagami, Fumio Kataoka, Takuro Hirano, Kensuke Sakai, Takeshi Makabe, Tatsuyuki Chiyoda, Hiroyuki Nomura, Akira Hirasawa, Hiroshi Tsuda, Kazuto Nishio, Daisuke Aoki, The relationship between the copy number amplification of FGF3/FGF4 and the efficacy of sorafenib in in gynecologic cancer,17th biennial meeting of the international gynecologic cancer society,京都市,2018.09.14-16
1203)	西尾和人,がん臨床シーケンスの現場(監督),Applied Biosystems and Ion Torrent World Tour,東京都,2018.09.14
1204)	遺伝子パネル検査時代のコンパニオン診断 ~NGSは万能か?~,Lung Cancer Conference2018,東京都,2018.09.08 ”

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

1205)	西尾和人,肺癌におけるクリニカルシーケンス,Premium Meet The Expert,東京都,2018.09.01
1206)	西尾和人,肺癌領域におけるプレジジョンメディスンの実践と今後の展望,Lung Cancer Precision Medicine Conference 2018,東京都,2018.08.25
1207)	西尾和人,今後のゲノム医療の展望~普及のために何が必要か?~,第一回中外メディアカンファレンス,東京都,2018.08.02
1208)	西尾和人,がんの発生、転移、薬剤耐性,がん研有明病院 薬剤部,東京都,2018.07.28
1209)	西尾和人,非小細胞肺癌におけるゲノム医療の実装,第 16 回日本臨床腫瘍学会 学術集会,神戸市,2018.07.20
1210)	西尾和人,プレナリーセッション,第 16 回日本臨床腫瘍学会 学術集会,神戸市,2018.07.20
1211)	西尾和人,International Symposium Biomarker reserch for next generation of HCC therapy
1212)	次世代 FCC 治療におけるバイオマーカー研究,第 16 回日本臨床腫瘍学会 学術集会,神戸市,2018.07.19 "
1213)	西尾和人,日本癌学会・日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会合同シンポ° がんゲノム医療の実装に向けたがん遺伝子パネル検査の診療ガイドランスと人材育成,第 16 回日本臨床腫瘍学会 学術集会,神戸市,2018.07.19 "
1214)	西尾和人,臨床検査におけるがんクリニカルシーケンス~リキット°バイオプシーへの展開,第 25 回日本遺伝子診療学会大会,三重県,2018.07.13
1215)	西尾和人「エキスパートパネルの人材育成」,第 4 回クリニカルバイオバンク研究会シンポ°シウム,京都市,2018.07.08 "
1216)	西尾和人,Liquid biopsy for clinical sequencing,第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018),京都市,2018.07.04
1217)	Yosuke Kito, Takeshi Yamada, Toshihiko Matsumoto, Hisateru Yasui, Kohei Murata, Akitaka Makiyama, Hiroki Hara, Eishi Baba, Kazuto Nishio Kenichi Yoshimura, Shuichi Hironaka, Kei Muro, Kentaro Yamazaki; ,Randomized phase II study of FOLFIRI plus ramucirumab (Rmab) versus FOLFOXIRI plus Rmab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer (mCRC): WJOG9216G.,American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2018,Chicago,2018.07.01-05
1218)	Naoki Izawa, Hiroya Taniguchi, Yoshiyuki Yamamoto, Mototsugu Shimokawa, Kentaro Yamazaki, Shuichi Hironaka, Narikazu Boku, Ichinosuke Hyodo, Kazuto Nishio, Takako Eguchi Nakajima, Kei Muro;.,A phase II trial of TAS-102 in combination with cetuximab (Cet) for patients (pts) with RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC) refractory to EGFR antibodies (Abs): WJOG8916G/GTR.,American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2018,Chicago,2018.07.01-05
1219)	西尾和人,リキット°バイオプシーによるがん分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の効果予測,第 49 回日本脾臓学会大会,和歌山,2018.06.30
1220)	西尾和人,クリニカルシーケンスの実装に向けて,第 46 回箱根呼吸討論会,広島市,2018.06.29
1221)	西尾和人,がんゲノム医療における病理医の役割,第 107 回日本病理学会 総会,札幌市,2018.06.22
1222)	西尾和人,がんゲノム医療による個別化医療,近畿大学がんゲノム医療 がん薬物療法研修,大阪狭山市,2018.06.21
1223)	西尾和人,がんゲノム医療の実装に向けての現状と展望,名古屋市立大学 血液腫瘍内科学教室・呼吸器免疫アレルギー内科学教室 合同集談会,名古屋市,2018.06.02
1224)	西尾和人,次世代シーケンスパネル(腫瘍検体、リキット°バイオプシーを含む)の承認とがんゲノム中核拠点等の体制整備,カレントセラピー座談会,東京都,2018.05.30
1225)	西尾和人,シンポジウム:Precision medicine 最前線
1226)	西尾和人「がんクリニカルシーケンスの実装」,第 18 回日本抗加齢医学会総会,大阪市,2018.05.26
1227)	西尾和人,呼吸器内視鏡における新技術°内視鏡サンプルを用いたがんゲノム医療」,第 41 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会,東京都,2018.05.24
1228)	西尾和人,肺癌・消化器癌における遺伝子パネル検査を用いた precision medicine,第 26 回日本外科学会 第 26 回生涯教育セミナー,大阪市,2018.05.19

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

1229)	西尾和人,希少肺がんのクリニカルシーケンス,Premium Meet The Specialist,大阪市,2018.05.19
1230)	西尾和人,がん分子標的治療の基本講座 セッション 13「チロシンキナーゼ EGFR」,第 22 回日本がん分子標的治療学会 学術集会シンポジウム ,東京都,2018.05.17
1231)	西尾和人,がん分子標的治療の基本講座 セッション 14「血管新生」,第 22 回日本がん分子標的治療学会 学術集会シンポジウム ,東京都,2018.05.17
1232)	西尾和人,肺がんの分子標的薬剤治療と耐性機序,第 22 回日本がん分子標的治療学会 学術集会シンポジウム ,東京都,2018.05.17
1233)	西尾和人,PD-L1 陽性非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬,第 58 回日本呼吸器学会学術講演会 イブニングセミナー,大阪市,2018.04.27
1234)	杉本 公一, 吉村 一宏, 野澤 昌弘, 南 高文, 森 康範, 倉 由吏恵, 吉川 和宏, 坂井 和子, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村 天受,アントロゲンレセプターを標的とした次世代アンチセンスオリゴヌクレオチドと AKT 阻害薬併用療法の治療効果の検討,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1235)	森康範, デベラスコ・マルコ, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 畑中 祐二, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受,ヒ前立腺癌における STAT3 について,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1236)	倉由吏恵, 杉本 公一, 清水 信貴, 森 康範, 南 高文, 野澤 昌弘, 能勢 和宏, 吉村 一宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村 天受,前立腺特異的 PTEN ノックアウトマウスモデルを用いた AKT および Pim 阻害薬の併用による抗腫瘍効果の検討,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1237)	清水 信貴, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 森 康範, 南 高文, 野澤 昌弘, 能勢 和宏, 吉村 一宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村 天受,遺伝子改変前立腺癌マウスモデルにおける PD-L1 免疫チェックポイント阻害薬について,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1238)	デベラスコ・マルコ, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 清水 信貴, 森 康範, 南 高文, 野澤 昌弘, 能勢 和宏, 吉村 一宏, 西尾和人, 植村 天受,PTEN ノックアウト前立腺癌マウスモデルにおける腫瘍免疫の包括的分析,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1239)	植村 天受, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 清水 信貴, 森 康範, 南 高文, 野澤 昌弘, 能勢 和宏, 吉村 一宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ,遺伝子改変前立腺癌マウスモデルを用いた新規化合物の包括的前臨床評価について,第 106 回日本泌尿器科学会総会,,2018.04
1240)	西尾和人,がん分子標的治療のバイオマーカー,肝癌診療 Meet The Expert,大阪市,2018.03.30
1241)	西尾和人,Liquid biopsy for clinical sequencing,平成 30 年度 国際がん研究シンポジウム,大阪市,2018.03.10
1242)	西尾和人,NGS 解析による Precision medicine と今後の医療体系の変化について,Conference of NGS technology in Hanshin,大阪市,2018.02.03
1243)	西尾和人,クリニカルシーケンスの実際,平成 29 年度「第 2 回インテンシブ・コース」「がんゲノム医療スキルアップセミナー」合同開催 ,大阪市,2018.01.27
1244)	西尾和人,Liquid Biopsy の展望,第 2 回 Liquid Biopsy 研究会,東京都,2018.01.20
1245)	西尾和人,リキッドバイオプシー,第 21 回泌尿器腫瘍フォーラム学術集会,堺市,2017.12.16
1246)	西尾 和人 ,Precision Medicine: Molecular Diagnostics, Predictive Biomarkers, and Drug Resistance,NTUH National Convention Center,台湾,2017.12.09
1247)	西尾 和人 ,Precision Medicine: Molecular Diagnostics, Predictive Biomarkers,and Drug Resistance, Kaohsiung Hotel DUA,台湾,2017.12.08
1248)	西尾 和人 ,Precision Medicine: Molecular Diagnostics, Predictive Biomarkers,and Drug Resistance,NCKUH(National Cheng Kung University Hospital),台湾,2017.12.07
1249)	伊東 里紗, 鈴木 俊宏, 山岡 利光, 大森 亨, 西尾和人, 小笠原 裕樹,3 次元培養法を用いた抗がん剤に対する薬剤耐性の評価,生命科学系学会合同年次大会,,2017.12
1250)	西尾和人,教育シンポジウム「がんゲノム医療の実用化に向けて何が必要か」,第 2 回 日本肉腫学会・日本臨床肉腫学会 合同年次総会 ,東京都,2017.11.30
1251)	西尾和人,生物セッションサテライト「核酸医薬創出に向けた異分野融合国際ワークショップ—癌治療と

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

	核酸医薬—,日本核酸医薬学会,神戸市,2017.11.18
1252)	西尾和人,セッション「最適な薬を提供するために~コンパニオン診断薬の利用と開発の現状」,第 14 回 DIA 日本年会,東京都,2017.11.14
1253)	西尾和人,バイオマーカー研究が拓く、免疫チェックポイント阻害剤の未来,第 63 回日本病理学会秋期特別総会,東京都,2017.11.02
1254)	西尾和人,FGFR-Related Novel Molecular Targets,IASLC(The International Association for the Study of Lung Cancer)WCLC 2017,横浜市,2017.10.18
1255)	西尾和人,本邦における肺癌個別化医療の現状と問題点,Conference on Lung Cancer,東京都,2017.10.15
1256)	西尾和人,次世代シーケンサーを用いた遺伝子スクリーニングネットワーク(LC-SCRUM-Japan)の確立と個別化医療の確立を目指した治療開発,第 58 回日本肺癌学会,横浜市,2017.10.14
1257)	西尾和人,扁平上皮肺癌に対する薬物療法:新たな展開,第 58 回日本肺癌学会,横浜市,2017.10.14
1258)	高矢 寿光, 中井 英勝, 坂井 和子, 西尾和人, 松村 謙臣, 卵巣高悪性度漿液性腺癌では化学療法後にクロン数が減少する,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1259)	坂野 恵里, 富樫 庸介, 中村 雄, 千葉 真人, 小林 祥久, 林 秀敏, 谷崎 潤子, 寺嶋 雅人, デベラスコ・マルコ A., 坂井 和子, 藤田 至彦, 光富 徹哉, 西尾和人, まれな EGFR 遺伝子変異 L861Q および S768I 陽性非小細胞性肺癌に対する最適な EGFR 阻害剤の選択,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1260)	家根 旦有, 澤西 和恵, 西尾和人, 坂井 和子, 藤井 正人, 本間 明宏, 菅澤 正, 大上 研二, 太田 一郎, 日本の多施設共同研究による HPV 関連中咽頭癌の遺伝子解析,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1261)	De Velasco MA., 倉 由吏恵, 坂井 和子, 杉本 公一, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, PTEN ノックアウト前立腺癌マウスモデルにおける腫瘍免疫の包括的分析,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1262)	清水 信貴, De Velasco MA., 倉 由吏恵, 坂井 和子, 杉本 公一, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, 遺伝子改変前立腺癌マウスモデルにおける PD-L1 免疫チェックポイント阻害薬について,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1263)	本 公一, De Velasco MA., 倉 由吏恵, 坂井 和子, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, アントレゲンレセプターを標的とした次世代アンチセンスオリゴヌクレオチドと AKT 阻害薬併用療法の治療効果について,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1264)	倉 由吏恵, De Velasco MA., 杉本 公一, 坂井 和子, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, AKT および Pim キナーゼをターゲットにした治療戦略は PTEN 欠失前立腺癌前臨床動物モデルにおいて治療効果改善を示す,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1265)	植村 天受, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 森 康範, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, De Velasco MA., 遺伝子改変マウス前立腺癌モデルを用いた新規化合物の包括的前臨床評価について,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1266)	原 雄大, 上田 詩歩, 山崎 晶貴, 藤田 健一, 西尾和人, 益子 高, 繊維芽細胞増殖因子 19(FGF19)に対するモノクローナル抗体作製,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1267)	森 康範, De Velasco MA., 畑中 祐二, 倉 由吏恵, 杉本 公一, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, 前立腺癌における STAT3 について,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1268)	西尾和人, 特別企画「ゲノム医療の提供体制と人材育成」,第 76 回日本癌学会学術総会,横浜市,2017.09.28
1269)	西尾和人, クリニカルシーケンスとリキッドバイオプシー,千葉県希少肺癌懇話会,千葉県,2017.09.22
1270)	西尾和人, Liquid Biopsy 検査の承認に向けて,第 2 回 CTC 研究フォーラム,東京都,2017.08.30
1271)	西尾和人, 躍動するがんのクリニカルシーケンス,第 28 回日本臨床化学会
1272)	西尾和人, 第 36 回日本臨床検査医学会 東海・北陸支部例会,三重県,2017.08.05 "

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1273) 西尾和人, Optimizing integration of genomics in cancer treatment approaches, 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会メディカルセミナー, 神戸市, 2017.07.29
- 1274) 西尾和人, ガンゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通プラットフォーム構築と教育・研修プログラムの実証的開発研究, 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会シンポジウム, 神戸市, 2017.07.29
- 1275) 西尾和人, クリニカルシーケンスの最近のトピックス, 第 3 回クリニカルバイオバンク研究会, 千葉県, 2017.07.08
- 1276) 西尾和人, バイオマーカー研究の最前線, 第 32 回日本肺癌学会ワークショップ, 北海道, 2017.07.01
- 1277) 酒井 瞳, 岩朝 勤, 菰池 佳史, 鶴谷 純司, 坂井 和子, 西尾和人, 中川 和彦, T-DM1 de novo 耐性 HER2 陽性乳癌の臨床病理学的検討, 日本乳癌学会総会, 2017.07
- 1278) 西尾和人, 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会プレスセミナー, 東京都, 2017.06.28
- 1279) 西尾和人, 肝がん次世代治療とプレジジョンメディスンに向けて, 第 16 回日本肝がん分子標的治療研究会, 徳島県鳴門市, 2017.06.24
- 1280) 西尾和人, ガンゲノム医療の実装と遺伝性疾患の責任遺伝子探索・創薬から予防までのトータルケア, 第 41 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 東大阪市, 2017.06.23
- 1281) 西尾和人, トータルシステム型次世代シーケンサーによる遺伝子変異検出の性能評価, 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 九州, 2017.06.14-16 170) 西尾和人, リキッドバイオプシー 2017, 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 九州, 2017.06.16
- 1282) 西尾和人, リキッドバイオプシーの固形がん分野への臨床応用に向けて, リキッドバイオプシー 2017, 東京都, 2017.05.31
- 1283) 西尾和人, Cell free DNA を用いた遺伝子解析, 第 115 回北海道癌談話会春期シンポジウム, 札幌市, 2017.05.27
- 1284) 西尾和人, ガン免疫療法のバイオマーカーについて, 第 38 回癌免疫外科研究会, 岡山県倉敷市, 2017.05.26
- 1285) 西尾和人, リキッドバイオプシー今後の現状, 第 2 回くすのきプレストセミナー, 神戸市, 2017.05.20
- 1286) 西尾和人, 長崎大学病院との共同研究における測定 肺大細胞癌の NGS 解析結果, 第 106 回日本病理学会総会演題登録, 東京都, 2017.04.27-29
- 1287) 西尾和人, 乳癌領域におけるリキッドバイオプシーの現状, ABC seminar in WAKAYAMA, 和歌山市, 2017.04.21
- 1288) 倉 由吏恵, 吉村 一宏, 野澤 昌弘, 南 高文, 杉本 公一, 吉川 和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村 天受, 前立腺特異的 PTEN ノックアウトマウスを用いた Jak1/2 阻害薬である AZD1480 による抗腫瘍効果および転移抑制についての検討, 日本泌尿器科学会総会, 2017.04
- 1289) 杉本 公一, 吉村 一宏, 野澤 昌弘, 南 高文, 清水 信貴, 倉 由吏恵, 吉川 和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村 天受, PTEN/p53 ダブルノックアウト前立腺癌マウスモデルにおける Autophagy 阻害薬クロキンの治療効果について, 日本泌尿器科学会総会, 2017.04
- 1290) 康 範, デベラスコ・マルコ, 倉 由吏恵, 沖 貴士, 杉本 公一, 畑中 祐二, 野澤 昌弘, 吉村 一宏, 吉川 和宏, 西尾和人, 植村 天受, 遺伝子改変前立腺癌マウスモデルにおける高脂肪食摂取による腫瘍増殖について, 日本泌尿器科学会総会, 2017.04
- 1291) 東 陽子, 横堀 武彦, 茂木 晃, 飯島 岬, 高坂 貴行, 矢島 俊樹, 西山 正彦, 西尾和人, 桑野 博行, オミックス解析を用いた癌エクソソームによるレッサ耐性メカニズムの解明, 本外科学会定期学術集会, 2017.04
- 1292) SAKAI Ryota, ITO Minako, MATSUO Kazuhiko, NAKAYAMA Takashi, YOSHIE Osamu, YOSHIMURA Akihiko: Migration Th17 and CCL22/17-CCR4 axis are crucial in the crescentic glomerulonephritis model. 第 46 回日本免疫学会学術集会(仙台)2017.12
- 1293) 岩間有咲, 松尾一彦, 伊藤茉奈, 有馬優香, 長沼孝典, 西脇啓二, 義江 修, 中山隆志: 乾癬発症におけるケモカイン受容体 CCR4 および CCR6 の役割の解明. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸)2017.10
- 1294) 西尾和人 「消化器癌におけるバイオマーカーの開発と応用 消化器癌に対する分子標的薬

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- の効果予測マーカーの探索とクリニカルシーケンシング」第 102 回日本消化器病学会総会 (東京) 2016.4.
- 1295) 松岡弘道, 牧村ちひろ, 小山敦子, 酒井清裕, 和泉宏昌, 大塚正友, 藤田至彦, 鶴谷純司, 吉田健史, 西尾和人, 中川和彦「患者自身の疼痛改善への期待は、疼痛予後を改善する」第 21 回日本緩和医療学会学術大会(京都)2016.6.
- 1296) 酒井清裕, 松岡弘道, 大武陽一, 牧村ちひろ, 和泉宏昌, 大塚正友, 藤田至彦, 鶴谷純司, 西尾和人, 中川和彦, 小山敦子「がん疼痛とカルニチン欠乏症との関連性についての探索的研究」第 21 回日本緩和医療学会学術大会(京都)2016.6.
- 1297) 杉本公一, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村天受「去勢抵抗性前立腺癌における Pim-1 キナーゼ阻害薬 AZD1208 の治療効果」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 1298) 植村天受, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 杉本公一, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「前立腺癌マウスモデルを用いた AKT 阻害薬 AZD5363 の抗腫瘍効果の検討」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 1299) 山本豊, 吉村一宏, 野澤昌弘, 南高文, 杉本公一, 倉由吏恵, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ, 植村天受「前立腺癌における AKT/PI3K および MAPK 経路阻害による治療相互作用について」第 104 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2016.4.
- 1300) 吉岡康多, 富樫庸介, 筑後孝章, 小北晃弘, 寺嶋雅人, 水上拓郎, 坂井 和子, 所忠男, 肥田仁一, 西尾和人, 奥野清隆「大腸粘液癌の分化度による臨床病理学的・分子生物学的な相違」第 116 回日本外科学会定期学術集会(大阪)2016.4.
- 1301) 海堀昌樹, 坂井 和子, 石崎守彦, 松井康輔, 北出浩章, 権雅憲, 土師誠二, 竹村茂一, 塚本忠司, 金沢景繁, 武田裕, 和田浩志, 永野浩昭, 久保正二, 西尾和人「がんのバイオマーカーと分子標的治療 肝癌外科術後再発進行症例に対するソラフェニブ投与奏効例のバイオマーカー-FGF19 検討」第 116 回日本外科学会定期学術集会(大阪)2016.4.
- 1302) 西尾和人, 武田真幸, 坂井 和子, 中川和彦「わが国においても肺癌に対する包括的戦略を用いた Precision Medicine を展開することは可能か? 肺癌診療におけるクリニカルシーケンス」第 56 回日本呼吸器学会学術講演会(京都)2016.4
- 1303) 井上敬夫, 竹森久美子, 水口信行, 木村雅友, 筑後孝章, 萩山 満, 米重あづさ, 森 樹史, 前西 修, 米谷 俊, 伊藤龍生, 佐藤隆夫, 伊藤彰彦: 心筋結合型アディポネクチンは血圧ではなく、心肥大と相関する.日本農芸化学会 2017 年度大会 (京都)2017.3.
- 1304) 米重あづさ, 萩山 満, 伊藤彰彦: 肺上皮接着分子 CADM1/TSLC1 の細胞外切断亢進が特発性間質性肺炎における上皮アポトーシスの一因となる(Increased ectodomain shedding of CADM1/TSLC1 as a cause of epithelial apoptosis in idiopathic interstitial pneumonia).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 1305) 坪井裕見, 尾山大明, 秦裕子, 伊藤彰彦, 村上善則: がん抑制遺伝子 CADM1 による Cbp を介した Src 経路抑制機構の解析(Roles of cell adhesion molecule 1 (CADM1) in Cbp-dependent inactivation of c-Src pathway).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 1306) 萩山 満, 米重あづさ, 伊藤彰彦: 癌による内腔狭窄に伴って拡張した大腸における腸管神経変性:CADM1/TSLC1 の関与(Enteric nerve degeneration in the colon dilated due to the luminal stenosis by cancer: involvement of CADM1/TSLC1).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 1307) 岡田 亘, Kit T, 太田一成, 古室暁義, Koch A, 伊藤彰彦: マウスモデルを用いた DNA 損傷

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 修復機能抑制による治療関連白血病予防効果の検討(Modest attenuation of DNA damage repair delays therapy-related cancer in mouse model).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜) 2016.10.
- 1308) 武田真幸、坂井 和子、林秀敏、田中薫、高濱隆幸、吉田健史、岩朝勤、光富徹哉、伊藤彰彦、西尾和人、中川和彦:肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定(Clinical application of amplicon-based next-generation sequencing to therapeutic decision making in lung cancer).第 75 回日本癌学会学術総会 (横浜)2016.10.
- 1309) Inoue T, Takemori K, Mizuguchi N, Kimura M, Chikugo T, Hagiya M, Yoneshige A, Mori T, Kometani T, Itoh T, Sato T, Ito A:Heart-bound adiponectin, not serum adiponectin, correlates with cardiac hypertrophy in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. The 26th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Seoul, Korea) 2016.9.
- 1310) 米重あづさ、村上哲平、井上敬夫、西村俊司、伊藤彰彦:悪性上皮性腫瘍内の肉腫様成分における骨芽細胞分化マーカーの発現.第 105 回日本病理学会総会 (仙台)2016.5.
- 1311) 太田一成, Kit I. Tong, 後藤幸一郎, 古室暁義, 岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明、第 39 回日本分子生物学会年会 (2016.12.1 横浜)
- 1312) 太田一成、古室暁義、上田 健、岡田 斉 Elucidation of adipogenesis by the H3K27 histone demethylase Utx 第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学会 (2016.10.28 大阪)
- 1313) Akiyoshi Komuro, Kazushige Ota, Takeshi Ueda, Hitoshi Okada The role of histone demethylase KDM4b in breast cancer stem cell 第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学 (2016.10.28 大阪)
- 1314) Hitoshi Okada, Modest attenuation of DNADamage repair delays therapy-related cancer in mouse model(第 12 回プロテインフォスファターゼ国際カンファレンス/革新がんゲノム国際学会) (2016.10.29 大阪)
- 1315) 古室暁義、太田一成、岡田 斉 乳がん幹細胞における Histone demethylase KDM4b の役割、第 75 回日本癌学会学術総会 (2016.10.6 横浜)
- 1316) 古室暁義、太田一成、上田健、岡田 斉、膠芽腫における新規融合遺伝子 HMGA2-EGFR の同定、第 75 回近畿大学医学会学術講演会(2016,7.18)
- 1317) 太田一成、古室暁義、上田 健、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞制御メカニズムの解明、第 75 回近畿大学医学会学術講演会 (2016,7.18)
- 1318) 西中 崇、丹羽 淳子、小堀宅郎、高橋英夫 SHRSP は赤血球産生の増加を示す 第 90 回日本薬理学会年会 (長崎)2017. 3.
- 1319) 小堀 宅郎、濱崎 真一、北浦 淳寛、西中 崇、丹羽 淳子、森 秀治、西堀 正洋、高橋英夫: IL-18 はオステオポンチンを介してマクロファージ M2 分化と血管新生作用を増強する 第 90 回日本薬理学会年会 (長崎)2017.3.
- 1320) 丹羽 淳子、西中 崇、小堀 宅郎、高橋英夫:運動介入は骨髄微小環境を改善し血管系前駆細胞による脳卒中回復を促進する 第 90 回日本薬理学会年会 (長崎)2017. 3.
- 1321) 濱崎真一、小堀 宅郎、北浦淳寛、丹羽 淳子、高橋英夫:終末糖化産物(AGEs)はマクロファージによる血管内皮細胞の管腔形成を促進する 第 89 回日本薬理学会年会 (横浜)2016. 3.
- 1322) 小堀 宅郎、濱崎 真一、北浦 淳寛、加藤 貴史、丹羽 淳子、高橋英夫: M2 マクロファージによる血管新生促進作用に対する IL-18 の影響 第 89 回日本薬理学会年会 (横浜)2016. 3.)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1323) 高橋英夫 ホメオダイナミクス創薬～生体内恒常性維持機の活性化を目指して～ 国立病院機構 福山医療センター オープンカンファレンス: (福山) 2016. 6
- 1324) Cienfuegos J, Nishio K, et al. "Verification of an Ion AmpliSeq™ RNA Fusion Lung Cancer Research Panel, workflow, and analysis solution: an OncoNetwork collaborative research study" The American Society of Human Genetics 2015, Baltimore, 2015, 10.6-10
- 1325) Hayashi Y, Togashi Y, Terashima M, Sakai K, Mizuuchi H, Kobayashi Y, Suda K, Nakagawa K, Nishio K, Mitsudomi T. Receptor tyrosine kinase mutations in non-small cell lung cancer. The European Cancer Congress 2015 Vienna, 2015.9.25-29
- 1326) Togashi Y, Yoshioka Y, Chikugo T, Terashima M, Mizukami T, Hayashi H, Sakai K, De Velasco MA, Tomida S, Fujita Y, Okuno K, Nishio K. Clinicopathological and genetic differences between low-grade and high-grade colorectal mucinous adenocarcinoma. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29
- 1327) Tsuji Y, Yamazaki K, Saito Oba M, Sakai K, Ueda S, Tamagawa H, Tamura T, Moriwaki T, Murata K, Taira K, Denda T, Funai S, Tsuda T, Tsushima T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Predictive biomarker analysis of early tumor shrinkage induced by FOLFIRI+Bev for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29
- 1328) Fujita Y, Yamazaki K, Oba MS, Muro K, Negoro Y, Yoshida M, Suyama K, Kurimoto T, Sugimoto N, Seki N, Sato M, Ebi M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Exploratory analysis of predictive biomarkers of oxaliplatin versus irinotecan in combination with bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29
- 1329) Mizukami T, Togashi Y, Banno E, Terashima M, De Velasco MA, Sakai K, Hayashi H, Fujita Y, Tomida S, Nakajima Eguchi T, Boku N, Ito A, Nakagawa K, Nishio K. Fibroblast growth factor 9 gene amplification can induce resistance to anti-EGFR therapy in colorectal cancer. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29
- 1330) Tanaka Y, Aoyagi K, Minashi K, Komatsuzaki R, Komatsu M, Takahashi N, Oda I, Tachimori Y, Arao T, Nishio K, Kitano S, Muto M, Yamada Y, Sasaki H. CDH2 negative esophageal squamous cell carcinoma with cytotoxic T-lymphocyte signatures is a good responder subtype to definitive chemoradiotherapy. The European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29
- 1331) Atagi S, Nishio M, Goto K, Hosomi Y, Seto T, Hida T, Nakagawa K, Yoshioka H, Nogami N, Maemondo M, Nagase S, Okamoto I, Yamamoto N, Yamanaka T, Igawa Y, Tajima K, Fukuoka M, Yamamoto N, Nishio K. Biomarkers for efficacy in JO25567 study evaluating erlotinib plus bevacizumab versus erlotinib in advanced NSCLC with EGFR mutation. 16th World Conference on Lung Cancer, Denver 2015.9.6-9
- 1332) Tsuji Y, Yamazaki K, Saito-Oba M, Sakai K, Nagase M, Ueda S, Tamagawa H, Tamura T, Moriwaki T, Murata K, Taira K, Denda T, Funai S, Tsuda T, Tsushima T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K. Predictive biomarker analysis of early tumor shrinkage induced by FOLFIRI+Bev for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, Chicago, 2015.5.29-6.2.
- 1333) Laurent-Puig P, Costa JL, Shiels O, Tops B, Mafficini A, Corre D, Kurth H, Rachiglio AM, Blons H, Amato E, Noppen C, Franco R, Reiman A, Bastien R, Welker N, Macado JC, Cree I,

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- Feilotter H, Ligtenberg M, Scarpa A, Normanno N, Nishio K, Vaughn C. Comprehensive genetic profiling of chromosomal translocations in lung cancer tumors: development and validation of a next -generation sequencing panel in an international multicenter study. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1334) Fujita Y, Koinuma S, De Velasco MA, Jan B, Totashi Y, Terashima M, Hayashi H, Matsuo T, Nishio K. Melanoma transition is frequently accompanied by a loss of cytoglobin, a putative tumor suppressor, in melanocytes. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia 2015.4.18-22
- 1335) Mizukami T, Togashi Y, Banno E, Terashima M, Velasco MA, Sakai K, Fujita Y, Tomida S, Eguchi-Nakajima T, Boku N, Nishio K. FGF9 gene amplification can induce resistance to anti-EGFR therapy in colorectal cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1336) De Velasco MA, Hatanaka Y, Fukushima E, Ando N, Davies BR, Yamamoto Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Preclinical activity of the AKT inhibitor AZD5363 in PTEN-deficient mouse models of prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1337) De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Campbell H, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Nozawa M, Yoshimura K, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Inhibition of mouse PTEN-deficient prostate cancer with next generation antisense oligonucleotide targeting the androgen receptor. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1338) Togashi Y, Kogita A, Sakamoto H, Hayashi H, Terashima M, De Velasco MA, Sakai K, Fujita Y, Tomida S, Kitano M, Kudo M, Nishio K. Activin signal promotes cancer progression and is involved in cachexia in an subset of pancreatic cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1339) Yoshikawa K, De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nishio K, Uemura H. Effects of long-term chloroquine chemotherapy in a preclinical model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1340) De Velasco MA, Yamamoto Y, Kura Y, Fukushima E, Ando N, Davies B, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Nozawa M, Yoshikawa K, Yoshimura K, Nishio K, Uemura H. Preclinical effects of dual AKT/MAPK inhibition in PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1341) Kura Y, De Velasco MA, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Huzdar D, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Oki T, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Chloroquine demonstrates limited effectiveness in an autochthonous preclinical model of prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia, 2015.4.18-22
- 1342) De Velasco MA, Oki T, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Davies BR, Huszar D, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Evaluation of Pim-1 kinase inhibition in a preclinical model of mouse prostate cancer. American Association for Cancer Research 105th Annual Meeting 2015, Philadelphia 2015.4.18-22

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1343) 坂井 和子, 竹田治彦, 西島規浩, 折戸悦朗, 上甲康二, 内田靖, 泉並木, 西尾和人, 大崎往夫「HCC fine-needle biopsy サンプルを対象とした DNA シーケンシングの実施可能性とソラフェニブ効果予測マーカーの探索」第 12 回日本肝がん分子標的治療研究会(倉敷)2015.6
- 1344) 鈴木俊宏, 永澤生久子, 山岡利光, 大森亨, 西尾和人, 小山清隆, 小笠原裕樹 miR-205 発現制御における ErbB3 リン酸化の影響、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1345) 北園聡, 坂井 和子, 高野夏希, 川嶋庸介, 小栗知世, 丹保裕一, 柳谷典子, 堀池篤, 大柳文義, 宝来威, 西尾和人, 西尾誠人「血中 cfDNA を用いた EGFR 遺伝子変異の検出と afatinib の臨床効果」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1346) 富樫庸介, 水内寛, 林秀敏, 小林祥久, 中川和彦, 光富徹哉, 西尾和人「Kinases and lung cancer 非小細胞肺癌における受容体チロシンキナーゼ遺伝子変異の探索と機能解析・問題点」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1347) 畑中祐二, De Velasco MA., 倉由吏恵, 山本豊, 沖貴士, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 前立腺癌に対するオートファジー阻害薬 CQ と分子標的薬の併用療法について、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1348) 倉由吏恵, De Velasco MA., 沖貴士, 山本豊, 畑中祐二, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 去勢抵抗性前立腺癌に対する Pim-1 キナーゼ阻害薬 AZD1208 の治療効果、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1349) 西尾和人 次世代シーケンサーのマルチ診断薬承認に向けての諸課題、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1350) 西尾和人 Clinical Transformation with NGS: The Landscape of Next Generation Sequencing in Oncology. 第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1351) 坂井 和子, 西尾和人 デジタル PCR による cfDNA 変異解析、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1352) 杉本公一, De Velasco MA., 倉由吏恵, 山本豊, 畑中祐二, 沖貴士, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 PTEN 欠損前立腺癌マウスモデルにおけるオートファジー阻害薬 CQ による長期治療効果について、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1353) 植村天受, 倉由吏恵, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, De Velasco MA. マウス前立腺癌モデルを用いた AKT 阻害薬 AZD5356 の抗腫瘍効果、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1354) 小林祥久, 富樫庸介, 谷田部恭, 水内寛, 朴将哲, 近藤千晶, 須田健一, 富沢健二, 樋田豊明, 西尾和人, 光富徹哉 EGFR exon18 変異肺癌の治療戦略: afatinib と neratinib に対する高感受性、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1355) 西尾和人「がん治療に求められる基盤的知識 腫瘍生物学とがん治療」第 53 回日本癌治療学会学術集会 第 21 回日本癌治療学会教育セミナー(京都)2015.10.
- 1356) 小林祥久, 富樫庸介, 谷田部恭, 水内寛, 朴将哲, 近藤千晶, 下治正樹, 佐藤克明, 須田健一, 富沢健二, 武本智樹, 樋田豊明, 西尾和人, 光富徹哉「EGFR exon18 変異肺癌の頻度と各世代 EGFR-TKI に対する奏効率の違い」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1357) 寺嶋雅人, 富樫庸介, 坂井 和子, 佐藤克明, 須田健一, 水上拓郎, 坂野恵里, 中村雄, De Velasco MA., 藤田至彦, 富田秀太, 光富徹哉, 西尾和人 非小細胞肺癌における DDR2 変異の機能解析、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1358) 山本豊, De Velasco MA., 倉由吏恵, 畑中祐二, 沖貴士, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和宏, 吉村一宏, 西尾和人, 植村天受 前立腺癌における Akt/P13K および MAPK 経路阻害の治療相乗効果について、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1359) 高濱隆幸, 坂井 和子, 東公一, 樋田豊明, 平野勝也, 新実彰男, 田中洋史, 海老規之, 澤祥幸, 別所昭宏, 立原素子, 下川元嗣, 中川和彦, 中西洋一, 西尾和人 「EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する血漿中 cell free DNA を用いた T790M 変異検出の臨床的有用性試験 WJOG8014LTR」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1360) 原田大二郎, 岩間映二, 坂井 和子, 東公一, 野崎要, 堀田勝幸, 大柳文義, 倉田宝保, 赤松弘朗, 後藤功一, 福原達朗, 中西洋一, 西尾和人, 岡本勇 「EGFR 遺伝子変異陽性進行肺腺癌に対するアファチニブ治療におけるバイオマーカー研究」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1361) De Velasco MA., 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 吉川和宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 西尾和人, 植村天受 アンドロゲン受容体に対する次世代アンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた前立腺癌治療、第 74 回日本癌学会学術総会(名古屋)2015.10.
- 1362) 西尾和人, 坂井 和子, 武田真幸, 中川和彦 「病理業務におけるコンパニオン診断 CoDx の新しい潮流」第 104 回日本病理学会総会(名古屋)2015.4.
- 1363) 林秀敏, 武田真幸, 金田裕靖, 鶴谷純司, 中川和彦, 寺嶋雅人, 坂井 和子, 西尾和人 「KRAS 遺伝子変異陽性肺癌の臨床的特徴」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1364) 富樫庸介, 寺嶋雅人, 坂井 和子, 林秀敏, 西尾和人, 水内寛, 小林祥久, 光富徹哉 「活性的型 ALK 遺伝子変異を有する ALK 免疫染色陽性/FISH 陰性のまれな肺腫瘍」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1365) 谷崎潤子, 武田真幸, 清水俊雄, 金田裕靖, 田中薫, 岩朝勤, 吉田健史, 高濱隆幸, 中川和彦, 坂井 和子, 西尾和人 「肺癌における次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第 56 回日本肺癌学会学術集会(横浜)、2015.11.
- 1366) 畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 沖貴士, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 山本豊, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受 「PTEN 欠損前立腺癌発症マウスモデルによる cell line の確立と特性」第 103 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2015.4.
- 1367) 須田健一, 水内寛, 村上功, 坂井 和子, 西尾和人, 光富徹哉 「EGFR キナーゼ阻害剤獲得耐性における分子異常の heterogeneity の検討とその克服」日本外科学会定期学術集会抄録集 115 回: CR-2-4, 2015.
- 1368) 須田健一, 佐藤克明, 清水重喜, 坂井 和子, 水内寛, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「呼吸器 IASLC/ATS/ERS 新国際分類に基づく肺腺癌組織亜型における遺伝子変異の探索的検討」第 115 回日本外科学会定期学術集会(名古屋)2015.4.
- 1369) 須田健一, 佐藤克明, 清水重喜, 坂井 和子, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「肺腺がんにおける遺伝子異常とその病理形態学的特徴」第 55 回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 1370) 佐藤克明, 須田健一, 清水重喜, 坂井 和子, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉 「呼吸器 AXL 陽性肺腺癌の臨床的・病理学的・分子生物学的特徴と予後」第 115 回日本外科学会定期学術集会(名古屋)2015.4.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1371) 沖貴士, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 小池浩之, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「去勢抵抗性前立腺癌における PI3K-Akt と AR シグナル伝達経路をターゲットにした治療戦略について」第 103 回日本泌尿器科学会総会(仙台)2015.4.
- 1372) 武田真幸, 坂井 和子, 田中薫, 吉田健史, 岩朝勤, 高濱隆幸, 野長瀬祥兼, 岡部崇記, 林秀敏, 岡本邦男, 金田裕靖, 清水俊雄, 西尾和人, 中川和彦「非小細胞肺癌 基礎研究 肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第 55 回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 1373) 武田真幸, 清水俊雄, 金田裕靖, 田中薫, 岩朝勤, 吉田健史, 高濱隆幸, 坂井 和子, 西尾和人, 中川和彦「肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」第 55 回日本呼吸器学会学術講演会(東京)2015.4.
- 1374) 松岡弘道, 牧村ちひろ, 大塚正友, 酒井清裕, 阪本亮, 小山敦子, 西尾和人, 中川和彦, 藤田至彦, 鶴谷純司「がん疼痛治療におけるバイオマーカー探索」第 112 回日本内科学会(京都)2015.4.
- 1375) 山上亘, 片岡史夫, 坂井健良, 真壁健, 二宮委美, 和田美智子, 野村弘行, 進伸幸, 津田浩史, 西尾和人, 田中守, 青木大輔「卵巣がん 新規治療法の探索 Copy number assay による sorafenib の卵巣癌への有効性の探索」第 67 回日本産婦人科学会学術講演会(横浜)2015.4.
- 1376) 梶井理恵子, 青松和輝, 杉村直毅, 勝野貴之, 早川剛, 格谷洋和, 山形知, 伊藤彰彦: 急激な体重減少を来した糞線虫症の1例. 日本内科学会近畿支部主催第 210 回近畿地方会 (兵庫)2015.11.
- 1377) 萩山 満, 米重あづさ, 伊藤彰彦: 接着分子 cell adhesion molecule 1 の細胞内断片による肺上皮アポトーシス誘導: 肺気腫発症への関与(Induction of lung epithelial cell apoptosis in emphysema by the intracellular domain of cell adhesion molecule 1). 第74回日本癌学会学術総会 (名古屋)2015.10.
- 1378) 米重あづさ, 村上哲平, 西村俊司, 伊藤彰彦: 上皮性癌種の肉腫様変化では骨肉腫/骨芽細胞様表現型が出現する(Manifestation of osteoblastic phenotypes in the sarcomatous components of epithelial carcinoma). 第74回日本癌学会学術総会 (名古屋)2015.10.
- 1379) 井上敬夫, 萩山 満, 米重あづさ, 榎木英介, 前西 修, 筑後孝章, 木村雅友, 佐藤隆夫, 伊藤彰彦: 2型糖尿病患者の膵島における接着分子 CADM1 は細部外ドメインの切断が亢進している(Increased ectodomain shedding of CADM1 from pancreatic islets in type2 diabetes mellitus). 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋)2015.5.
- 1380) 萩山 満, 井上敬夫, 米重あづさ, 伊藤彰彦: アクチン結合性アダプター蛋白 α -parvin は偽足突起に局在し、小葉乳癌のリンパ節転移に関与する (Involvement of alpha-parvin, a pseudopodial constituent, in lobular breast carcinoma metastasis). 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋)2015.5.
- 1381) 米重あづさ, 井上敬夫, 萩山 満, 伊藤彰彦: 特発性間質性肺炎における肺上皮接着分子 CADM1 の発現異常 (Aberrant expression of lung-epithelial cell adhesion molecule 1 in idiopathic interstitial pneumonia). 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋)2015.5.
- 1382) 榎木英介, 筑後孝章, 前西 修, 木村雅友, 伊藤彰彦, 佐藤隆夫: 肺癌の表層壊死部にアスペルギルスの腐生が認められた 1 例 (Colonization of Aspergillus on the necrotic surface of lung cancer). 第 104 回日本病理学会総会 (名古屋)2015.5.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1383) 水口信行、加藤貴史、堀奈津美、伊藤彰彦:本態性高血圧症のモデルラット(SHRSP/Kpo)における腎障害. (Kidney injuries in an original rat model of essential hypertension (SHRSP/Kpo strain).第 62 回日本実験動物学会(京都)2015.5.
- 1384) 岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素による乳腺発達制御 BMB2015(第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会)(神戸) 2015.12.1
- 1385) 太田一成, Kit I. Tong, 後藤 幸一郎, 古室暁義、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明、 BMB2015(第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会)(神戸)2015.12.1
- 1386) 古室暁義、太田一成、岡田 斉 骨形成因子4(BMP4)は Glioma Initiating cell のがん幹細胞性を阻害して治療効果を促進する。 第 74 回近畿大学医学会学術講演会 (大阪) 2015.6.15
- 1387) 太田一成、古室暁義、岡田 斉 ヒストン脱メチル化酵素 UTX による脂肪細胞分化メカニズムの解明 第 74 回近畿大学医学会学術講演会 (大阪)2015.6.15
- 1388) 岡田 斉 遺伝子異常による発がん機構と治療標的としての活用 ヒストン脱メチル化酵素、KDM4B/JMJD2B、のがん化過程での役割 第 74 回日本癌学会学術総会コアシンポジウム(名古屋)2015.10.8
- 1389) 丹羽 淳子、赤星保光、堀内喜高、濱崎真一、小堀 宅郎、西堀正洋、高橋英夫: Voluntary exercise induces neurogenesis in hypothalamus and improves homeostatic functions after stroke. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015. 3.
- 1390) 小堀 宅郎、濱崎 真一、丹羽 淳子、高橋英夫: IL-18 promotes macrophage M2 polarization. 第 88 回日本薬理学会年会 (名古屋)2015. 3.
- 1391) 寺尾欣也、和氣秀徳、森岡祐太、勅使河原匡、劉 克約、高橋英夫、森 秀治、西堀正洋: Tissue factor(TF)誘発 DIC モデルにおける Histidine-rich glycoprotein(HRG)の動態及び治療効果について 第 127 回日本薬理学会近畿部会 (岐阜)2015. 6.
- 1392) 加藤貴史、岡 清正、高橋英夫、中村敏一: HMGB1 によるヒスタミン誘導性免疫応答調節効果 第 127 回日本薬理学会近畿部会 (岐阜)2015. 6.
- 1393) Cienfuegos J, Nishio K, et al. Verification of an Ion AmpliSeq™RNA Fusion Lung Cancer Research Panel, workflow, and analysis solution: an OncoNetwork collaborative research study. The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics, San Diego 2014.10.18-22
- 1394) Nishio K. New insights for sequencing data in lung cancer. The ESMO 2014 Congress, Madrid, 2014.9.26-30
- 1395) Nishio K. Predictive Biomarker of Molecular Targeted Agents and Precision Medicine for HCC. 4th International Kyoto Liver Cancer Symposium Kyoto, 2014.6.7-8
- 1396) Hirashima T, Azuma K, Yamamoto N, Takahashi T, Nishio M, Hirata T, Kubota K, Kasahara K, Hida T, Yoshioka H, Suzuki K, Akinaga S, Nishio K, Mitsudomi T, Nakagawa K. Phase II study of erlotinib plus tivantinib in patients with EGFR-mutation-positive NSCLC who failed in immediately previous EGFR-TKI therapy. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 1397) Tanioka M, Sakai K, Sudo T, Sakuma T, Hirokaga K, Takao S, Minami H, Negoro S, Nakagawa K, Nishio K. Transcriptional expression of Bcl-2 as predictive of response to neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab in HER2-positive ER-positive breast cancer

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- patients. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 1398) Yoshioka H, Okamoto I, Sakai K, Morita S, Kaneda H, Takeda K, Hirashima T, Kogure Y, Kimura T, Takahashi T, Atagi S, Seto S, Sawa T, Yamamoto M, Satouchi M, Okuno M, Nagase S, Nakagawa K, Nakanishi Y, Nishio K. Multiplex genomic profiling of non-small cell lung cancer patients enrolled in the LETS phase III trial of first-line S-1/carboplatin versus paclitaxel/carboplatin (WJOG6611LTR). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 1399) Yonesaka K, Kawakami H, Kaneda H, Okamoto I, Hirotsu K, Nishio K, Nakagawa K. The expression level of HER3 ligand heregulin mRNA as a predictive biomarker for anti-HER3 antibody patritumab combined with erlotinib in non-small cell lung cancer. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago, 2014.5.30-6.3
- 1400) Mitsudomi T, Iwamoto Y, Tomida S, Sakai K, Yamanaka T, Tada H, Yoshioka H, Uchino K, Yoshino I, Sugawara S, Mitsuoka S, Takahashi T, Ohta M, Seto T, Atagi S, Okada M, Saka H, Nakagawa K, Nakanishi Y, Nishio K. Serum biomarker analysis of WJOG4107: A randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus CDDP+S-1 for resected stage II-III non-small cell lung cancer (NSCLC). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2014, Chicago 2014.5.30-6.3
- 1401) Nishio K. Early phase trials in the future-Basic researcher's perspective. 3rd Japan Taiwan Oncology Phase I Trial Conference (JTOPIC), Taipei, 2014.4.19
- 1402) Magdaleno SS, Cheng A, Petraroli R, Sheils O, Tops B, Corre D, Kurth H, Blons H, Amato E, Mafficini A, Rachiglio AM, Reimann A, Noppen C, Ainali C, Katayama J, Franco R, Feilotter H, Schageman J, Cree I, Felton A, Costa JL, Rico A, Scarpa A, Machado JC, Nishio K, Normanno N, Ligtenberg M, Vaughn CP, Lacroix , Laurent-Puig P. The OncoNetwork Consortium: A global collaborative research study on the development and verification of an Ion AmpliSeq RNA gene lung fusion panel. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 1403) Togashi Y, Sakamoto H, Hayashi H, Terashima M, De Velasco MA, Fujita Y, Kodera Y, Sakai K, Tomida S, Kitano M, Kudo M, Nishio K. Homozygous deletion of the activin A receptor, type IB gene is associated with an aggressive cancer phenotype in pancreatic cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 1404) Fujita Y, Kurahashi I, Kurata T, Koh Y, Sakai K, Nakagawa K, Nishio K. A microarray-based gene expression analysis identified diagnostic biomarkers for unknown primary cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 1405) De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. The role of autophagy in prostate tumorigenesis and its therapeutic implications. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9
- 1406) De Velasco MA, Hatanaka Y, Oki T, Kura Y, Yamamoto Y, Yoshimura K, Shimizu N, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Expression of lumican is negatively associated with the risk of biochemical recurrence in human prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-
- 1407) Kawakami H, Okamoto I, Yonesaka K, Okamoto K, Kuwata K, Morita Y, Yamaguchi H, Nishio

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- K, Nakagawa K. Novel HER3 neutralizing antibody, patritumab abrogates cetuximab resistance mediated by a heregulin-autocrine loop in colorectal cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1408) Shimizu T, Nagasawa I, Yamaoka T, Ohmori T, Nishio K, Koyama K, Ogasawara Y. Contribution of miR-205 in gefitinib-resistant lung cancer cell lines. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1409) Yoshikawa K, De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Nishio K, Uemura H. Establishment and characterization of cell lines derived from a murine model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1410) Kimura H, Nishio M, Daito T, Nishio K. Noninvasive analysis of acquired resistance to EGFR-TKI. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1411) Uemura H, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, De Velasco MA. Functional evaluation of synchronous inactivation of PTEN and P53 in a murine model of prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1412) Kura Y, De Velasco MA, Ando N, Fukushima E, Yamamoto Y, Hatanaka Y, Shimizu N, Nozawa M, Yoshimura K, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Combining PI3K and 5alpha-reductase inhibitors improved the treatment response in mouse model of PTEN-deficient prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego 2014.4.5-9)
- 1413) De Velasco MA, Kura Y, Ando N, Fukushima E, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Shimizu N, Yoshimura K, Nozawa M, Yoshikawa K, Nishio K, Uemura H. Co-targeting the PI3K and androgen receptor signal pathways in castration resistant prostate cancer. American Association for Cancer Research 104th Annual Meeting 2014, San Diego, 2014.4.5-9)
- 1414) 西尾和人 「コンパニオン診断は有用か? Multiple の診断薬の承認に向けて」 第 61 回日本臨床検査医学学会学術集会(福岡)2014.11.
- 1415) 林秀敏, 富樫庸介, 岡本邦男, 田中妙, 文田壮一, 新谷亮多, 清川寛文, 坂本洋一, 寺嶋雅人, De Velasco MA, 坂井 和子, 藤田至彦, 富田秀太, 加藤元一, 中川和彦, 西尾和人 「喫煙によるニコチン曝露は EGFR 遺伝子変異陽性肺がんにおいて EGFR-TKI の耐性因子である」 第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 1416) 武田真幸, 清水俊雄, 田中薫, 吉田健史, 岩朝勤, 高濱隆幸, 野長瀬祥兼, 岡部崇記, 林秀敏, 岡本邦男, 坂井 和子, 西尾和人, 中川和彦 「肺癌に於ける次世代シーケンサーを用いた変異解析に基づく分子標的薬適応決定」 第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 1417) 富樫庸介, 林秀敏, 寺嶋雅人, 坂井 和子, 藤田至彦, 富田秀太, 中川和彦, 西尾和人 「低酸素は ALK 融合遺伝子を有する H3122 肺癌細胞株の ALK 阻害剤に対する耐性を誘導する」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 1418) 富樫庸介, 林秀敏, 寺嶋雅人, 坂井 和子, 藤田至彦, 富田秀太, 中川和彦, 西尾和人 「新規 ALK 阻害剤であるアレクチニブは MET 阻害剤との併用で効果が高まる」 第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1419) 佐藤克明, 清水重喜, 須田健一, 水内寛, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 坂井 和子, 富田秀太, 西尾和人, 光富徹哉「原発性肺癌における受容体型チロシンキナーゼ Ax1 の発現と病理組織学的因子の検討」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 1420) 金田裕靖, 東公一, 平島智徳, 山本信之, 高橋利明, 西尾誠人, 平田泰三, 久保田馨, 笠原寿郎, 樋田豊明, 吉岡弘鎮, 鈴木康平, 秋永士朗, 西尾和人, 光富徹哉, 中川和彦「EGFR-TKI 耐性の EGFR 変異陽性 NSCLC を対象とした tivantinib (ARQ197) とエルロチニブ併用の第 2 相試験」第 55 回日本肺癌学会学術集会(京都)2014.11.
- 1421) 鈴木俊宏, 永澤生久子, 山岡利光, 大森亨, 西尾和人, 小山清隆, 小笠原裕樹「The effect of kinase signaling for miR-205 regulation in gefitinib-resistant lung cancer cell lines」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1422) 武田真幸, 坂井 和子, 西尾和人, 中川和彦「Development of companion diagnosis Clinical applications of next generation sequencing on therapeutic decision-making in lung cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1423) 富樫庸介, 加藤寛章, 林秀敏, 寺嶋雅人, デベラスコ・マルコ, 坂井 和子, 藤田至彦, 富田秀太, 安田卓司, 西尾和人「MEK inhibitor for gastric cancer with MEK1 gene mutations」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1424) 畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 沖貴士, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野沢昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Aberrantly Expressed HOXA10 Could Possibly Predict Recurrence after Radical Prostatectomy」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1425) 藤田至彦, 鯉沼聡, デベラスコ・マルコ, ボルツ・ヤン, 富樫庸介, 寺嶋雅人, 林秀敏, 松尾拓哉, 西尾和人「Cytoglobin, a putative tumor suppressor, is frequently lost in melanocyte during melanoma transition」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1426) 倉由吏恵, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Improved antitumor effects of androgen receptor and mTOR inhibition in castration resistant prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1427) 水内寛, 須田健一, 富田秀太, 佐藤克明, 小林祥久, 下治正樹, 富沢健二, 武本智樹, 岩崎拓也, 阪口全宏, 西尾和人, 光富徹哉「ABCB1 overexpression in EGFR-TKI resistant HCC4006 cells with EMT feature causes cross-resistant to anti-tubulin agents」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1428) 須田健一, 村上功, 佐藤克明, 富田秀太, 水内寛, 坂井 和子, 清水重喜, 富沢健二, 武本智樹, 阪口全宏, 西尾和人, 谷田部恭, 光富徹哉「Molecular and pathological evolution in acquisition of resistance to EGFR-TKI-T790M mutation and SCLC transformation」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1429) 植村天受, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「Development of a Lethal Genetically Engineered Mouse Model of Prostate Cancer for Survival Studies and End-stage Cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1430) 寺嶋雅人, 藤田至彦, 富樫庸介, 坂井 和子, 富田秀太, 西尾和人「KIAA1199 interacts with PHKB and promotes glycogen breakdown and cancer cell survival」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1431) 山本豊, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 清水信貴, 南高文, 野澤昌弘, 吉村一

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Dual targeting of the PI3K/mTOR and AR pathways in a mouse model of PTEN-deficient prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1432) 吉川和宏, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 西尾和人, 植村天受「Establishment and characterization of cell lines derived from mouse PTEN-deficient prostate cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1433) 沖貴士, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「Expression of Lumican in Human Prostate Cancer」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1434) デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「Autophagy in Prostate Tumorigenesis and Its Clinical Implications」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1435) 西尾和人「バイオマーカー研究の最前線 循環腫瘍ゲノムの同定と臨床応用」第 73 回日本癌学会学術総会(横浜)2014.9.
- 1436) 西尾和人「日本における TR 推進体制の整備について」日本乳癌学会総会プログラム抄録集 22 回: 233, 2014.
- 1437) 清水俊雄, 曾田秀巳, 橋井千晶, 西尾和人, 野村守弘, 森田哲也, 小林和子, 大西理都子, 良谷佳美, 中川和彦「日本における早期探索臨床試験の推進について 海外ベンチャー製薬企業主導型新薬第 I 相試験実施に関する新しいシステム構築」第 22 回日本乳癌学会学術総会(大阪)2014.7.
- 1438) 畑中祐二, デベラスコ・マルコ, 山本豊, 沖貴士, 倉由吏恵, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌における HOXA10 の発現異常についての検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1439) 倉由吏恵, デベラスコ・マルコ, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌における STAT3 転写活性抑制効果の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1440) 植村天受, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和宏, 西尾和人, デベラスコ・マルコ「前立腺癌マウスモデルにおけるがん抑制遺伝子 PTEN および p53 の相互作用の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1441) 山本豊, デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉村一宏, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「前立腺特異的 PTEN ノックアウトマウスモデルにおける MEK 阻害剤の抗腫瘍効果の検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1442) 沖貴士, デベラスコ・マルコ, 畑中祐二, 倉由吏恵, 山本豊, 吉村一宏, 清水信貴, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 江左篤宣, 植村天受「前立腺癌における Lumican の発現についての検討」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1443) デベラスコ・マルコ, 倉由吏恵, 安藤直美, 福島恵美子, 畑中祐二, 山本豊, 清水信貴, 吉村一宏, 野澤昌弘, 吉川和弘, 西尾和人, 植村天受「前立腺癌におけるオートファジーの生物学的意義」第 102 回日本泌尿器科学会(神戸)2014.4.
- 1444) 見前隆洋, 伊藤彰彦, 萩山 満, 坪川史典, 笹田伸介, 古屋智晴, 宮田義浩, 岡田守人: 肺気腫発症の新規機序: Cell adhesion molecule 1 の shedding 亢進による細胞内ドメインの産生. 第 114 回日本外科学会定期学術集会(京都)2015.3.

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 1445) 加藤貴史、伊藤彰彦:HGF はラット腎尿細管細胞においてROMK の 44 番目セリン残基のリン酸化及び細胞膜への移行を亢進する(HGF accelerates the serine44-phosphorylation and cell surface translocation of ROMK channel in rat kidney cells).第 88 回日本薬理学会 (名古屋)2015.3.
- 1446) Iino T, Furuno T, Hagiyama M, Ito A, Hosokawa Y: Mechanical response of single nerve cells estimated by femtosecond laser-induced impulsive force.SPIE Photonics West(San Francisco, America)2015.2.
- 1447) 加藤貴史、崎山亮一、岡 清正、伊藤彰彦、中村敏一:HGF 誘導活性に関与するヘパリン2糖の硫酸基の同定.第87回日本生化学会(京都)2014.10.
- 1448) 伊東 剛、永田政義、河合剛人、丸山智子、櫻井(八下田)美佳、伊藤彰彦、後藤明輝、松原大祐、村上義則:遺伝子欠損マウスを用いた CADM1 の肺腫瘍抑制における役割の解明。(Analysis of the role of CADM1 in suppression of lung cancer using Cadm1-deficient mice.)第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜)2014.9.
- 1449) 加藤貴史、伊藤彰彦:三次元培養下での肺腺腫瘍様構造の構築。(Lung adenomatous tumor-like construction in three-dimensional culture.) 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜)2014.9.
- 1450) 萩山 満、伊藤彰彦:アクチン結合性アダプター蛋白 α -parvin は偽足突起構成要素であり、小葉乳癌のリンパ節転移に関与する.第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜)2014.9.
- 1451) 見前隆洋、伊藤彰彦、萩山 満、中西 淳、細川陽一郎、岡田守人、村上善則、近藤格:偽足突起における新技術レーザープロテオミクス-エキシマレーザーと 2 次元電気泳動を用いて.第 10 回日本臨床プロテオーム研究会(東京)2014.5.
- 1452) 木村雅友、榎木英介、筑後孝章、前西 修、伊藤彰彦:病理組織実習中の学生によるスマートフォン内臓デジタルカメラを使った顕微鏡画像撮影.第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 1453) 米重あづさ、萩山 満、伊藤彰彦:肺気腫の新規発症機序:接着分子 CADM1の酵素的切断亢進による肺胞上皮アポトーシスの亢進.第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 1454) 橋本重夫、門田永治、土手健作、伊藤彰彦:複数の剖検従事者への結核菌感染源と推定された上行結腸・直腸多発癌術後の一部検例.第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 1455) 井上敬夫、萩山 満、榎木英介、伊藤彰彦:骨芽細胞の新規接着分子 CADM1 は骨肉腫の診断マーカーとして有用である.第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 1456) 萩山 満、井上敬夫、米重あづさ、伊藤彰彦:マスト細胞における接着分子 CADM1の発現上昇:アトピー性皮膚炎のストレス感受性への関与.第 103 回日本病理学会総会 (広島)2014.4.
- 1457) 岡田 斉 KDM4B/JMJD2B 欠損は肥満を誘導する 第 87 回日本生化学会(京都)2014.10.
- 1458) 濱崎真一、丹羽 淳子、小堀 宅郎、西堀正洋、高橋英夫: HMGB1 によるヒスタミン誘導性免疫応答調節効果 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山)2014. 6.
- 1459) 丹羽 淳子、赤星保光、堀内喜高、濱崎真一、小堀 宅郎、西堀正洋、高橋英夫:自発運動は脳卒中後の視床下部神経再生を促進する 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山)2014. 6.

<研究成果の公開状況>(上記以外)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

毎年度の研究業績はホームページに掲載している

(<https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/project/strategy-foundation/>)。

その他、各グループの成果の一部は研究室ごとにホームページ上に公開されている。

<既に実施しているもの>

<平成 26 年度>

○キックオフシンポジウム

日時:2015 年 3 月 24 日(火)13:00～16:30

会場:近畿大学 B 館多目的利用室

演者:Dr. Dieter Wolf(Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute)

Dr. Toru Nakano (Osaka University)

Dr. Kazuto Nishio (Kindai University)

Dr. Reiko Sugiura (Kindai University)

○平成 26 年度「研究報告会」

日時:2015 年 3 月 31 日(火)13:00～18:00

会場:近畿大学 39 号館 5 階 501 演習室

<平成 27 年度>

○第1回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2015 年 7 月 11 日(土)15:00～16:30

会場:近畿大学 39 号館 3 階 302 講義室

演者:塚原 克平 博士(エーザイ株式会社)

○第2回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2015 年 9 月 26 日(土)16:30～18:00

会場:近畿大学 39 号館 4 階 403 演習室

演者:川田 学 博士(微生物化学研究所)

○第3回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2015 年 11 月 27 日(金)13:10～14:40

会場:近畿大学 39 号館 2 階 201 講義室

演者:中村 義一 博士(東京大学、株式会社リボミック)

○第1回 未来創薬医療イノベーションシンポジウム「RNA と癌研究が拓く生命科学の最前線」

日時:2015 年 11 月 30 日(月)13:00～17:30

会場:近畿大学 39 号館 2 階 202 講義室

特別講演:沖縄科学技術大学院大学 山本 雅 教授

若手口頭発表:近畿大学薬学部医療薬学科 坪田 真帆 助教

近畿大学薬学部医療薬学科 松尾 一彦 助教

近畿大学薬学部創薬科学科 佐藤 亮介 助教

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

近畿大学薬学部医療薬学科 深尾 亜喜良 助教
 ポスター発表:近畿大学薬学部医療薬学科 川瀬 篤史 講師
 近畿大学薬学部創薬科学科 窪内 康二
 近畿大学薬学部医療薬学科 藤里 駿
 近畿大学薬学部医療薬学科 小山 篤
 近畿大学薬学部創薬科学科 新谷 昂
 近畿大学薬学部創薬科学科 田中 護
 近畿大学薬学部医療薬学科 木野 稔己
 近畿大学薬学部医療薬学科 上谷 夏生
 近畿大学薬学部創薬科学科 難波 佑輔
 近畿大学薬学部創薬科学科 小池 史華
 近畿大学薬学部創薬科学科 木村 悠介
 近畿大学薬学総合研究所 百合 祐樹
 京都大学大学院医学研究科 貞廣 暁利
 名古屋市立大学大学院薬学研究科 大塚 衆志

○第4回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2016年3月24日(木)14:00~15:30

会場:近畿大学 39号館 5階 501 講義室

演者:Gerald Zamponi 博士(University of Calgary)

〈平成 28 年度〉

○生化学研究室主催オープンセミナー(本事業共催)

日時:2016年6月24日(金)16:00~17:30

演者:Kent Duncan 博士(Center for Molecular Neurobiology Hamburg)

○第5回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2016年7月12日(火)16:30~17:30

会場:近畿大学 39号館 4階 403 演習室

演者:吉田 優 博士(神戸大学 大学院医学研究科)

○生涯教育研修会(一般公開)

日時:2016年10月1日(土)15:00~18:00

演者:杉浦 麗子 博士(近畿大学 薬学部 教授)15:00~16:30

西尾 和人 博士(近畿大学 薬学部 教授)16:30~18:00

○第12回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス & 革新がんゲノム国際シンポジウム(成果発表会を兼ねる)

日時:2016年10月27日(木)~30日(日)

会場:近畿大学 11月ホール 大ホール

演者:Michel Tremblay 博士(McGill 大学)

佐谷 秀行 博士(慶應義塾大学)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

Mathieu Bollen (*University of Leuven, Belgium*)

Martha Cyert (*Stanford University*)

David Brautigam (*University of Virginia*) 他

○第 36 回高松宮妃癌研究基金国際講演会

日時:2016 年 12 月 6 日(火)

会場:近畿大学 東大阪キャンパス

演者:Dr. Tak W Mak

〈平成 29 年度〉

○第6回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2017 年 6 月 17 日(土)15:00~16:30

会場:近畿大学 39 号館 401 演習室

演者:金井 昭夫 博士(慶應義塾大学 教授)

○大学院特別講義(本事業共催)

日時:2017 年 5 月 26 日(金) 13:15~14:45

会場:近畿大学 39 号館 5 階 501 演習室

演者:久米龍一 博士 (塩野義製薬株式会社 上席執行役員 医薬事業本部長)

○第 29 回 日本癌学会市民公開講座

「がんゲノム解析に基づくプレジジョンメディシン(精密医療)の実装」

日時:2017 年 6 月 5 日

○平成 29 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」関係者会議

日時:2017 年 6 月 30 日(金)

会場:近畿大学 39 号館一階会議室

○大学院特別講義(本事業共催)

日時:2017 年 7 月 1 日(土)13:30~15:00

場所:近畿大学 39 号館 202 講義室

演者:服部 光治先生(名古屋市立大学 教授)

○第7回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2017 年 7 月 4 日(火)16:45~18:15

会場:近畿大学 39 号館 501 演習室

演者:Vincent Keng 博士(The Hong Kong Polytechnic University, Assistant Professor)

○創薬科学選択セミナー(本事業共催)

日時:2017 年 7 月 14 日(金)13:15~14:45

場所:近畿大学 39 号館 301 講義室

演者:相良 暁 様(小野薬品工業株式会社 代表取締役社長)

○第8回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2017 年 7 月 24 日(月)13:15~14:45

会場:近畿大学 39 号館 4 階 403 教室

演者:Dr. Tuan Trang(カナダ、カルガリー大学、獣医学部・医学部)

○オープンセミナー(本事業共催)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

日時:2017年8月5日(土) 13:00~14:30
 会場:近畿大学 38号館 9階 第2講義室
 演者:Kyungsoo Oh 先生 (Chung-Ang University)

○大学院特別講義(本事業共催)
 日時:2017年10月7日(土) 15:00~16:30
 会場:近畿大学 39号館 5階 502講義室
 演者:富永 真琴 博士(岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授)

○オープンセミナー(本事業共催)
 日時:2017年11月20日(月) 17:00~18:30
 会場:39号館 201演習室
 演者:Kent Duncan 博士(Center for Molecular Neurobiology Hamburg)

○オープンセミナー(本事業共催)
 日時:2017年11月22日(水) 15:30~(約90分を予定)
 会場:38号館 9階 第2講義室
 演者:森本 功治 先生 (立命館大学薬学部)

○大学院特別講義(本事業共催)
 日時:2017年11月25日(土) 13:15~14:45
 会場:39号館 5階 501講義室、
 演者:野口 耕司先生 (慶應義塾大学 准教授)

○オープンセミナー(本事業共催)
 日時:2017年12月19日(火) 17:00~18:00
 会場:39号館 5階 501演習室
 演者:浅野 桂 博士(カンザス州立大学 生物学科 教授)

○大学院特別講義(本事業共催)
 日時:2017年12月9日(土) 15:00~16:30
 会場:近畿大学 39号館 4階 401教室
 演者:玉井 郁巳 博士(金沢大学 教授)

○オープンセミナー(本事業共催)
 日時:2018年1月25日(木) 17:00~18:00
 会場:近畿大学 39号館 4階 401演習室
 演者:Chen Ee Sin 博士(National University of Singapore)

〈平成30年度〉

○オープンセミナー(本事業共催)
 日時:2018年5月19日(土) 11:00~12:00
 会場:39号館 5階 502教室
 演者:Dr. Guzel Sitdikova(ロシア、カザン大学)

○第9回 未来創薬医療イノベーションセミナー
 日時:2018年6月22日(金) 13:15~14:45
 会場:近畿大学 39号館 402演習室
 演者:近藤 裕郷 博士(医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬デザイン研究センター長)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

○第 10 回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2018 年 6 月 29 日(金)13:15~14:45

会場:近畿大学 39 号館 402 演習室

演者:米田 悦啓 博士(医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長)

○平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」関係者会議

日時:2018 年 7 月 13 日(金) 12:20-13:00

会場:近畿大学 39 号館 1 階会議室

○オープンセミナー(本事業共催)

日時:2018 年 7 月 30 日(月) 15:00~16:30

会場:近畿大学 38 号館 9 階 第 2 講義室

演者:Dr. Utpal Bora (Tezpur University, India)

○大学院特別講義(本事業共催)

日時:2018 年 11 月 10 日(土)13:30~15:00

会場:近畿大学 39 号館 4 階 403 講義室

演者:小林 淳一 先生(北海道大学 名誉教授)

○第 11 回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2018 年 10 月 30 日(火)16:45~18:15

会場:近畿大学 39 号館 5 階 503 演習室

演者:Prof. Michael Naumann (オットー・フォン・ゲーリケ大学マクデブルク)

○NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会

「がん患者や家族への理解を広めるシンポジウム」

日時:2018 年 11 月 27 日

○大阪市民公開講座 がん医療最前線 免疫治療とゲノム医療の展望

日時:2018 年 11 月 18 日

主催:認定 NPO 法人 西日本がん研究機構(WJOG)

共催:小野薬品工業株式会社、ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社、朝日新聞社メディアビジネス局 後援:大阪府医師会、日本対がん協会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会、特定非営利活動法人 肺がん患者の会ワンステップ、肺がん医療向上委員会

○第 12 回未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:2018 年 12 月 1 日(土)16:30~17:30

会場:近畿大学 38 号館 第1講義室

演者:武藤義治博士 (ワシントン大学腎臓内科)

○日本遺伝子診療学会 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム 2018

「がんゲノム医療の提供体制」

日時:2018 年 12 月 6 日

○オープンセミナー(本事業共催)

日時:2019 年 2 月 4 日(月) 16:00~17:00

会場:近畿大学 39 号館 403 演習室

演者:Andrey L. Karamyshev 博士(Texas Tech University Health Sciences Center)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

○第2回未来創薬医療イノベーションシンポジウム『Beyond the Genome ~New Horizons for Health and Diseases』(本事業の成果報告会を兼ねる)

日時:2019年3月20日(水) 9:00~18:00

会場:近畿大学39号館

演者:

<シンポジウム>

西尾和人博士(近畿大学医学部 教授)

川畑篤史博士(近畿大学薬学部 教授)

杉浦麗子博士(近畿大学薬学部 教授)

<特別講演>

朝長毅博士(医薬基盤・健康・栄養研究所 上級研究員)

<基調講演>

Paul Ross 博士(University College Cork 教授)

<革新がんゲノム成果報告会>

中山隆志博士(近畿大学薬学部 教授)

岡田斉博士(近畿大学医学部 教授)

木下充弘(近畿大学薬学部 准教授)

山本佐知雄(近畿大学薬学部 講師)

佐藤亮介(近畿大学薬学部 助教)

深尾亜喜良(近畿大学薬学部 助教)

上田健(近畿大学医学部 講師)

神田勇輝(近畿大学薬学部 大学院生)

堂本莉紗(近畿大学薬学部 大学院生)

他、ポスター発表 44 演題

<これから実施する予定のもの>

○第23回日本がん分子標的治療学会

会長:西尾 和人

日時:2019年6月12日(水)~14日(金)

会場:大阪国際交流センター

○第18回日本臨床腫瘍学会学術集会

会長:西尾 和人

日時:2021年2月18日(木)~20日(土)

会場:国立京都国際会館

14 その他の研究成果等

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

○特許出願(計29件)

研究課題(A): 増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発 (17件)

1) 発明の名称:トランスポーターに対する抗体およびその用途

出願人:学校法人近畿大学、リンク・ジェノミクス株式会社

発明者:薬学部 益子 高、リンク・ジェノミクス 丹羽 眞一郎

番号:特願2014-520078、特許第6421371号(平成30年10月26日)、特許第9725519号(米国)

2) 発明の名称:コラーゲン産生の促進を特徴とする組成物およびリモノイド

出願人:学校法人近畿大学、株式会社ダイアベティム

発明者:村岡 修, 森川敏生, 二宮清文

番号:特願2017-35192、特開2018-140947

3) 発明の名称:アポトーシス誘導剤と癌治療剤

出願人:学校法人近畿大学

発明者:杉浦麗子、田邊元三、佐藤亮介、高崎輝恒

番号:特願 2017-216740

4) 発明の名称:好中球活性化に起因する疾患の治療薬、治療方法及び検査方法

出願人:国立大学法人 岡山大学

発明者:西堀正洋、高橋英夫、森秀治、和気秀徳、劉克約、友野靖子、勅使河原匡、坂口政清

番号:特許第6227601号(平成29年10月20日)、特許第904731号(米国:平成28年11月29日)

5) 発明の名称:カンカニクジュヨウから得られる抗糖尿病剤, ヒト又は動物用医薬および機能性食品

出願人:学校法人近畿大学、株式会社ダイアベティム

発明者:村岡 修, 森川敏生, 二宮清文

番号:特願2012-237309、特開2014-84319(平成26年5月12日)、特許第6151003号(平成29年6月2日)

6) 発明の名称:好中球活性化に起因する疾患の治療薬、治療方法および検査方法

発明者:西堀正洋、森秀治、和気秀徳、高橋英夫、劉克約、勅使川原匡、坂口政清

番号:特許第5467313号(国内:平成27年9月18日) 特許第904731号(米国:平成28年11月29日)

7) 発明の名称:抗腫瘍剤

出願人:学校法人近畿大学、リンク・ジェノミクス株式会社、学校法人慶應義塾大学

発明者:益子 高、丹羽眞一郎、進藤孝之、押野太智、佐谷秀行、永野修、石本崇胤

番号:特願 2011-005311(平成23年1月13日)、特許第6041333号(平成28年11月18日)

8) 発明の名称:ニホンスイセンの花部より得られるメラニン産生抑制剤

出願人:学校法人近畿大学、株式会社ダイアベティム

発明者:村岡 修, 森川敏生, 二宮清文

番号:特願2015-19578、特開2016-141657(平成28年8月8日)

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

9) 発明の名称: 人参果から得られる抗 TNF- α 作用剤及び肝保護作用剤, ヒト又は動物用医薬, 新規サポニン化合物及び新規ポリフェノール化合物

出願人: 学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム

発明者: 村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 二宮清文

番号: 特願2010-86612、特開2011-219370、特許第5892719号(平成 28 年3月4日)

10) 発明の名称: 大腸癌の治療用組成物と加工食品

出願人: 学校法人近畿大学

発明者: 多賀 淳, 山本 哲志

番号: 特願 2016-7575(P2016-7575)、特開 2016-135781(P2016-135781A)

11) 発明の名称: アッサムチャ花部から得られる脂肪分解阻害剤及び胃がん細胞増殖抑制剤, 並びに新規サポニン化合物

出願人: 学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム

発明者: 吉川雅之, 村岡 修, 松田久司, 中村誠宏, 森川敏生, 二宮清文

番号: 特願2014-028679、特開2015-151387(平成 27 年 8 月 24 日)

12) 発明の名称: デイジーから得られる中性脂質吸収抑制剤及びサポニン化合物並びにその用途

出願人: 学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム

発明者: 村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 松田久司

番号: 特願2008-08146、特開2009-234962、特許第5675034号(平成 27 年 1 月 9 日)

13) 発明の名称: NIK 阻害剤

出願人: 学校法人 近畿大学

発明者: 西田升三、椿 正寛、武田朋也

番号: 特願 2015-150702

14) 名称: 大腸癌の治療用組成物

出願人: 学校法人近畿大学

発明者: 多賀淳、山本哲志

番号: 特願 2015-007704

15) 発明の名称: 脂肪代謝改善剤, 該脂肪代謝改善剤を含有する医薬又は食品, 並びに新規フラボノイド化合物

出願人: 学校法人近畿大学, 株式会社ダイアベティム

発明者: 村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 二宮清文

番号: 特願2009-204012、特開2011-51950、特許第5620660号(平成 26 年 9 月 26 日)

16) 発明の名称: 垂盆草から得られる脂肪代謝改善剤, 該脂肪代謝改善剤を含有する医薬又は食品, 並びに垂盆草から得られる新規メガスチグマン及びフラボノイド化合物

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

出願人:学校法人近畿大学, 株式会社栄進商事
 発明者:村岡 修, 吉川雅之, 森川敏生, 二宮清文
 番号:特願2008-50450、特開2009-209045、特許第5620629号(平成 26 年 9 月 24 日)

17) 発明の名称:アテローム動脈硬化抑制剤
 出願人:国立大学法人 岡山大学
 発明者:西堀正洋、高橋英夫、森秀治、友野靖子、和気秀徳
 番号:特許第 5467313 号(平成 26 年 2 月 7 日)

研究課題(B): 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析 (6件)

18) 発明の名称:抗癌剤に起因する末梢神経障害性疼痛の予防及び/又は治療剤
 出願人:学校法人近畿大学、旭化成ファーマ株式会社
 発明者:川畑篤史、鈴木秀明
 番号:特許第 6427284 号(平成 30 年 11 月 2 日)

19) 発明の名称:T型カルシウムチャネル阻害剤
 出願人:学校法人近畿大学、扶桑薬品工業株式会社
 発明者:川畑篤史、松田秀秋
 番号:特許第 6393680 号(平成 30 年 8 月 31 日)

20) 発明の名称:糖鎖解析方法、糖鎖解析システム、糖鎖解析用プログラム、及び糖鎖解析用キット
 出願人:学校法人近畿大学、株式会社島津製作所
 発明者:木下充弘
 番号:特願 2018-035033

21) 発明の名称:外傷性神経障害治療剤
 出願人:国立大学法人 岡山大学
 発明者:西堀正洋、森秀治、高橋英夫、和気秀徳、友野靖子、大熊佑、伊達勲、劉克約
 番号:特許 6154135 号(平成 29 年 6 月 9 日)

22) 発明の名称: RAGE と AGE の結合抑制剤のスクリーニング方法
 出願人:国立大学法人 岡山大学
 発明者:西堀正洋、高橋英夫、森秀治、和気秀徳、劉克約
 番号:特許第 5904945 号(平成 28 年 3 月 25 日)

23) 発明の名称:大腸癌マーカー
 出願人:学校法人近畿大学、日本医科大学
 発明者:多賀淳、山本哲志、工藤光洋、内藤善哉
 番号:特願 2016-088419

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

研究課題(C):臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズのPOC (6件)

24) 発明の名称:慢性腎臓病罹患の可能性の判定方法およびリンパ球浸潤スコアを判定する方法

発明者 伊藤彰彦・高島康利・有馬秀二

番号:特願 2018-077535

25) 発明の名称:慢性骨髄性白血病の治療用組成物

出願人:学校法人 近畿大学

発明者:西田升三、椿 正寛、武田朋也、西尾和人、中山隆志、坂井和子、駒居真紀子、小野優里、深松真衣

番号:特願 2014-202529、特開:2016-069348

26) 発明の名称:METHOD USING A RET FUSION GENE AS A BIOMARKER TO SELECT NON-SMALL CELL LUNG CANCER (NSCLC) AND THYROID CANCER PATIENTS FOR A CANCER TREATMENT EP:15198473.9

出願人: ベーリンガーインゲルハイムインターナショナルGmbH、学校法人近畿大学

発明者: 西尾和人、中川和彦、武田真幸、坂井和子、岡本邦男、林 秀敏、田中 薫、清水俊雄

番号:特開 2016-069348

27) 発明の名称:がん治療のための併用療法としてのエリブリンとS-1(もしくは5-FU)の使用

出願人:エーザイ・アール・アンド・ディー・マネジメント株式会社、学校法人近畿大学

発明者:西尾和人、寺嶋雅人、坂井和子

番号:特開2016-8215(P2016-8215A)

28) 発明の名称:FGF4遺伝子増幅腫瘍の医薬組成物

出願人:住友ベークライト株式会社、学校法人近畿大学

発明者: 西尾和人、荒尾徳三、松本和子、福島雅夫

番号:特開 WO2015049985 A1

29) 発明の名称:培養装置及び該培養装置を用いた細胞培養法

出願人:学校法人近畿大学

発明者:伊藤彰彦

番号:特願2015-87897号

○企業との連携 (22件)

- 1) 株式会社島津製作所: Microchip lectin affinity electrophoresis (MLAE)法の開発
- 2) 株式会社ピエラス: 抗加齢に資する食品の開発研究 (ピエラス)
- 3) 株式会社ピエラス: 抗がん抗体医薬品の開発研究 (ピエラス)
- 4) 株式会社日立ハイテクノロジーズ: ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 5) Eli Lilly and Company: ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 6) Thermo Fisher Scientific: ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 7) Boehringer Ingelheim: ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

- 8) 大塚製薬：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 9) 第一三共株式会社：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 10) 東レ株式会社：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 11) アステラス製薬：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 12) QIAGEN：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 13) ロッシュダイアグノスティクス社：ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究
- 14) AstraZeneca 社：EGFR T790M 陽性進行 NSCLC 患者におけるオシメルチニブの有効性を評価するための第 II 相試験
- 15) 第一三共株式会社：anti-human LAT-1 抗体のカニクイザルの LAT-1 への種交差性の検討
- 16) JSR 株式会社：抗体ビーズ(CD44v9 キャプチャービーズ)の評価
- 17) 田辺三菱製薬株式会社：CD98 と IL-32 の相互作用および機能解析
- 18) 第一三共株式会社：新規の抗 LAT1 抗体の取得
- 19) 第一三共株式会社：Patritumab のアフィニティーに及ぼす抗 HER1 または抗 HER2 の影響
- 20) ナットーファーム株式会社：「納豆菌酵素発酵エキスと米乳酸菌発酵エキス【純・酵】じゅん・もと」の製品化
- 21) 扶桑薬品工業株式会社：T 型カルシウムチャンネル阻害剤の開発
- 22) 旭化成ファーマ株式会社：化学療法誘発性末梢神経障害の予防薬・治療薬の開発

○報道等 (計 35 件)

研究課題(A)：増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法探索・開発 (13件)

TV・新聞報道、雑誌取材

- 1) *NHK ニュース 2017 年 5 月 9 日：「がん細胞の増殖抑える薬剤 開発」 杉浦麗子教授
- 2) *四国新聞 2017 年 5 月 11 日：「皮膚がん抑制物質発見 近畿大」 杉浦麗子教授
- 3) *読売新聞・夕刊 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がんメラノーマ抑制 近大チーム、化合物を発見」 杉浦麗子教授
- 4) *産経新聞・夕刊 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん抑制物質発見 近大、新薬開発に可能性」
- 5) *朝日新聞 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がんの一種メラノーマ撃退、近畿大が化合物発見 薬開発に期待」 杉浦麗子教授
- 6) *日本経済新聞 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん増殖抑制、新化合物 近大が発見」 杉浦麗子教授
- 7) *愛媛新聞 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん抑制 化合物を発見、近畿大チーム」 杉浦麗子教授
- 8) *東奥日報社 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん抑制物質発見 近畿大チーム、新薬開発に期待」
- 9) *日刊工業新聞 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん増殖阻害、化合物 近畿大が発見」 杉浦麗子教授
- 10) *共同通信ニュース 2017 年 5 月 10 日：「皮膚がん抑制物質、近畿大―新薬開発に期待」 杉浦麗子教授
- 11) 日経産業新聞 2016 年 10 月 18 日：「がん研究最前線 免疫活性化するワクチン」 益子高教授 2017
- 12) 日経産業新聞 2015 年 11 月 5 日：「がん研究最前線 免疫薬の効果高める」 益子高教授
- 13) Newton (別冊ニュートンムック) 2015 年 8 月 15 日発行：「がんに挑む！治療・創薬の最前線」 杉浦麗子 他

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

研究課題(B): 癌・増殖シグナル制御メカニズム解析 (6件)

TV・新聞報道、雑誌取材

- 14) NHK ニュース 2018年5月25日: 「ストレスと脱毛症 因果関係薄い？」 川崎直人教授
- 15) *静岡新聞 2016年1月18日: 「酵素働き弱め、がん転移抑制」 杉浦麗子教授
- 16) *日経産業新聞 2016年1月14日: 「がん転移 酵素狙い防ぐ 近大など、マウスで成功」 杉浦麗子教授
- 17) *日刊工業新聞 2016年1月12日: 「酵素「PKN3」がん転移に関与 近畿大発見」 杉浦麗子教授
- 18) *読売新聞 2016年1月9日: 「特定酵素なくせばがん転移抑制 近大チーム、マウス実験で」 杉浦麗子教授
- 19) *共同通信、時事通信 2016年1月8日: 「酵素狙い、がん転移抑制 マウスで成功、薬剤開発に道」 杉浦麗子教授

研究課題(C): 臨床腫瘍検体を用いた個別化医療と創薬シーズのPOC (16件)

新聞報道、雑誌取材

- 20) AERA 2019年2月11日号: 「10ccの血液ががん治療を変える? 「リキッドバイオプシー」とは」 西尾和人教授
- 21) AERA 2019年2月7日号: 「切らなくても血液からわかる」 西尾和人教授
- 22) 朝日新聞 2018年12月17日: 「がん医療最前線—免疫治療とゲノム医療の展望 大阪市民公開講座(認定NPO 法人西日本がん研究機構)」 西尾和人教授
- 23) 朝日新聞 2018年12月14日: 「がん新医療 来春保険適用」 西尾和人教授
- 24) 日経バイオテック 2018年11月21日: 「患者負担軽減が普及のカギ、近大西尾氏、標準治療の固形癌へのパネル検査提供には課題」 西尾和人教授
- 25) 日経メディカル: 「ドライバーがん遺伝子変異時代のがん診療を展望する」 西尾和人教授
- 26) 日経産業新聞 2018年6月8日: 科学記者の目 「がんゲノム医療」 西尾和人教授
- 27) 毎日新聞 2018年6月4日: 「がんゲノム医療草創期」 西尾和人教授
- 28) 産経新聞など 2018年5月25日: 「ストレスと脱毛症 因果関係薄い？」 川崎直人教授
- 29) 日経バイオテック 2018年4月1日: 「癌ゲノム医療をカバーする保険開発の布石」 西尾和人教授
- 30) 四国新聞、日本海新聞 福島民友 静岡新聞、西日本新聞、岩手日報 2018年3月30-31日: 「がんゲノム期待と不安」 西尾和人教授
- 31) 日本経済新聞 2018年3月11日: がん治療解体新書(3)「がん遺伝子検査 保険対象どこまで認める」 西尾和人教授
- 32) 日経産業新聞 2018年3月7日: がん治療解体新書「近大クリニカルシーケンスとわが国のがん遺伝子パネル検査の実装に向けての課題について」 西尾和人教授
- 33) 朝日新聞2018年2月14日: 「がんゲノム1分で知る クリニカルシーケンスラリーについて」 西尾和人教授
- 34) オンコロ 2017年5月17日: 【集中連載】「がん治療の革命?! プレジジョン・メディシン⑤」 3学会合同で進む遺伝子解析の標準化」 西尾和人教授
- 35) オンコロ 2017年5月10日: 【集中連載】「がん治療の革命?! 「近畿大クリニカルシーケンス」が実践する “早い” “安い” 遺伝子解析」 西尾和人教授

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

○受賞等

<教員 (15 件)>

平成 31 年度物理系薬学部会奨励賞

山本 佐知雄

平成 30 年度日本生薬学会学術貢献賞

森川 敏生

第 31 回バイオメディカル分析科学シンポジウム、星野賞 研究奨励賞受賞

山本 佐知雄

3rd Regional IWA Diffuse Pollution Conference (Thailand) Poster Presentation Award

緒方 文彦

第 18 回日本抗加齢医学会総会 優秀演題賞

川崎 直人

神戸大学 Outstanding Researcher Award

杉浦 麗子

平成 29 年度日本薬学会近畿支部奨励賞

椿 正寛

佐藤 亮介

サラシア属植物普及協会会長賞

中村 真也

日本化学会情報化学部会論文賞

中村 真也

平成 28 年度 日本生薬学会論文賞

森川 敏生

日本水環境学会・関西支部第10回奨励賞

緒方 文彦

日本薬学会 環境・衛生部会賞・金原賞

緒方 文彦

日本膵臓病研究財団 平成26年度膵臓病研究奨励賞

山本 哲志

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

The 8th JSP-CCTCNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (Fukuoka, Japan)

Best Poster Award

二宮 清文

<学生 (55 件)>

第 134 回日本薬理学会近畿部会 (2018 年 11 月)

林 佑亮 優秀発表賞

第 68 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (2018 年 10 月)

田畑 光希 優秀ポスター賞

西尾 政輝 優秀ポスター賞

松本 和樹 優秀ポスター賞

生体機能と創薬シンポジウム 2018 (2018 年 8 月)

堂本 莉紗 ポスター優秀発表賞

第 20 回日本 RNA 学会年会 (2018 年 7 月)

坂村 由梨佳 ベストプレゼンテーション賞 ポスター賞

石田 一希 ベストプレゼンテーション賞 ポスター賞

第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (2017 年 10 月)

廣井 遥 優秀ポスター賞

菅野 裕也 優秀ポスター賞

伊藤 麻祐 優秀ポスター賞

河本 雄一 優秀ポスター賞

友成 佳加 優秀ポスター賞

第 30 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (2017 年 8 月)

松本 和樹 学生優秀発表賞

第 21 回日本がん分子標的学会学術総会 (2017 年 6 月)

浅野 良太 優秀ポスター賞

生体機能と創薬シンポジウム 2017 (2017 年 8 月)

林佑 亮 ポスター優秀発表賞

第 131 回日本薬理学会近畿部会 (2017 年 6 月)

宮崎 貴也 学生優秀発表賞

第 19 回日本 RNA 学会年会 (2017 年 7 月)

坂村 由梨佳 ベストプレゼンテーション賞 優秀賞

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (2017 年 10 月)

小林 悠平 優秀ポスター賞

第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (2016 年 10 月)

今宮 彰良 ポスター賞

第 12 回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス(ICPP12) 戦略研究「革新がんゲノム」 (2016 年 10 月)

木野 稔己 優秀ショートトーク賞

池田 智里 優秀ポスター賞

稲荷 正大 優秀ポスター賞

山本 真也 優秀ポスター賞

堂本 莉紗 優秀ポスター賞

友成 佳加 優秀ポスター賞

上田 詩歩 優秀ポスター賞

第 10 回日本薬局学会学術総会 (2016 年 10 月)

永田 真穂 ポスター優秀演題賞

倉橋 真弓 ポスター優秀演題賞

木野 稔己 ポスター優秀演題賞

今宮 彰良 ポスター優秀演題賞

山田 祐毅 ポスター優秀演題賞

後藤 ありさ ポスター優秀演題賞

第 129 回日本薬理学会近畿部会 (2016 年 6 月)

松井和樹 学生優秀発表賞

日本薬学会 136 年会 (2016 年 4 月)

川端 史花 優秀ポスター賞

河端 千尋 優秀ポスター賞

第 65 回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (2015 年 10 月)

山岡 桜 優秀ポスター賞

谷口 祐紀 優秀ポスター賞

中島 佑香 優秀ポスター賞

長谷川 裕太 優秀ポスター賞

第 6 回生命機能研究会 優秀ポスター発表賞 (2015 年 9 月)

久保 嘉一 優秀ポスター賞

百合 祐樹 優秀ポスター賞

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2015 (2015 年 8 月)

堂本 莉紗 最優秀ポスター発表賞

生体機能と創薬シンポジウム 2015 (2015 年 8 月)

富田 詩織 優秀ポスター発表賞

近畿大学薬学部サイエンスネットワーク第 5 回院生サミット (2015 年 7 月)

富田 詩織 口頭発表賞

小森 悠平 優秀ポスター賞(126 演題中 2 位)

小山 篤 優秀ポスター賞(126 演題中 6 位)

日本薬学会 135 年会 (2015 年 4 月)

浅野 絵莉茄 優秀ポスター賞

久保 嘉一 優秀ポスター賞

第 64 回日本薬学会近畿支部総会 (2014 年 10 月)

曾根 千晶 ポスター賞

山田 翼 ポスター賞

竹田 悠人 ポスター賞

第 126 回日本薬理学会近畿部会 (2014 年 10 月)

山嵜 大智 優秀発表賞

ガス状情報伝達物質の生理と病態生理に関する国際会議 (2014 年 9 月)

尾崎 友香 優秀発表賞(準優勝)

第 31 回和漢医薬学会学術大会 (2014 年 8 月)

尾関 快天 優秀発表賞

上村 健太郎 優秀発表賞

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

抗がん剤の研究は、細胞増殖だけでなく、幹細胞や免疫的な方向にも進んでいることを認識しつつ、研究基盤を形成していただきたい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

対応策 1: 「幹細胞と増殖、分化シグナル・がん化の関わり、さらに代謝制御」について解析を行えるように研究体制を編成した。そのため、新たに赴任した岡田斉教授(医学部)がプロジェクトに参画し、研究課題 B,C に関わる研究テーマの推進を行った。岡田教授は、エピジェネティクスとがん化制御機構の関わりについて、幹細胞、マウス個体を用いて解析を進めている。

成果: 岡田教授は着任後、がん抑制遺伝子あるいはがん促進遺伝子と報告されているエピジェネティクス制御因子の中でヒストン脱メチル化酵素 KDM6A に着目し、これらの遺伝子が癌化制御に加えどの様な機序で代謝経路を制御し、それらががん細胞メタボリズムのリプログラミングにどの様に寄与するかを個体レベルで解析している。既に現在までに、腎臓癌や多発性骨髄腫など複数の癌における遺伝子変異の報告がある KDM6A 欠損幹細胞を作成・解析し、癌抑制遺伝子であるヒストン脱メチル化酵素 KDM6A がどの様に間葉系幹細胞の分化誘導時の代謝を制御するのかを明らかにし、その分子機序を含めて報告している。さらに、KDM6A は代謝制御の中心的役割を果たすことが明らかとなり、KDM6A によるがん細胞の代謝リプログラミング制御過程を理解する上で意義のある発見である(*論文 244)。また、乳がん、前立腺癌等でがん促進遺伝子として機能する KDM4B の個体レベルでの不活性化により代謝が抑制されることを見出すなど(第 87 回日本生化学学会、第 74 回日本癌学会学術総会コアシンポジウム)、めざましい成果をあげつつある。これら一連の報告はがん代謝制御、癌幹細胞機能とエピジェネティクスとの密接な関連を強く示唆するものである。

対応策 2: 薬学総合研究所の森山准教授の研究エフォートとして、幹細胞を用いた分化制御機構の解析と代謝の関わりに、よりフォーカスするように采配した。

成果: がん幹細胞が維持生存する典型的な体内環境である低酸素環境下において、ゲフィチニブ抵抗性肺がん幹細胞が IGF1R pathway を介して増加する機構を解明した。さらにそのメカニズムの解析を進め、がん幹細胞の生存に関わる OCT4 がゲフィチニブ抵抗性を示す肺がん幹細胞の維持に中心的な役割を果たしていることを突き止めた>(*論文 285,339)

さらに、がん(幹)細胞と同等な酸素環境領域と類似した環境にて存在する間葉系幹細胞が、低酸素状態で Notch シグナルを活性化していることを見だし、通常酸素培養状態より低酸素培養では、Notch シグナル依存的にグルコース消費量および乳酸産生量が顕著に増加していることを明らかにした(*論文 338)。これらの成果は癌幹細胞と代謝に関する OCT4 や Notch の役割を明らかにすると同時に、OCT4 の発現や機能制御を行うことが、抗がん剤耐性がん細胞への創薬ターゲットとなりうること、転移性の高いがん幹細胞の効果的な治療法の開発に有効であることを示唆している。

対応策 3: 薬学部中山教授の研究課題である「ケモカイン系を標的とした新規がん免疫療法の開発」は、免疫とがん増殖さらには、これらを標的としたがん治療法の創製に貢献するものである。ケモカインは免疫細胞の遊走制御因子であり、腫瘍に対する免疫応答においても重要な役割を担っている。本課題では、ケモカイン系を標的として免疫細胞を制御することによって新規がん免疫療法開発のための基礎情報を集積する。

成果: 薬学総合研究所森川教授との共同研究の成果として腫瘍免疫に関わるケモカインの阻害活性を有するネオリガンの同定など、既に興味深い成果が出始めている(*論文 117)。また、ケモカイン受容体 CCR4 は免疫抑制細胞である制御性 T 細胞(Treg)の主要な遊走制御因子であり、PD-1 や CTLA-4 とともに免疫チェックポイント分子として注目されている。従って、CCR4 を標的としたがん免疫療法の確立にむけては、腫瘍免疫における CCR4 の役割について明らかにする必要がある。

そこで、医学部皮膚科との共同研究で、CCR4 欠損マウスならびに CCR4 阻害剤を用いて、皮膚腫瘍である悪性黒色腫(メラノーマ)に対する腫瘍免疫における CCR4 の役割について検討した。その結果、CCR4 欠

法人番号	271017
プロジェクト番号	S1411037

損マウス (CCR4-KO)では WT よりメラノーマの腫瘍増殖が速いことが判明した。これらの結果は、CCR4 が腫瘍免疫活性化の有用な標的分子となる可能性を示している。一方、現在治験が行われている CCR4 阻害薬を用いた Treg 除去療法は、必ずしも腫瘍免疫の活性化にはつながらず、危険性を伴う可能性があることを示している (* 論文 281)。

対応策 4 薬学部益子教授らは、モノクローナル抗体探索、作成において傑出した技術を有し、数多くの特許と医薬品シーズの創製に成功している。今回その方向性として免疫チェックポイント分子阻害により、抗がん作用を発揮できる抗体医薬品、あるいは従来の化合物の抗がん作用を増強できるような抗体医薬品の創製に取り組んでいる。また、全く新しい免疫チェックポイント分子標的として ADORA2A モノクローナル抗体の作成にも取り組んでいる。

成果: 抗 PD-1 mAb オブジーボの免疫チェックポイント阻害による制癌効果が注目されるが、益子らの研究室でも、PD-1 阻害が抗癌モノクローナル抗体の ADCC 活性を増強することを報告した。また、次世代の免疫チェックポイント分子 ADORA2A を認識する mAb 作製にも着手している。学会活動、新聞報道など、インパクトある成果が生み出されつつある。

学会 第 74 回日本癌学会学術集会(横浜)2015 年 10 月 8~10 日

1) Augmented anti-cancer therapeutic effect using antibodies to multiple target molecules with immune checkpoint blockade. Anti-tumor cytotoxic T cell response evoked by MHC class 1-restricted LAT1 peptides.

「複数標的分子に対する抗体と免疫チェックポイント分子阻害による治療効果の増強」 Subaru Shintani, Kazuma Terashima, Mamoru Tanaka, Hideki Yagi, Takashi Masuko

2) Analysis and immunization of cells and exosomes expressing GFP-fused ADORA2A.

Shiho Ueda, Kazuki Imai, Takuya Imaida, Akio Ohta, Takashi Masuko

新聞報道: 日経産業新聞 2015 年 11 月 5 日 がん研究最前線 免疫薬の効果高める

対応策 5 薬学部杉浦らは、免疫抑制薬として開発・臨床応用されている FTY720 および Rapamycin の抗がん作用に着目し、FTY720 と Rapamycin を介する増殖制御メカニズムと免疫応答のクロストーク制御の解析を開始した。

成果: ケミカルゲノミクス的手法を用いて FTY720 が ROS の産生を介してストレス応答 MAPK シグナルを活性化すること、さらに Rapamycin の抗癌作用を増強する遺伝子群を網羅的に同定し、Rapamycin と合成致死戦略の基盤を確立した。さらに、薬学部藤原教授らとの共同研究で、Rapamycin/TORC の作用経路の一つである翻訳制御に働く化合物の探索を開始した。(* 論文 290, 320)

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	271017A01
プロジェクト番号	S1411037

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	83,420	31,952	51,468				
	研究費	39,217	25,182	14,035				
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	46,312	32,507	13,805				
平成 28 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	53,152	39,831	13,321				
平成 29 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	54,086	36,797	17,289				
平成 30 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	47,994	32,269	15,725				
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	83,420	31,952	51,468	0	0	0	0
	研究費	240,761	166,586	74,175	0	0	0	0
総 計	324,181	198,538	125,643	0	0	0	0	

法人番号	271017A01
------	-----------

17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
薬学部 39号館	平成23年度	2443.4 m ²	36	##	-	-	-
薬学部 38号館	平成19年度	1607.18 m ²	11	##	-	-	-
薬学部 15号館	昭和34年度	182.5 m ²	2	33	-	-	-
医学部研究棟	昭和49年度	864 m ²	18	21	-	-	-
ゲノムセンター	平成26年度	78 m ²	2	11	-	-	-

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名 称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
MALDI-TOFMS	平成21年度	SHIMADZU 8101TECH AXIMA Resonance	1	h	73,500	36,750	私学助成
FACS Aria Special Order System	平成27年度	650036M2	1	h	86,516	43,258	私学助成
(研究設備)							
高速液体クロマトグラフ質量分析計一式	平成20年度	SHIMADZU LCMS-2010EV	1	h	19,992	13,328	私学助成
共焦点レーザー走査型顕微鏡	平成22年度	FV10C-O-SET	1	h	10,500	6,338	私学助成
StepOnePlus™ Real-Time PCR Systems	平成23年度	4376600	1	h	5,500	0	医学部経費
LSRFortessa	平成24年度	649225C3	1	h	39,716	26,477	私学助成
次世代シーケンサー Ion PGM	平成24年度	IonPGM 4462921	1	h	10,773	10,773	厚労科研
次世代シーケンサー Ion Proton	平成24年度	IonProton 4476610	1	h	21,630	0	医学部経費
ベンチトップ型フーリエ変換質量分析計システム	平成25年度	Exactive Plus	1	h	39,900	26,600	私学助成
等温滴定型熱量計(ITC)	平成25年度	NANO ITC LV	1	h	14,962	9,975	私学助成
高感度トリプル四重極質量分析計	平成26年度	TSQ Endura	1式	h	35,559	21,939	私学助成
生体分子精製・相互作用解析システム	平成26年度	Biacore・AKTA	1式	h	24,645	15,206	私学助成
タンパク質多項目同時解析システム	平成26年度	Luminex 200PONENTA 7.6 40-012J 他	1式	h	10,476	6,463	私学助成
多項目自動血球分析装置(XT-1800i)	平成26年度	XT-1800i	1式	h	12,740	7,860	私学助成
(情報処理関係設備)		該当なし					

法人番号	271017A01
------	-----------

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	25,336	メタボローム解析キット(12検体)	995	
		ヌードマウス	286	
		その他	24,055	
通 信 運 搬 費	158	機材運搬費	158	
旅 費 交 通 費	150	成果発表及び情報収集	150	
報 酬・委 託 料	454	シンポジウム講演および研究打ち合わせ謝金	454	
ソ フ ト ウ ェ ア 費	3,069	蛋白質解析ソフトウェアMASCOT	2,700	
		解析ソフト MLLPLEX Analyst 5.1(1ライセンス)	369	
会 議 会 合 費	223	シンポジウム開催費	150	
		会議費	73	
雑 支 出	139	アタマ-取得スクリーニング代	59	
		ヘアフト特注代金	77	
		その他	3	
用 品 費	827	真空制御ユニット4台	460	
		ノートパソコン5台	286	
		その他	81	
計	30,356		30,356	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	895	実験補助	893	時給950円、年間時間数940時間、実人数19人
		所定福利費	2	
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	895		895	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,738	微量分光計	1,404	
		CO2インキュベータ	756	
		その他	2,578	
図 書	0		0	
計	4,738		4,738	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,015	研究補助	2,015	学内4人
ポスト・ドクター	1,213		1,213	学内1人
研究支援推進経費	0		0	
計	3,228		3,228	学内5人

法人番号	271017A01
------	-----------

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	22,853	(試薬)FBS	420	
		mTeSR1 (容量500mL)	359	
		その他	22,074	
通 信 運 搬 費	189	機材運搬費	189	
旅 費 交 通 費	387	成果発表及び情報収集 研究打合せ	385 2	
賃 借 料	1,198	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	1,198	
保 守 費	3,690	分子間相互作用解析装置保守費	2,092	
		Luminex 200 xPONENT保守費	864	
		その他	734	
報 酬・委 託 料	400	セミナーおよび研究打合せ謝金	400	
ソ フ ト ウ ェ ア 費	3,127	マルチスタック撮影モジュールソフト	2,160	
		解析アプリケーション(BZ-X用)ソフト	702	
		その他	265	
会 議 会 合 費	19	セミナー開催費	19	
雑 支 出	1,520	タンパク質解析料	1,520	
小 修 繕 費	180	修理費	180	
用 品 費	482	ニコン対物レンズ	138	
		Orion Star A121 pHメーターキット 一式	101	
		その他	243	
計	34,045		34,045	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	289	実験補助 所定福利費	285 4	時給950円、年間時間数300時間、実人数15人
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	289		289	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,932	卓上NMRスペクトロメーター	2,992	
		CO2インキュベーター	758	
		その他	1,182	
図 書	0		0	
計	4,932		4,932	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,846	研究補助	1,846	学内2人
ポスト・ドクター	3,639	研究補助	3,639	学内1人、外国1人
研究支援推進経費	1,561	研究補助	1,561	学内2人
計	7,046		7,046	学内5人、外国1人

法人番号	271017A01
------	-----------

(千円)

年 度	平成 28 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
		教 育 研 究 経 費 支 出		
消 耗 品 費	22,212	Optima MAX用真空ポンプ(部品)	499	
		(試薬) Opt-Prime, Epithelial Culture Medium	470	
		その他	21,243	
通信運搬費	1	受託依頼試料送付料	1	
旅費交通費	266	情報収集	266	
賃借料	2,157	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	2,157	
保守費	3,066	質量分析システム保守費	2,202	
		Luminex 200 xPONENT保守費	864	
報酬・委託料	622	国際シンポジウム講演料	605	
		英文校正料	17	
ソフトウェア費	2,808	マルチスタックナビモジュール ソフト	1,728	
		タイムラプスモジュール ソフト	1,080	
会議会合費	312	国際シンポジウム開催費	312	
雑支出	2,104	動物実験解析料	810	
		組織免疫染色解析料	799	
		その他	495	
小修繕費	7	ビベットマンP-20修理費	7	
用品費	390	マルチシェーカー(シート振盪台付)	198	
		ツインアームLED	71	
		その他	121	
計	33,945		33,945	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,998	クリオスタット	2,500	
		超低温フリーザー	1,139	
		その他	1,359	
図 書	0		0	
計	4,998		4,998	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,824	研究補助	1,824	学内2人
ポスト・ドクター	3,852	研究補助	3,852	学内1人
研究支援推進経費	8,533	研究補助	8,533	学内4人
計	14,209		14,209	学内7人

法人番号	271017A01
------	-----------

(千円)

年度	平成 29 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な使途	金額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	24,905	(試薬)CoT-Prime 3D Barrier Culture Medium 500mL	358
		(試薬)FBS 500 ml	341
		その他	24,206
通信運搬費	5	研究サンプル送付に係る宅配便料	1
		その他	4
旅費交通費	770	情報収集	770
賃借料	2,050	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	2,050
保守費	3,352	質量分析システム保守費	2,202
		Luminex 200 xPONENT保守費	914
		分子間相互作用解析装置保守費	236
報酬・委託料	20	講演謝金	20
ソフトウェア費	343	IPA Limited Concurrent License+ Advanced Analytics	343
雑支出	1,547	組織免疫染色解析料	196
		動物実験解析料	162
		その他	1,189
印刷複写費	136	研究成果ハイライト集印刷代	136
小修繕費	54	ビベツマン修理代	43
		S1 Pipet Filter修理代	11
用品費	62	上皿電子天秤	62
計	33,244		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出	638	実験補助	時給950円、年間時間数672時間、実人数22人
(兼務職員)	4	所定福利費	
教育研究経費支出			
計	642		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,960		
図 書			
計	4,960		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	4,210		学内5人
ポスト・ドクター	4,072		学内1人
研究支援推進経費	6,958		学内3人
計	15,240		学内9人

法人番号	271017A01
------	-----------

(千円)

年 度	平成 30 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
		教 育 研 究 経 費 支 出		
消 耗 品 費	20,327	(試薬)hTERT-HPNE	277	
		(試薬)Y-27632	273	
		その他	19,777	
通信運搬費	8	研究試料送付に係る宅配便料	8	
旅費交通費	1,058	情報収集	1,058	
賃借料	1,947	オールインワン蛍光顕微鏡レンタル料	1,947	
保 守 費	4,558	質量分析システム保守費	2,202	
		分子間相互作用解析装置保守費	1,442	
		Luminex 200 xPONENT保守費	914	
ソフトウェア費	2,676	オールインワン蛍光顕微鏡用解析ソフトウェア	2,246	
		IPA Limited Concurrent License+ Advanced Analytics	430	
会議会合費	519	研究成果シンポジウム経費	519	
雑支出	1,075	組織免疫染色解析料	1,075	
印刷複写費	104	論文別刷代	104	
小 修 繕 費	139	微量紫外可視分光光度計修理費	130	
		リサーチV 20-200uL修理費	7	
		その他	2	
用 品 費	429	ノートパソコン	155	
		ベーンシック天秤	137	
		その他	137	
計	32,840			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	790 4	実験補助 所定福利費		時給950円、年間時間数832時間、実人数28人
教育研究経費支出 計	794			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	263			
計	263			
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	5,421			学内6人
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	8,676			学内4人
計	14,097			学内10人

<添付資料 1 : 研究者変更届>

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」研究者(変更)追加・辞退届

1 学校法人名 近畿大学 2 大学名 近畿大学

3 選定年度 平成 26 年度 4 事業番号 S1411037

5 研究組織名 薬学部/薬学総合研究所/医学部

6 研究プロジェクト名 増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する
医薬連携基盤研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属・職名
杉浦 麗子	薬学部・教授

8 プロジェクト参加研究者数 19 名

9 研究者の変更状況

	プロジェクトにおける研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトにおける役割
旧	漢方医学に学ぶ抗がん剤素材探索研究	薬学部・教授	松田秀秋	抗がん剤のリード化合物創製をめざした天然物由来エイジング素材の探索
	抗がん効果を有する有用生物の選抜と育成	薬学部・教授	角谷晃司	有用生物の選抜、育成および培養技術の開発

↓

	変更(就任)前の所属・職名	変更後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトにおける役割
新	名古屋市立大学・薬学部・教授	近畿大学・薬学部・教授	藤原俊伸	翻訳調節とがん化機構
	トロント大学医学部 生物物理学講座 Associate Professor	近畿大学・医学部・教授	岡田 斉	エピジェネティクスとがん化機構

10 変更日 平成 28 年 7 月 1 日

11 変更理由

研究計画申請当初に参画者として記載されていた研究者(松田教授)が体調不良により研究を遂行することが困難となっております。
角谷教授は現在所属する薬学総合研究所が近畿大学新棟建設に伴い、移転を繰り返すため、頻繁な引っ越しとセットアップを繰り返す状況となり研究推進に貢献することが困難な状況であると判断され、辞退されました。また、本研究プロジェクト採択時のコメントにおいて、「がんと免疫機構の関わり、ならびにがん幹細胞に関する取組み」を行うことに留意するよう通達があったため、新たに医学部と薬学部において着任し、傑出した業績を有し、かつコメントに関連する領域において研究推進可能と判断された二名の新任教授に参画いただくこといたしました。

12 変更に伴う影響及びその対応策

辞退者の研究領域に関しては、薬学総合研究所森川敏生教授が辞退者と同様に、「天然資源」を素材とした抗がんシーク探索およびリード化合物の創製、有用生物の選抜という研究課題を推進しており、十分な業績を輩出していることにより、影響は最小限にとどめられていると判断されます。また、変更に伴い新たに参画した二名の新任教授は極めてアクティブな研究活動を推進しており、研究課題の推進に著しく貢献できると判断されます。

作成担当者連絡先 : 氏名 杉浦 麗子 所属・役職 薬学部・教授 電話番号06-4307-3642

<留意事項>

1. 本変更等届は、事業選定時の構想調書に記載された参加研究者の変更(追加・辞退を含む)について作成し、提出してください。また、変更後の研究者の研究プロジェクトに関連する過去5年間の主な研究業績を添付してください(様式自由)。
2. 参加研究者の変更等はやむを得ない場合に限られます。
3. 本変更等届のタイトルにおいて、変更・追加・辞退のいずれかに○を付してください。
4. 「6 研究プロジェクト名」欄は、選定を受けた事業名を記載してください。1事業において複数の研究テーマを実施している場合は、該当するテーマ名まで記載してください。

連携組織図



近畿大学薬学部 生涯教育研修会



平成28年度講演要旨

場所：近畿大学 39号館 3階 302講義室(メイン会場)、301講義室

(本年度より開始時間を15時00分に変更しました)

トップページ

ご挨拶

プログラム

講演要旨

参加方法

認定単位について

アクセス

お問い合わせ

薬学部ホーム

第1回 9月10日(土) 15:00～18:10

テーマ：災害・救急

15:00-16:30

救急領域での薬剤師の使命

日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 岩淵 聡 先生

救急医療では、重症度や救急度の高い患者に対して高度な医療の提供が必要とされ薬剤師の積極的な関与が求められている。救急医療を担う一員として、薬剤師が果たすべき役割や期待が年々大きくなるのに合わせて2011年に救急認定薬剤師が誕生した。一刻を争う救急医療の現場で薬剤師はどのような役割があり、何を期待されているのか。A B C Dアプローチから薬剤師的な視点を踏まえ概説したい。

16:40-18:10

災害医療における薬剤師

岐阜薬科大学 実践社会薬学研究室 林 秀樹 先生

2011年の東日本大震災においては、災害医療の現場で多くの薬剤師の活躍が注目された。薬剤師の災害医療に対する関心も高まり、各地で災害医療の研修会が開催され、本年の熊本地震においては、これらの研修を受けた多くの薬剤師が支援活動を行った。本研修会では、演者の災害医療に関する活動例を紹介し、災害医療において薬剤師が知っておくべき基本事項について解説する。

第2回 10月1日(土) 15:00～18:10

テーマ：がん

15:00-16:30

近大から世界へ発信するがん研究 ～酵母を用いた超基礎研究の成果を患者さんに届ける橋渡し研究をめざして～

近畿大学薬学部 分子医療・ゲノム創薬学研究室 杉浦 麗子 先生

がんは、昭和56年より日本人の死因の第1位であり、年間30万人以上の方が、がんで亡くなっています。がんの原因には様々なものがありますが、がん細胞の増殖に関わるシグナル伝達経路が遺伝子の突然変異などにより、常時活性化状態になることががんの発生や転移、悪性化に重要であることがわかってきました。私たちは、細胞の増殖に関わるシグナル伝達の仕組みが、種を超えて共通し

ていることに注目し、酵母を用いた基礎研究を行ってきました。その結果、ヒトの癌細胞の増殖を阻害できる化合物や、ヒトの癌の転移に劇的な影響を与える遺伝子を発見してきました。本日は、このような酵母を用いた基礎研究の臨床応用をめざした成果をご紹介します。

16：40-18：10

がん分子標的治療とコンパニオン診断薬

近畿大学医学部 ゲノム生物学教室 西尾 和人 先生

がんは遺伝子の異常によりおこる疾患であり、種々のがん種においてドライバー遺伝子を有するがんに対してがん分子標的薬が使用されます。したがって、遺伝子診断と抗がん薬がペアーとなり、最適化医療がすすめられるようになってきました。このことをコンパニオン診断とよびます。したがって、薬剤師におかれましても分子生物学、生物学などの基礎的な知識も必要な時代になってきました。本発表では、がんコンパニオン診断に必要な基礎的知識について概説します。

第3回 11月12日（土） 15:00～18:10

テーマ：トピックス

15：00-16：30

不妊診療の基礎知識

関西医科大学 産科学・婦人科学講座 岡田 英孝 先生

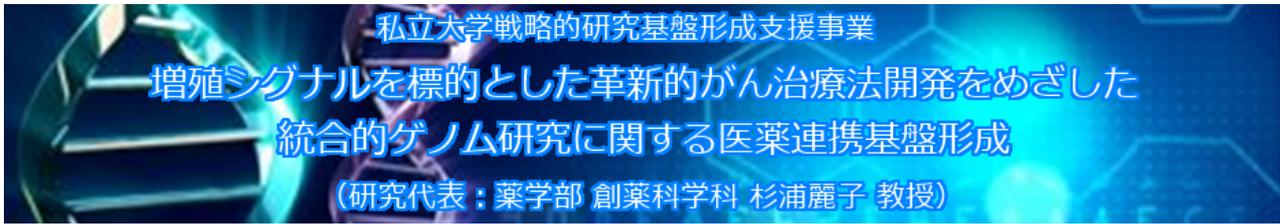
近年、不妊診療において体外受精・顕微授精・胚凍結などの生殖補助技術（ART）の導入により、それまで全く妊娠を望めなかった多くの不妊カップルに福音がもたらされた。わが国では、女性の晩婚化と挙児希望の高齢化など社会的要因により、ARTによる出生児は今後益々増えると予想される。本講演では、わが国におけるARTの現況を踏まえて、不妊診療の実際について紹介したい。

16：40-18：10

がん薬物療法における薬物トランスポーターの役割

滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部 寺田 祐智 先生

薬物トランスポーターは、生体内に投与された薬物の吸収・分布・排泄を制御している膜タンパク質です。近年、薬物トランスポーターが、抗がん薬の有効性や安全性に関与しているというエビデンスが集積し、個別化がん薬物療法のキー分子として注目されています。講演では、薬物トランスポーターの基本的事項を解説しながら、がん薬物療法における薬物トランスポーターの役割について、最新のトピックスを紹介する予定です。



ホーム > 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 > セミナー・シンポジウム

セミナー・シンポジウム

第12回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス & 革新がんゲノム国際シンポジウム(成果発表会を兼ねる)

日時:平成28年10月27日(木)～30日(日)
会場:近畿大学東大阪キャンパス 11月ホール 大ホール
講師:Michel Tremblay博士(McGill大学)
佐谷 秀行 博士(慶應義塾大学)
Mathieu Bollen (University of Leuven, Belgium)、他
詳細はこちらの要旨集をご覧ください。

生涯教育研修会 (一般公開)

日時:平成28年10月1日(土)15:00～18:00
講師:杉浦 麗子 博士(近畿大学 薬学部 教授)
「近大から世界へ発信するがん研究 ～酵母を用いた超基礎研究の成果を患者さんに届ける橋渡し研究をめざして～」
西尾 和人 博士(近畿大学 医学部 教授)
「がん分子標的治療とコンパニオン診断薬」
詳細はこちらをご覧ください。

第五回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:平成28年7月12日(火)16:30～17:30
会場:39号館4階403演習室
講師:吉田 優 博士(神戸大学 大学院医学研究科)
「メタボロミクスによる医学薬学研究」
詳細はこちらのポスターをご覧ください。

生化学研究室主催オープンセミナー (本事業共催)

日時:平成28年6月24日(金)16:00～17:30
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 402教室(401教室より変更)
講師:Dr. Kent Duncan(Center for Molecular Neurobiology Hamburg)
「The RNA-binding protein Pumilio-2 modulates memory in mice」
詳細はこちらのポスターをご覧ください。

第四回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:平成28年3月24日(木)14:00～15:30
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 501教室
講師:Dr. Gerald W. Zamponi(Calgary大学)
「Molecular physiology of Pain: from calcium channels to optogenetics」
(痛みの分子生理学:カルシウムチャネルからオプトジェネティクスまで)

教育・研究

- ▶ 戦略的研究基盤形成支援事業
- ▶ NEWS一覧
- ▶ 研究目的
- ▶ 研究実施体制
- ▶ 研究成果
- ▶ セミナー等
- ▶ リンク

詳細は[こちらのポスター](#)をご覧ください。

未来創薬医療イノベーションシンポジウム

日時:平成27年11月30日(月)13:00～17:30
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 202教室

特別講演:山本 雅 教授(沖縄科学技術大学院大学)
「エネルギー代謝とCCR4-NOT 依存的mRNA分解」
詳細は[こちらのポスター](#)をご覧ください。

第三回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:平成27年11月27日(金)13:10～14:40
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 201教室

講師:中村 義一 博士(東京大学、株式会社リボミック)
「分子擬態の発見からRNA創薬ビジネスへ」
詳細は[こちらのポスター](#)をご覧ください。

第二回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:平成27年9月26日(土)16:30～18:00
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 503教室

講師:川田 学 博士(公益財団法人微生物科学研究会)
「低分子化合物によるがん-間質相互作用を介したがんの抑制」
詳細は[こちらのポスター](#)をご覧ください。

第一回 未来創薬医療イノベーションセミナー

日時:平成27年7月11日(土)15:00～16:30
会場:近畿大学東大阪キャンパス 39号館 303教室

講師:塚原 克平 博士(エーザイ株式会社)
「創薬のコンテキスト」
詳細は[こちらのポスター](#)をご覧ください。

平成26年度成果報告会

日時:平成27年3月31日(火) 午後1時～午後6時
会場:近畿大学薬学部 39号館 501教室

キックオフシンポジウム

日時:平成27年3月24日(火) 午後1時～午後5時
会場:近畿大学本部キャンパスB館多目的利用室10階

シンポジスト:Dr. Dieter Wolf (Sanford大学)、仲野 徹教授(大阪大学)、杉浦 麗子 教授(近畿大学)、西尾和人教授(近畿大学)
プログラムは[こちらのPDF](#)をご覧ください。

[↑ ページトップへ戻る](#)

> 学部・大学院紹介

薬学部
薬学研究科
学部トピックス
フォトアルバム
自己点検・自己評価の公開

> 学科・専攻

医療薬学科<6年制>
創薬科学科<4年制>
薬科学専攻<博士前期課程>
薬科学専攻<博士後期課程>
薬学専攻博士課程

> 教育・研究

研究室紹介
教育支援
研究・プロジェクト
長期実務実習
関連施設
国家試験合格状況

> 学生生活

学生・生活支援
教育・研究支援
資格・就職支援

> 在学生専用メニュー

マイキャンパスプラン
E-Learning
Kindai Mail
UNIVERSAL PASSPORT

> 入試案内

入試情報サイト
受験生向けイベント
受験生のためのQ&A

[近畿大学薬学部事務部](#)

- > 交通アクセス
- > お問い合わせ
- > 資料請求 

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1
TEL (06)4307-3058 FAX (06)6730-1394
E-mail: yaku-kym@itp.kindai.ac.jp

近畿大学にて国際シンポジウムを開催します！
高校生を対象としたopen campusも同時開催！



「ゲノム科学は創薬と医療の夢の架け橋」

Genome Science as a dream bridge between Bench-to-Bedside

第12回プロテインホスファターゼ/革新がんゲノム 合同国際カンファレンス

近畿大学では、大学発の画期的ながん研究の成果を患者さんに
贈り届ける研究を行っています。

(革新がんゲノムプロジェクト:代表 薬学部創薬科学科杉浦麗子)

今回、国際学会の一部を高校生にも体験していただくために、
オープンキャンパス(学会聴講、創薬実験、ミニ講義、進路指導)
を同時開催いたします。

近大の学生や海外の研究者と身近に語れる
素晴らしいチャンスです！

ATTENTION!!

近畿大学 創薬科学科学生、
大学院生、若手教員も研究成果を発表！

会期:2016年10月29日(土)

会場:近畿大学 東大阪キャンパス11月ホール(大ホール)

<3日目> 10月29日(土)				
		高校生《午前の部》		
9:00	シンポジウム5 がんの分子基盤 Dr. Zhenghe Wang(米国)25	【聴講】シンポジウム5 がんの分子基盤		
10:00	近藤 豊 先生 (名市大) 25 岡田 斉 先生 (近大) 20 Dr. Benjamin Neel (米国)30 9:00~10:40	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名 </td> </tr> </table>	体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名	体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名
体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名	体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 9:30~(40分) 20名 10:20~(40分) 20名			
11:00	ポスターショートトーク (偶数) 11:00~11:30 3分×11	【聴講】ポスターショートトーク(英語 3分/1演題) 近大創薬科学科学生、大学院生 他 (偶数) 11:00~11:30		
	ポスター発表 (偶数) 11:30~12:30 近大創薬科学科学生、大学院生 他	ポスター見学、進学相談 11:30~12:00		
12:00		模擬講義(杉浦 麗子 教授) 「ゲノム科学は創薬と医療の夢の架け橋」 12:00~12:30		
	昼食 (ポスター発表/海外演者と交流) 12:30~13:30 近大創薬科学科学生、大学院生・高校生 他			
13:00		高校生《午後の部》		
14:00	シンポジウム6 -がんの治療戦略- 杉浦 麗子 先生(近大)25 Dr. Tzu-Ching Meng (台湾) 25 石濱 泰 先生 (京都大学) 25 中馬 吉郎 先生 (新潟大) 15 Dr. Nicholas Tonks (米国)30	【聴講】シンポジウム6 -がんの治療戦略-		
15:00	13:30~15:30 コーヒーブレイク 15:30~16:00	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名 </td> </tr> </table>	体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名	体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名
体験program① 「身近な薬品を使って癌細胞をやっつける！」 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名	体験program② 『高品質な薬をプロデュース!』 14:30~(40分) 20名 15:10~(40分) 20名			
16:00	若手研究者口頭発表2 -シグナリングと癌- 神田 勇輝 (近大6年生) 佐藤 亮介 先生 (近大) 深尾 亜喜良 先生(近大) Dr. Deepa (台湾) 松尾 一彦 先生 (近大) 今田 慎也 (神戸大的崎研) 16:00~17:00	【聴講】若手研究者口頭発表2 -シグナリングと癌- 神田 勇輝 (学部6年生)		
17:00	コーヒーブレイク 17:00~17:20 特別講演 17:20~18:10 佐谷 秀行 先生 (慶應)	ポスター見学 進学相談 模擬講義 (仲西 功 教授) 「スパコンでお薬をデザインする！」 16:20~17:20		
18:00				
19:00	懇親会 副学長 細井 美彦 先生 御挨拶 18:30~20:30			
20:00				

外部評価者中間評価報告書

評価対象課題：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成」（期間：平成26年度～平成30年度）

評価者氏名：渡邊 利雄

評価者所属・職：奈良女子大学研究院自然科学系生物科学領域・教授

<評価>

1) 研究の進捗状況・研究成果等および研究発表の状況

基盤整備として、平成26年には、薬学部、医学部の連携により「ゲノムセンター」を立ち上げ、次世代シーケンサーを始めとする最新の検査機器を導入し、臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析、創薬シーズの評価、がん分子標的のPOC解析、コンパニオン病理診断等に関する最先端のゲノム研究が迅速に推進できる研究のインフラ基盤を構築整備し、同時に本研究プロジェクトの構想に沿って、薬学部、医学部に基本研究機器が設置され、プロジェクトを推進する研究環境・設備が整った。これらを基盤とする研究の成果は、原著論文317報の論文、740件の学会発表、15件の創薬・医療シーズの特許申請として発信されている。研究拠点を形成する研究の中間評価としては十分な成果であると考えられる。

2) 若手研究者の育成

平成28年10月27-30日に開催された国際学会(2016 ICPP12)でのYoung Investigator session、ポスター発表に対しては、多数の参加があり、若手の高い研究能力、研究成果の質も含めて、国内外から絶賛された。本支援事業により、学生の研究志向がさらに強まり、事業の成果として研究者育成に結び付いていることが窺える。

3) 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

幹細胞と増殖、分化シグナル・がん化の関わり、さらに代謝制御の解析を行えるように新たに研究体制・エフォートを編成・采配している。また、免疫細胞制御による新規がん免疫療法開発のための基礎情報を集積し、免疫チェックポイント分子阻害により、抗がん作用を発揮できる、あるいは従来の化合物の抗がん作用を増強できる抗体医薬品の創製に取り組むと同時に、増殖制御メカニズムと免疫応答のクロストーク制御の解析を開始している。このように細胞増殖だけでなく、幹細胞や免疫的な方向をも志向しており、既成概念にとらわれない独創性の高い研究となっている。

< 添付資料4：外部評価 >

4) 自己評価結果の資源配分への反映方法および費用対効果の分析

毎年構成員全体が参加する研究成果報告会、各研究室代表者が参加するプロジェクト運営会議を開催し、進捗状況、運営状況、予算管理、計画方針等に関する審議報告・質疑応答が行われ、研究資金の配分、運営方針においても適切であるとの評価を得ていることから、これらに関する対応は十分であると考え

5) 総合的な評価

平成 26 年度からプロジェクトとして、十分な成果が上がっており、原著論文、学会発表等の情報発信も盛んに行われている。また学生の研究意欲向上にも貢献していると考え。強いて言えば、いずれの研究課題も多くの魅力的なシーズや研究成果、知財、興味深い結果が得られており個々の研究レベルは極めて高いものの、実用化にむけて臨床検体を用いたゲノム解析と POC に関する医薬連携研究推進はまだ十分とはいえない面がある。がん細胞特異的抗腫瘍剤シーズ開発、癌・増殖シグナル制御メカニズム解析、臨床腫瘍検体を用いた創薬シーズの POC 研究と個別化医療の 3 グループが有機的に結びつくことで、課題解決に向けたより強固な研究拠点が創成されるものと考えている。研究体制や、研究に関わる教員、学生の意識が高いので、支援事業後半でのさらなる発展を期待する。

外部評価者報告書

評価課題

「増殖シグナルを標的とした革新的ながん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成」

評価者氏名：島礼

評価者所属・職：宮城県立がんセンター研究所・所長

<評価>

1) 研究の進捗状況・研究成果等および研究発表の状況

本プロジェクトは、19 の研究室が3つの研究課題に取り組んで行われた。このうち研究課題A(増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発)から100報の論文、313件の学会発表、7件の特許申請がなされ、研究課題B(癌・増殖シグナル制御メカニズム解析)から108報の論文、261件の学会発表、7件の特許申請がなされ、研究課題C(臨床検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療)からは、109報の論文、166件の学会発表、4件の特許申請がなされた。以上をまとめると、317報の論文、740件の学会発表、15件の特許申請となり、さらにこれらに伴って報道が7件あり、社会的にも注目された研究がなされたことが分かる。

以上を総合すると、当プロジェクトの進捗状況は平均して優れており、内容の優れた研究成果を数多く生み出し、その発表の状況も順調であったと判断する。

2) 若手研究者の育成

本研究に参画している若手研究者(講師、助教、助手、PD、大学院生)は、のべ80名を超える。彼らの多くが論文あるいは学会の筆頭著者として研究成果の発表を行っている。特に、大学院博士課程/博士後期課程のうち、8名をRAにしているのは、大いに評価できる。平成28年11月に開催された国際学会(ICPP)においては、本プロジェクトの若手研究者の積極的な参加があった。これらの国際学会も含めた関連の受賞は、若手教員が5件、学生・大学院生の受賞は36件にのぼった。すでに、このプロジェクトに参画した大学院生の中からアカデミアのポジションを取得した者1名が出ており、また多くの学生が各種製薬会社で創薬研究者として就職している。

< 添付資料4：外部評価 >

以上を勘案すると、プロジェクトの主任研究者が、若手の育成に積極的に貢献していると判断できる。

3) 選定時に付された留意事項とそれへの対応

留意事項は、「抗がん剤の研究は、細胞増殖だけではなく、幹細胞や免疫的な方向にも進んでいることを認識しつつ、研究基盤を形成していただきたい」である。この事項に対して、本プロジェクトでは、4つの対応（2つは幹細胞からアプローチ、あと2つは免疫的手法を用いたアプローチ）を設定している。それぞれについて既に重要な論文や学会発表を行っている。

以上、留意事項に対しては多角的かつ深く対応がなされていると思われる。

4) 自己評価結果の資源配分への反映方法および費用対効果の分析

プロジェクトリーダーは、全ての課題の進捗報告会に出席している。また、構成員全員の運営会議により、資源配分（機器購入や人員の雇用）が決定される。それにより導入した各種大型機器設備やPicoNMR、Luminex200、倒立顕微鏡、クリオスタット等は同定された化合物の類縁体の最適化や、がん関連遺伝子の機能解析に大いに貢献していると考えられる。また、PD/研究支援者の雇用は、各種プロジェクトの進展に伴って生まれた重点整備研究領域に当てられている。

以上、資源は、必要な設備や人員に有効に当てられていると判断する。

5) 総合的な評価

平成26年からの5年のプロジェクトとして、この3年十分な研究成果が上がっている。その大きな要因は、本プロジェクトを基軸として、質の高い研究室が、各々の専門知識を元に有機的に結びついていることで、比類の無い研究の創出が可能となっている。また、若手の人材育成にも非常に熱心である。

これらの研究により、すでに多くの創薬シーズが見いだされている。医学部と薬学部からなる19の室が、より強固に結びつくことにより、トランスレーショナルリサーチがさらに展開し、革新的ながん治療の開発に結びつくことが大きく期待できる。

最終成果報告

外部評価者： 的崎 尚
(神戸大学大学院医学研究科・教授)

評価対象課題：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成」(期間：平成26年度～平成30年度)

<評価>

1) 研究の進捗状況・研究成果等および研究発表の状況

本プロジェクトは、日本でも有数の総合私立大学である近畿大学が、「ゲノム科学」を軸として薬学部と医学部、さらに近大病院を含む19研究室が結集し、「革新的ながん治療法開発、ならびに研究拠点の基盤形成、ならびに人材育成」をミッションとして5カ年にわたり推進されたものである。まず、基盤整備として、平成26年には、薬学部、医学部の連携により「ゲノムセンター」を立ち上げ、次世代シーケンサーを始めとする最新の検査機器、本プロジェクトで導入・整備された機器、設備が薬学部、薬学総合研究所、医学部に設置されることにより、「臨床検体を用いたがん関連遺伝子のゲノム解析」、「創薬シーズの評価」、「コンパニオン病理診断」、「がん分子標的のPOC解析」等、最先端のゲノム研究を迅速に推進できる研究体制が構築され、ゲノム科学を軸としたがん研究を推進する研究環境・設備が整備された。本プロジェクトの研究成果は、500報を超える原著論文、29件の創薬・医療シーズの特許申請として発信されている。これらのめざましい成果は、本プロジェクトによるインフラ整備に加え、薬学部と医学部が連携したゲノム創薬・ゲノム医療を推進するがん研究拠点として「医薬連携橋渡し研究の基盤」が形成された証しであると評価される。

研究内容に関しては、A(増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発)、B(癌・増殖シグナル制御メカニズム解析)、C(臨床検体を用いた創薬シーズのPOC研究と個別化医療)三つの研究テーマが推進され、いずれのテーマも精力的かつ、独創的な研究成果を輩出している。特に、「がん化シグナルを促進することによりERK依存的細胞死を誘導する抗がん剤シーズ」「がん免疫を標的とする抗体医薬品、低分子医薬品」「ゲノム医療を実装する近大クリニカルシーケンス」など、独創的かつ質の高い基礎・臨床研究が創出されている。これらは、学問的にも臨床的にも重要な知見であるのみならず、社会的にも注目を集めたことが、ニュース・報道の多さにも反映されている。

2) 若手研究者の育成

本プロジェクトは、「若手研究者の育成」も目標の一つに掲げている。本研究に参画している若手研究者（講師、助教、助手、PD、大学院生）は、100名を超える。彼らの多くが論文あるいは学会の筆頭著者として研究成果の発表を行っている。特に、大学院博士課程/博士後期課程のうち、のべ19名をRAにしていることは、大いに評価できる。若手研究者の活躍はグローバルな側面でも発揮されている。特に本プロジェクトが主催して開催された平成28年10月27-30日の国際学会(2016 ICPP12)において（評価者も参加）、近畿大学の学部生、大学院生、若手研究者が、Young Investigator session、ポスター発表において成果発表を行い、若手の高い研究能力、研究成果の質も含めて、国内外から絶賛された。これらの国際学会も含めた関連の受賞は、若手教員が10件、学生・大学院生の受賞は55件にのぼった。すでに、このプロジェクトに参画した大学院生、博士研究員の中からアカデミアのポジションを取得した者2名が出ており、また多くの学生が各種製薬会社で創薬研究者として、またゲノム医療に従事する臨床薬剤師・臨床検査技師として就職していることから、本プロジェクトの若手研究者の育成の目標は十分に達成されている。

3) 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

文部科学省より、選定時に付与された留意事項は、「抗がん剤の研究は、細胞増殖だけではなく、幹細胞や免疫的な方向にも進んでいることを認識しつつ、研究基盤を形成していただきたい」であり、「中間評価時」には「該当なし」であった。これらに対応して、幹細胞と増殖、分化シグナル・がん化の関わり、さらに代謝制御の解析を行えるように新たに研究体制・エフォートを編成・采配するとともに、増殖制御メカニズムと免疫応答のクロストーク制御の解析を開始した。その成果として、医薬連携研究を通して、腫瘍免疫に関わるCCR4欠損マウス、CCR4阻害剤を用いて悪性黒色腫に対する腫瘍免疫におけるCCR4の役割を解明し、CCR4が腫瘍免疫活性化の優れた標的であることを生体レベルで示すなど、医薬連携基盤の成果としても特筆すべき成果につながっている。また、中間評価時に、外部評価者より指摘された、創薬標的分子の生体レベルでのPOCや互いの研究チームの一層の連携についても適切な対応がなされ、リン酸化酵素PKN3、ヒストンシャペロンAPLF、ケモカイン受容体CCR4など、創薬関連因子ノックアウトマウスを用いた研究成果が展開され、生体における創薬・治療標的としてのPOC研究も進展している。

4) 資源配分への反映方法および費用対効果の分析

構成員全体が参加する研究成果報告会や成果報告シンポジウム、各研究室代表者が参加するプロジェクト運営会議が毎年開催され、進捗状況、運営状況、予算管理、研究計画方針等に関する審議報告・質疑応答が行われ、研究資源配分（機

器購入、予算配分や人員の雇用)、運営方針が決定される。導入した各種大型機器設備やPicoNMR、Luminex200、倒立顕微鏡、クリオスタット等は同定された化合物の類縁体の最適化やがん関連遺伝子の機能解析に大いに貢献するとともに、PD/研究支援者の雇用は、各種プロジェクトの進展に伴って生まれた重点整備研究領域に当てられている。以上の点から、適切な資源配分と運営がなされており、それに伴った十分な効果があがっていると判断される。

5) プロジェクトの副次的産物と今後の展望

特筆すべき点として、数多くの知的財産の創出に加え、産学連携が進展していることである。島津製作所や株式会社日立ハイテクノロジーズ、Eli Lilly and Company、Boehringer Ingelheimなど、ゲノム医療および個別化医療に関する遺伝子解析研究、さらには第一三共株式会社との連携による新規の抗LAT1抗体の取得など、医薬連携基盤としてのみならず、産学連携の拠点としても機能している。また、医薬基盤研究所やMcGill大学、中国廈門大学、アイルランドUCCなど、国内外の研究機関との学術交流や協定を確立するなど、グローバルな研究基盤としての地位も確立されつつある。

現在、近畿大学では大学ガバナンスのもと、「オープンイノベーションの創成を目指した全学横断型研究プロジェクト」が進行しており、本プロジェクトがこれらの新たなプロジェクトに参画している状況も報告されていることから、新たな産学連携基盤への創出と橋渡しとして本プロジェクトが重要な役割を担ったことが評価できる。

「未来創薬医療イノベーションシンポジウム」についての講評

滋賀大学学長 位田隆一

はじめに

講評者は、国際生命倫理、とりわけゲノム科学や再生医療等の最先端の研究及び臨床応用に関する倫理的・法的・社会的問題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)を専門としており、医学・生命科学を直接の専門分野とするものではない。しかし、本シンポジウムのテーマ及びその基盤となる研究事業「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業：増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発を目指した統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成(革新がんゲノム)」は、生命倫理の観点からしても極めて重要なものであり、その成果の社会的意義や臨床応用への途上でのELSI問題は考慮すべき事柄であると考えます。従って、ここでは、生命倫理の専門家としての視点から、シンポジウムを中心に、その背景となる事業にも言及しつつ、講評する。

1. シンポジウムの構成について

本シンポジウムは、一般シンポジウム、特別講演及び基調講演からなる午前の部、ポスターセッション、並びに教員、若手教員及び大学院生による口頭発表からなる午後の部の3部から構成された。午前の部の一般シンポジウムは本事業の中核メンバーであるプロジェクトリーダー杉浦麗子薬学部教授と研究グループの川畑篤史薬学部教授及び西尾和人医学部教授の3名が本事業の現在までの到達点を示す研究成果内容を発表して、本事業の全体像を明らかにするとともに、朝長毅医薬基盤・健康・栄養研究所上級研究員による特別講演はプロテオミクスの分野の現状を示し、さらにアイルランド・コーク大学のポール・ロス教授は、マイクロバイオームの活用による治療について語った。

また、午後に開かれたポスターセッション発表44件や教員及び大学院生による口頭発表9件は、広範な研究テーマを網羅しており、本研究事業が多くの成果を出していることを垣間見ることができた。

このシンポジウムの組み立てから、本研究事業が狭義のがんゲノム分野に限らず、包括的かつ戦略的な構想により実施されていることが明確である。この姿勢は、がん治療が、個々の治療法や医薬品の開発・臨床適用を目指すことに留まるのではなく、より統合的な視点で様々な治療法の統合的活用を念頭に置いておくべきことをアピールしている。生命倫理の観点からも、この研究戦略は、しばしば副作用の強い現状のがん治療について、体

< 添付資料4：外部評価 >

内細菌の活用も含めて戦略を考えるなど、より患者の側に立った研究・臨床応用体制を設定しており、本事業の深い倫理的配慮が感じられる。

2. シンポジウムにおける主要な講演・発表について

本シンポジウムは、5年間の本事業の総括である。その観点からして、午前の部の5件の講演と発表は重要な意義がある。プロジェクトリーダーの杉浦教授による冒頭の「プロジェクトの総括」は、本研究事業が、特に ERK 等のシグナル伝達経路に着目した創薬研究を中心に、オミクス解析や幹細胞技術などを利用しつつ、制御、代謝、副作用などの観点を含めた統合的な研究であり、基礎研究と臨床研究の橋渡しを目論んだ translational research であることを明確に示した。これは極めて重要な着眼点であり、がん治療について、個別の治療法にとどまらず、医薬連携を進めることにより、がん患者に対する個別化医療の観点から、QOL や医療財政の観点も踏まえて、統合的治療戦略として構築しようとするものである。このような従来の縦割りの研究・臨床体制は、がん治療拠点として、医学及び薬学の両学部並びに附属病院や薬学総合研究所をはじめとする健康・医療系の研究所及びセンターを擁する総合私立大学であるがゆえに可能になったといえよう。本シンポジウムはその一端を示していることが見て取れた。

一般シンポジウムにおける3件の演題は、本研究事業の柱となるがん・増殖のシグナル機構の解明、分子シグナル薬理学による革新的がん治療法の開発と QOL 向上、臨床ゲノム解析の3つの側面からの成果発表であった。杉浦プロジェクトリーダーの発表は、本研究事業の中核と位置づけられるであろう ERK シグナルの活性化による新しいがん治療治療戦略を提唱し、その狙いの的確さを立証したものである。また川畑教授及び西尾教授の発表も、それぞれプロテオミクス解析により副作用の回避・軽減によるがん患者の QOL の向上や臨床ゲノム解析を利用したがん個別化医療の進展を扱っている。これら3つの発表により、医薬連携によるがん個別化医療の実現に向けて、包括的視野から戦略的な先進的研究が極めて効果的に進められていることが示された。

続く朝長上級研究員による特別講演は、プロテオミクスの個別化医療への応用について現時点での最新の状況を披瀝して、ゲノムにとどまらないオミクス解析とその応用の進展度と重要性を示した。オミクス解析は本研究事業の中心軸の一つとして組み込まれており、本研究事業の視点の的確さが確認できた。

特筆すべきは、アイルランド・コーク大学ポール・ロス教授による基調講演「体内の隠れた治療—感染と疾患への解決策としての自己マイクロバイオームの利用」(仮訳)で、従来のがんを含む様々な疾患治療が外からの投薬や手術等の治療法であったのに対して、体

< 添付資料4：外部評価 >

内にあるマイクロバイオームを利用した治療を提唱した。マイクロバイオームは21世紀の最初の10年の10大科学成果の一つに数えられる最先端の医学で、ロス教授はこの分野の世界的権威である。同教授の講演は、マイクロバイオーム、特に腸内細菌が健康維持や疾患治療に有効な新しい材料であることを明言し、アイルランドではすでに健康・医療応用が始まっており、これを今後の様々な疾患の新しい治療法として戦略構築が進んでいることを紹介した。同教授の講演は重要な内容を非常に解りやすく説明され、参加者に大きな感銘を与えたように思われる。この講演がシンポジウムの基調講演と位置づけられていること自体、本研究事業の先見性と包括性、ロス教授の言葉を借りれば「wholistic approach」を示すものと評価できる。

ポスターセッション及び口頭発表は、主として近畿大学薬学部、薬学研究科、医学部、医学研究科の院生や研究者、教員によるもので、本研究事業を構成する個別テーマについての成果の一部が発表された。ここでは逐一内容を紹介することは避けるが、テーマは全体として広範であり、今回のシンポジウムで発表された内容はこの5年間の研究成果のごく一部である。ホームページを見れば、全体の研究成果は毎年論文や学会・シンポジウム等で発表・報告されており、その数は極めて多い。また、全体の研究に学生や院生、若手教員なども積極的に登用しており、本シンポジウムも含めて、本研究事業が単に研究のみならず、若手研究社の育成にも効果的な目配りがなされていることがわかる。

むすびにかえて：生命倫理の視点から

以上のような内容の充実したシンポジウムであったが、生命倫理の問題が直接扱われたわけではない。しかし、国際生命倫理の立場からみれば、このシンポジウムの基盤となる研究事業は、最先端のがん治療法の探索・開発を目指しているが、そのコンセプトの中に、がん患者のQOL向上、副作用の回避・軽減、侵襲的治療を超える医薬品、体内細菌等の利用など、いわば患者にやさしい医療を目指していると評価できる。最先端の医療は、基礎研究から臨床研究、治験と段階を追って進められ、科学的な安全性・有効性は確保されなければならないが、それを基礎に、さらに患者の側に寄り添った医療となることが求められる。この観点から、本シンポジウムとその基盤となる研究事業は、主催者の倫理的な視点の確かさをも確認できるものとなっていることを最後に付言し、高く評価したい。

以上。

研究課題「増殖シグナルを標的とした創薬研究・シーズの開発」に対する講評

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
創薬標的プロテオミクスプロジェクト/プロテオームリサーチプロジェクト
朝長 毅

本研究課題では、主要ながん増殖シグナルの1つである ERK/AKT シグナル経路に着目し、そのシグナルを標的とした抗がん剤シーズを複数発見し、そのメカニズムを明らかにするという素晴らしい成果をあげている。特に、独自のケミカルゲノミクススクリーニングにより発見した、メラノーマ細胞を選択的にアポトーシス誘導する低分子化合物 ACA-28 およびその誘導体は、ERK/AKT シグナルを抑えるのではなく、hyperactive な状態にすることでアポトーシスを誘導するという、従来の抗がん剤の概念を打ち破る新しい概念の抗がん剤開発の可能性を示しており、大きな意義があると考えられる。さらに、ACA-28 による ERK/AKT シグナル活性化に DUSP という脱リン酸化酵素の制御が関わることを見出したことは、その化合物の薬効メカニズムをより深く理解するとともに、新しい創薬標的の発見につながる大きな成果である。

シンポジウム参加の講評

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
創薬デザイン研究センター 抗体スクリーニングプロジェクト
鎌田 春彦

シンポジウムでは、海外・学外から講演者を招待した発表があり、活発な議論がなされた。また、本事業の推進に関連する学内の研究成果についても、概要とアウトプットが報告され、順調に研究が進んでいることが確認できた。さらに、大学内の教育の一環として、学生の口頭発表 2 演題、ポスター発表 44 演題のプレゼンテーションがあり、人材育成の面でも有意義な進展がみてとれた。本支援事業の結果から、新たな研究の発展と人材の創出が今後も継続されることを期待している。



AMBASÁID NA HÉIREANN
AMBASSADE D'IRLANDE EMBASSY OF IRELAND
Ireland House, 2-10-7 Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083
Telephone: (03) 3263-0695

The Ambassador

15 May 2019

Dear Mr. Professor Sugiura,

Please accept my warm greetings together with my renewed thanks for having me at the most excellent symposium “Beyond the Genome- New Horizons for Health and Diseases” at Kindai University on 20 March, 2019.

It was an honour to meet you again alongside other distinguished senior academic figures from Japan and overseas including Ireland’s Professor Paul Ross of University College Cork and Professor Richard Kelly of your own University.

Once again I was most impressed by the presentation of your work in respect of cancer research. Your seminal, globally-renowned work has attracted attention and engagement from very distinguished scientists around the world, including in Ireland.

My Government is very pleased on this basis that your work with senior Irish academics and researchers in growing apace.

I know from the community of Irish colleagues engaged in this vitally important area of research that:

Your project has been truly successful in connecting the outcomes of the high-quality basic cancer research with clinical cancer science by utilizing the scale merit of Kindai University which has the state-of-art hospital;

A major strength of the symposium in March was the emphasis on young people and the presentations by the graduate/undergraduate students, which showcased work in progress, and hopefully is an indication of more results to come; and

Most of all, the discovery of ACA-28 (by your good self) represents a remarkable breakthrough in cancer therapy by demonstrating the unprecedented feature of ACA-28 to promote oncogenic ERK signaling to kill cancer cells, which totally contrasts to the current anti-cancer strategy to inhibit cancer signaling.

In closing, I wish you every continued success in your globally-important work and look forward to seeing you again before long.

Yours sincerely,

Paul Kavanagh
Ambassador of Ireland

<添付資料 4 : 外部評価>



15th of May, 2019

Dear Professor Sugiura,

First of all, I want to thank you so much for inviting me to Kindai University to give a keynote lecture entitled "*Hidden cures within us – tapping our microbiome for solutions to infection and illhealth*" in your Symposium called "*Beyond the Genome – New Horizons for Health and Disease*". I also really enjoyed the close interaction I had with your team while I was there in a workshop which followed the conference and I know this will be the basis for future collaboration on the mechanistic basis for cancer and tumour development.

But first to report on the conference itself – I was really impressed by the attendance – not just researchers and students from the University and outside Institutions but also very high level dignitaries including the Ambassador to Ireland and the Vice Chancellor of the University plus faculty heads. The talks too were fascinating and mainly focussed on cancer mechanisms, treatment and techniques surrounding the disease. This was particularly relevant to me given that our University is just about to set up a new cancer Institute and as Head of College of Science Engineering and Food Science (and soon to be Director of APC Microbiome Ireland) I have been leading discussions on cancer and the microbiome. Indeed, all the Japanese speakers showed a particular interest in the microbiome when I raised it. Of particular interest to me though Professor Sugiura was your own talk on the large scale screening of compounds that target activation of ERK MAPK signalling and the discovery of ACA-28 which leads to apoptosis in human melanoma cell lines. To me this is really a breakthrough in drug discovery terms and may lead to whole new treatment and screening scenarios.

I was then very honoured and absolutely delighted have a "one on one" interaction with the Sugiura Group the next day. In this session each of the group spoke – one more impressive than the last – and all on signal transduction pathways studied in yeast model systems. These systems looked at various levels of activation through phosphorylation and I was truly impressed by the depth of knowledge and complexity of the area. It would be really great to see if human microbiome could have some influence on this level of sophisticated regulation and this is something I would really like to explore with the group. Indeed, we have had one member of Professor Sugiura's team already in Cork doing some exploratory Microbiome Research. This is just the start of our collaborations with this Japanese group.

< 添付資料 4 : 外部評価 >

The other talks at the Symposium were also absolutely excellent. I particularly enjoyed the address on proteomics given by Professor Tomonaga showing how much this field had now progressed and how it could be used to identify new targets associated with cell proliferation.

Overall, I really enjoyed my trip to Japan to attend this Symposium and want to congratulate you for the fantastic Science that was presented on the day. I really feel that this work is really significant and that recent work showing the effect of microbiome on the successful treatment with checkpoint inhibitors demonstrates that we should be working together a lot more.

Thank you and well done on putting on such a great conference.

A handwritten signature in black ink that reads "Paul Ross". The signature is written in a cursive style with a large, stylized 'P' and 'R'.

Professor Paul Ross PhD DSc MRIA

Head of the College of Science, Engineering and Food Science
University College Cork, Ireland.
Phone: 00353-214903760

RESEARCHERID: <http://www.researcherid.com/rid/A-7584-2015>

Cell 編集長 Emilie Marcus 氏のメッセージ

2017年5月24日、Cell 編集長 Emilie Marcus 氏によるサイト visit において、本プロジェクトの研究成果を紹介。

Marcus 編集長より。「近畿大学で大変 exciting な研究が行われていることを知り、とても感激しています。戦略プロジェクトにおいて発見された新しいがん治療法がゲノム医療の進歩をもたらすことを確信しています。」との賞賛のメッセージを頂いた。



前列左より杉浦麗子教授、Emilie Marcus 博士、塩崎均前学長、村岡修前副学長

Dear Reiko,

My sincerest thanks for organizing such a stimulating conference and for being such gracious hosts during my visit to Kindai for the twelfth International Conference on Protein Phosphatases.

The meeting offered excellent opportunities for me to meet some Japanese colleagues for the first time (for example Drs. Mochida and Maeda) and to renew acquaintances with others (for example Drs. Sugiura and Toda). The representation of work on phosphatases and cancer signaling from across Japan was impressive, and the mix of topics presented at the meeting including work on mammalian and yeast cells was fascinating. Finally, I have to compliment you on your efforts to present the work of young scientists. The short presentations and poster presentations represented well the enthusiasm that these students have for research and were an important opportunity for these scientists to present their work in English to an international audience.

Overall this was an experience I will never forget, and I look forward to meeting with you again.

**Sincerely,
Martha**

***Martha S. Cyert
Professor, Department of Biology
Thomas W. and Susan B. Ford University Fellow in Undergraduate
Education***

***Stanford University
Stanford, CA 94305-5020***

Dear Prof. Sugiura:

It was an honor and a privilege to participate in ICPP12 at Kindai University.

This conference has a distinguished history, with a foundation of pioneering work done in Japan on protein phosphatases, dating back to the 1970's

This year the ICPP12 brought together leaders in this field from USA, Europe, Taiwan, Singapore, Israel -- interspersing their lectures with oral reports from scientists across Japan.

The quality of the lectures was outstanding, and they stimulated many questions and discussions that continued during coffee breaks and poster sessions.

As an organizer you have many reasons to be proud of the high quality science, and the excellent poster sessions that were well-attended, and involved younger faculty and students.

The presentations by Kindai University students, and other Japanese students, showcased work in progress, and hopefully is an indication of more results to come.

As a group, your international speakers were very impressed by Kindai University and will surely spread the word among their professional colleagues.

The Kindai blue fin tuna was especially amazing ...and delicious!

Many thanks for all your efforts in organizing ICPP12

Sincerely,

David L. Brautigam, Ph.D.

F. Palmer Weber Medical Research Professor

Center for Cell Signaling

Department of Microbiology, Immunology & Cancer Biology

University of Virginia School of Medicine

Dear Reiko,

'The ICPP12 conference on protein phosphatases at Kindai University, organized as a joined meeting with the International Symposium on Innovative Research for Genome-based Drug Discovery and Cancer Therapeutics, was an unforgettable event: the science was excellent, the environment was very stimulating and the organization was impeccable. The quality of the talks was outstanding, with lots of opportunities to discuss the data and talk with the speakers afterwards. It was also most enjoyable to meet the next generation of Japanese scientists and see them in full action. In fact, it was a great idea to give the younger scientists an opportunity to present their data orally and organize the poster sessions such that each had at least one detailed discussion with a foreign speaker. I also enjoyed the great Japanese hospitality, with the Kindai Bluefin-tuna party as the max. Congratulations to the organizers for their impeccable work and great hospitality.'

**Best regards,
Mathieu Bollen**

Laboratory of Biosignaling & Therapeutics
Department of Cellular and Molecular Medicine
Campus Gasthuisberg, O&N1/ Box 901
Herestraat 49
B-3000 Leuven
Belgium
Mathieu Bollen
www.med.kuleuven.be/LBT

Dear Reiko,

Thanks very much once again for the kind invitation. It was a great pleasure to be able to participate in ICPP12 and to experience your very kind hospitality.

As I said at the conference dinner, a major strength of the conference was the emphasis on young people and the presentations (both posters and talks) by the junior scientists. Although there were language difficulties in some of these exchanges, the most important thing was the active participation of the students. Clearly, they had worked extremely hard on their presentations, they were very well prepared and the science was very good too. Over here, there are concerns about young people staying away from scientific research – it would appear that you have a strong group of new students coming through the system in Japan. Congratulations!

I thought that another strength was the emphasis on new ideas/approaches to therapeutic development. I think that academia will play an important role going forward in driving new ideas in this area, and forums such as your conference that facilitate exchanges of ideas on therapeutic development are essential.

Many thanks once again and best wishes

Nick

**Nicholas Tonks
*Cold Spring Harbor Laboratory, USA***

Dear Reiko,

Many, many thanks to you and to your colleagues for having organized the wonderful ICPP12 meeting. It was a great opportunity to become exposed to the Japanese phosphatase community and to their science. It was especially heart-warming to see the younger students and scientists who participated as well.

I would also like to thank you for the impeccable organization of the meeting. I felt very welcome, and your warm and gracious hospitality was second to none.

I wish for you that you will be able to take a well-deserved rest after this event! I do hope to be able to return to Japan in the future,

All the best and kind regards,

Ari

Ari Elson, PhD

Incumbent of the Marshall and Renette Ezralow Chair

Department of Molecular Genetics

The Weizmann Institute of Science

Rehovot 76100

Israel

Dear Reiko,

I also want to say thank you—for everything you have done and every sweet memory in our minds. ICPP12 was brilliant! You are so much appreciated by the phosphatase community not only in Japan but also overseas.

As everyone pointed out, the talks delivered by young investigators (both 3 min and 10 min talks) in the conference program were a great success. This arrangement provided a great opportunity for them to organize their projects and to learn how to tell the story. I believe that all of them did excellent preparation. Even though some couldn't answer questions well, they certainly learned more from such unique experience.

Again thank you so much. I wish that you can relax a bit for a couple of days!

It was a great chat with you on Sunday at the dinner. I am truly impressed by the extraordinary life experience of you!

All the best,

Tzu-Ching

Tzu-Ching Meng

Academia Sinica, Taipei

Dear Reiko,

I am back in New York now, and throughout the long trip home, I was thinking about how good the meeting was. The presentations were almost uniformly excellent, and the opportunity for interaction was strong. Of course, the hospitality was first rate. I always enjoy my trips to Japan, and this was no exception. You and Toshio did an outstanding job organizing the meeting, and both of you should be proud of what you accomplished. I hope that you actually have a few days to decompress and relax, and look forward to the next ICP.

**Thanks again for all that you did. BN
Benjamin Neel (*Perlmutter Cancer Center, USA*)**

Dear Reiko,

Thank you again for inviting me to the meeting! I would like to commend both of you for your excellent leadership and organization effort that made the meeting a huge success. I enjoyed very much all the talks at the meeting, especially the young investigators' talks. I am gratified to see that so many young people are interested in phosphatase research.

I deeply appreciate your hospitality and the support from Kindai University and the Nara Women's University! The home grown tuna was very impressive.

Best regards,

**John
Zhenghe John Wang
Professor
Department of Genetics and Genome Sciences
Case Western Reserve University

Co-leader, Cancer Genetics Program
Case Comprehensive Cancer Center**

Dear Reiko and Toshio

Many thanks for an excellent conference, I enjoyed my time tremendously. The scientific program was impressive and social activities every night and trip to Nara were very memorable. I was very pleased to see young scientists present their work in short oral presentations and to realize that the conference had an impact on them. One of the students (who went with us for dinner at Nara) said that she decided to do her PhD after attending the conference.

Thank you again for a great conference and for all your efforts and attention to details. I look forward to seeing you in the near future.

Sincerely

Fawaz

Fawaz G. Haj M.Sc., D.Phil.

Professor

Departments of Nutrition and Internal Medicine

Co-Director, Endocrinology and Metabolism Core, NMMPC

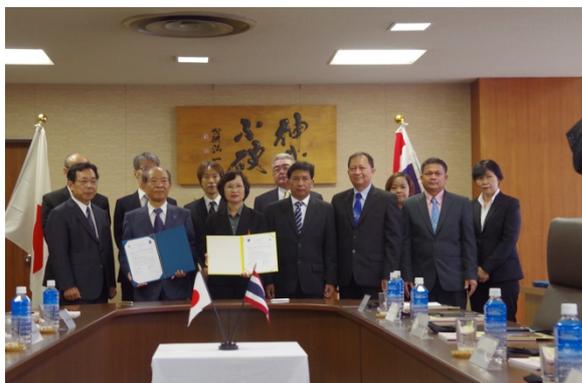
University of California Davis

3135 Meyer Hall, One Shields Avenue

Davis, CA 95616

<http://hajlab.ucdavis.edu/>

<学術交流など>



学術交流など①

ラジャマンガラ工科大学スリビジャヤ校（タイ） 農業産業学部（Faculty of Agro-Industry）と本学薬学部／薬学総合研究所との学術交流協定締結（2014年9月3日）



学術交流など②

Ruja Tipwaree 学長, Yutana Pongpiriyadacha 副学長および Narongchai Chupoon 農業産業学部 学部長をはじめとした6名の訪日団との集合写真（2014年9月3日）



学術交流など③

ラジャマンガラ工科大学理工学部（Faculty of Science and Technology）の Dr. Kittaya Nusai とラウンジにて（2017年7月27日）



学術交流など④

Dr. Kittaya Nusai の2度目の来日時に研究室メンバーと（2018年4月13日）



学術交流など⑤

シラーズ大学（イラン）の Dr. Fatemeh Raouffard と学部長室にて
（2016年8月18日）



学術交流など⑥

徳島文理大にて開催された
International Symposium on Natural
Products for the Future 2016
(ISNPF2016) にて Dr. Fatemeh
Raouffard との集合写真
（2016年9月2日）



学術交流など⑦

天津中医薬大学（中国）の王 涛 教授
来校
（2016年12月19日）



学術交流など⑧

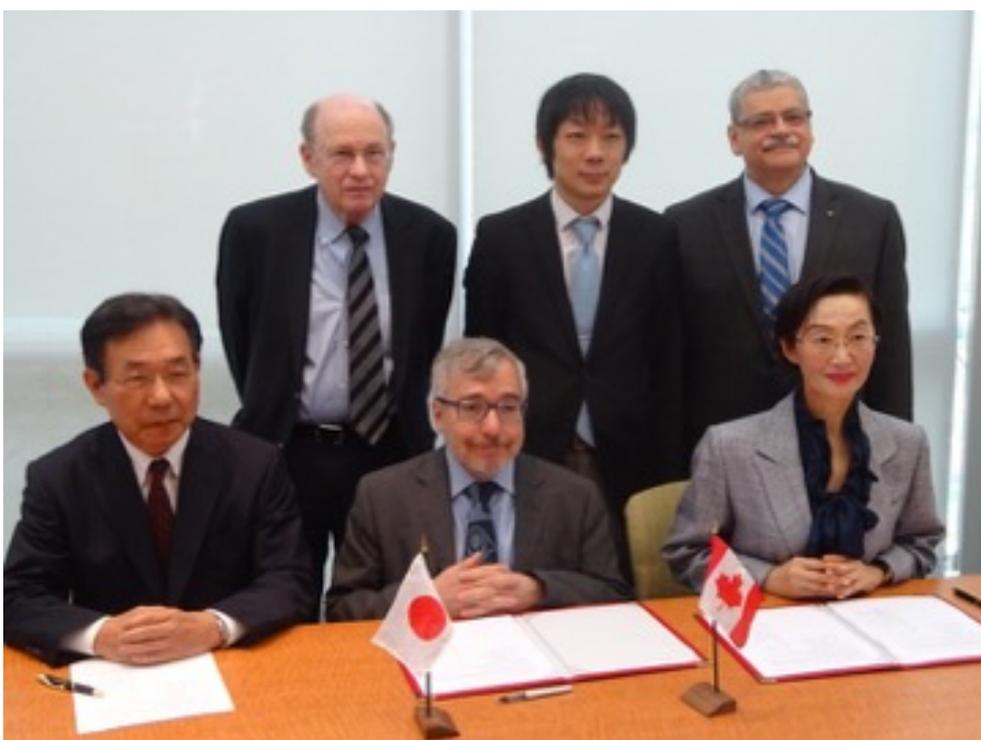
瀋陽薬科大学との遼寧省教育庁
（Education Department of Liaoning
Province）の研究者海外派遣プロジェク
ト（Overseas Training Project of Liaoning
Colleges and Universities）により来日し
た潘 英妮 副教授（写真右）と博士課程
学生の張 薇さん（写真左）



学術交流など⑨

近畿大学コア研究 高付加価値化をめざした食用資源の健康長寿・未病効果の科学的評価平成 30 年度成果報告会（大阪，近畿大学広島キャンパス）での講演

（2019 年 3 月 2 日）



学術交流など⑩

カナダ McGill 大学との大学協定調印式



学術交流など⑪

第 12 回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「増殖シグナルを標的とした革新的がん治療法開発をめざした統合的ゲノム研究に関する医薬連携基盤形成（革新がんゲノム）」（代表 杉浦麗子）



学術交流など⑫

< 成果報告発表会兼国際シンポジウム（2019年3月20日） >

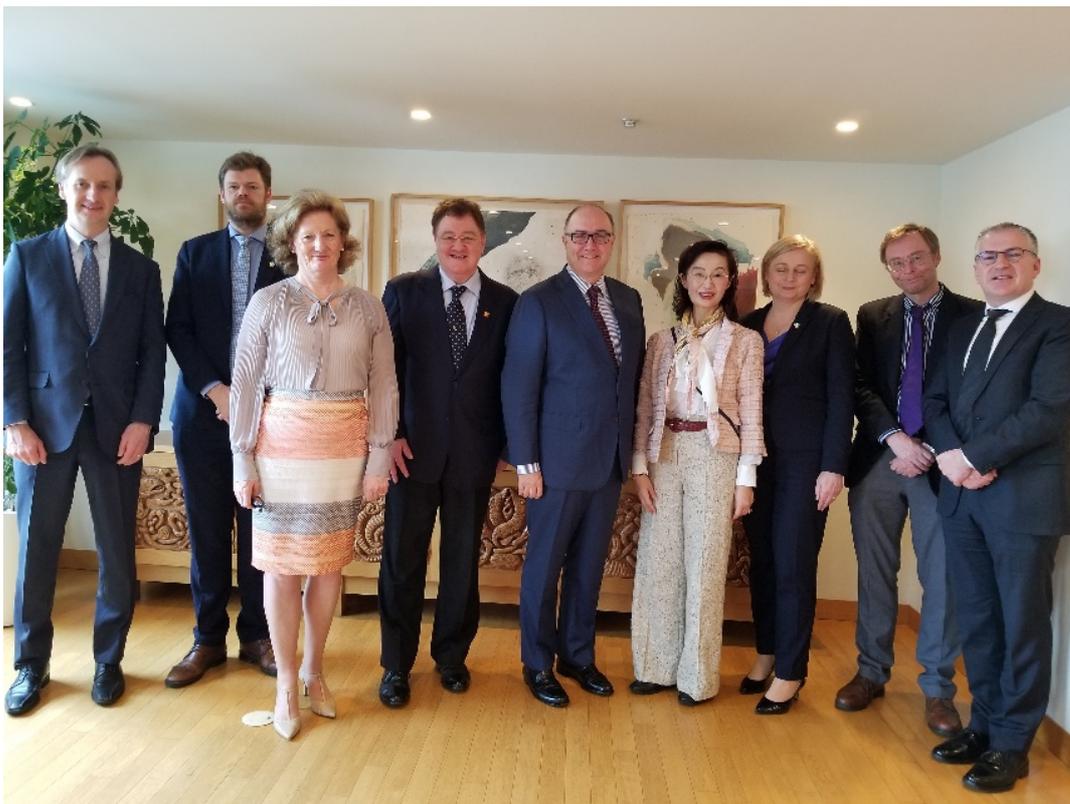
左より、杉浦麗子教授（近畿大学）、Paul Ross 教授（University College Cork）、真鍋晶子教授（滋賀大学）、Paul Kavanaugh 大使（アイルランド大使館）、位田隆一学長（滋賀大学）、Richard Kelly 教授（近畿大学）



学術交流など⑬

<University College Cork と近畿大学薬学部間で学術交流に関する懇談会
(2019年3月19日)>

左より、Ciaran Quinn 博士 (近畿大学)、Paul Ross 教授 (University College
Cork)、杉浦麗子教授 (近畿大学)、Richard Kelly 教授 (近畿大学) 鈴木茂生
教授 (近畿大学)



学術交流など⑭

アイルランド大使館邸にて研究成果のヒアリング（2019年3月6日）

「学術的重要性と経済界医療産業におけるインパクトについて」

左より、Mr. Derek Fitzgerald, Director Japan, IDA（アイルランド産業開発庁所長）、Mr. David Murphy（経済カウンセラー アイルランド大使館）、Mrs. Rosemary Kavanagh（駐日アイルランド大使夫人）、Professor Richard Kelly（近畿大学 教授）、Ambassador Paul Kavanagh（駐日アイルランド大使）、杉浦麗子 教授（近畿大学 教授）、Ms. Julita Gallagher（外務貿易省 Secretary-General of the International Telecommunication Union）、Dr. Ciaran Quinn（近畿大学）、Mr. Pat O’Riordan,（アイルランドエンタープライズ 北アジア所長）アイルランド産業開発庁所長のコメント「革新的ながん治療につながる素晴らしい成果を輩出している。是非とも産学連携で、近大とUCCの間でのプロジェクトとして発展させていただきたい。」